

長じて分家獨立今日に至るものにして、その祖は鉢形北條氏の家臣松下總守、土着以來代々名主たりし名門である。氏は明治二十六年村會議員に當選爾來三十數年間重任し、この間助役、村會議員を歴任、産業組合の創立に功あり現に組合長をつとめた消防組頭、村農會長、衛生組合長、村長など村内要職の殆ど全部をつとめ、各方面に寄與甚大なものがある。令室ぶんさん、長男剛氏（農會技術員）、同夫人たねさん、令孫四人が家庭にある。

大田村品澤

元村長 荒船利作



今日に至つてゐる。先々代市平氏は易學

を修め、當時この方面に噴々たるの名を謳はれた人、先代伊之松氏は、早くより精農家を以て知られ、當主は明治四年その男に生れ、郷校を出で、東京日新學校東京農學校、明治學院等に學び、明治二十四年高篠小學校を振り出しに昭和六年三月（その間中絶せしことあり）まで前後を通じて二十二年間奉職、同八年一村の興望を擔つて村長に就任するなど、その育英界に將た一村の産業、經濟等に活躍した功績は一々枚擧の追なく、曾ては郡教育會より表彰された。今はすべての公職を去つて悠々自適の生活に入つてゐる。次男清重氏は煙草耕作指導員として盡力してゐる。

長若村般若

元長若村長 勳七等 半田準治

當家は本村の舊家名門たる半田家の分家にして、氏は先代八十吉氏の長男として慶應元年三月に呱呱をあげた。若くして漢學を修め、後、東京英會話學校を卒



爾來重任 三期三十年、その間郡會議員、長若

山村に七十餘歳の老翁が英語を話す正に時代の最尖端を歩いた人である。日清日露の兩役に應召出征し、勳七等に叙された。三十一歳の時初めて村會議員に當選し、

中川村日野

元村會議長 勳七等 新井彌吉

氏は文久元年生れの當年七十八歳しかも元氣矍鑠、壯者を矐若たらしめるものがあり、今も村内のために心を配つてゐ

る。明治十七年學務委員を振り出しに、戸長役場時代の筆生となり、次で村會議員に當選、昭和三年まで村會に臨むこと實に三十九年間、その間郡會議員となり郡會廢止まで引續き六期間郡治に携はり郡會議長に選ばれ、また村助役、村長に推薦され、更に芦ヶ久保村の村長代理に推されるゝなど、永き氏の足跡は偉大なる功績を印し、村内屈指の功勞者として讃仰され、その



自治功勞により勳七等に叙された。家はもと古く、その祖を詳かにしてゐないが祖父菊次氏は荒廢せる家運を挽回した當家中興の人、父君房次郎氏は漸く興りかけたる家運に、進んで拍車をかけ、家礎を鞏うして今日に備へた篤農の人であつた。男二人に令孫八人あり、長男普次吉氏は今、區長に擧げられて部落のために

鋭意しつゝある人望家である。

秩父町大宮

學務委員 新井伊三郎

電話三六八番



代前即ち祖父忠作氏は小野派の劍客としてその蘊奥を究め、當時此地に甲源一刀流を以て知られた顯見家と對立し斯道の双絶と稱された大劍士であつた。高野佐三郎、町田嘉之助翁等を初め出入繁忙を極め門人數十人を數へた。君はその孫に當り、實父勝藏氏の長男として呱呱の聲を擧げた。明治四十一年縣立農林學校を卒業、宇都宮十四師團歩兵六六聯隊に入營、明治四十四年優秀なる成績を以て歩兵少尉に任官した。歸郷するや、實父に

よつて中斷されてゐた祖先の遺業を襲ぎ眞摯なる努力碎勵によつてこれを復興なし、その後の寧日なき研究は遂に秩父機業界に數十名の從業員と優秀なる品位を以つて、その存在を明確安固のものたらしむるに到つてゐる。今後の伸展賭るべきものあらん。昭和八年地元町民に推選されて町會議員となり現在學務委員として、町學術教育の爲に貢献なしつゝあるが、曾つては軍人分會副會長として多年銃後國防の第一線にその完璧を期して鞅掌なしその功亦尠くない。實父勝藏氏も亦戸長役場時代より町會議員として四期大正初期迄町政の中樞に參與し、自治に産業に多大の功勞を爲した人である、現在尙ぶん母堂と共に健在にして、悠々自適の風趣に送つてゐる。夫人雪子さんは同郡原谷村の重鎮町田嘉之助翁の三女にして、淑徳兼備の譽低からざる人、長男一夫君は川越工業學校在學中にして（二年生の時既に劍道初段を獲得した有爲の青年）外に二男一女あり。代々佛教を信

じ其の總代でもある。家庭極めて圓滿である。因に氏は明治二十四年四月十二日の生れである。

國神村金

學務委員 宮前治三郎
元小學校長

當家始祖は宮前伊勢守重光と稱し、天正八年の生れにて永らく神職に在り寛文八年八十三歳の高齡を以て逝去した。二代和泉守重盛氏は神職を令弟に譲り、三代平左衛門重成氏、四代佐衛門祥胤氏と代々名主をつとめ、祥胤氏は救済事業の功により幕府代官より授賞された。六代經定氏は窮農救済の功により苗字帯刀を許され、その後十代を經る先代佐金治氏まで代々名主に任じ、質屋、酒造業、農業等を營んだ。當主は明治五年七月生れ同二十七年埼玉師範を卒業し、秩父小學校訓導より、金澤小學校長となり、更に秩父、國神兩校長に歴任、大正四年二十餘年の教育界生活を去り、現在は學務委員及び方面委員の公職に在り、また日本

赤十字社特別社員である。令閨さとしとの間に長男智氏、二男格氏があり、令弟光重氏は村會議員並に消防組頭をつとめてゐる。

浦山村

學務委員 原島鷹藏
方面委員 勳八等



氏は明治七年二月十五日先代善吉氏の長男として土

地の舊家たる今の家に生れた人で、三十餘歳にして早くも村會議員に推されて村自治に參し、日清戦争の起るや出征、その途中に於て講和成り、廣島大本營より歸還し、次で日露戦役の際奉天大會戰に參加、勳八等に叙せられた、殊勲者である。歸村後再度村治に進出、二十有餘年間學務委員として教育の普及に盡力、そ

兩神村薄

教育功勞者 出浦一郎

當家の祖は大里郡鉢形城主北條氏國の家臣にして、天正四年小田原城落城後當地に土着し、爾來代々名主をつとめた。先々代一郎左衛門氏は寺子屋を開いて村

民の教育に竭した偉材、八十歳の高齡にて歿するや、村民その徳を慕ひて碑を建設した。先代勝藏氏は消防組頭、村會議員二期をつとめこれまた八十四歳の高齡を全うした。氏は先代の男、明治十九年八月の誕生にして、同四十一年埼玉師範學校を卒業、秩父郡原谷校を振出しに兩神、三田川、倉尾各校に歴勤、前後三十有餘年の長期間教育のために身を捧げ、殊に兩神村教育に就いては功勞が多かつた。令閨カヨさんも兩神小學校裁縫科教員たること十三ヶ年に及び、夫婦相揃つて本村のために竭し、村民の絶大なる尊敬を受けてゐる。趣味は讀書、和歌に堪能である。

秩父町

秩父郡 畜産組合長 大山利秀
從六位

氏は九州鹿兒島市の産、明治二年二月を以て生れ、造士館を経て札幌農學校に

學び、明治三十一年これを卒業し、神戸市專賣局屬を振出しに、兵庫縣農事試験所技手、有馬農林學校初代校長となり、次で長野縣下伊那郡農事試験場長に榮進更に東京專賣局に轉任、明治四十年再び教壇に立ちて郡立秩父農林學校三代目校長に任じ、大正十一年退職に至るまで、農山村中堅人物の育成に努めて幾多の俊才を世に送り出し



現在郡畜産組合長に推されて敏腕を揮ふ一面、食用菌類の栽培研究に力を注がれ、老齡ながら壯者を凌ぐの元氣を有し、加ふるに高潔なる人格は接する人をして襟を正さしめる感がある。長男次男の兩君は夭折し、三男秀男君は俊敏の氣性に富む才人日本徴兵保險秩父支部責任者として活動してゐる。

の完璧を期すべく學校(本校及び分校)の増改築等に全精神をさしげ、その他林業方面の指導にも功勞多大なるものがあり、幾多の感狀を贈られた中に、郡教育會々長前秩父町長淺見宇市氏よりの功勞賞、郡木炭同業組合々長元代議士松本金太郎氏よりの感狀とが、特に光つてゐる。今、學務委員たるの外、方面委員、信用組合監事、秩父郡木炭同業組合代議員等の要職に在つて、なほも盡瘁貢獻してゐる。夫人ゲンさんとの間に一男四女があり、長男幹吉氏は熱心家業に就き令孫三人あるが、一家はいつも春風駘蕩の和かさを見せてゐる。なほ當家は曹洞宗に歸依してゐる。

秩父町大宮

秩父郡校長會理事長 淺見鶴藏
秩父大宮小學校長
從六位 勳六等

縣教育界の重鎮たる氏は本郡野上村の産、明治十四年二月を以て呱呱をあげ、秩父農林學校を経て明治三十六年に縣師範學校を卒業し、直に高篠小學校に教鞭を執り、次で小鹿野、大瀧兩校を歴任、大正十年比企郡視學に榮轉、同十三年高篠小學校長として再度學校に戻り、昭和七年秩父町立大宮小學校長に轉任今日に至り、青年學校及び實習女學校長を兼任この間功により從六位勳六等に叙され、縣知事その他より表彰されること一再に止まらず、秩父郡が有する偉大なる教育功勞者にして、現時秩父郡校長會理事長同教育會長、同女子青年團聯合會長等の重責を帯び、令名縣下に高く、家庭にありては夫人カネジさんとの間に二男あり長男恒雄氏は横瀬小學校奉職中、次男利

雄氏は濱松高工在學中である。

原谷村黒谷

方面委員 元教育家 **福島房藏**

氏は慶應元年十一月の岳降、明治十五年十八歳にして群馬縣原小學校教員を拜命分校主任となり校舎新築に際しては多大の功勞があつた。その後伊香、原谷兩校に轉勤、一時教職を退いたが、明治三十三年群馬縣太田中學校の開校するや教諭に任じ、同四十四年退職まで十一年間一日の如く恪勤した。大正三年秩父鐵道の開通すると同時に、沿線黒谷驛前に運送店を開業、現在は秩父農林學校を卒業せる長男多聞氏がこれを經營、福島運送店と稱してゐる。なほ氏は教育界を退いて後、村役場書記、村會議員、學務委員をつとめ、現在は方面委員、負債整理組合中黒谷組合長を兼任、寄與盡瘁頗る大なるものがある。資性濃厚、日蓮宗に信仰がある。子女は長男のほか二男顯氏、三男恕一氏、四男正三氏あり、共に

將來を囑望されてゐる。

中川村日野

元郡會議員 **新井市之丞**

常新井家は代々村の組頭を勤めて當村開拓に功のある家柄、その年代詳かならざるも三百年以上を續く當村屈指の舊家その名ある家に先考七平吉氏の男に元治



(荒井家の人々)

元年生を享けし氏は資性清廉潔白にして温厚なる人格の持主、自治公共の事に關與盡瘁する事多年、明治二十三年村收入

役に推されて勤める二ケ年、明けて明治

二十六年村會議員に當選し歴任する事數期、亦明治三十二年には郡會議員に推輓を受け、衆望を集めて明治四十年には村

長の重任に就任した。その多年に亙りて郡政村治に貢獻するところ頗る多大にして、村屈指の功勞者として、元老として敬慕の的となつてゐる。明治十九年生れの長男喜三太氏亦、市之丞氏の衣鉢を襲ぎて村治發展の爲に軼堂する事多年、村助役の重責を大正八年より昭和五年まで勤めて一身を挺して活躍、惜しまれて病の爲め退職、現在は産業組合理事として尙も盡力してゐる。

上吉田村石間戸

元村會議員 **落合茂作**

甲州の落人落合伊勢守を祖となして十九代目の名ある舊家。氏は文久元年、亡作次郎氏の男に生れ、村會議員を十六ケ年間、村農會長を二十四ケ年間勤め、その村農會長在任中、當時の村長中島要吉

氏、縣會議員新井彦二郎氏等と共に相計つて本村各地に百萬本の植樹の策を立てて直ちに着手し、時に私財を投ずるなど全力を盡して終にこれを完成するの外、



製絲事業の改良に鋭意する等、その功績擧げて數ふべ

からざるものがあり、今や當地方の長老として重きを惜かれてゐる。氏は弓道に堪能であり、また歌道にも名あり、明治年代より毎年勅題の和歌を詠進しつゝある。なほ長男富太郎氏は家業に就き、次男房治氏は埼玉縣廳に奉職中である。

中川村下田野

農事實行組 前村會議員 **堀口千代作**

農村更生の第一義は家畜副業にありの主義を大聲して、同地方狸の飼育に先鞭をつけ、現に十頭の狸、二百羽以上の鶏

を飼育し産業方面に大なる功績を擧げつある氏は、明治三十六年七月一日、區長及び衛生役員として盡力せる先代孝作



先代孝作氏

氏の男に、堀口家九代目の當主として出

生したものの、青年消防團長を振り出しに寺院總代、氏子總代、養蠶實行組副組長、國勢調査員等を歴任、その間村會議員として村治に與ること二期、區長た



る一期、共に功をたへられ、現在は農事實行組組長に任じてゐるが、將來性を多分に有する人格者として信望極めて厚く、兩親健勝夫人らく子さんとの間に三男二女をかぞ

へてゐる。

兩神村薄日向

區長 **猪俣邑利**



當家は三百年の古き歴史を有し、三代前までは黒澤

姓を稱したが、先々代善平氏の代より猪俣姓に改めた。代々名主の役を務めた家柄である。善平氏は資性英敏、猪俣小六先生に師事してその才を認められ、猪俣の姓を貰ひ、書道の達人として令名近郷に普く轟いた。永年戸長、村長をつとめ村治の偉大なる功勞者として各方面からの表彰は一々枚擧の繁に堪へない。大正四年六十四歳を一期に永眠した。養父音吉氏もまた各種公名譽職に在りて部落のために竭すところ多く、射撃の名人として知られる。當主たる氏は明治四十一年

十月の出生、區長、青訓指導員、軍人分會理事を兼任し、將來を囑望されてゐる

白川村白久

元村會議員 新井 倭治



始祖を元龜年間
に發し、
爾來連綿
四百載、
當地方有

數の名門といはれる當家は、代々農を業とし來り、先々代榮吉氏は當地方切つての人望家にして地方開發の大恩人であり先代清作氏は白川村長、村會議員、その他の公名譽職をつとめ、道路の開發、産業の開拓に盡せる本村屈指の自治功勞者であつた。氏は先代の男、明治二十年一月を以て生を享け、祖業を繼いで一意家運の隆昌を圖れる濃厚なる努力家にして昭和四年選ばれて村會議員に任じ、また區長を兼ね、頭腦明敏、徳望高く、本村

自治界の白眉と稱される。なほ氏は第十四師團勤務の伍長にて、除隊後永らく軍人分會長をつとめたことがある。家庭には二男四女あり、長男隆一氏は専ら家業に精勵して氏を扶けてゐる。

中川村上田野

産業組合理事 井上 與市



井上家は始祖以來十六代來、農相傳の家柄で、又右



局長井上勳氏

衛門氏を襲名、古くは名主を勤めた土地の先覺者であつた。氏は明治十三年十月

の男に生れ、村會議員、區長、氏子總代等に擧げられて功を効し、今、産業組合理事として産業に、經濟方面にと努力してゐる。長男勳氏は當年二十四歳、中川村郵便局長として通信事務に従事してゐるが、氏は郡下最年少の局長を以て知られる。

中川郵便

取扱所

當郵便事務取扱所は昭和十一年八月十二日に設置確定同年十月二十一日所舎認可、同年十二月十四日出來同十二年一月二十六日事務取扱を開始、中川村一圓を地區となして今日に至つてゐる。開局後日まだ淺く、すべては今後に囑目期待されてゐる。

中川村上田野

元村會議員 島崎新三郎

文龜年間以來の舊家、代々農を家業となして來たもので、三代前の祖和平氏は寺子屋時代の手習師匠として名を馳せ、二代前の祖伊平氏は同地方組頭を勤め、

先代清四郎氏もまた組頭をなして功のあつた人、明治四十年八十四歳を以て永眠された。當主新三郎氏はその男、文久三年二月の



出生、明治初年廢藩置縣當時より自治方面に

興り村會議員として活動すること實に二十四年間の永きに互つてゐるが、その功績また甚大なるものがあり、一村の長老として崇敬されてゐる。長男只一氏家業



令孫篤作氏は三十一歳、在郷軍人

分會役員、養蠶組合長、農事組合長、報徳組合長等に擧げられ、鋭意活動中であつたが、日支事變の起るや應召されて出

動、第一線に活躍してゐる。

秩父町

納稅組合長 新井伊助



新井家は相當の舊家、且つ素封家として知られ、前

前代伊八氏は戸長をはじめ町會議員、區長等に擧げられ勳精盡力すること多年に亘り、町政發展のためには私財を投じ、身命を賭した高潔なる人格者であつた。

氏は國漢並に書を能くし、二百餘人の門弟あり、明治四十一年六十九歳を以て物故されたが、門人等はその遺徳を追慕しこれを後昆に傳ふべく新井久三郎氏を代表者となし、菅原建長寺管長の手になる撰文の記念碑を建立した。當主伊助氏はその令孫、明治九年一月二十五日の生れ父君九藏氏は町會議員に推されて活躍、

小 鹿 野 町

在郷軍人分會 副會長 秩父羊羹元祖

太田美雄

電話小鹿野一〇番

名物にして美味なるもの、これ秩父羊羹である。製造元太田家は當地草分の舊家といはれ、天文時代より菓子製造業に

従ひ、享和三年重兵衛氏の代より羊羹製造を創め、吉五郎氏の時甘池堂の商號を稱へ、八五郎氏は名人氣質の人として有名であり、次で先代仲吉氏を経て當主美雄氏に至つた。氏は皆野町飯野宇平氏二男にて明治十七年五月の出生、長じて先代の養子となり家督を相續、羊羹製造に精通して名譽愈々揚り、地方羊羹の筆頭として屢々各宮家より御用命を賜り、縣當局へも納入し、併せて開化饅頭、郷里自慢等を製造好評を得てゐる。氏は傍ら社寺總代、軍人分會副會長、同會計理事を現任し、曾ては消防組頭をつとめ、町會議員に選出されしもこれを辭退したといふ恬淡たる資性の人である。

野上村藤谷淵

農會長 村田義六

當家の祖は、建武中興の功勞者にして南朝の忠臣たる畑六郎左衛門時能氏である。時能氏は武藝に達し、新田義貞四天王の一に加へられ足利討伐に偉勳あり、



町村制施行後先代は初代野上村長となり、大

正六年村長在職中他界するまで三十數年間村治に多大の貢獻があつた。當主義六氏は明治二十二年の岳降、劍道に秀で甲源一刀流四段の免許、秩父農林學校出身にして村會議員二期、學務委員をつとめ現在は村農會長、産業組合理事、方面委員等を兼任する。その各方面に盡瘁する功勞頗る多大である。



當家は寛文年間より當地に住し代兩神々社子總

兩神村薄白井差 山中忠一

代をつとめし舊家名門である。先々代善平氏は村會議員として瀧前分教場設立その他村政に努力貢獻されし人。先代要一氏もまた自治産業の功勞者として知られる。當主は明治二十三年の出生、夙に國勢調査員、養蠶豫防委員、消防組小頭等に歴任、現在區長に擧げられて部落民の福祉増進のため活躍奔走してゐる。令息林太郎氏は畜産に興味造詣深く、養理養鶏等をなし來りしが、今次の日支事變に際して召集を受け、目下第一線に活躍してゐる。家庭は頗る圓滿にて附近部落民の羨望するところ。

中川村

元村會議員 山中庄次郎



村會議員 員たる三十二年間 學務委員 たる二十四年間

且つ植林に對する先覺者として一村の利福幸榮のために盡瘁貢獻、屈指の功勞者として賞讃されつゝある氏は北條氏に系統をひく四百餘年來の舊家たる今の家に文久三年十月二日、勇次氏を父となして生れた人、家は代々勇次氏を襲名、曾祖父勇次氏は多年江戸の岡つ引を勤め、父君勇次氏また名主格組頭などを勤務し、それらの功を效した人だつた。なほ當主は資性穩健、且つ高潔にして圓滿なる人格の持主、すべての公職等を退いて家に在り、徐かに餘生を樂みつゝ日を送つてゐる。

秩父町

共販會社重役 前町會議員 久喜文重郎



今、本町織物原料界の巨商として自他とも許し、

ますく斯界に飛躍貢獻しつゝある氏は明治六年十一月三日、同郡太田村の農家平六氏の二男に生れ、同十四年秩父町に出で、些かなる店を張つて原料商を営み發展の一路へと全精力を打ち込み、不撓不屈の多年が現在の大成をなさしめたもので、正に立志傳中の一頁を飾るものである。家業の傍ら進んで町内のことに與り、しかもその一進一退は公明正大であり、期せずして衆望をあつめ、大正二年町會議員に當選、以來三期に及び、その他學務委員、西武銀行重役等幾多の要職に就任、その功績また著大なるものがあ

浦山村大谷

信用組合長 海老原長吉

當家は徳川氏の後裔にて、初めは淺見姓を名乗り、三代目から海老原姓を稱し

た。氏は先老多十郎氏を父とし、明治六年三月二十五日に誕生した。夙に俊敏英才を知られ、日清日露の兩戰役に出征して勳八等白色桐葉章を賜はり、凱旋後、明治四十年から今日まで三十有餘年間村會議員に任じ、村自治に貢献頗る多く、學校設置、村道の縣道への改編を完成し二十餘年の長い懸案も氏の努力に依り飯



能三峯街
道として
當地方發
展の基礎
となるに
至つた。

また國勢調査員二回、郡會議員一期、金錢債務調停委員、木炭組合評議員、經濟更生委員、納稅組合長、村農會役員等を歴任、また産業組合設立に盡力し現時組合長として産組事業の先頭に立つて活躍してゐる。スミエ夫人との間には長男嘉重氏のほか二男二女があり、家庭は常に圓滿、和かである。



氏は三
田川切つ
ての有力
者にして
且つ名刀
主家であ
る。

尾田蒔村の舊家内田泰太郎氏の三男として明治二十二年七月に生を享け、望まれて先代近藤嘉平氏の養子となつたもので、縣立秩父農林學校卒業後、日本醫大の前身たる日本醫專に學び、優等で卒業、在校中一年志願兵として宇都宮六十三聯隊に入營少尉に任官、その後大正五年より昭和十二年まで二十有餘年間軍人分會長の重責を帯び、また郡醫師會理事消防組頭、村會議員三期、小學校醫等を歴任した。現在はすべての公名譽職を辭し、專念刀圭に心をを用ひ、温情と親切と技術優秀とを以て患者の評判よく、門前

三田川村飯田
元村會議員
元消防組頭

近藤完二

市を成すの盛況を呈してゐる。靜枝夫人との間に二男二女あり、長男祐一君は日本醫大在學中の俊才である。

秩父町
機業功勞者
秩父町元老

秩父銘仙發達の先覺者にして功勞者たる翁は、嘉永六年三月の岳降、明治十六年喜右衛門を襲名、絹織物買織商に従事その販路擴張と製造改良に努力邁進して聲價日に揚り、秩父織物の名は全國的に知られるに至つた。秩父織物同業組合長秩父銀行頭取として當地産業界に君臨し身を保持するに勤儉質實、些少の虚飾も交へず大商店の主人として寛容の度量は衆庶の及ぶところにあらず、仰いで萬人の範とするに足るものがある。當代喜右衛門氏はその長男にして明治十四年七月の誕生、家業に精勵努力して先代の遺業と徳望とに更に光輝を添へ、曾てその所々にある家作の店子に二十有餘年間家賃滞

電話秩父二一四〇番

納せるものありしも事情を察してその非を咎めず、以て温情雅量その人と成りを窮ふべきである。

吉田町吉田

町會議員 肥土伊惣二



先代三郎氏
當家は遠く
は遠く
天明年
間の頃
より代
代酒造

を以て業とし、三峯神社の御神酒醸造元である。先代晴三郎氏は安政元年九月の岳降、酒造に研究を積み大正六年本縣酒



評會に第
一の桂冠
を得、全
國優良品
評會に於
ても毎年優賞杯を獲得した。また郡會議

評會に於ても毎年優賞杯を獲得した。また郡會議

員として郡政に參與十八年、吉田郵便局長にも任じ、武毛銀行を創立して頭取となるほか小鹿野銀行取締役をつとめ、地方財界の重鎮であつたが、先年惜しくも他界された。當主伊惣二氏はその長男として明治二十二年五月に誕生、不動岡中學校を卒業し、秩父銀行頭取として第八十五銀行の合併に活躍し、また十九歳の時から今日まで消防組頭の任にあり現時町會議員五期目、縣酒造組合聯合會副會長、同秩父郡支部長、全國酒造組合中央會評議員、その他の要職を兼ねる。

小鹿野町

元郡會議員
長又醫院長

長又良作

電話小鹿野三一番

氏は東京府南多摩郡七生村の人、明治六年二月を以て呱呱をあげ、同三十三年第一高等學校醫學部を卒業、翌三十四年現地に開業、今日に至つたもので、醫術の蘊奥を究めたる方技に加ふるに濃厚懇篤なる診察は、直に患者の信任と好評を



醫師會議
員二期、
同副會長
同郡評議
員、郡會

得、當地方切つての名刀主家といはれ盛業を極めてゐる。しかも社會公共の事業に盡瘁奉仕するところ頗る篤く、公名譽職の主なるものを列舉すれば、町醫、警察醫、縣議員等枚舉に遑なく、郡政界の重鎮と謳はれた人で、現に秩父郡元老の一人にして大功勞者たる偉材である。令聞との間に五男六女を儲け、長男早世し、次男光明氏は東京農大を出て現に東京府農林課に勤務する。

白鳥村下田野

伯田野素鳩

氏は至誠堂秩父外史と號し、愛國の志士にして詩書の名手である。明治二十一年一月、村會議員、學務委員、區會議員

等をつとめたる自治功勞者田野作次郎氏の長男に生れ、故山田靜修先生に漢學を修め、且つ渡邊華洲翁に師事した。東洋畫を墨山先生に修め、常に深山幽谷を跋渉し、意到り興來つて筆を揮ひ、その妙技は他の追従し得ざるところ、日本美術協會、洛陽美術協會、東洋美術協會の會員となり、諸所に出品して名譽一等金牌その他金銀牌賞牌を受くること數回、東洋藝術院畫士に列せられた。尊皇愛國の志篤く、わが國良風美俗を顯揚するため日本諸禮式の著あり、自邸の周圍に親睦園を構築して筆塚を設け菅公を祀り、忠孝の眞道を唱揚されてゐる。現在村會議員、學務委員、社會教育委員、方面委員等を兼ねて功績甚だ多く、靜子夫人との間には長男譽行氏ほか一男四女がある。

原谷村大野原

大野醫院

電話秩父四六一番
當醫院は勳八等大野榮一氏の經營に係

る。抑々大野家は代々醫を業とせる舊家に於いて、先々代滿穂氏は通稱蕃次郎、秩岳と號し、下田歌子女史の嚴父東條師に儒學を修め、明治初年大野原名主をつとめ、同六年十大區學務庶務補を兼ねて戸長となり、善政に盡力すること多大、村民の師表となる、當地開發の一大恩人たるや論を俟たず、明治二十五年七十九歳で永眠、その著十數種、中に有名なる、「秩父史」がある。息大學氏その後を襲ぎ、傍ら公職に推されて先代に劣らぬ功績あり、大正九年不幸病を得て不歸の客となつた。當主はその男、明治十六年八月の岳降にして東京醫專の出身、東京市淺草區明治病院に五ヶ年間實地を研究し、明治四十四年父業を承けて現地に開業、今日に至り村醫校醫を兼ね、本村衛生状態の改善に竭すところ多く、また鄰州と號し、俳句に堪能である。

尾田蒔村寺尾

舊家 八木和三郎



八木一家

京、大阪、名古屋、京都の主要大都市をはじめ北海道等にまで販路を有し、年々増産に次ぐ増産を見せてゐる。氏は家業のほか村政にも竭し衛生組合長、方面委員の任にあり、息助太郎氏もまた工場經

營を扶けつゝ、村會議員、工業組合總代に選ばれて活躍貢獻寄與甚大なるものがある。

上吉田村

元村會議員 中島波藏



當家は永祿年間以前よりの舊家に於いて祖先として甲州の

人中島左京匠源久信氏で、氏は十三代目にあたり、代々農を業とし、先代は耕地



氏 次男 武二氏
總代人 村會議員、名主等を つとめ 昭和七

年三月八十四年の長壽で他界された。氏はその男、明治二年八月の岳降にして、

正膳寺檀徒總代をつとめ、村内切つての舊家名門といはれ、曾ては村會議員にも選出された。長男照一氏は袖製造販賣をなして大成功せる人、次男武二氏は家業を繼承して篤農家の聞え高い。

三田川村飯田

素封家 勳八等 白毛義作



先代氏は元犬木姓を名乗り、當家は

氏の代に氏が白毛多きを以て領主深津彌一郎氏より白毛姓を賜つたといふ。藤兵衛氏は葉



衛氏は葉煙草業及び質商を營みし偉材であつた。先々

代周藏氏は兒玉郡秋平村福島安兵衛氏の二男に生れて當家の養子となりし人、名主、區長等をつとめ、河原澤の山林を共有地たらしめた殊勳者、地方開拓の恩人にして、その功績は炳乎として光茫を放つてゐる。その後郡書記等をも拜命した先考は村會議員として村治に功勞あり、また家相學の大家として著名である。當主はその男、明治十三年六月に生れ、父志を嗣いで家相學を修め、一方の權威と稱される。

白川村白久

教育功勞者 深田雅治



當家は明暦年間以來の舊家にて初代長太郎氏以來當

主を以て十代とする。七代目茂吉氏は家運の基礎を築いた人、八代目長九郎氏は

各方面の事業に關係して失敗せしも、九代目綾吉氏及び十代目當主と相次でその挽回に努め、昔日以上の隆盛を見るに至つた。先代は剣道の名人でもあつた。耕地總代人、社寺總代、村會議員等にも任じ、昭和十一年十二月、七十六歳で永眠した。氏はその男、明治十八年三月の出生にして獨學で小學校教員となり、明治三十四年白川村費川小學校教員を振出しに、尾田蒔、久那、原谷、萩島、出羽、兩神、大瀧等の小學校を歴任し、昭和八年八月まで三十有餘年の永い教育界生活中、幾多の俊才を養成し多數の人材を世に送つた。和歌俳句文學に興味あり、情操豊かな人である。昭和六年三月二十八日満十ヶ年間無缺勤の故を以て兩神村長より表彰

兩神村薄下和田

教育家 正八位等

大久保領一郎



先代 丑藏氏 第二十八代宣化天皇の曾孫 多治比



夫人カネサき

り表彰された夫人カネサきは同郡兩神村

古王左大臣丹辨改丹治、養老三年武藏守となり、廣足、廣成等五代を経て後、兒玉郡秩父を領し、これより十數代、永祿年間の人融左衛門氏を當家の祖とする。先々代壽作氏は壽村と號して俳諧をよくし春道と稱し繪畫の達人でもあつた。先代丑藏氏は日露戰爭に護國の華と散り勳



八等ならびに功七級を賜つた。氏はその長男、明治三十七年五月に生まれ、秩父農林學校の卒業、大正十五年以來教育界に在り、その



その家の族人々

教諭であるが、今回の日支事變に應召武勳赫々たるものあり、家庭にはキク夫人が一男二女を擁して銃後を護つてゐる。

上吉田村松岡

勅使河原惣兵衛



當家は實に多治比古王の流れを汲む由緒ある家柄である

その祖は武藏現在の勅使河原に住し、後ち秩父郡の今の倉尾村に落ち延び、續いて現在の地に土着し、當地草分けの家として今日に至つてゐる。倉尾に鎮座する野久利神社は古くは權現と稱し、當家祖先の氏神として祭祀し、明治の初年頃までは松岡から立合つたもので、以てその由緒ある舊家であることが窺はれる。明暦元年最初の地檢を受け、田代熊右衛門氏は村の十人衆といひ、後ち十二人衆と

稱した。五代の又兵衛氏は歌人として令名を馳せ、六代茂平治氏また歌人であり七代又兵衛氏は幕末の頃名主として貢獻し、八代目茂作氏九代目惣兵衛氏、十代智昌氏等を経て現在に及んでゐる。當主は明治十三年八月二十九日の出生、近衛歩兵第二聯隊に入營、三十七八年戰役に參加して各地に轉戦、功に依つて勳八等に叙せられた勇士である。現在は農業に精進しつゝある。

白川村費川

舊家 一宮綾藏

當二宮家は萬治年間より連綿たる舊家にして代々農を營み、先代造酒之進氏は家業の傍ら育英の事に携はり、現在その手により薫陶されし人村内に多數あり、先年これら子弟により頌徳碑を建設された。先代はまた土木事業に明るく、碓氷峠の開鑿工事には主任となつて工事監督をなしたといはれ、享年四十八にて他界された。當主は本村白久村豆原坂本捨

藏氏の四男として明治三年三月に呱呱をあげ、長じて當家養嗣子となりし資性温厚篤實の人格者、家業のほか學務委員及び區會議員を十有餘年兼務し公事に盡してゐる。

中川村上田野

舊家 大澤助作



當家の祖は鉢形北條氏の家臣にして、北條氏滅亡と

共に當地に土着、爾來四百餘年の歴史を閱せる舊家にて本村草分といはれ、代々進五左衛門を襲名し來り、當主を以て十六代目とする。十二代進五左衛門氏の息藤吉氏は幼少の頃江戸に出て繪畫を學び浮世繪の大家歌川豊國と親交があつた。大正六年、隣家よりの火災にて貴重なる古書類を灰燼に歸し、詳細を傳へ得ざる

は甚だ残念である。先考利三郎氏は區長及び衛生役員をなせし部落の先覺者、明治三十八年、五十八歳を一期に黄泉の旅人となつた。氏はその男、明治十六年を以て呱聲をあげ、家業に精勵し篤農家の聞え高く、資性濃厚篤實、家庭には一男二女あり、長男冬吉氏は秩父町小泉木材店に修行中である。

久那村

舊家名門 岩田甚三郎



玲瓏玉の如き性格の持主たる氏は先考代太郎氏の男

にして明治四年十月十八日の出生、消防組頭十年、衛生組合長十年をつとめたる功勞者にして再三村長に推舉せらるゝも固辭して受けず、村民一般からは君子人として崇敬思慕される人格の人である。

嗣子正氏は京都市に於て運輸會社に勤務し、上長の信任厚く、同輩の間に名聲がある。因に當家は天正年間よりの舊家に於て氏を以て十六代目とし、代々名主をつとめ來りし名門である。當主より十代前の祖三郎兵衛氏は門の偉材にて、平賀源内と親交厚く、一切の事業を共になしたといはれる。始祖は相州鎌倉上杉憲政の家臣にして秩父郡上田郷村に住居し岩田伊勢守と名乗つた人である。

原谷村黒谷

舊家名門 増田寶治

本村草分の舊家といはれる當家は名門藤原氏の末孫にて、當地に和銅發掘の際聖神社の創建されるや、増田播磨正藤原重嗣は神官として折烏帽子狩衣を以て奉任し、古書類その他の寶藏は今も傳はり保存される。氏は先代定藏氏の長男にして明治十八年十一月の誕生、夙く村會議員二期、區長一期、國勢調査員二回、その他の要職を歴任して事績顯著なものあり

り、現時信用組合理事のほか農事實行組合理事、衛生組合長を兼ねて益々奉公の誠を效し、曩に衛生功勞者、自治功勞者としてそれ／＼表彰さるゝの光榮を有した。令閨らくさんは内助の功多く淑徳の譽れ高き人、氏との間に長男開氏、二男泰吉氏、二女きよさん、三女ふくさん、四女としゑさんあり、長女は他に嫁いでゐる。

三田川村

名家 南齊一郎



節婦といふ子ん 當家は大里郡鉢形城の落人南彈正氏を

家祖となす由緒ある家柄であるが、家計は一向に恵まれず、明治初年酒造業を創めて經營、代々相繼いで精進、二代前の龜三郎氏の代に至つてやゝ家計立ち直り

村長、郡會議員、村會議員等に推舉され功を數へらる多大なるものがあつた。先代半十郎氏は三十六歳にして早世、母堂ていさんは當主四歳の時より哺育、他方夫君なき後の一家を切り盛りして終に今日の南家を作りあげた女丈夫で、昭和十年八月郡教育會から節婦として表彰された。當主は秩父農學校卒業後は實母氏を助けて家業に勵精、その將來に囑目されてゐる。

兩神村藤指

舊家名門 楠精一

當家の祖は楠帶刀正行公の令弟、從四位少將楠右京大夫成康氏にして後醍醐天皇の御宇十七萬七千石を賜りし名門、今も家寶に輝ける系圖二卷のほか、楠新田陣取秘密之卷、大塔宮御陣取之卷等が藏される。土着後代々名主をつとめる家柄にて、氏もまた區長代理、消防組小頭等に任じ、竹平分教場建築の際は、建築委員代理として努力された。資性勤勉質實

生れは明治二十八年七月三十日にして、實父は與一郎氏、養父は已之吉氏と稱す長男侶章氏ほか八人の子寶に恵まれ、家庭圓滿幸福を極める。

中川村日野

舊家名門 淺海邦治



當家は土地の舊家淺海家の一門、古くは名主役を勤

めて土地の開發等に貢献した家柄である先々代の牧之亮氏は名主、戸長及び村長として甚大な功勞を遺し、七十八歳を以て長逝し、先代儀保氏また消防組部長、寺院總代を勤め、明治三十七八年戰役に出征、各地の戦線に参加して功をたゞへられ、勳八等に敘され、五十一歳を以て故人となつたが、今なほその徳を追慕されてゐる。當主は實にその男、明治四十

三年二月一日の生れ、曩に第一師團に入營、勤務上等兵に進んで除隊、現に青年學校指導員を現任中であるが、家に在つては父君の遺業を守つて勵精邁進、濃厚篤實にしてしかも眞面目、多大の將來性に期待をかけられてゐる。氏は今、獨身母堂並に令弟二人、令妹一人と圓かな家庭に汗を落し、疲れた身をやすめてゐる

兩神村薄

兩神神社 副社掌 鈴木武邦

當家は山中岩本坊の後裔、數代の後觀藏院と改め、更に兩天法院と稱し、先々代大三氏の時初めて鈴木姓を名乗つた。世々兩神神社々掌をつとめ苗字帶刀を許された家柄である。氏は先代嘉全氏の男、明治三十六年十一月の出生にして、長ずるや兩神神社副社掌となりて尊父を扶け一面昭和二年以來消防組に入り功勞多からざるものがある。シキ夫人は淑儀の譽れ高く、一男一女を儲く。因に兩神々社は元明天皇和銅年間の創建に係り、



主當及代先と社神神兩

非諾伊非册二神を祀り、徳川義親公、鮫島大將など諸名士の参拜を受けてゐる。

横 瀬 村

法長寺住職
大淵寺住職

町田兼義

師は島田植堂氏の男にて明治二十二年十二月の岳降、長じて町田梅周師の養子となつた。梅周師は大淵寺、法長寺各住職、宗務所長、布教部長等をつとめた善

智識である。氏は曹洞宗大本山僧堂高等部に修業し、養父同様法長寺、大淵寺各住職たるほか經濟更生特別委員、縣教化團體聯合會講師その他の要職にあり、文學、講演に興味あり、映畫傳道の研究家で且實踐者である。長男町田梅雄氏は農林學校在學中。因に法長寺は青苔山と號し、僧行基作の十一面觀世音を本尊とし吉田町清泉寺五代涼堂寒清師を開山とし秩父札所第七番の靈場にして檀家約三百戸を有す。また大淵寺は龍河山と號し影森村上影森にあり開基は島山重能、開山は石岳少雲師、正觀世音を本尊とし、吉田町清泉寺末、鐘乳洞及び護國觀音の名勝がある。

秩父町大宮母巢森

秩父神社

國幣
小社

當神社は崇神天皇の御代、八意思金命を祭神として鎮座され、創立實に二千有餘前である。八意思金命十世の孫秩父國造の始祖知知夫彦命を合祀し、夙く延喜

の官帳に列し、神階正五位下勳七等より漸次歴階して正四位下に進み、朝廷の御崇敬極めて厚く、武家執政の時代にも鎌倉幕府は社殿造營の命を下し、天正十九年徳川家康は朱印を以て社領を寄せ、翌年社殿を造營し、歳毎に使臣を遣はして祭事を復興した。明治六年縣社に列し、昭和三年國幣小社に列格した。大正十一年、秩父宮殿下の御参拜あり、拜殿右側に乳の木一樹御手植遊ばされ同十四年再度御親拜、昭和八年妃殿下御同列にて三度御参拜あらせられた。宮司正八位蘭田稻太郎氏は氏を以て三十七世とする舊家に明治五年に岳降、國學院大學の出身にして現時三峯神社々司を兼務する。

秩 父 町

秩父分教會

甲賀
大教會

當教會は天理王之命を奉齋し、甲賀大教會の分教會である。明治三十四年前會長新井久之助氏の創建に係る。日露戰役以前の頃、互職人が當地へ來て天理教の



權中講義に敘せらる。會て天理教に講師を勤めたことがある。中山管長の主義宣言を體し、布教傳道に盡瘁し、教勢大いに高揚せられる。また北足立郡大宮町天理教務支所主事を兼務してゐる。

皆 野 町

歡喜山圓明密寺

當山は新義眞言宗智山派に屬して、本尊は釋迦如來である。中興開山は歡喜上人で建久元年の中興である。兒玉郡栗橋村有勝寺の末寺である。明治十五年の大火にて一山炎上し寺寶、古文書類等一切を喪失したのは惜しみて餘ある事、境内は四段に上り、畑は四町歩である。皆野町一圓に互つて檀家があつて、總代は金子徳右衛門氏、金子茅藏氏、金子孝七氏



住 職

師は明治三年十月七日、南埼玉郡に生れた幼少にして出家し、内

外の典乘を修め勤行甚だ堅く護持し東京小石川音羽町

吉 田 町

清 泉 寺

當寺は後宇多天皇の御宇、梅堂永芳禪

教會長

氏は、前會長久之助氏の男、明治三十二年二月四日に生れ、奈良

の天理教中學校を卒業し、國學院大學に入つて神道及び國學の蘊奥を究む。昭和九年嚴父歸幽の後を承けて教會長に任じ

新 井 修

氏は、前會長久之助氏の男、明治三十二年二月四日に生れ、奈良

の天理教中學校を卒業し、國學院大學に入つて神道及び國學の蘊奥を究む。昭和九年嚴父歸幽の後を承けて教會長に任じ

師を開山として創立され、釋尊を本尊とする曹洞宗の古刹。禪師は當地の山水を賞愛した。弘安七年、秩父重忠五代の孫重清は禪師に歸依するところ多く、進んで大伽藍を建設寄進し、依つて秩父家時代の菩提を回向せりといふ。また天正十九年徳川家康より朱印五石を寄せられし由緒の寺にして、境内八百九十坪、他に田畑山林等九町餘を有し、現堂宇は嘉永年間の建築に成るものである。檀家百五十戸、總代には肥土伊惣治、笠原大八、小杉保次の三氏が推されてゐる。本寺は東京市板橋區の松月院、末寺は二十九ヶ寺をかぞへる。



住職 吉川得道

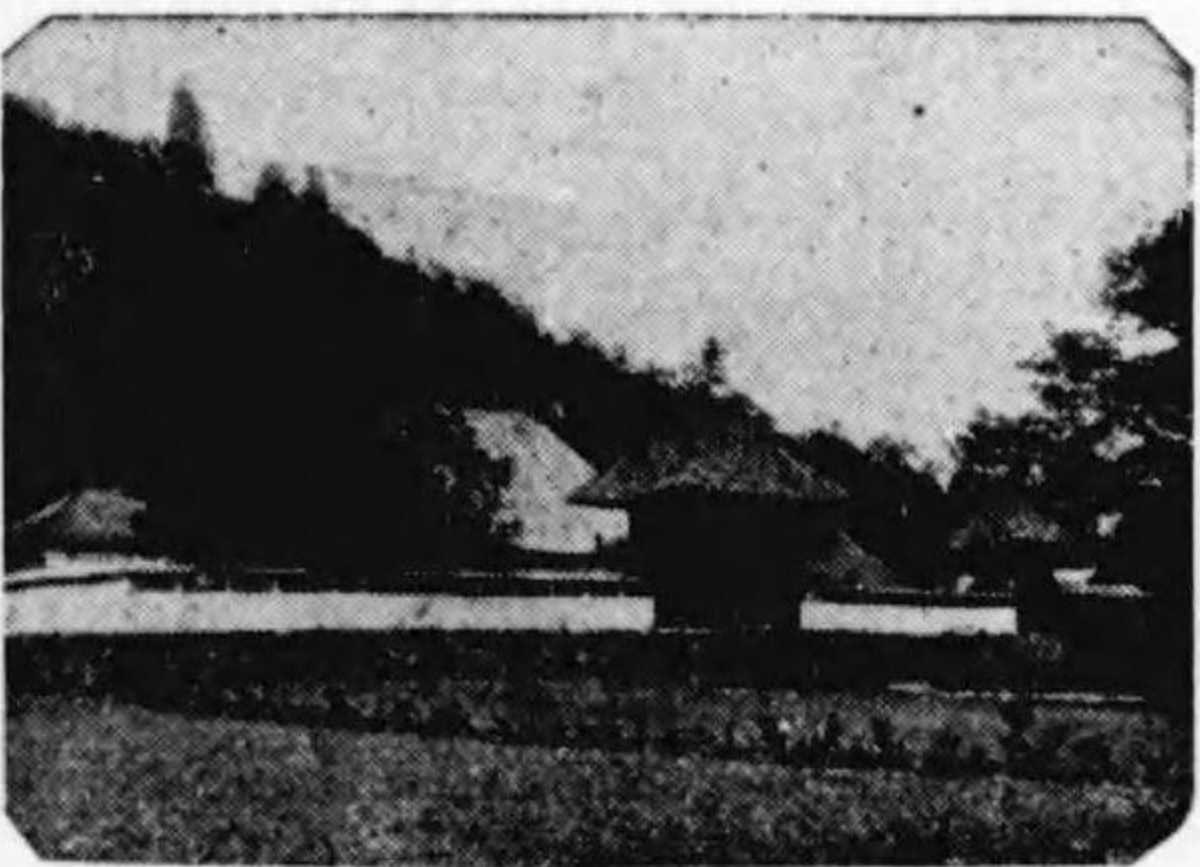
師は尾張の人、明治十四年の出生にして、大正十三年當寺住職となり、勳八等功七級を有し、方面委員、西部佛

教聯合會代表を兼ねる。

小鹿野町信濃石

長慶山鳳林寺

今より凡そ四百年前、戈屋尊藝和尚を



鳳林寺全景

開山として創建されし當寺は、徳川將軍家より朱印五石を寄進された所謂秩父郡八ヶ寺の一である。釋尊を本尊として奉安し、山梨縣東山梨郡柏川村興因寺の末に當る。本堂は間口十一間の奥行六間あ



住職 松本弦濟

師は尾張國海部郡の人、明治三十五年八月を以て生れ、名古屋中

十有餘年間の修行を累ね、昭和八年前住職の後を襲つて當寺座主となつた。若き名僧としてその將來は各方面から期待されてゐる。

高篠村山田

向嶽山光明寺

當山は曹洞宗に屬して、本尊は釋迦如

來である。開山は法性國師物外大和尚である。人皇第五十代桓武天皇の皇子一品式部卿葛原親王の子、高望王、桓望王の御兄弟の閉基に係り延暦十二年の創建である。始は光明庵と稱し、その後、永正十四年鎌倉建長寺の春澤香梅禪師を請じて、中興開山とした。天正十五年三月、興禪護國の宗旨は曹洞宗であるとして、朝谷是敏大和尚を傳法開山とした。創山當時は七堂伽藍並び備はり、當地方第一の巨刹であつた。弘化元年、明治五年、大正三年の三回に互つて炎上し、今は假建築により再興に力めつゝある。本山は隆音寺、末寺には眞福寺、常泉寺、金昌寺、秀林寺の四箇寺がある。境内は千百九十坪に上り、寺領は田一段一畝九歩、畑二町三段一畝七歩、山林二町一段五畝歩があつて、檀家は全村四百五十戸を算し坂本宗太郎、荒船清十郎、水野梅藏、新井源亮、中島周太郎の諸氏が檀家總代として、一身を挺して熱誠に奉仕盡瘁してゐる。

住職

香川瑞鳳



當光明寺第二十三世は岐山瑞鳳大和尚が現任の住職である。嚴父

亡國瑞師は栃木縣鹿沼町光大寺の住職在任中に物故遷化した。瑞鳳師はその男として明治十五年五月十八日に生る。永平寺鸞雲禪師六世の孫である。近衛砲兵として日露戰役に出征し凱旋して下野新聞の記者と成り、大正二年出家得度を修して、僧籍に入つた。八年以來昭和二年まで大本山布教師を勤め、二年より八年まで宗務會議員に當選して貢獻甚大であつた。師は書道及び篆刻の造詣深く斯界の權威として推服せられる。目下楷書結體類鑑の著述に努力して三箇年間を閲し、益々刻苦奮勵中である。七年十二月五日には泰東書道院第三回展覽會に入選の榮を博した。

原谷村

融興山瑞岩寺

當山は曹洞宗に屬して、本尊は十一面觀世音である。長尾四郎左衛門照國入道威廣の閉基にして、開山は秩父町廣見寺第三世瑞山守の大和尚、今より四百三十三年以前、即ち、後柏原天皇の御宇、永正四年の創建である。爾來、災厄皆無にして現在に至る。廣見寺の末寺である。本堂は間口六間、奥行七間半、庫裡は間口八間、奥行七間、その外七堂伽藍備はり、輪奐の美盛んである。境内面積は二段七畝十五歩、田は一段六畝、畑は二町七段にして、山林は五町一段九畝十五歩寺寶として武田信玄の木像がある。三月二十八日は原谷村の大晦日であるにより大護摩供養を修せられ、節分の日には追儺式が行はれて、何れも盛況を極める。檀家は村内二百戸に餘り、總代は町田嘉之助、高橋清作、飯島森太郎、清野義雄、海津整作の諸氏が奉仕してゐる。住職は

武田武賢師である。

瑞岩寺住職 武田 武賢



師は瑞岩寺第十五世の住職である。秩父郡横瀬村の人、明治三十七年九月二十一日に生る。年甫めて四歳にして

一家に従つて原谷村に來住した。武田家は農を業としてゐたが、嚴父慧定師が佛門に入つたので、血縁に依つて宗行を傳承した。慧定師は縣下小作調停委員、縣社會教化團講師等として功勞甚大であつた。武賢師は、夙に雪洞庵及び大本山鶴見總持寺に勤行を修し、特に慧定和尚の指導を受けた。昭和九年の晋山である。今や大田村香林寺をも兼住し、郡佛教同志會理事、縣方面委員等に任せられ、青年男女の教化指導に盡瘁し、讀經修行、法話會を指導し、また青年劇をも教化輔

導して、顯著なる功績を擧げてゐる。長男大定君はなほ小學校に修業中であるが前途多囑の秀才である。

三澤村上三澤

一高山光明院常樂寺

當寺は五百年前の創建なるも、天保年間祝融の災に遭ふて堂宇古書類一切を烏有に歸して草創時代の詳細を傳へず、現在の堂はその後の建立にして、中興開山を榮明上人と稱し、本尊は不動明王、新義真言宗智山派に屬し、大里郡男衾村不動寺の直末寺、三澤村内に檀家寺三ヶ寺あり、共に當寺住職の兼務である。境内約三百六十坪、本堂、庫裡、土藏のほか三間四面の阿彌陀堂がある。檀家總代は關根代思郎、松本彌平、鈴木忠作の三氏



當寺は不動明王を本尊とする眞言宗智山派の靈刹にして、智積院の直末寺である。宥元法印を開山となし草創は約九百五十年前なるも、明治維新前、祝融の災を受けて一切の古記録を燒失せるため詳かに傳へ得ないが、現住職を以て四十三世とする。境内にある藥師如來は眼病治癒に靈驗あるため參詣の客が多い。本尊及び脇立、前立は弘法大師の作なりといふ。檀家百五十戸、宮澤良吾、矢内英直

宮澤山微妙院光明寺

樋口村

住職 加藤音榮
師は新潟縣佐渡郡八幡村の出身にして明治二十三年六月の誕生、佐渡中學校に學んで後、眞言宗豊山中學に轉じ、更に京都勸學院を卒業、朝鮮に

宮澤進の三氏を總代とする。

住職 小内智道



師は明治三十二年二月二十五日の岳降にして南埼玉郡の人、大正十二年より三年間妻沼町聖天山に修業し、次で不動岡

普光山總持寺

野上村本野上

當寺は人皇八十七代四條天皇の天福年間、秩父六郎藤原重忠の創立せしものにて、佛眼無門惠開禪師の法嗣法燈圓明國師を請じて開山とせる臨濟の古刹にして本尊は文殊菩薩である。開山は永仁六年



住職 森 重晴

現住は森重晴師にして前住の後を襲ふて寺運の興隆へとひたすら心を練つてゐる。檀家總代は島田六平氏金澤仙松氏等の諸氏で、寄與貢獻するところ甚大である。

尾田時村寺尾

法王山岩上寺

秩父二十番札所、風光明媚な荒川崖上に建つ當寺は、人皇七十二代白河院の建立に係り、本尊に聖德太子作の靈觀世音菩薩を安置し、靈驗顯著にして武門の信仰厚く天文、永祿年間兵亂のため堂宇灰燼に歸せしが、當地支配役たりし内田武左衛門尉政勝氏これを再建、爾來その子孫當山別當として信仰奉仕し、今日に至つた。

住職 内田庸一

氏は明治二十三年の岳降、曾祖父湖三郎氏は二十一番札所觀音寺に多數の子弟を教育され、湖山と號して俳句をよくしまた書道の大家として知られた。當主は別當職の傍ら村會議員二期國勢調査員、小學校建築委員、養蠶實行組合長、經濟更生委員、區長を歴任せる功勞者にてその盡瘁貢獻するところ多大である。

三田川村飯田

萬松山光源院

當山は曹洞宗に屬して本尊は釋迦如來である。開基は武田信玄の後裔、逸見若狹守であつて、甲源一刀流の宗家として今に傳はつてゐる。開山は甲州永昌院第五世敬翁性運大和尚である。甲州の永昌院を直本寺とし、本寺は九箇寺を有す。境内は三段五畝十八歩、田は八段一畝、畑は三町七段、山林は二十二町一段四畝本堂は間口十一間、奥行六間である。寺寶中には左文字作山刀一口、永祿十三年二月武田信玄の臣山縣三郎兵衛の高札一面、花山院筆繪畫一幅等がある。檀家は全村に互つて二百數十戸に上り、總代は笠原金次、大塚新吉、大塚椋吉、落合勝藏の諸氏が奉仕して熱誠である。現住は石田性海師である。

光源院住職 石田性海

師は新潟縣南魚沼郡の人にして、明治三十三年四月四日に



生る。なほ幼少にして佛門に入り、星光天海大和尚の現世最後の法弟として勤行修學し、長じて東京の世田谷中學校を卒業してから、大溪山豪徳寺住職の梶川乾堂和尚の第四法弟として専念不亂修行した。先住齋藤觀法和尚の後を襲ぎて、大正十三年

白川村白久 自由山圓通寺

當山は曹洞宗に屬して、本尊は延命地

正十三年に入山して現在に至る。禪門に歸入すること

藏尊である。照月禪運大和尚の開山、東雄朔方大和尚の中興開山である。秩父町廣見寺の末寺である。應永二年地藏堂を創建し、文明十年再興し、始めて地藏尊菩薩を本尊として開眼供養す。弘治二年開山和尚開基して圓東寺と稱す。慶長三年豊臣秀吉檢地の節、細外地を賜はり、自由山圓通寺と改稱して現在に至る。寛永十七年徳川幕府檢地の節、境内三段二畝二十四歩の除地を賜はり、明治維新に上地し九年檢地の際四百六十七坪を以て境内と定められた。山林二町九段、田畑三町四段、本堂は間口八間、奥行五間三尺、庫裡は間口六間、奥行五間三尺、現住宮村孝順師が發起人となりて境内に招魂碑を建立した。四月八日釋尊降誕の花祭、十一月十一日に忠魂祭が行はれ盛大を極める。檀家は全村八十戸を算し、總代は高野由太郎、久保善一郎、山中毎吉濱中喜市、山中岩吉、新井與作の諸氏が熱誠に奉仕して貢献寄與多大なるものがある。

住職 宮村孝順



宮村孝順師は圓通寺第十三世の住職で當山縣の人、先代明方師の

三男として、明治十七年五月十五日に生る。代々前田家藩士であつた。師は明治三十一年年甫めて十三歳、岩城道海師に就いて得度した。三十七年騎兵補充兵として第九師團に應召し、三十九年召集解除された。四十年六月金澤市天徳寺認可僧堂にて安居した。先住にして法兄なる塚原眞龍師の遷化の後を襲ぎ、大正九年十二月入山した。また阿彌陀寺住職をも兼務してゐる。曹洞宗宗務支所長、地方部長を歴任し、村會議員を始め、郡社會教化團役員、佛教聯合會役員に任ぜられ、幹旋奔走大いに貢献してゐる。その人格は高潔、善知識の評が高い。

中川村日野番外地

日野山淨光寺

當寺は應永元年本村の名門淺海敏次郎氏の祖先平右衛門氏を開基として建立され、東雄朔方大和尚を開山とする。曹洞宗に屬する靈刹として古來衆庶の信仰厚く、本尊は釋迦如來にして御長二尺である。秩父町廣見寺を本寺とし、境内九町二段六畝、本堂は八間と六間、庫裡は六間と五間の建坪を有し、他に土藏がある靈域整然として、清淨の氣に充ち、墓地二畝餘、幽邃の感自ら森嚴たるものがある。檀家約八十戸、他に二十戸の信徒をかぞへ、檀徒總代には名望家新井喜三太氏が任じてゐる。

住職 梅澤宗岳

師は明治十四年に呱呱の聲をあげ、夙に佛門に歸依して修行し、

當山第十八世を繼承、學識博く、徳望治く、寺運の興隆に意を用ひて功多く、檀信徒の敬慕を一身にあつめてゐる。

久那村栗原

岩谷山久昌寺

當山は礼所第二十五番中之院御手刺寺と稱し、人皇六十六代一條院の御宇、播州書寫寺の開山性空上人當地巡禮の節、朝日の御影より二十五の菩薩あらはれ音樂を奏せしにより當寺を二十五番と定め給ふた。曹洞宗に屬し、本尊は大日如來開山は顯眞大和尚、八難諸病の苦を逃れ未來輪廻の罪障を免れる靈驗あり、秩父町廣見寺は當寺末である。境内三段歩、本堂、觀音堂、辨天堂、山門等あり、寶物に行基菩薩作の聖觀音を藏す。檀徒總代は笠原意三郎、石渡武治、高橋一良、町田熊吉の四氏。

住職 青木照道

師は名古屋市の人、明治二十年二月を以て生れ、曹洞宗專門學校

の出身、大正二年靜岡縣磐田郡安樂寺住職となり、同九年當寺に轉住、昌安寺、宗源寺、向陽寺各住職を兼ね、學務委員

及び縣佛教社會事業協會評議員の任にもある。

影 森 村

大聖山金仙寺

康暦元年香庵道虎大和尚この地に大伽藍を創立して武甲禪林と稱し、後、改めて大聖山と號し、寺を金仙寺と呼んだ。爾來殿堂樓閣屢々兵燹に罹り、書類傳記等灰燼に歸したが、十九世乾嶺壽和尚は元祿十二年堂宇を再築して百事改觀、特に蘭溪道隆和尚を請じて中興の開山として大いに禪門を振起した。然るに享保十三年惜哉諸堂燒失し、幸に樓上の聖德太子彌勒菩薩、四天王の像のみは難を逃るゝを得た。現堂宇はその後の建立に成る。本寺は鎌倉建長寺、末寺に中川村清雲寺白川村法雲寺、秩父町小林寺がある。檀家約四百、總代は松本由太郎、石井太郎松井仙三郎、井上與市、松本歡九郎の諸氏ほか三名、がこれに任じて、それと大に世話をやいてゐる。

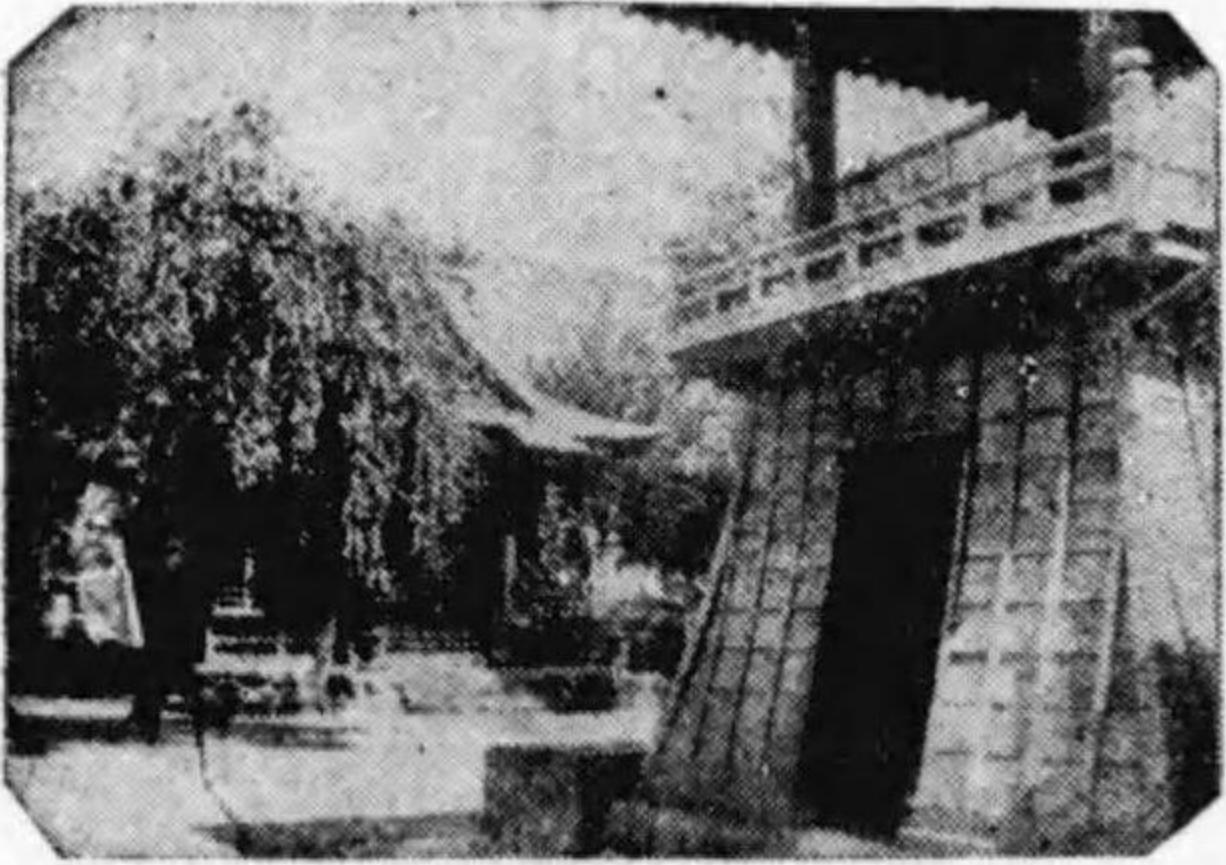
住 職 齋藤由全

師は長若村出身にして、明治三十八年の岳降、夙に本山に於て修業し、昭和三年吉田町永法寺住職となり同九年より當寺兼住となり今日に至る。

秩父町東町旗下

簇下山慈眼寺

曹洞宗に屬し、古より勝れたる靈地として名高き當寺は秩父札所十三番にあたり



慈眼寺の景

住 職 柴原弘道



師は神奈川縣都筑郡の人、明治二十九年三月岳降で入山以來一意法燈の

再興にと傾注してゐる。

小 鹿 野 町

十 輪 寺

新義真言宗智山派に屬し、秩父地方有数の名刹たる當寺は、數回の火災に遭ふて記録等を烏有に歸せしため、開基開創は不詳であるが、中興開山は今より八百



十輪寺本堂

年前の名僧成賢和尚である。本尊十一面觀世音は、文久三年、徳川家二丸秀小路公より文昭院殿及び有章院殿菩提のため寄附せられしもの、なほ秘佛聖天の像を

安置し、他に寺寶として本堂正面仁王門内にある弘法大師作の仁王尊、延命地藏尊、十二佛絹地畫像、寶永七年佐野天明の住人藤原康重の作れる大日如来銅像等がある。檀徒約二百戸、總代は中田忠一郎、太田美雄、原島淑郎、田島籌一の四氏である。

住 職 五十嵐良英

師は明治二十一年の岳降、前任清純師に仕へて二十年間修業して後



京都本山に於て四十年間の修行を累ね大正三年

皆野町圓明密寺住職となり、昭和四年當寺に移つた。

高 篠 村 栃 谷

法昌山妙圓寺

當山は日蓮宗に屬し、日蓮上人を本尊

り、今より凡そ四五十年前高野平右衛門平寛道を開基とし、東雄朔方大和尚を開山として創建され、本尊正觀世音菩薩は行基菩薩の作にて高さ一尺二寸五分の木座像である。その昔、大宮郷の高野の某の息女江戸に嫁入りして、彼の明暦の大火に遭ひしが、當觀世音を信仰せしにより九死の難を避けて一生を得たと傳へ本尊御利益の程が窺はれる。寺寶に一切經を藏す。毎年四月十八日の觀音祭、七月八日の藥師如來大祭には何萬人の參詣人ありと殷盛を極める。檀家百五十戸。酒井米太郎、峯岸多三郎、荒船治三郎の三氏を總代とする。寺内には幼稚園あり亦、佛教關係各團體の事務所が置かれる

とす。總本山身延山久遠寺の直末にして天正十五年、正行院日養上人が甲州より來錫して建立せしものである。中興開山は妙宣院日演上人にして慶長十八年の事に屬す。山門に安置する所の二王尊神は大日本隨一と稱せられ靈驗殊の外顯著である。亦た子育鬼子母神は安産育兒の守護神であり、祖師堂は高祖日蓮大菩薩を安置して火難災厄一切の厄除の佛徳を讃仰せられること久しい。境内は三段、山林は四町歩、田畑は三段、明治十二年の大火にて全山炎上し、寶物、古文書等は一切喪失した。歴代の住職は營々としてこれが復舊再興に努力盡瘁し、着々効果を奏して進捗中である。

住 職 濱島文眞

師は尾張の人、明治九年一月廿六日の出生幼少にして佛門に入り

文孝院日篤上人に師事して得度勤行し、三十年先住の奥澤智賢師轉任の後を承けて入山し、荒廢の中より當山復興の苦行に邁進し能く成就するに至つた。その偉

功は永く末法を破開し、弘法を照明するものである。師の本住は淨蓮寺にして第四十六世に當り兼住は妙圓寺にして第二十四世に當る



師は山門に入れば一村護法起信大導師、山を出づれば教化指導に及るなき權威者である。高篠村經濟更生委員を始め郡



法弟文能師

も兼務してゐる。法弟にして養嗣子たる文能氏は立正中學校及び立正大學を卒業せる秀才、能く師の信任に報うべき學才兼備の士、その將來は多囑多望、宗内外より刮目して大いに期待されてゐる。

妙榮山 淨蓮寺

濱島師在住の同山は同郡大河原村に在り、日蓮宗池上本門寺の末寺にして、木尊は釋迦如來、多寶如來であつて運慶の作と傳へられる。開山は六老僧上足の日朗上人、當地の豪族神谷太郎光興は日蓮上人に歸依篤く、遂に自邸を布施して寺とし淨蓮寺と號した。松山城主上田能登守の尊信は殊に顯著であつて、上田家累世の墓がある。

師慶山醫王寺

抑々當山は推古天皇十八年に、聖徳太子が國家鎮護佛法興隆のため創建せられし靈場にして、神龜三年行基菩薩、弘仁元年弘法大師の再興に係り、新義眞言宗豊山派に屬し、本尊は二十三夜得大勢至菩薩、脇立に聖徳太子、奥の院に藥師如來を安置し奉り、その靈驗顯著なるを以て、往古より鎮護國家、子孫長久の祈願のため、毎年舊正月元朝、大護摩修行を



住職 飯野元英

師は本郡尾田蒔の人にて大正二年二月の誕辰、昭和十年當寺の住職となり今日に至つた。

惣父町 惣圓寺

當寺開基は秩父町の人新井氏にして、本尊は阿彌陀如來、淨土宗に屬する靈刹である。開山は鴻之巢勝願寺の住職日譽上人にして、今より約二百八十年前、轉

住して中興の祖となつた。明治の頃、祝融の災に遭つて寶物及び古記録を烏有に歸し現在の堂宇はその後の建造に成るものである。境内は一町四方、檀徒は百三十戸をかぞへ、總代に柿原萬藏、淺賀筆吉、淺賀朝之助の三氏がある。本郡屈指の有力寺院にして、盆の燈籠流しは秩父名物の一となつてゐる。

住職 山極信達



師は信州戸倉の人明治三十年の出生である父祖代々佛門に仕へ、師は横濱市光明寺にて修業し、大正十二年當寺住職と

なり、困難なる寺堂再建を遂行せし努力家且頭腦明晰なる器英俊才にして、檀徒間の信望頗るあつく、殊に若き人々の間に人氣があり、その將來は期待を以て囑目されてゐる。

尾田蒔村

大寶山圓福寺

本尊釋迦如來、臨濟宗に屬し、慶安二年當地の有力者熊谷金吾直俊の開基に係



位牌堂

る當寺は、開山第一世普覺圓光禪師以來約五百五十年の沿革を有し、曾ては末寺六十有餘ヶ寺を有し、徳川家より朱印五石寄進の名刹であつた。維新後一時衰へたりと雖も、現今末寺二十有餘をかぞへ

關東屈指の名刹たるに遜色はない。天正年間、家康公休憩の故事あり、十石城主待遇旅行の免除もあつた。檀家は一町六ヶ村に互つて四百戸餘り、尾田蒔村長を總代々表とする。

住職 後藤憲嚴

師は三重縣津市の人東京市金地院桑原柏嚴師の弟子となり、前任職松浦誠嚴師は兄弟子に當る。昭和五年當寺二十八世を繼ぎ、博識多才、謹嚴なる中にも温雅の風あり、當地方屈指の名僧と謳はれてゐる。

中川村

笹戸山長泉院

當寺は三上太郎左衛門を開基とし、教翁性導大和尚を開山とする曹洞宗の古刹にして、本尊正觀世音菩薩は、冷泉天皇の安和元年、慈慧大師一刀三禮の御眞作である。日本觀音第百番巡禮開闢石札道場秩父第二十九番札所として知られ、日本稀有の靈地である。日野澤村大道院末

に當り、境内七百坪弱、本堂、庫裡、參拜人宿所、その他堂塔伽藍完備し、花山法皇石擲の御判寫、石札、徳川家より賜りし葵御紋戸張及び御紋水引等の寶物を藏し、深き縁起と歴代山主の熱心により寺運燦として光輝を放ち、その名縣下に冠絶する。檀家は中川村を中心とし附近町村に約六十戸を數へ、大澤房吉、大澤武一、三上守松の三氏が總代に推されてゐる。



住職 小川春光
師は徳望洽き名僧で宗門内外の

秩父町宮地

大林山廣見寺

當寺は後龜山天皇の天久八年天光良産禪師の開山にして、明治維新當時、一時

荒廢に歸せんとしたが、坂井師の入山するや寺運の振興に専念努力し、爾後今日まで往古の隆盛に戻るべく幾多の方策が講じられ來つた。曾ては三十有餘の末寺を有し、七堂伽藍壯嚴を極めし大寺院にして、家康公より十石の朱印を寄進せられ、岩手縣江刺郡黒石村念華山正法寺末に當り、曹洞宗に屬し、本尊は釋迦如來である。春秋大般若六百卷の祈禱會は特殊行事として著名である。檀徒總代は齋藤清作氏、齋藤直造氏、松本源次郎氏ほか四名。

住職 松田大宏



師は明治二十一年の岳降にして、秩父郡中田川の人、博學多才、名僧と謳はれて郡内に重きをなし、本堂、庫裡の再建

小鹿野町下小鹿野 町會議員 勳八等 茂木茂三郎



當家は代々農を以て家業とし、篤農家の間え高い。

氏は明治十六年八月一日生れにして先代故治三郎氏の養嗣子として幼少の頃當町森澤家より迎へられて入籍す。先代治三郎氏は資性謹直、勤儉を旨としよく茂木家を興した人、現工場は日露戦争後氏の設立せるものなり。七十四歳の長壽をもつて大正八年逝去す。當主茂三郎氏よく衣鉢を繼ぎ、商機明敏その明晰なる頭腦と決斷力は氏の飛躍進出と相俟つて明治四十年秩父織物隆昌に倣ひ現在の織物製造業を創始し、氏の才腕縱横機略の牙えをみせ、倦まざる努力の結晶は今日の確固たる基礎を完成したものである。當小

鹿野町に於ける當業の發展は一に氏の貢獻によるもの甚だ大である。氏はまた日露戦争當時出征し、功に依つて名譽ある勳八等を賜はつた。氏は曩に當町収入役を六年間勤め又消防部長等歴任す。元織物組合代議員たること三期（現工業組合となりてより）最近健康すぐれぬ爲め辭任し、現在は當町會議員三期目の要職にあり、傍ら林業方面にも意を注いで殖林事業にも手を染める等、氏の活動は實に多方面にして、其今後の期待は頗る大きく、刮目に價する。又縣政界にも重きを爲し衆望を擔つて現在民政俱樂部會員たり。織物業により賞を受くること數回あり、氏の趣味はその全生涯が事業と云つても差支なき程の活動家にして、また一面温顔慈心に富み町民の信頼厚い。家庭は長男豊一氏（目下特務兵として出征中）の外二男二女あり、春風門に滿ち溢れつゝある。因に現町収入役森澤正直氏は、氏の令弟にして町財政に參し、よき町長の輔佐役。

白鳥村金尾

元村長 新井福太郎



當家の開祖は不明であるが、本家新井家は五百年來

の舊家として重きを措かれてゐる。先代八左衛門氏は名主を勤めて功があり、當主福太郎氏はその長男、文久元年十一月二十三日の出生、村助役を二期、村長を一期、村會議員たる約十ヶ年その他學務委員、消防最初の頭取、小頭、衛生組台長等に歴任、その功績甚大、一々枚擧するに遑なしで、郡長並に警察署長より表彰され、現在は悠々として老の身を養つてゐる。なほ長男、永昌氏は郡長並に役場書記、方面委員、消防小頭等を兼ね、前には養蠶實行組合長に擧げられ、今後活躍を囑目され、二男内次氏は村農會

榎口村野上下郷

村會議員 石上豊太郎

當家の開祖は易學者安倍大隅守の子孫同名家種にして大和の國に住し、大峯山に登り布都魂の劍を受け、同所を出で、東國に志し、秩父三峯山に至り暫く居りて仁和元年當地に來つて土着草分けとなる。布都魂劍を神體となし、石上布都魂神社を鎮し、産神を祀る神社の一部を受け姓を石上と改む、中興の祖、助三郎氏天正年代より文錄元年迄名主たり、以後代々組頭百姓總代を勤め、曾祖父助三郎氏に至る。祖父故助三郎氏は明治檢地の際擔當者たり、先代故平三郎氏病弱早世の爲め氏は早く家督相續す。明治十七年四月十七日生れ。由緒ある舊名家の家柄にして、氏は資性謹直敦厚の士、現在村會議員の要職の外、縣社室登山神社子總代等を兼任してゐる。又元區長も歴任

した。趣味としては古事の研究に造詣深い。新義真言智山派管長より寺世話人二十年以上勤続として昨年表彰さる。

野上村本野上

元縣會議員
元郡會議員
校長

村田松五郎



往年縣下の政界に馬頭をすゝめて縦横無碍に馳驅し

幾多の功績をかぞへられ、今は悠々自適、晴耕雨讀の生活に餘生を樂んでゐる氏は、高野仲藏氏の男、文久二年正月十五日の出生、後村田家の先代常吉氏に望まれて同家に入つた人で、夙に小學校に奉職、精勵恪勤、範を他に垂れて徳望洽く、明治十六年十一月校長に榮進、同二十三年二月全秩父校長に任じ、令名噴々たるものあり、同三十六年村會議員に當

選、昭和九年までの三十ヶ年間連続選に當つて村政に與り、その間、郡會議員、縣會議員にも當選、而もその職に當るや公明正大、郡下に於てのみかは縣下の長老として敬仰されつゝあるものまた當然なことであらう。なほまた信用組合理事に就任、村産業界に盡瘁してゐる。夫人との間に四男あつて長男憲一氏は刀圭家として世に立ち、次男定夫氏は校長を、四男正巳氏は農林局長として、何れもその將來に多大の望みを囑せられてゐる。

三田川村飯田

前村長
教育功勞者

猪野林助



當家は天正年間當地に土着せる猪野豊後守の分家

にして先々代までは勘左衛門を襲名して來た。先考予之氏は收入役村會議員、六

期をつとめ自治界に功績多き偉材である。氏はその男にして明治十五年四月の岳降、埼玉師範學校を優等で卒業し、明治三十六年以來尾田蒔、兩神、白川、三田川第二、大田、樋口、皆野、三田川第一各小學校を歴勤、昭和七年小鹿野小學校長を最後に、約三十年の教育家生活から退き、その後村會議員、村長等自治方面に活躍貢獻した。なほ長男孝一氏は埼玉師範出身にて、現に小鹿野小學校訓導である。

北埼玉郡

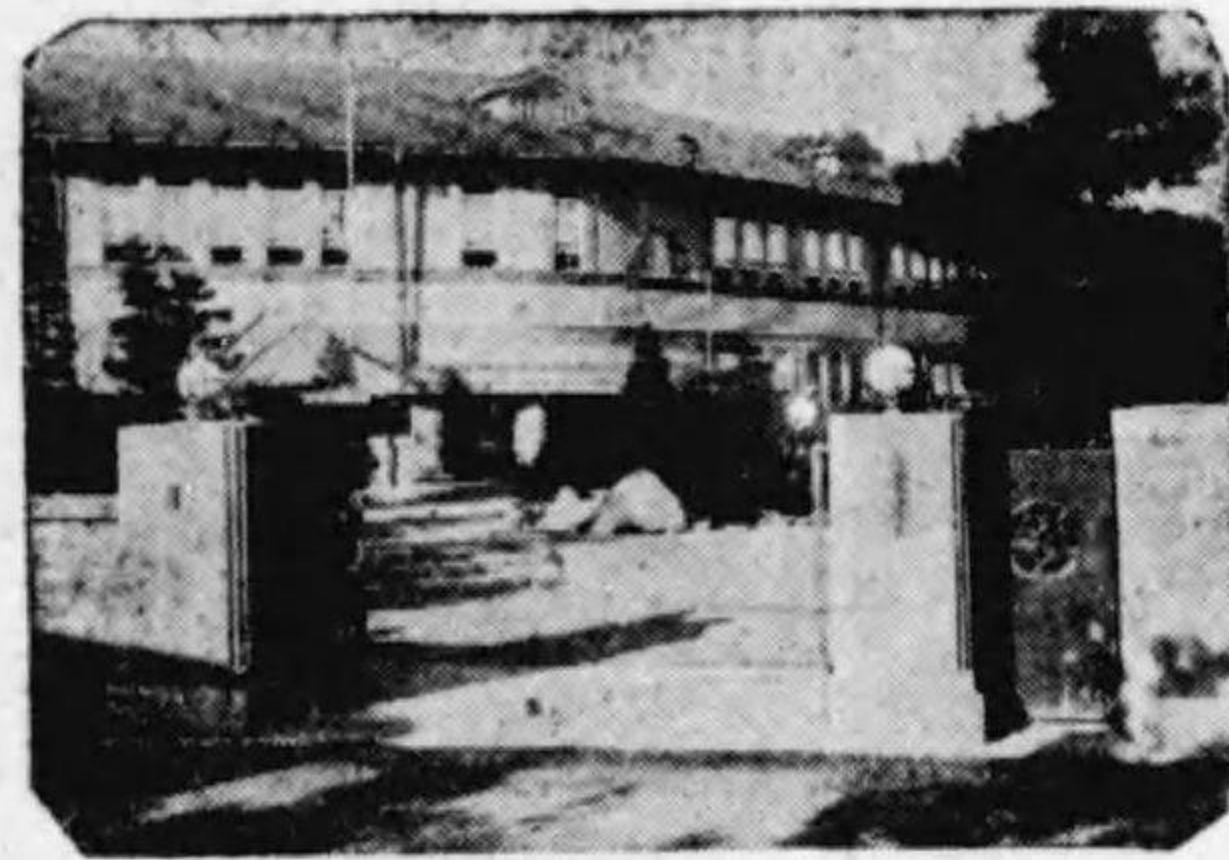
不動岡町

埼玉縣立 不動岡中學校

本校は明治十九年四月私立埼玉英和學校と稱して開校され、同二十七年英和學校と改め、同三十年更に私立埼玉中學校と改稱、大正十年より縣の經營となりて校名も現在の如く變更され、今や定員七百五十名を有し、自學自習創作工夫の學風は、常に縣下のみならず全國的に有名である。校地一萬坪、學校園二百坪、運動場六千坪あり、質實剛健の校風を有し、教授は理解啓發を主とし學習の作業體験化を圖り、訓練は自主自律自省の人物たらしむべく努め、優良校として幾多の俊才を世に送り出してゐる。現校長從五位勳六等松村清次郎氏は村君村松村清

助氏の男にして明治十七年一月八日の出生、當校を経て早稻田大學英文科及び研究科を卒業、初め明治四十年に大垣中學校教諭となり、和歌山商業學校を経て、

粉河 高女 海南 中學 各教 頭に 任じ 次で 熊谷 中學 校長 とな



本校正門



弓術實習

生徒に徳の綜合體的體験をなすしめ勤勞に親しむ勞作を愛

昭和七年本校に榮轉した。

忍町

埼玉縣立 忍高等女學校

本校は全人教育を目標とし、人格陶冶を綱領として、(イ)正しく明るき人間、(ロ)優しく温味ある人間、(ハ)強く確りした人間、(ニ)氣のきく役に立つ人間、(ホ)まめに働く人間の五項を擧げ、常に

好せしむべく努めてゐる。されば作業教育に重點を置き、家庭必需品の加工實習、榮養食の共同調理、供養供華、蔬菜栽培、家庭工作、フリューム栽培、盆栽仕立、花卉栽培、動物飼育、學科作業等特に成績よく、本校教授の中核をなす家事科教育の徹底を圖り、生活改善の認識を深めるため家庭館を設置してゐる。また樂燒窯場、國粹室、氣象觀測所、石版印刷等も他校に見られぬところであり、あらゆる點から見て縣下第一の女學校である。現校長正五位勳八等飯田靜氏は明治二十三年の出生、廣島高師の出身である。

加須 町

加須尋常高等小學校

電話加須一〇〇番

本校は明治六年創立の加須學校に濫觴し、同四十五年現在の如き組織となつた兒童數は尋常七百餘名、高等科約百名をかぞへ、校長齋藤仁太郎氏ほか十九名の職員が慈愛に充ちてこれが訓育にあつ

てゐる。人格の輔導啓發、公民的訓練、國家觀念の養成を三大教育方針とし、町立託兒所及び幼稚園を附設し、子守學級が特設される。衛生室の特設、健康相談日の設置も本校の特色とするところである。歴代校長には秋山四平、熊倉半太郎、磯川信吉、山内健雄、松村由三郎、齋藤直次郎の諸氏がある。

不動岡町

不動岡尋常高等小學校

本校の創立は古く、時代に順應して校訓をかへ、校是を改め、以て新時代の國民たるの根本基礎を植ゑつけ、そしてこれを確固不拔のものたらしめてゐる。現校長は至誠勤勉、兒童父兄の信任あつき新井恵治氏で、先考仙太郎氏の長男として生をこの世に享け、兒童愛の熱意に燃えて直接兒童教養に専念し、時局に適應せる教育法を樹立して國民精神の發揚につとめつゝあり、郡下は勿論、縣下教育界に輝かしき異彩を放つてゐる。その家

は當地屈指の舊家名門にして代々郷黨に聲望あり、龍興寺にある過去帳で判明するものに、弘化二巳年に於て壽山曉林居士あり、嘉永年間には嘉雲大姉の逝去記録を有し、いづれも居士號或は大姉號の謚號見ても由緒正しき家柄たることが察

大越 村

大越尋常高等小學校

本校は明治六年創設の大越外野兩村小學校に濫觴し、同二十年校舍を新築して大越小學校と改稱、同二十六年高等を併置して現校名に改めた。大正七年校舍改築、同十年更に増築を行ひ、昭和六年二階建六教室を増し、翌七年奉安殿を建設同十一年運動場擴張、十二年四月縣學校衛生指定校となつた。肇國の宏謨と現下の狀勢に鑑み、聖勅の御趣旨を奉體し、日本精神を體得したる有爲有徳の日本人たらしむることに努め、在學兒童約六百名、就學歩合一〇〇パーセント、出席歩合九七パーセント七三にして、歴代校長

には石川千代松、早川斗一郎、奥澤角太郎、塚越喜太郎、羽鳥直次郎、相田惣左衛門、田部井源右衛門、澁川榮次郎の諸氏が就任し、現校長は名望高き荒木榮三郎氏である。なほ各教化の作業化をはかり、學校園並に學級園を有してこれが實踐指導に任じ、毎月勤勞デーを實施し、農業科が特に重視される。家庭作業の獎勵、畜類の飼育、校庭の修理など他校に見られぬ好成绩を示し、勤勞作業の尊重、勤勞愛好心の涵養は彌が上にも強調され、また體位の向上、養護方面の施設も充實し、運動器具の整備、體操科の重視、服裝の改良等他の追隨を許さず、救護室の設備もあり、毎月一回體育デーとして球技、競技、水泳夏の課外運動をしてゐる校長はじめ全職員は職分を樂しみ兒童愛の熱意に燃えてゐる。

騎西町騎西

騎西信用販賣組合

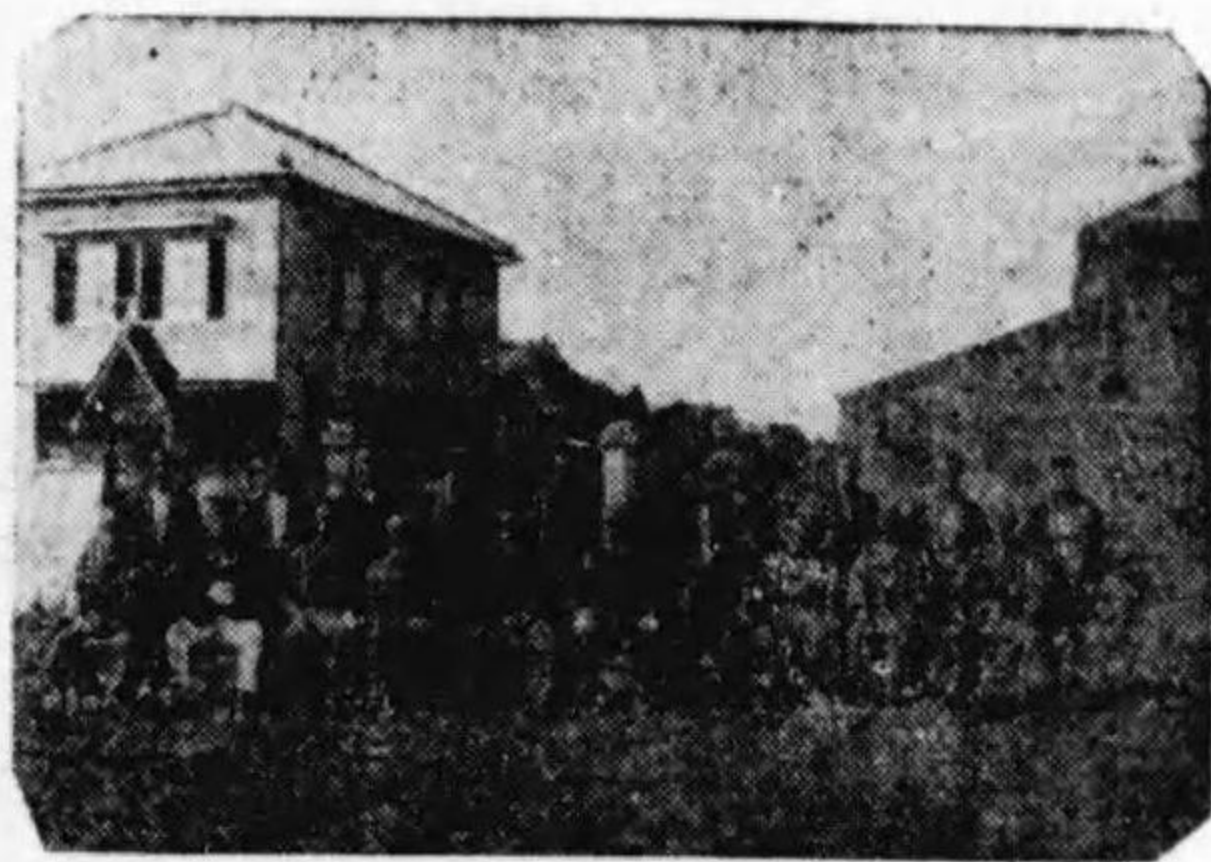
電話騎西四九番

當組合は保證責任組織にて、大正八年岡田惣助、橋本平三郎ほか數氏の主唱發起により設立され、現時組合員約三百名を擁し、出資金四萬二千三百四十圓は金額拂込済みである。區域は騎西町字騎西下崎、外川の三大字である。組合長は岡田惣助氏、専務理事は古川愛次郎氏がつとめる。古川氏は先代古川太吉氏の男にして明治二十四年四月十五日の出生、大正二年騎西町書記を拜命し、その清廉潔白さを認められて助役に擧げられ、大正九年退職、次で當組合専務理事となり、爾來今日まで組合の柱石となつて活躍せられ、當地方有数の優良模範組合としての名聲を博するに至らしめた功勞者で、昭和八年の全國大會及び昭和十一年北埼玉郡産組聯合會よりそれら表彰された

不動岡町

不動岡信用販賣組合

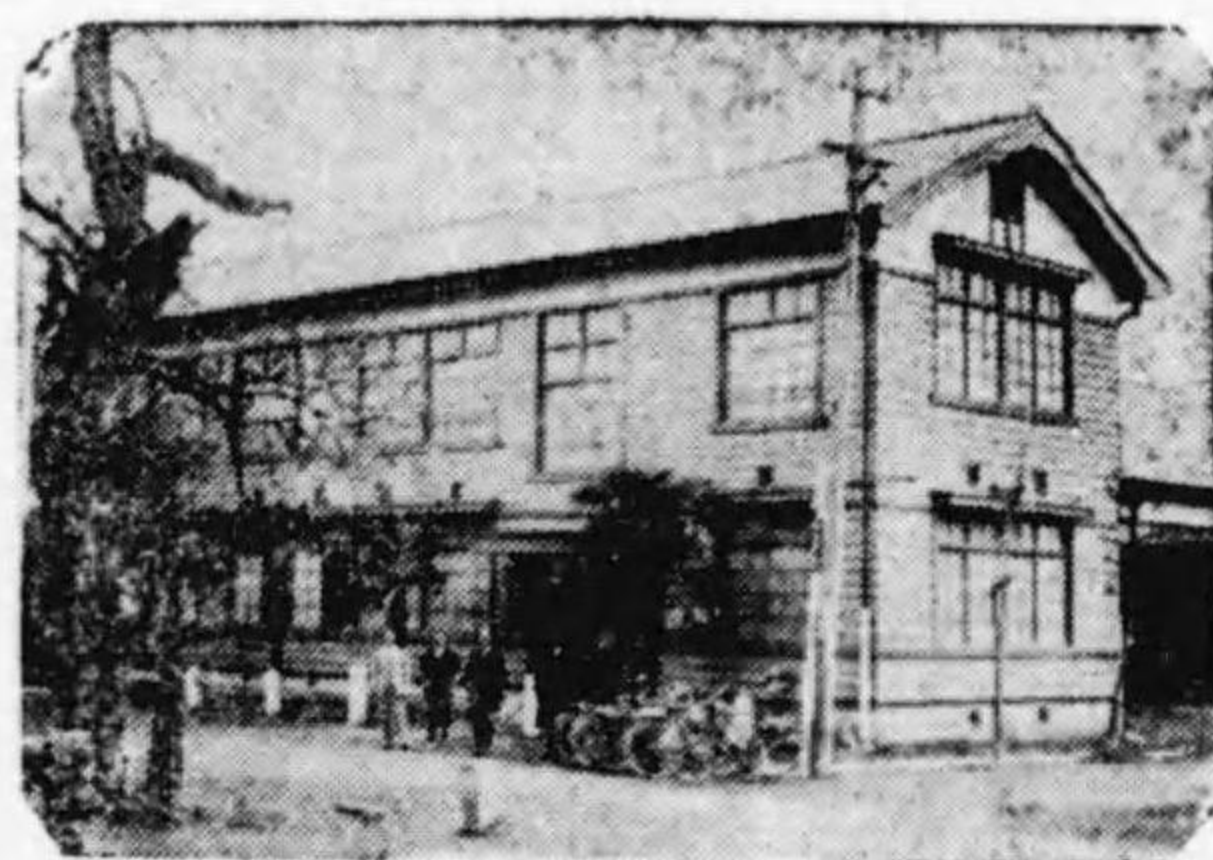
當組合は昭和十二年一月二十八日に設立認可されしものにて、區域内戸數五百餘戸のうち約半數の二六五名が組合員となり、出資總額一萬一千九百餘圓を全部拂込済である。初年度末に於て貯金四萬九千五百餘圓を算し、驚異的成績を挙げ剩餘金も七百餘圓の多きを示した。農業倉庫一棟を有し、利用料は七千三百餘圓



組合全景

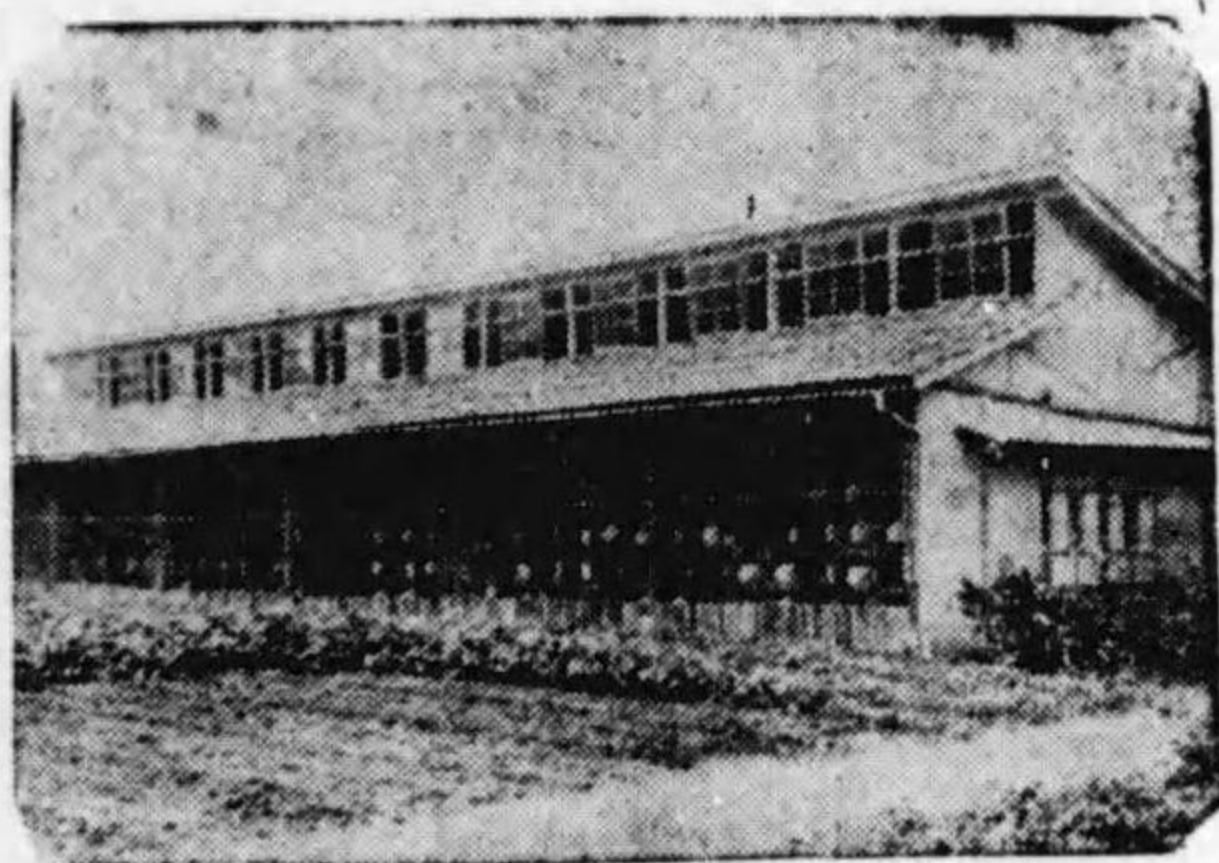
るの観がある。これには理事長江原民藏氏の手腕と努力もさることながら、理事たる岩崎鷲之助、金久保清藏、野中種藏、吉野春吉、馬橋毅之助、小川重太郎、山黒卯吉、藤木豊、松井熊十郎、秋池淺之助の諸氏並に監事たる篠原重次郎、川邊竹之助、田口直次郎の諸氏の絶えざる奮勵と努力の結果に俟つところ大なるものがある。

に上り、**組合長** 始祖は江原一郎兵衛正富、**江原民藏**といふ武士、先々代までは同名を襲名せる舊名家である。代々農を業とし、且つ名主をつとめし家柄にて、先代胤吉氏は聯合戸長役場時代に収入役及び助役、村會議員を永年つとめたる自治功勞者として名高い。氏はその男にして明治六年十二月八日の岳降、同二十四年不動岡中學校の前身たる和英中學校を卒業し、家業の傍ら助役、村會議員に任じ、また村長たること十三ヶ年、村農會郡協和會各功勞賞、縣知事より村長永勤功勞賞を贈られし材幹である。現在は専ら田ヶ谷信販購利組合長として活動貢獻されてゐる。家庭には長男胤正氏、同夫人及び令孫四人がある。愛娘江原まささんは東京市神田區虎門看護婦會にて修業し、昭和七年産婆資格を得たる進歩的婦人にして、名聲普く、志多見、田ヶ谷兩村で年々七十名内外の出産を取扱つてゐる。が、方技の妙、取扱ひの懇切丁寧なる、夙に令名を博してゐる。



事務所

大越村 **埼玉アンゴラ兎毛組合**
有畜立體多角農業の尖端を行き、今や農家副業の主體たらんとしつゝあるアンゴラ養兎は、最も時代に適合した有利確實なる事業で、飼育目的たる毛は年四回刈りにて、その總量は價格として二圓七八十錢を得られる。當組合は生産兎毛はいつでも現金で買収し、飼育に關しては責任を以て指導して



組合



長合組中野

部がある。組合長野中正信氏は明治三十一年の出生にして村會議員四期目、戸數割調査員、消費防組部長等を兼ね、國民同盟縣支部幹事としても名聲がある。技手

る設立は昭和九年で組合員は縣下各村に散在し各地に支店を設ける。梅田周一氏は明治二十七年の岳降にて正八位陸軍獸醫少尉の肩書を有し、副組合長鹽田慎助氏は明治十三年の出生にして多年村會議員をつとめ、大正十二年縣知事及び徳川家達公より感謝狀を贈られた功勞者である。

忍町 **忍商業銀行**

當銀行は創立以來常に財界の推移に應じて地方産業の助成に専念し、業礎愈々固く、堅實なる營業信條に則り、預金に貸付に成績顯著なるものがある。しかも所謂戰時體制下に在り國防強化を政治の要諦とする今日、各種勘定の向上大いに賭るべきものが多い。羽生、加須、騎西、小川、吹上、鴻巣、桶川、鳩ヶ谷、葛蒲、久喜、栗橋、杉戸の各町に支店を有し、縣下金融界に重要な役割を演じつゝあり、資本金百六十二萬圓のうち百七萬三千圓は拂込濟み、今、昭和十二年上半期末の業績を見るに、準備金百三萬圓、預金一

千二百五十餘萬圓、諸貸付金五百三十餘萬圓、割引手形九十二萬圓、他店貸八萬餘圓、同借二十八萬餘圓、預け金百七萬餘圓等を算し、重役は頭取石崎丈太郎氏常務取締役酒卷景一氏にして、他に取締役五名、監査役二名がある。

新郷村上新郷 **南陽醸造株式會社**

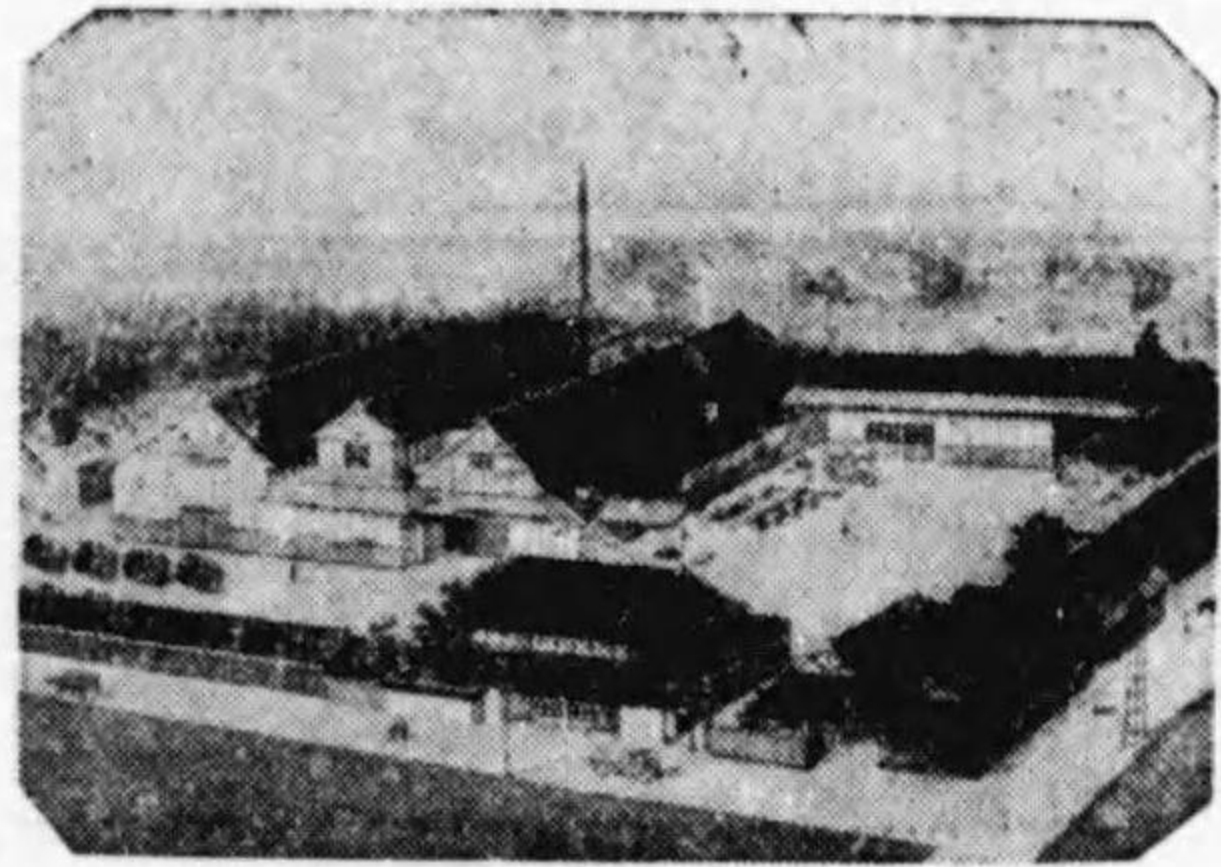
電話羽生一七八番

銘酒「南陽」「譽南陽」「南陽盛」で隆盛繁榮、年釀造高一千餘石、縣下は勿論東京、横濱方面に特に賣行好況、宮内省



(社長と優勝旗)

並に陸軍省御買上の光榮に浴して以來、製品の信用一層深きを加へて噴々たる好評を博し、今や榮えある醸造工場たる當會社は、栃木縣下都賀郡小山町の出身須永龜吉氏が明治十五年現在の地に移り、酒醸造を創め、爾來攸々營々、人の噂さ



醸造工場

昭和四年十月株式會社を組織し今日に至つたもので、共進會及び品評會等に出品毎に必ず受賞、名譽金牌賞をはじめ功勞

賞、優等賞、表彰状等の名譽を擔ふこと十數回に及び、名譽いよゝ高きをなしてゐる。

社 長 氏は明治十五年十一月須永文次郎 一日先代龜吉氏の長男に生れ、不動岡中學校卒業後は、父業に専ら精進し、他面村内のことに與つて大成すところがあり、衆望をあつめて村會議員に選ばれ、且つ衛生組合長等を兼ねて盡瘁貢獻してゐる。長男榮氏は不動岡中學を、次男秀雄氏は館林中學をそれぞれ卒業し、進んで簿記を研修して家業に携はり、三男忠男君は今、明治藥學專門學校に在學中である。因に父君龜吉氏は家礎を鞏固にし、六十七歳にして長逝された。

東村字旗井

合資會社 長島製絲工場

當工場は資本金二十萬圓(拂込濟)にして、年産製絲數量は六萬五千斤に上り製品は二十一種類、全部輸出されてゐる



(同工場の榮あるレツテル)

工場敷地二千二百坪、従業員は女百六十人、男一四人にして、工場従業員に對しては、月一回映畫及浪曲等の觀覽を與へ四月花見の會を行ふ等全従業員に對し健康に萬全の施設と方法を講じ、常に共同一致一家の如き圓滿な空氣を保つことを第一としてゐる。



工場長 長島操 當社創立 是明治三十八年で頭初 長島操氏幼

年の爲め飯島雷輔氏が總ての衝に當つてゐたが、昭和九年代表社員長島操氏の工場長就任となり、品質の向上に工場經營の各方面に益々伸展の一途を辿りつゝある。操氏は早稻田中學を卒へて早稻田大學商科を卒業した英才にして當年三十三歳、前途洋々たるものあり、將來の埼玉實業界に多大の囑望を以て俟たる人である。

不動岡町不動岡

梅澤絹織店

當店は先代条三郎氏の創業にして、明治三十三年以來當主和一郎氏の二代に互り、絹織物の製出に深き研究をなす。羽二重、縮緬、綾織、紋織その他註文織品に品質の優良殊に安價と堅牢を以て一般需要家に好評を受けてゐる。染色も註文によりて爲す。原料は春夏秋繭の二品を購入、之を製糸して、絹布の年産約七百反を搬出してゐる。年々需要の増加を見つゝあり。工場坪數五千坪、従業員八

人である。

梅澤

和一郎 是明治廿八年十月十日南埼玉郡平野村加藤長三郎氏三男として呱呱の聲を擧げ、条三郎氏の養子となり、爾來二十有餘年營々として斯業の研究發展に寧日なき努力を傾注して、遂に今日の隆隆たる名譽を博するに至つたものである。

氏は又商工會議員、町内會評議員、第一區協議員、納稅組合委員等の公職に貢獻する所あり、曩には消防小頭として盡力したことあり。資性濃厚篤實にして、とく夫人との間に四男四女を有する子福者である。長男正治君は十二歳、長女絹子さんは二十歳の才媛にして現在東京にある。

北河原村

北河原村長 小林寬一

共同精神に燃え、犠牲奉仕の念強き氏は、小林清兵衛氏の男にして明治十六年十月二十六日の誕生である。抑々當家は

始祖以來七代を関し、本村初代村長吳重

郎氏は當家より別家されたのである。先代たる清兵衛氏は農業の傍ら社會公共にも竭し、勳七等瑞寶章を授與された人材である。氏は熊谷中學校を優等で卒業し、日露役には直ちに出征し、各地に轉戦、勳功業に擢んずるところがあつた。凱旋後、家業に従事しつゝ消防組に關係し、組頭たること十餘年、忍署管内聯合會より表彰を受けし消防功勞者である。また助役に推され、次で村長に選任今日に至り、村勢の進展に寄與するところ尠ならず、名譽噴々たるものがある。讀書を興味とする。家庭には嚴父健在し、長男達也氏は支那事變出征中、他に一男一女がある。

岩瀬村上岩瀬

岩瀬村長 野本治兵衛

温厚の中に氣骨あり、近代的紳士とも稱すべき氏は、先代治兵衛氏の長男にして明治三十年八月十五日を以て生を享け

た。夙に郷校を経て上田蠶絲専門學校に學び、卒業後軍務に服して歩兵少尉に任じ正八位に叙された。曾ては北埼玉郡蠶種同業組合長に推されて斯業の進歩向上と同業者の福利増進に幾多の功績を残し現時村長、村農會長、産業組合長、消防組頭等など村内重責を一身に負ひ、郷黨のため益々奮勵貢献してゐる。家業蠶種製造は先々代治兵衛氏の創業に係り、爾來繼承して今日に及ぶ。

大越村

大越村長 増田 道太郎

職分を楽しみ、郷土愛の熱意を以て自治公共の事業に竭し、名聲赫々として四隣に治き氏は、明治二十四年の誕生にして先代増田勇吉氏の男である。夙に醫術を以て世に報んことを欲し、不動岡中學校を卒へるや千葉醫科大學に修め、刻苦勉勵の效を積みて學と術との蘊奥を究め、卒業後は現地に開業、新時代の智識に富む名醫と謳はれて隆昌日に、高き

を加へて今日に至つた。現在村民の輿望をあつめて大越村長の重責にあり、豊富な識見と卓抜の手腕とを揮つて村治の運営に邁進しつゝあり、教育に衛生に産業に、幾多記録すべき事業を成し遂げてゐる。國民同盟支部幹事長にして政黨方面にもその人ありと聞え、本村人材中の白眉である。令閨ふく子さんは愛國婦人會、國防婦人會各役員にして女子青年團長を兼ねる。

鴻莖村

鴻莖村長 關口 末吉



明治二十三年十一月十日先考惣十郎氏の男に生を享けし氏は資性快活淡明にして圓滿なる人格者、夙に衆望高く、在郷軍人分會長、助役二期を推されて盡瘁せし事あり、現在は村長、村

會議員、養蠶實行組合長、消防組頭、衛生組合長、軍人後援會長、北埼玉町村長會理事、北埼玉養蠶組合聯合會評議員其の他の重責に在り、村民の期待に副はんと減私奉公の念を以て努力活躍、その貢獻寄與するところ實に多大なるものありとして四隣に普く及び、名村長の名を謳はれて村民等しく敬仰するところである因に當家は足利時代より傳はる當村屈指の舊家にして、徳川時代には將軍家康公より御墨付陣羽織その他二點を拜領、これは家康公身付ものにて現在國寶に指定せられ、行田の權現神社に奉納してゐる亦關口姓の起りは當家の祖が廣田村の寺院に分家住職となり、關口姓を名乗りしに依るもの、家庭頗る圓滿にして令閨たき子さんとの間に七男一女がある。尙氏を村長とする本村は氏の明朗なる人格を反映して村政の運行頗る圓滿、村勢の繁榮、農蠶業の發展見るべきもの多く、耕地總面積五百數十町歩の内、三百餘町歩

は水田にして、養蠶の年收購高一萬五千貫を越える。

忍町村

忍町助役 原田 俊郎

自治的手腕に長じ、町内の信望極めて厚き氏は、原田啓吉氏を父とし、明治二十二年を以て生をこの世に享けた。家業は代々農である。長じて兵役に服し、在營中は模範兵として上官の信任を受け、同輩よりは普く尊敬を以て迎へられた。昭和三年助役に擧げられ、卓抜の手腕を發揮して町治に盡すところ多く、名助役と謳はれてゐる。また産業組合顧問に推されて町内産業經濟の進展向上に寄與するところあり、行田足袋の特殊産業を有する當町をして益々繁榮へと導きつゝある。また曾ては郡役所産業課長をつとめしことあり、縣水利組合役員、官選村長等に歴任、且つ商工組合顧問の要職に就いてゐる。徳望全町に治く、氏を有して本町は益々發展するのみである。

忍町行田

町會議員 七等

保泉 近藏

眞實一路に生きる氏は、保泉喜平次氏の男にして明治七年の岳降である。先代商を創始し、爾來拮据精勵、遂に百萬の巨財を積み上げた手腕家である。氏はその血を享けて事業家的敏腕を有し、先の日清日露兩役に從軍出征せる勇士にして凱旋後、家業に熱中すると共に、三十九歳の時から消防組部長となり、次で組頭に推され在任十三ヶ年、現在は町會議員五期目のほか學務委員、方面委員、防護團分團長、足袋材料商組合長等を兼任し町のため社會のために殉ぜんとの念願に燃えてゐる。その經營に係る保泉近藏紡績工場は茨城縣下館町にあり、大正十四年の創立に係り、足袋材料品の製造を業とし、年産三十萬圓、關西方面にまで販路を持つてゐる。因に氏は日清日露役の功に依り勳七等を賜はつた。

加須町

町會議員 元加須町長

清水 近太郎



先代善兵衛氏は青織組合長として當地機業の隆昌に努力盡瘁せる功勞者にしてまた町會議員に選ばれ自治方面にも貢獻するところ大なるものがある。氏はその男にして資性剛毅頭腦明晰を極め、不動岡中學校を抜群の成績で卒業するや、家業に精勵すると共に自治公共の事業に關與し、本町三代目町長に選任、在職の事業は今も燦として輝き、その手腕は萬人の等しく感服するところである。現時町會議員十期目たるほか學務委員、消防組頭、氏子總代、水利組合議員等を兼任する。曾ては加須銀行頭取に任じて地方金融界に重きをなし、その

後東京丸肥倉庫株式會社々長として今日に及んでゐる。趣味は旅行と書畫。政友會系の人材である。

不動岡町

町會議員 秋本廣太郎

協和一致、共存共助の信念を以て自治に専念し、業績燦として輝やける氏は、秋本家五代の當主にして先代宗兵衛氏の男、慶應三年六月九日の岳降である。先代は家業たる農耕の業に従事して篤農家と呼ばれ、傍ら村會議員を二期間つとめたる自治功勞者である。氏もまた尊父の志を繼いで、精農家と稱されつゝ早くより自治に意を用ひ、すでに二十四歳の若年を以て區長の重責を全うし、その後收入役二期、助役一期をつとめ、また町長代理を兼ねしことあり、町政改革のため夙夜淬勵私事を忘れて奔走し、常に第一線に立つて町民の福利増進と町勢の進展とを叫んで來た。また學務委員たること三十有餘年の長きに亙り、現にその任に

あるほか町會議員に選ばれてゐる。

中條村

村會議員 産業組合 專務理事

岡島半八郎



氏は村會議員三期をつとめて功勞ありし先代岡島長三郎氏の男にして、明治二十三年六月の出生である。

現にその任を兼ねぬ。本村自治産業の大立物にして稀有の手腕ある人格者である。誠に識見手腕人格の三者を具備せる氏の如きは尠なく、今後に囑する村民の期待や、甚だ大である。

荒木村

村會議員 産業組合 專務理事

田代三五良

自治功勞者として表彰されしこと屢々なりし氏は、先代新三郎氏の男にして明治十七年十月三日の出生である。先代は區長となり、また村會議員たること五期に及びし本村自治の偉大なる恩人である氏はその衣鉢を承けて早くより自治公共の事に竭し、昭和二年には産業組合理事に推され、同一年には專務理事となり本村産組事業に盡力せる功は甚大である現時そのほか村會議員、消防組役員を兼任し、名聲愈々揚つてゐる。長男常男氏は大正四年の出生にして熊谷中學校の出身、他に一男四女がある。因に本村産業組合は大正九年十一月の設立に係り、組合員三百三十餘名、出資一萬八千五百圓を擁し、保證責任組織にて、貸付八萬七千圓、貯金十八萬五千圓、購買年額一萬二千七百圓、販賣年額二萬三千八百圓の概況を示してゐる。

川俣村稻子

村會議員 消防組頭 正八位

森田幸

敬神崇祖の念あつき氏は、また報恩感謝の念強き人格者である。明治三十五年九月二十九日を以て生をこの世に享け、熊谷農學校を抜群の成績で卒業後、水戸歩兵第二聯隊に一年志願兵として入營し漸次昇進して歩兵少尉に任じ正八位に叙された。その後青年訓練所指導員たること十ヶ年、青年團長六ヶ年、在郷軍人分會長四ヶ年等をつとめ、次の時代を奮負ふべき若人の指導誘掖に任じ、その功顯著にして永遠に没すべからざるものあり青年指導功勞者として大臣賞を授與された。現在は北埼玉郡軍人分會聯合會理事の要職にあるほか、北埼玉郡將校團員にして村會議員をつとめ、且つ昭和十二年以來消防組頭に推されて本村警備の大任を果しつゝあり、新銳の材幹として今後活躍はなほ一層期待されてゐる。

手子林村

陸軍少將 正五位勳三等

梅村篤郎



氏 耶 三重

梅村家はもと武家と主家伊勢桑名より忍

に移るに當つて當地に至つたもので、先代重三郎氏は當年七十八歳、しかも壯者を凌ぐの大元氣を以て村會議員を永續、また收入役を勤めてゐる村自治の功勞者である。當主篤郎氏は明治二十一年十月二十日の生れにして、陸軍幼年學校より士官學校に進み、同校を卒業するや高崎第十五聯隊附となり、大正元年陸軍歩兵少尉に任官、中尉に進級して陸軍大學に入學、卒業後は閑院宮殿下、李王殿下の御附武官となり、次で少佐に累進、徳島第四十三聯隊の大隊長に補せられ、更に第六師團の參謀に轉じ、濟南事變に出動

中佐に進められて歸國し、千葉歩兵學校の李王殿下御附武官に任じ、また士官學校教官を命ぜられて大佐に陞進、後ち富山第三十五聯隊長として滿洲に出動するところあつたが、歸國して第十師團參謀長に任じ現在は北支戰線に活躍してゐるが、陸軍少將に陞進、正三位勳三等の榮譽を擔つてゐる。なほ伯父金十郎氏は日清戰役當時臺灣征伐に従軍した正六位勳五等功五級の少佐で、由良要塞の參謀を勤務中であつたが、三十九歳を以て名譽の戦死を遂げた。因に金十郎氏に子がなく、重三郎氏を準養子となし、重三郎氏また子なく、當主篤郎氏をその家督となして、梅村家を繼がせてゐる。

志多見村

村會議員 島野龜十郎

共存共榮をモットーとして自治公共の事に竭せる氏は、先代定三郎氏の男にして明治十六年一月二十六日の出生である。埼玉中學校を優等で卒業し、明治三十五



先代三郎氏

年近衛 歩兵第二聯隊に入營し、翌年歩兵

伍長に昇進して除隊、その後は初代在郷軍人分會長を始め、消防組部長等の要職に推され、現在は村會議員二期目をつとめてゐる。また忍商業銀行加須支店に勤務三十有餘年、温厚なる人格者として徳望治きものがある。夫人との間に三男三女を有し、長男英男氏は日本郵船社員、二男二郎氏は米澤高工出身の東京計器技師である。因に先代定三郎氏は戸長役場時代の戸長を永年にわたつて勤めて後初代志多見村長に任じ、また栗橋銀行加須支店長たること多年、本村自治功勞者にして且つ地方金融界の重鎮としてその功を讃稱し、その徳をたゞへられ、志多見村が生んだ榮えある人として敬ひしたはれてゐた。



田ヶ谷村相村 村會議員 在郷軍人分會長 大久保折骨長 治療所長

大久保利英

當家は始祖を詳かにせずと雖も現在に於て十三代目の舊家にして

代々名主をつとめたる信望家である。先代仁兵衛氏は劍道の達人としてその名遠近に聞え、神道無念流の極意に徹したる劍士である。先代米吉氏は華道、俳句、義太夫等の雅道に興味深く且つ技藝秀で福徳備はれる材幹として郷黨の間に聲望があつた。當主はその長男にして、明治三十七年十二月六日を以て生をこの世に享け、不動岡中學校卒業後、大正十四年一年志願兵として目黒輜重兵大隊に入營昭和四年少尉に任官した。柔道三段にして昭和四年十月より道場を開いて折骨治



村會議員 前村長 野崎健之

種足村中種足

療と柔道師範を業とし、曾ては小學校教員たりしことあり、消防組小頭にも任じ現時在郷軍人分會長、村會議員、青年學校指導員等を兼任する。夫人との間には一男二女がある。

當家は本村野崎庄三郎氏宅の分家にして、地主として有名なる豪

農である。先代彦治郎氏は郡制廢止當時まで郡會議員、村會議員に選ばれて貢獻裨益するところ甚大であつた。當主は明治二十三年九月十五日の出生、夙に不動岡中學校を経て早稻田大學法科に學び、明治四十四年これを卒業後は、家庭に戻つて家業を繼承すると共に村治に盡瘁し村長をつとめ、村會議員たること多年に

及び、現在は學務委員をも兼務し功績顯著なるものがある。從來本村は小作爭議の激發せる村なりしが、氏の奔走努力によりて事なく解決、思想善導の功を奏し今では平和な農村として舉村戮力の實を示すに至つた。趣味は讀書。夫人との間に一男三女あり、長男貢氏は幹部候補生として目下入營中である。

禮羽村

村會議員 農會長 鎌田和一

温厚篤實の人格者といはれ、信望治き氏は先代孝子郎氏の男にして明治二十二年八月三十一日生れである。埼玉中學校を卒業後は家業に精勵すると共に自治方面に關與貢獻し、消防組部長、同組頭、衛生組合長、納稅組合長等をつとめるほか村長たること六ケ年、本村勢の發展に寄與せる點渺ならず、現在は村會議員村農會長及び學務委員を兼任して多年の經驗に鑑みて一層自治産業の充實運営に裨益するところが多い。先年縣會より村



令弟 徹也氏

一貫、公人たるの本分をつくし、

大越村

村會議員 村農會長 野中英昭

長二期功勞賞を授與された。夫人との間には長男武夫君のほか三人の愛嬢がある因に當家は鎌田達夫氏宅より今より八代前に分家せるものにして、先代は助役、村長、村會議員、埼玉英和學校教諭、聯合役場時代の戸長等をつとめし人材にて生産組合設立の大功勞者である。

東村新川

村會議員 松島義勝

氏は明治十八年十一月十五日を以て生を享け、同四十年早稻田大學政治科出身の秀才にして、現村會議員である。先祖は武藝に秀で、祖父要次郎氏は大總代の重責を全うせる傑材である。嚴父要氏は多年村長をつとめ、耕地整理事業その他に寢食を忘れて盡瘁し、東村今日あらしめた偉大なる功績は、自他共に認めると

ころである。氏はその遺業を繼承し、常に公共事業に私財を投じ貢献すること多し。特に小學校々庭に安置せる御眞影奉安殿は、氏が全工費を支辨し、周囲の樹木まで自ら伐採の勞をとり、木材なども自ら出張して少しでも優良なものを買集め、時には大工土工と共に勞働しつゝ工事監督をなし、工費一千五百圓、延人員百五十人を要して遂にこれを完成せしめた。また中學獎勵金五百圓、兒童雨傘五百本、法輪寺へ五百圓等を寄附せる篤行家である。

大桑村川口

村會議員

新井 熊藏

八等

曾て在郷



現在尙も村會議員(二期目)受檢組合長、

軍人分會副會長、消防小頭、區長代理として多年盡瘁し

水利組合員として執掌しつゝある氏は資性極めて圓滿、濃厚なる人格者にて先代佐市氏の男、出生は明治十一年十一月二十八日である。氏は亦日露戰役に出征せる勇士でもあり、功に依り勳八等に叙されてゐる。因に當家は九代の家系を傳へる舊家に於て、農を家業となしてゐるがその傍ら副業に家傳の日光黄胖丸(植物性)の賣藥をなしてゐる。この家傳藥は當家二代目傳内氏が日光で今より二百年以前御殿醫として徳川家に仕へ、その際製藥なせるもの、胃病、心臓、十二指腸脚氣、腦病等に特效がある。尙長男光晴氏は主計軍曹として今次の日支事變に應召、上海方面に於て活躍中、次男瑤助氏は騎西小學校に奉職してゐる。

忍 町

町會議員 杉本 壽太郎

忍高女創立功勞者にして忍町小學校新築功勞者たる氏の名を知らぬ者はあるまい。文久二年杉本喜久彌氏の男に生れ、



進修館に學んで後倍根堂學校に入り、學成るや家業に精勵すると共に

區會議員、町會議員、郡會議員、同參事會員、諏訪神社氏子總代三十年等を歴任、現に町會議員七期目をつとめ、この間教育方面には特に寄與献策多く、當地教育普及の大功勞者と賞揚される。政黨は政友會に屬す。資性英邁の聞え高く、家庭圓滿幸福、老いてなほ壯者を凌ぐ元氣を持つてゐる。

加須 町

町會議員

原口 儀左衛門

加須商工會長 最近稀に見る事業家であり、明敏なる頭腦と卓抜なる手腕とを有する氏は、先代甚太郎氏の男である。先代は米穀商を營む傍ら町會議員その他の公名譽職に推されて貢獻裨益するところ



ろ甚大であつた。氏は夙に家業を繼承して日夜精勵にこれ努め、そ

の基礎を愈々堅固にし、商勢日に隆昌を呈するに至つた。昭和十二年、擧げられて町商工會長の要職に就き、在任幾許ならずと雖も事績頗る多く、現町民の希求する會長として人望頗る厚く、町發展のため盡力されること多大である。また町會議員に選ばれ、私事を忘れて公共に奉仕し、文字通りの意味に於ける町治の恩人とも稱すべき人物である。今後ともその活躍は大いに期待されるところである。

不動岡町

町會議員

齋藤 内藏之助

蠶種製造家 濃厚篤實を以て聞ゆる氏は、明治十七年七月二十五日を以て入間郡毛呂村齋藤



元次郎氏の次男に生れた。夙に蠶業取締所吏員たりしことあり、大

正六年、不動岡町の埼玉製糸株式會社より聘されて蠶種製造部の技術指導者として入社し、同十五年解散に至るまで、氏の功績頗る顯著にして同社のため盡すところ甚だ多かつた。その後現地に自ら蠶種製造業を起し、緻密の頭腦と絶えざる努力とを以て遂に今日の隆昌を見、今年産高約十萬グラムの多きに達し、もとより斯道に精通し經驗深きことなれば、製品は頗る優良、町治にも參與しこの方面に於ける功績も大なるものがある。長男正雄君は京都蠶業講習所在學中の鬼才卒業後と共に天晴れ斯界の飛躍を、今より約束されてゐる。他に愛嬢四人あり、長女と次女さんとは共に久喜高女に通つてゐる。

中條村今井

村會議員

稻村 宗一

開祖以來十五代を経る當家は、代々郷黨の信望厚かりし名門である。先代宗平氏は、弘化三年八月の出生にして、夙に東條直記氏に師事して和漢の研鑽を積み、次で尼崎舒之助氏に漢學を、東京三學義塾に皇漢學を修め、明治二年には名主に任じ、同五年今井村副戸長を拜命、翌六年より上中條學校に教鞭を執り、同十五年今井小學校長に任命された。その後自治制施行されるや最初の村會議員に選ばれ、また初代助役として明治三十年まで勤続した。明治三十三年には多年の功により上中條村外三ヶ村組合役場より感謝状を贈られた。當主はその男にして明治十五年十月の出生である。曩に區長代理區長等をつとめ、現時村會議員三期目たるほか産業組合監事、用水常設委員の任にあり、公共のため盡瘁するところ甚大である。

荒木村荒木

元産業組合長 松井 利七

當家は村内の舊家として知られ、先代金次郎氏は家業の傍ら區長、村會議員、消防組役員、地主總代等四十年の長きに亙つて自治公共の事業に竭し、剛毅果斷の人として名高かつたが、大正十五年七十二歳で故人となられた。氏はその男にして明治二十年十月二十一日の誕生である。熊谷農學校卒業後、旭川歩兵二十七聯隊に入營、除隊後三代目在郷軍人分會長として郷軍事業に貢献し、また青年團長たること一期をつとめた。産業組合創設に當つては特に功勞あり、最初からの専務理事として活躍してゐる。大正八年精農家として表彰され、昭和五年、同六年、同十一年にも縣或は郡農會等より表彰を受けた。なほ春秋に富める氏の今後の活動こそ、大に囑望される。長男幸雄氏は大正五年の生れ、家庭には他に二人の愛嬢あり頗る圓滿を極める。

手子林村神戸

村會議員 内田 徳太郎



當地方の特産たる鯉職の製造卸に従事して名望高き氏は、先代茂

一郎氏の男にして明治二十一年十月九日の岳降である。先代は農を本業とし、消防組小頭、區長等をつとめし郷黨の模範的人物であつた。氏は不動岡中學校の前身校たる埼玉中學校を卒業し、鯉職製造業を創始、傍ら青年團長、消防組小頭に任じ、現在は村會議員、戸數割調査員、土木委員、家屋税調査員、出荷組合長、蠶業組合理事等を兼ね、且つ鯉職製造業組合副長として貢献多く、名聲噴々たるものがある。家庭には五男三女あり、長男輝彦氏は目下支那事變に出征、赫赫たる武勳を樹てゐる。因に鯉職製造業組

合は、昭和元年の創立に係り、組合員の製造年額三十萬枚十一萬圓に上り、販略は全國的に擴がつてゐる。

三田ヶ谷村三田ヶ谷

村會議員 關口 藤吉

當家は本村草分けの舊家にして、氏は明治四年の岳降である。溫和且つ實直、郷黨の信任頗るあつく、昭和八年には村會議員に選ばれ引續き重選して今日に至り、大正十一年には區長代理に任じ、在任五ヶ年の後第二區長に推され、部落の發展のため竭すところ甚だ多くして、區長代理時代より今日まで十六ヶ年間一意郷黨のために奮闘し來り、その功績は燦然たる光芒を放つてゐる。また養蠶實行組合長としても氏の事績を見逃すことは出來ない。功勞に累ぬるに功勞を以てし誠に部落の大恩人といふべきである。

種足村下種足

村會議員 市川 春吉



當家は今より五代前庄助氏の時に、本村市川好助氏宅より分家獨

立せるものにして、爾來代々農を以て業とし今日に至つた。當主は先代茂太郎氏の長男にして明治七年二月十七日の岳降である。京藏院寺小屋時代から學業にいそしみ、騎西高等小學校卒業後は、専ら家事に精勵した。資性篤實にして公共心に富み、夙に區長をつとめ、學務委員たること二十ヶ年に及んで勤勞功勞賞を授けられ、現在は村會議員二期目の任にありて寄與貢獻するほか、産業實行組合長米穀受檢組合長等の要職を兼ね、私事を忘れて公事に奔走してゐる。

高柳村日出安

村會議員 小堀 仁兵衛

當小堀家は建武年間より連綿と續く舊



家にして、部落に於ける小堀一家の總本家たる家柄、代々村勢發展に寄與するところ甚大にして先代留五郎氏は村會議員二期を歴任、亦日出安部落區長としても功勳かたらず、その男に明治十五年三月

五日生れし氏は資性は濃厚篤實にして圓滿なる人格の持主である。夙に篤農家として近在

期も歴任して、功に依り表彰されて花瓶を贈呈された。亦明治四十四年九月書記として役場に入り、大正三年收入役に推され、四期歴任、大正十四年退職、表彰を受けてゐる。現在は村會議員三期目の任に在り、産業組合幹事、農事實行組合長、學務委員二期目を兼ねて執掌してゐるが、方面委員の職にも在り、昭和十二年五月埼玉縣知事より表彰されてゐる。亦社寺院總代として貢献多からず、寺院總代は先代より在職してゐる。

禮羽村馬門

村會議員 小山 賀助

健全なる自治精神を有し、自治報國の實を擧ぐることに顯著なるわが小山賀助氏は、明治五年三月二十一日、小山榮三郎氏の男として生をこの世に享けた。家業は代々農、嚴父は副戶長、聯合役場議員等町村制施行前の地方自治に貢献多く、氏はその遺跡を承けて早くより公共の事業に關與するところあり、衛生組合議員

を振出しに村内各種公名譽職を歴任し、現時納税組合長、村會議員八期目、大毛堀水利組合議員等を兼ね、私を去り公に奉ずるの赤誠を以て事に當り、殊に議員たる功績顯著なるものあり、本村切つての自治功勞者と稱される。

大越村北野口

村會議員 三井 照吉



當家は代
代農を以て
本業とする
舊家にして
先代長次郎
氏は傍ら北

野口區長三期に及びし部落の恩人である氏はその長男にして明治二十三年十一月二十四日の出生、不動岡中學校中途退學後専ら家業に従ひ、昭和四年消防組部長に推され、また大正十二年には第一農事組合の設立に奔走して初代組合長となり現在は村會議員、養蠶實行組合長等を兼

務する。昭和八年、同九年の二回縣消防協會總裁より表彰され、また大正二年には衆人の模範たるべき精農家として郡農會長より表彰された。

鴻葦村芋莖

村會議員 小山 玲助



當小山家
は小山判官
の直系統、
現戸主小山
近之助氏の
祖から分地

したもので、現當主は正に五代目である明治二十一年八月七日、多四郎氏の二男として農を本業となし來つた今の家に生れた。郷校を卒へて不動岡中學に學び、同校卒業後は進んで家業に就き、これを興すと共にまた村内公共の事に心を馳せその温厚にして多分の人情味を有し、しかも豪氣果斷なる性格は人より人へと傳へられて人望を博し、曩に産業組合長に

推されて功をたへられ、今、村會議員として村政に參與、村會一方に重きを置かれてゐる。蓋し今後の活躍振りこそは村人の大に期して待つところである。長男徹君は今、不動岡中學に在學中であり、長女とも子さんは久喜高女出身の才媛、曾て宮内省圖書頭渡邊信氏宅に見習修業を積むこと二ヶ年、後ち横須賀所屬軍艦木曾乗組員一等兵曹眞中利喜氏に嫁した

不動岡岡岡谷

町會議員 福田 勝藏



奮然名利
を超越して
一身を自治
公共の事業
に捧げらる
る氏は、先

代松太郎氏の男にして明治十四年一月一日の岳降である。家業は農。先代は村會議員、村評議員等に選ばれて、功勞ありし手腕家であつた。氏は不動岡中學校卒



長男 松蔵 氏

ある。次男政藏氏は近衛騎兵聯隊の勇士令嬢君子さんは加須實科高等女學校在學中。なほそのほかに正司君及び八重子さんの令孫があり、家庭は和氣に充ち瀟々としてゐる。

田ヶ谷村上崎

村會議員 關 磯 吉



當村の舊
家山黒家は
元忍城主米
木津伊勢守
の家臣にし
て、廢藩後

も伊勢守を護り來り、その記念に陣羽織を頂戴し、今も山黒家の家寶となつて残つてゐる。山黒家は古くは關姓を稱し、中世に於て山黒姓に改めたのである。氏は關角太郎氏の次男にして關音五郎氏の養子、實家も養家も共に山黒家の分家である。夙に村治に盡瘁して重きをなし、助役三期をつとめて、また村會議員たること永年、現時その任にあるほか統後統制常務委員、養蠶實行組合長、方面委員農林商工統計委員、産米統計委員、融和事業地方委員、結核豫防調査委員等を兼ね、養蠶組合及び片倉製糸所長より功勞賞を、忍稅務署より表彰狀を贈られたる自治産業の功勞者である。長男鶴吉氏は現高柳小學校訓導。

太田村關根

村會議員 新井 幸作



新井 氏 一家

當家は土地最古の舊家たり、その祖は北條家の落人にして新井帶刀と云ひし人天正十八年比企郡松山城の落城と同時に當所に土着し、爾來開墾をなし、連綿二十一代を傳へ、祖父及父君の代迄名主を爲し來つた當地方の名門である。當主幸作氏は盛吉氏長男と

して明治二十三年一月十五日に生れ、太田小學校を卒へ不動岡中學校卒業、騎兵第十六聯隊明治四十三年兵である。若くして既に村治産業の上に思念する處強く曩に消防小頭、區長二期、在郷軍人分會長として洋勵貢獻し現に村會議員、關根養蠶實行組合長、學務委員、村農會評議員、産業組合監事、衛生組合委員等の重職に歴任し、精力的な活動は村民多大の信望を博しつゝある。なほ養蠶實行組合紀念並に農事實行組合はますく好成績を収めてゐる。

種足村上戸

村會議員 學校監 木村直衛



氏は明治三年六月八日を以て秩父郡大瀧村に生れた。父を玄泰といひ、祖父の代までは地方に於て法印と

呼び神佛に仕へ來つた家柄であるが、嚴父の代から醫を以て業とした。氏は秩父郡立中學校に學んで後、東京濟生學舎に入り、明治二十四年卒業、直に兒玉郡下に於て開業したるも、同三十八年當所に移轉し今日に至り、地方有数の名醫として隆昌を極め、傍ら村醫及び學校醫を囑託され、且つ村會議員に選ばれて自治にも貢獻あり、曩には郡醫師會理事たること八年の長きに及んだ。趣味は書畫。長男正之氏は浦和高校を経て目下千葉醫大に在學中である。

禮羽村禮羽

村會議員 鈴木佐市

當鈴木家は當主を以て十二代目とし、分家五軒を有する鈴木姓の舊家である。代々農耕の業に従ひて郷黨の信望あつた先代市郎右衛門氏は村會議員にも選ばれたる材幹である。當主はその男として明治十三年十二月五日に生を享け、夙に埼玉中學校を卒業した。家業の傍ら村會議

員として自治界に重きをなすほか、金錢債務臨時調停委員、社會教育委員を兼ね資性温厚にして實直、私利にこだわらず私欲を捨て、一意至誠奉公の實を示してゐる。令聞との間には一男三女あり、長男一哉氏は羽生小學校訓導にして同夫人カノさんは須影小學校に奉職し、イエさん及び方也君の令孫がある。また令嬢三人のうち長女及び次女は共に久喜女學校を卒業せる才媛である。

大越村

村會議員 腰塚五左衛門



當家の祖は源照久と稱し、播州の住人にして肥塚伊勢守源氏の家臣となり、三百餘騎の頭を勤めてゐたが堤崎を耕作するものには何人と雖も其地を與へるとの正札を見て、武家を去り、

専らこれを耕作して腰塚家の礎石を築いた人である。また先々代は名主代役をつとめ、時々江戸に出仕することがあつた當主は先考眞三郎氏の長男、明治十八年十一月三日の岳降にして、曩に在郷軍人分會幹事たりしことあり、目下村會議員及び土木委員として寄與貢獻されつゝある。長男貞治氏は滿洲守備隊に勤務中。

不動岡町

町會議員 高橋祐太郎

當家は連綿十一代に亙る當町屈指の舊家である。代々農を以て業となし、先代氏は長らく村會議員、區長、學務委員等を歴任して、町治の爲めに多大の功績をなした人である。當主祐太郎氏はその男として呱呱の聲を擧げ嚴父の衣鉢を襲いで全く、曩に衛生組合議員、書記、収入役助役等を歴任し大いなる貢獻をなし、現に町會議員、區長、水利組合議員として町治産業の上に益々盡力太きものあり温容の資性と潤達而も着實の風格は町民

間に多大の信望を博す。家庭は母堂並に夫人、長女三代さん(三十六歳)と養子省吾氏(四十歳)夫妻に一男三女あり、頗る圓滿なる家庭である。

岩瀬村

元衆議院議員 小澤愛次郎

本村草分けの舊家たる當小澤家は、代名主をつとめし家柄にして、先祖の中には舊幕時代八ヶ村取締に任せし人もあり、先考丈右衛門氏は聯合戸長に推されて郷土に竭した功績は多大であつた。氏はその男にして元治元年の岳降である。漢學に精通し、劍術は忍藩の松田重五郎先生を始め大家に師事し、武道による靈肉一致の修練を積み、現に高齡なるに拘らず、東京市中野區宮園通りに住居し、興武館々長として子弟の教導に努力されてゐる。内剛外柔、温厚にして氣骨あり決して敵を持たぬ人で、曾て戸長、縣會議員、衆議院議員等に選ばれて活躍貢獻頗る多かつた。長男忠直氏は仙臺高工の

出身にて、元長岡水力發電所支所長をつとめしエンヂニア、次男丘氏は東京高師體育科出身にて現東京市立第二中學校教諭である。

太田村眞名板

村會議員 岡田武雄



當家は當村内の三家と云はれる草分けとしての舊家である。七十年前火災の爲め諸記録、諸家寶を烏有に歸しその開祖沿革を分明せざるは惜しまれてゐる。先代岡右衛門氏は村治産業に貢獻する處あり殊に部落融和に多大の盡力をなした人である。當主武雄氏はその二男として明治三十五年二月二十日に呱呱の聲を擧げ、太田村小學校を卒業して私立埼玉中學校不動岡中學の前身を卒業し、資性剛毅且温厚にして、村會議員、

消防組員として村治産業の誠心なる指導的立場に眞摯なる精勵をなし村民の信望厚いものがある。將來村治の中樞に執掌すべき人材として期待される。家庭は祖母兩親尙健在夫人との間に羽生實業學校在學中の長男安雄君外二男一女の子女あり、家族九人常に春風の如き團樂の家をなす。

種足村中ノ目

村會議員 萩原 衆作



當家は萩

原庄之助氏

宅より分家

して九代を

經、先々代

十六歳の頃から名主をつとめた偉材にして、郷民は呼んで御代官と稱し、古い祖先には代官たりし者もあつた。分家以來二百五十年に上る。氏は先代吉藏氏の長男にして明治二十一年三月二十八日の出

生である。郷校を卒へて後は偏へに家業たる農業に力を致し、兼ねて區長三期、信用組合理事、農事組合長等をつとめ、不幸病を得て一時退職したが、大正十二年から養蠶實行組合理事となつて昭和三年八月まで永勤した。資性温厚篤實、區長時代の功により先年火鉢一ヶを贈られた。現在は村會議員を専任する。長男政一氏は桐生實業學校在學中、長女及び次女は他に嫁し、三女は家庭に在つて家事を見習つてゐる。

禮羽村禮羽

村會議員

榎本新左衛門

温厚にして徳望普き氏は、先代助次郎

氏の男として明治十三年十一月二十日に

呱呱の聲をあげた。家業は代々農を業とし、相當由緒深き舊家である。氏は夙に

禮羽金蓮院に於て學業を修め、明治三十年

三年千葉砲兵第十八聯隊に入營し、三十

六年滿期除隊したが、翌三十七年四月、

日露戰爭に召集され、第三軍に屬し、旅

順の戦ひに奮戦して功を樹て上等兵適任證を授與された。凱旋後は精農家といはれて家業に熱中し、その後部落民の總意によりて區長代理に擧げられ奔走貢獻渺ならず、現在は村會議員に選ばれて一層郷黨の福祉のため盡瘁してゐる。令聞とは琴瑟相和し、養子兵左衛門氏は氏に肖て篤農の聞え高く、必死と努力して家産をふやしつゝある。家庭には令孫昌則君及び同キヌ嬢が一家團樂の中心となつてゐる。

大越村

村會議員

高橋 作太郎

當家は先々代作兵衛氏まで世々名主を

なせる舊家にして、現在營業中の酒釀造

は七十年前の創始に係り、其以前は酒小

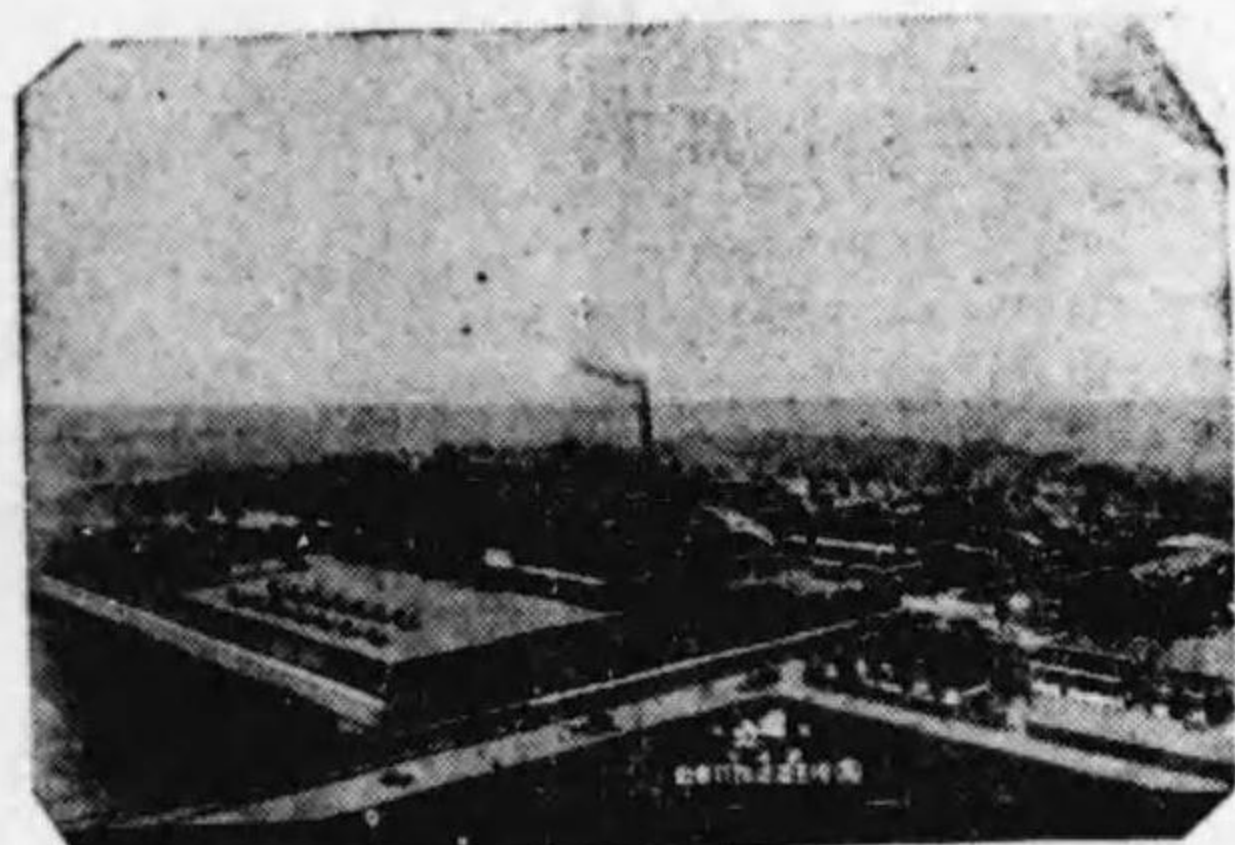
賣商を營んでゐた。氏は先代時藏氏の長

男として明治二十三年一月十四日を以て

生れ、家業に従事するに熱意と努力とを

以てし、酒造品評會に於て受賞すること

一再ならず、忍町稅務署よりは表彰され



その醸造場

亦各方面から表彰、感狀、金牌、大時計、表彰牌等を受

けしこと數十回の多きに及んでゐる。醸造に係る銘酒「國力」の品質優良なるは之れを以て知るを得べく、而も氏は益々研究的態度を持してその製造に當つてゐる。自治界に於ける功績また寄與大なるものあり、現に村會議員及び學務委員をつとめ、資性温厚篤實、衆望をあつめて巍然たるものがある。

不動岡町

町會議員

塚田 清三郎



常に町勢の進展に留意し、業績顯著にして本町自治史上に特筆さ

るべき點多き氏は、塚田家八代目の當主にして、先代仁三郎氏を父とし明治十三年十二月二十七日を以て呱呱の聲をあげた。幼兒より資性業に勝れて英邁、一を聞いて十を悟るの俚言通りの明敏な頭腦を有し、若き頃小學校の教壇に立ちて第二の國民の養育薫陶に任ぜしことあり、その後興望を負ふて自治界の人となり、區長、信用調査委員、土木委員たること多年、博識多才にして、手腕に長じ、また町會議員に當選五回、現にその職にありて町治に貢獻多く、議員中の異彩として町民の喝采をあつめてゐる。誠に氏の

如き人材は有り得べくして容易には有り得ざる存在である。長男隆司氏は明治四十一年出生にして目下支那事變に出征中

種足村中種足

村會議員

關根 勘三郎



當家は既に八代を傳ふる舊家である。代々農を以て傳へ先代虎吉

氏は篤農家として知らる。氏はその長男として、明治二十二年三月九日に生れ、明治四十二年麻布三聯隊に入營し歩兵上等兵となる。若き頃より農に勉め齊家修身の實踏るべきものあり、又村治の上に思念する處あり、剛毅にして且温厚眞摯の人格と共に村民の信望厚く曩に農會總代、在郷軍人分會評議員及班長として盡瘁、現に推されて村會議員、養蠶實行組合副長、消防第二部長、戸數割調査委員

養蠶組合蠶組豫防委員等に歴任して貢獻する處頗る大である。家庭は母堂の外夫との間に四男二女の子福者にして、長男正男君(二十歳)は既に家に在り一家團樂和合を極む。

不動岡町

町會議員 田口 留吉



自己を持するに、實行動勞を尊び持續耐久の念強き氏は、三俣村

田口又左衛門氏の四男として明治二十一年十月七日に呱呱をあげ、小學校卒業後僅か十六歳にして三俣村の魚商宅に滿六年間年期奉公をなし、天性明敏の頭腦は商略に殊に秀で、加ふるに實利勤勞愛汗を旨とせしかば、主人からも父母からも一錢の融通も受けずに事業を創始せしに拘らず、遂に今日の如き大成功を見るに

至つた。誠に努力の人、奮闘の人、頭腦の人である。家業の傍ら曾て在郷軍人分會長十有四年、自治團長、學務委員等に推され、軍人分會への功勞特に多く、先年聯合會より功勞賞状と共に三ツ組盃を贈られた。現在は同分會顧問をつとめ、且つ町會議員、衛生組合議員、納稅組合議員等を兼任し名聲高きを加へてゐる。

川俣村

前村長 堀越 利



當堀越家は當地方の舊家であり

且つ名門である。先々代堀越庭七郎氏は北埼玉郡初代の郡長に任じその人格と手腕に絶大の賞讃を博した材幹であつた。先考寛介氏は民政黨所屬の政客として名聲高く、衆議院議員に選出されること三

回、中央政界に堂々の陣を張つて國民福のため獅子吼した縣下有數の政治家であり、また本村長をつとめられ、その功たるや實に枚擧に遑がない。のみならず本村信用組合の如きは氏の力によりて設立され氏の努力により發展し、遂に今日の成果を見得るに至つたのである。當主はその長男にして明治二十一年二月二十三日の誕生、夙に東京帝大經濟學部を卒業し、村長、消防組頭、村會議員、青年團長、在郷軍人分會長等を歴任せる功勞者である。また長男一郎氏は東京帝大法科出身の逸才である。

大越村

前村會議員 中島安一郎

當家は二百五十年以上を経る舊家にして、寛永年間以後は家歴の記録あるも、それ以前は詳かでない。祖先是古河の土井侯及び本多侯の指定せる隠居所を造作されし名工で、家寶に土井侯の遺物多數を藏し、村内有數の舊家と稱される。ま

た先々代までは名主をつとめた家柄である。當主は先考大助氏の長男、明治八年の出生にして、夙に收入役、助役等をつとめ、また村會議員たりしこと多年、現在には盆栽を趣味として優游餘生を送つてゐる。長男安次氏は村會議員、消防組部長、戸數割調査委員その他をつとめて信望があつた。

加須町

元町長 關口 藤吉



電話四一番

氏は先代忠助氏の男先代は町會議員を三期間つとめし人望家にて

書籍雜貨商を創業せる人、現に不動岡、熊谷、本庄等に支店を持つてゐる。氏は家業の傍ら夙に社會公共の事に竭し、消防小頭、町會議員に選ばれ、明治四十三

年には當町初代商工會副會長となり、また學務委員、所得稅調査員を経て大正七年町長に選任、爾來三選して昭和六年までつとめ、その他矯風會長、消防聯合會長、北埼玉郡乾蘭組合理事、教育團體聯合會理事、北埼玉教育會副會長、加須自動車組會長、商工會聯合會長、縣商工會相談所長等幾多の要職に推され、縣消防協會長及び縣知事より表彰を受けてゐる。なほ實業界に於ても重きをなし、加須倉庫、加須銀行、東京丸肥倉庫の重役にして、加須精米株式會社社長を現任する。

不動岡町

元町長 峯岸傳三郎



當家は古くは料理旅館を業としてまた名主をつとめたる舊家である

氏は二十三年七ヶ月の長きに亘つて不動

岡町長をつとめたる手腕家にして且つ人望家であり、その間の幾多事績は一々枚擧の遑なく、不動岡町今日の繁榮あるは偏に氏の功績によるものである。現時農會長として老の身を更に公共のために捧げてゐる。俳句に趣味を有し、松浦羽洲宗匠に師事してその蘊奥を究め、峯岸といふよりは淺水宗匠としての方が知られてゐる位である。西園寺公と交はること三十有餘年、氏の古稀の祝ひに公より色紙を送られ、更に氏より公に贈つた俳句の返禮に「貴句御示し被下感謝の至りに候管に描辭の妙のみならず大いに風教に益ありと感歡仕り候」との眞筆の返禮狀を寄せられた。長男は逝き、次男は現杉戸農學校教諭である。

太田村若小玉

元村長 内田 浩一

當家は其家系詳かならずと雖も當地屈指の由緒ある舊家にて、且地主として傳はる素封家である。先代牧之助氏は庄八



氏の男として岳降、寺小屋に學び殊に後漢學を修め、起居端正、清

廉高潔の資性は村民の間に多大の信望を持して高士温容の風格を保つた人である助役社長等の村治各般の樞要に閑座して儼然たる存在をなし多大の功績を挙げた當主浩一氏はその長男として明治三十四年二月二十七日に呱呱の聲を擧げた。不動岡中學校を卒へて若くして既に村治産業を思念する所あり、尊父の衣鉢を襲いで全く、資性眞摯剛毅、矜愍の情に厚く村民の輿望翕然として集り、曩に推されて助役二期村長一期を執掌し巨大な足跡と功績を残した當村の中心的材幹であり將來の地方自治の上に太き貢獻をなしうる人として、矚目を以て俟たる人である。家庭は夫人との間に五男二女の子福者にして長男一成君(十六歳)は不動岡中

學在學中である。

村君村上前

元村長 落合 長一

當家は約三百年を経る舊家にして、初め數代の間は村内屈指の資産家なりしがその後一時衰退に歸し、第七代長左衛門氏の時、これが挽回につとめて功を奏して舊に復し、先代清太郎氏がこれを繼承した。清太郎氏は今尊徳と諷はれし有徳の人で、現に庭には頌徳のための半身像が建つてゐる。當主はその男にして明治十五年三月十六日の岳降、夙に收入役、村農會長、消防組頭、産業組合理事、村會議員、學務委員等に任じて手腕を賞讃され、後、村長の椅子に就かせられた。長男清安氏は日本醫科大學の出身、次男長安氏は慈惠醫大に、三男守安氏は昭和醫專にそれゝ研究中である。

種足村中種足

元村長 萩原 喜三郎



當家は代代農を本業とする舊家にして、氏は明治九年二月二十二

日を以て先代虎之助氏の男に生れた。寺小屋に勉學して後騎西高等小學校に學び明治二十九年近衛歩兵第二聯隊に入營、日露戰爭には黒木軍に屬して出征し、功により軍曹に昇進した。その後多年在郷軍人分會長として貢獻多く、村會議員一期、助役一年をつとめ、大正十四年から昭和八年まで村長に任じ、自治公共に盡すところ甚大である。夫人との間には長男耕三氏及び長女キヨさんの一男一女がある。

大越 村

元村長 武正 美三郎

當家は始祖以來數百年を閱し、代々農を營み、先々代清五郎氏の代までは名主



委員、郡會議員、村長の重職等に就任、多年に互る各方面への努力

戸長等をつとめたる素封家である。先考千代七氏は明治十四年に他界され、當主はその長男にして明治元年八月三日の出生である。氏は埼玉中學校出身にして、後、漢學を修め、明治四十五年から昭和十年二月まで二十有五年間村長の要職をつとめ、その間村の基本金一萬餘圓を残し、その他各方面に互つて幾多の治績を擧げし手腕ある材幹である。また郡會議員に當選、郡會議長をもつとめ、村長の椅子を退いてからは村會議員に擧げられ古稀を超えてなほ壯者を凌ぐの元氣あり乾蘭組合副組合長、在郷軍人分會顧問、養蠶組合副組合長等を兼任する。資性温厚篤實、讀書を趣味とし、崇高なる人格は郷黨敬慕の的となつてゐる。

元和村琴寄

元村長 小林 賢太郎

慈悲心が深くして貧民救濟等陰徳頗る多く、亦當村開拓の功勞者として人望の的となりし小林官吉氏とは實に當主の嚴

父君にて、當主の出生は明治二年二月十七日、資性眞摯敬虔にして柔和な人格の持主、尊父の衣鉢を襲ぎて夙に自治公共の事に意を用ひ村會議員、農會長、學務

城の家老職に在りたる武士にして、代々村勢の發展に努力し、殊に六代目彌兵衛氏の寄與貢獻するところ多大であつた。

鴻葉村芋菜

元村會議員

長谷部 武



當家は藤原鎌足公の後裔、代々農に就いて來たが、舊幕時代には

寄與頗る多大にして、今や村民仰慕の的となり、衆庶の範とされてゐる。現在在家に在りて悠々自適の生活を送つてゐるが、長男雄刀磨氏は父君にかはりて村會議員、農會長等の重責に在りて活躍、君は亦、早稻田大學出身の智慮衆に勝れたる材幹にして、曩には青年團長、消防組頭その他を多年に互りて勤めて功あり、村政の中堅として博識多才の才人としてその將來に多大の期待を寄せられてゐる因に當家は當村切つての名門の家柄、その祖は朝比奈三郎の末孫北條氏の巨瀧山

代官、名主等を勤めた名家である。先代鎌次郎氏は生來身體虚弱の故を以て公職を辭退し、一意家業に従事しつゝあつたが、五十七歳を以て逝去された。武氏はその四男、明治三十二年十一月五日の出生、郷校を卒へるや直ちに家業に就き、病勝ちな父君を助けるところがあつた。曾て村會議員を一期、養蠶組合幹事として奔走盡力した。資性温良にしてなかなかの人望家である。長男文作氏は不動岡

中學出身、消防部長を勤め、警視廳巡查試験にパスしたが、二十九歳を以て早世され、三男義知氏もまた不動岡中學を卒へて東京駒込パンリー萬年筆會社に勤務格勤の人として囑望されたが、不幸世を早めた。享年三十二歳。二男の喜作氏は分家して一家をなしてゐる。なほ母堂サグ子刀自は當年七十三歳、頗る頑健であるが、當宇小山巖嵩氏家より嫁いだ人である。

元村長 太田村下須戸
社會事業功勞者

平社鍋之助



當家は氏を以て十三代目とし、先々代磯七氏を中興の祖とする。先代マ造氏は子女の教育に重きを置き、現に氏の令弟敬之助氏は帝大助教をつとめる工學博士である。氏は先代の長男

明治二十四年三月三十一日を以て生れ、村會議員四期、村長、消防組頭、村農會長を歴任し、また方面委員を永勤し、その功に依り、今上陛下御大典の御地方饗宴の榮に浴した。昭和十年福島縣安積郡金山澤金銀鑛を買収し、テーブル式及びフュー式の最新式方法により選鑛し、金銀、亞鉛等いづれもその實績を挙げつゝある。長男は明治四十五年の誕生にして不動岡中學校卒業後は氏を扶けて家庭にあり、目下若き村會議員として自治界に輝やかしき第一歩を踏み出し名聲噴々たるものがある。

元和村新井

元村長 大塚鷺太郎

北條氏の末小田原城主の後裔を祖とする當家は十三代の家系を傳へる家柄にして、先代鷺次郎氏は聯合戸長を経て村長の要職を勤め、村勢發展に寄與貢獻多き功勞者、當主はその男にて慶應元年三月二十六日の岳降である。智慮業に勝れ、

自治方面に卓越せる手腕を有する偉材にして、既に幼にして學業成績優秀、常に首席を占め、郷校卒業後、教職に在りたる事あり、三十歳にて地水新堀工業に關係せるを振出しに、郡會議員、郡會副議長、村長、村會議員、區長、養蠶實行組長、縣教育會評議員その他を多年に互りて盡瘁、川邊領耕地千二百町歩の地區整理等は氏の關係せる最も大事業にして燦たる功勞あり、亦大利根川より用水引入排水工事を工事長として指揮監督をせし事もあり、その永年に互る獻身的活躍は産業經濟の向上に、村勢の發展と繁榮に、郡政の圓滿なる發達に偉大なる貢獻をなすところとなり、表彰も數知れず、明治四十二年五月十王堀擴築工事の功に依り銀杯を下賜、大正八年一月排水路管理引渡に際し木杯を授與され、郡會議員の勤績功勞に依り表彰受けし事もあり、昭和三年には村會議員三十七年勤績功勞に依り銀杯を下賜されてゐる。氏は亦、狩獵、讀書に興味を持つ人格高潔なる人

士にて、その人格と功勞は相俟ち名聲四隣に普く及び庶民の畏敬感嘆して措く能はざるところである。尙母堂つた子刀自は書を能くし大正天皇御即位御大典に際し九十一歳の高齡を以て木杯を賜つた。

田ヶ谷村

學務委員 岩崎信之丞



當家は八代前の祖岩崎彌兵衛氏當地に來住し代々農を以て傳はる

舊家である。氏は明治二十四年十一月二十七日先代初之丞氏の三男として呱呱の聲を擧げた。初之丞氏は氏の十四歳の時物故し、嗣子たる長兄は日露戰役に出征名譽の戦死をなし、次兄豊作氏相續すべきを他郷にありし爲め信之丞氏之を繼いだ。明治四十四年現役として歩兵三聯隊に入營兵種は看護卒であつた。歸郷以來

専ら齊家修身に勤め且又村治に關與思念する處あり、曩に村會議員、在郷軍人分會副分會長、消防組頭、養蠶實行組長に歴任し、現在は學務委員、養蠶實行組合理事、耕地總代等の要職に在つて太く盡瘁する處がある。資性濃厚篤實、殊に農業研究に没頭し篤農家として知らる。家庭は夫人との間に三男四女あり、長男英作氏(二十四歳)は目下支那事變に出征活躍中。

加須町 元町長 岡 只三郎

電話加須四四番

佃屋吳服店主として

商機を見るに敏、且つ顧客に對し

て親切愛敬を旨とし、一流吳服商といはれ繁榮の極を盡してゐる氏は、先代福次郎氏の男、元治元年の生れ夙に家事の傍

町會議員たること二期、また栗橋銀行監査役に任じて地方金融界の重要位置を占め、輿望をあつめて町長にも就任し、更に商工會長に推されて加須町商工業の隆昌と親睦に意を用ひ、耕地整理組合副組長長の椅子に就いては困難なる耕整事業をよく遂行し、溫和の中に氣骨あり、謂はゞ内剛外柔型の人で郷黨の信望もあつく、その手腕は萬人の等しく感服するところである。現時日掛納稅組合長として納稅思想の普及實施につとめ、その功績特に顯著なるものあり、納稅功勞者と稱される。

不動岡町

産業組合長 矢島政吉

當家はその祖を遠く源平時代、齋藤實盛にゆかる矢島主稅之助に發し、連綿稀れに見る家系を傳へる舊家である。現に當家上手に主稅堂と稱さるゝ觀音堂が現存してゐる。當主政吉氏は明治十年五月二十五日先考惣吉氏の男として呱呱の聲

を上げた。若き頃より専ら齊家修身に勉め、資性極めて剛毅廉直且温容の風格は町民多大の推轡を受くる處となり、曩に區長、衛生組合議員、町會議員、消防組頭等の要職に在つて、町治各方面に太く盡瘁貢獻す處があつた。現在は町産業の上とその動脈として根幹たるべき産業組合の組合長として、當組合の發展のみならず町産業の上にも多大の寄與をなしつつある。家庭はりん夫人のみにして、常に團樂和樂を極めてゐる。因に當家の山緒の古き家系は、目下その詳細を調査中である。宗旨は眞言宗、菩提寺は昨年堂宇焼失し再建成つた正善寺である。

川俣村小須賀

小須賀區長

早川八左衛門

萬治元年開祖以來三百年を経る當家は代々農を業とせしも、先々代雲嶂師は畫工として聞え、漢學に通じて詩をよくし酒を嗜み磊落なる繪師であつた。氏は先代愛之助氏の二男、明治十二年の出生に

して、夙に藥師寺世話人となりて二十年の長きに及び、また現に區長三期目をつとめ、村人のためなれば損得を顧みず盡瘁し、氣骨あり手腕ある信望家にして事績頗る多く、一々枚擧の繁に堪へざるほどである。

三俣村小濱

小濱區長

鈴木孝太郎



當家は開祖以來連綿五百年を傳ふる村内屈指の舊家である。祖父

市十郎氏迄代々名主を勤めた家系で既に二十一代に及ぶ。先代故吉十郎氏は三俣村初代の名村長として一生を自治體伸展の爲めに貢獻した巨材であつた。殊に村會議員では初めより逝去迄萬年議員と稱された。羽生領水利組合常設委員として多大の功績があつた人である。當主孝太

郎氏は先代吉十郎氏の男として明治五年五月十五日に生れ、不動岡中學を卒へ家業に就き齊家修身に勉めた人、氏も亦嚴父の衣鉢を襲き村自治の爲めに思念する處あり、さきに國勢調査員四期、現に區長、穀物検査受檢組合長、統計調査委員十八年間に淬勵貢獻してゐる。人格剛毅嚴格且矜愍の情に厚く、村民の信望厚いものがある。趣味は農藝にして、宗旨は浄土宗である。因に長男勇氏は目下上京修業中である。

水深村水深

勳八等級

須永新左衛門



明治三十七、八年の日露戰役に際し、勇躍出征、常に第一線に於いて雨と降る彈丸の中に活躍、遂に赫々たる武勳を樹て勳八等功七級に叙された

る氏は明治十二年十月六日の出生にて、資性極めて勤直、亦近在に聞える篤農家にして、當須永家の今日の繁榮は氏の努力に依るもの、しん子夫人亦、良妻賢母の譽あり、夫君を輔佐するところ頗る多大、間にある長男義輝氏は才氣煥發なる逸材にして現に村會議員として活躍、兼ねて農事組合副組合長の重任に在り、村内切つての雄辯家として、將又永井柳太郎閣下の下に在る民政黨の闘士としてその名近在に普き、一舉一動は期待を以て囑目されてゐる。尙四男利明氏は今次の日支事變に天野部隊に屬して出征、今彼地に於て膺懲の戰に奮戦してゐる。因に當家は一家より多數の兵役服務者を出したに依り賞勳局より表彰を受けてゐる名譽の家である。

加須町

加須信用組合長

矢島保

保

當家は先々代の時より材木商を營み、



加須町有数の資産家と稱されてゐる。先祖は比企郡岩戸より出で

相當山緒深き舊家である。氏は明治十九年を以て生を此の世に享けた。家業の傍ら産業組合役員に推され、同組合の發展擴充に盡力貢獻二十有餘年、産組功勞者としての令名は遠近に普く、また町會議員に選ばれること三回、現にその三期目をつとめつつあり、功績顯著にして議員中の逸材と稱される。事業的堅實性と磊落さを有する手腕家にして事業を趣味とし、事業の發展を樂しみとする生活を送り、現に埼玉共同無盡株式會社重役たるほか、合同運送株式會社取締役任じ、實業にも重きをなし、更に消防組頭としての統御の才はすでに萬人の認めて感嘆措く能はざるところ、氏こそ當町に缺くべからざる有能の士である。

中條村

元小學校長

尾澤幸治郎



翁は文久二年九月の岳降、父は幸三郎氏、母はなかさ

小學校令發布前、寺小屋時代からの教育家にして埼玉師範出身、中條小學校長たること四十有餘年の長きに亙り、その間各種名譽職を兼ね、方面制度實施以來引續き今日に於ても方面委員の職にあり、また埼玉縣協和會員、學務委員、郡教育會評議員、教育講習會長、北埼玉社會事業支部副會長を現任し、私事を忘れて貢獻されつつあり、曾ては村長、縣當局、縣教育會長、賞勳局總裁、文部省、郡長その他諸方面より表彰さるゝこと十回に餘り、感謝狀を寄せられしことは數を知らず、文字通りの偉大なる教育功勞者で

ある。

井泉村藤井下組
井泉村 吉田 まさ



資性潤達
剛毅、所謂
女丈夫と稱
すべき女史
は慶應元年
一月六日の

岳降なるも、古稀を越えた老齡とは思はれず、井泉村國防婦人會長として村内十三班四百七十名の會員を統率し銃後の護りの第一線に立ちてその完璧を期しつゝある姿は、實に水戸藩士の後裔たる名に背かない。抑々女史は行田町原健三郎氏の長女にして長じて吉田家に嫁したのである。吉田家は徳川時代以前よりの舊家で、寛永年間より分明せるだけで十六代に及び、夫君淳夫氏は羽生町長たりしことある人望家なるも、二十餘年前長逝せられ、女史はその後獨力を以て子女の教

育に竭し、現時長男淳氏は大阪朝日新聞社東亞調査會幹事、次男久氏は不動岡中學校教諭として社會的重要地位にあり、淳氏の長男文武氏は京都帝大を出て日立製作所に勤務し、同長女正子さんは同志社大學を卒業せる才媛である。

大越村

陸軍歩兵少尉
正八位

石川 直行

電話大越五番

當家は祖父幸之助氏まで代々名主をつとめし家柄にして、幸之助氏は嚴格にして實直なる手腕家にて、石川家の基礎を愈々固からしめた人である。製絲事業に關係し、當地製絲業界の先覺者と謳はれてゐる。氏は先代康之助氏の長男、明治三十四年二月二十六日の出生にして、東京府立第四中學校を経て東京農大を大正十四年に卒業し、同年金保山聯隊に入營昭和四年四月少尉に任官し正八位に叙された。爾來今日まで在郷軍人分會長として活躍貢献し、また村農會長及び村會議

新郷村下新田

佛心流家元
華道教授

高附 一笑



當家の祖
は高機四郎
右衛門尉源
朝臣信則と
いひ新羅三
郎義光二十

一世の孫にして、利根川畔高槻に土着して元和二年永眠の記録がある。當地開墾には特に功勞あり、農を家業とせる傍ら生花師匠をなし、地方に於ける名望家であつた。當主は先代喜右衛門氏の男にして元治元年五月四日の出生、本名を高附喜雄氏と稱し、拈華齋一笑と雅號する。夙に樋口利喜太郎氏に師事し、幼少の頃

より華道に才あり、また劍道及び俳句に長じてゐた。現時佛心流家元第五世として東京華道協和會々長の要職に在り、教授先は東京市内、熊谷市、本庄町、忍町栃木縣下等多方面に亙る。また曾ては村長、村會議員、助役、組合會議員、郡會議員、その他自治關係の公名譽職に歴任事績頗る多し。

太田村小針

教育功勞者 岡村 榮

當家の祖は肥後國の住人菊池氏一族の赤星三郎有高といひ、一家の内に南朝に従つて忠義を勵みし人あり、當主を以て第二十九代目とする舊家である。歸農後は代々名主をつとめ、先代新吉氏は副戸長にも推された。氏はその男にして慶應二年一月二日の岳降、不動岡中學の前身校に學んで後、村山學堂氏に師事し、更に埼玉縣師範學校に入り明治十七年これを卒業、後は太田村小學校教師を振出し、田ヶ谷、忍町各小學校に教鞭を執り

明治二十五年より郡役所勤務、更に三十二年には縣廳に入り秩父郡集稅所實稅係を擔務した。長男は早世し、相續人たる令孫忠雄氏は東京帝大工學科を卒業せる新銳技師にして、目下芝浦製作所社員として鶴見第二工場に勤務し、人格高く徳望あり、今後の大成を期して俟つべきである。

太田村

元郡會議員

金子 正平



當家の祖
は右衛門
氏と稱し、
當村金子久
右衛門氏宅
より分家せ

るものにして、先代甚之助氏は元長野村及び太田村役場に十數年間收入役をつとめ、學德兼備の手腕家として村民の信望をあつめ、感謝狀及び銀盃一組を贈られたが、不幸、明治三十二年十一月、三十



八歳の若
年にて永眠
された。當
主はその養
嗣子である
明治十年一

月二日、大里郡秦村清水與平氏の次男に生れ、家督相續後、郡會議員、蠶種同業組合北埼玉郡支部長等に任じて功勞多くそれら表彰され、また縣蠶種同業組合副長、大日本蠶糸會埼玉支會商議員、養蠶組合長、東武蠶種商會理事長を歴任、大正八年創立の行田足袋株式會社（資本金五十萬圓）の大株主にして後社長に推舉された。長男一雄氏、次男三雄氏は共に實業界の新人として活躍してゐる。

志多見村志多見

松村醫院長

松村 和一郎

當家は明治四十三年松村由三郎氏宅より分家一家を創立せるものにして、氏がその初代である。夙に仁術を以て世に立



つべく志し、不動岡中學校を卒業するや直に仙臺醫學專門學校に

學び、これを卒へると共に現地に松村醫院を開業今日に至つた。内科小兒科の權威といはれ、刀圭を採つて治せざるものなく、正に文字通りの名醫である。田ヶ谷村には出張所を設置し、共に繁昌してゐる。また志多見、田ヶ谷兩小學校醫、村醫、埼玉縣健康診斷醫を囑託されるほか、自治公共の事に竭しては高潔なる人格を以て衆望を集めて村會議員に推輓を受け自治方面にも大に活躍してゐる。嗣子方辰氏は資性快活聰明にして俊敏の氣性に富み耳鼻科及び外科に卓抜の方技を有し、父子相揃つて益々繁榮の一路を辿るのみである。家庭には令夫人及び方辰氏夫妻のほか愛孫雅夫君があり、すこぶる圓滿にて附近羨望の的である。



水深村大室 水深至誠 産業組合長 勳七等

金子喜兵衛

氏は明治十一年二月十九日の岳降、日露戰爭には從軍出征して戰

功あり曹長に昇進した。その後村助役に任じ大正六年十二月まで勤続し、功績顯著なるものがある。現在は學務委員、區長、村農會評議員、在郷軍人分會評議員等をはじめとし、埼玉縣信用販賣購買組合聯合會理事、埼玉縣農業倉庫協會長、産業組合中央會埼玉支會北埼玉郡代表、同北埼玉郡部會副會長の要職を兼ね、また大正十二年には率先水深至誠信用販賣購買組合を設立して、その組合長に推され、爾來銳意組合の發展擴充と組合員の福利増進につとめて功あり、大正十三年



鴻菴村芋莖 樂生堂 光線療院

小山正一

當家は當地の舊家たる小山近之助氏家より三代前に分家なし代々

農たりしが、氏は鴻菴小學校を卒へて埼玉縣立師範學校を明治三十八年に卒業、後約二十年間縣下教育界に奉職し太く貢獻する處があつた。資性濃厚篤實殊に矜愍の情に厚く村民の信望厚いものがある。縣教育界より永年勤続功勞者として表彰された。昭和六年樂生堂光線療院を開院し、一般患者に非常な好評感謝を受けつ



清左衛門と稱し、二代龜藏氏、三代久兵衛氏、四代國三氏を経て

つある。神經病、リョウマチス、胃腸病婦人病、皮膚病等に紫外光線による治療をなすものにして獨逸の發明機械になりイチエスライトと稱す。胃酸過多症、胃擴張は一週日にして根治されるといはれる。殊に淋疾に對してはその効力の顯著を以て知られてゐる。治療室四坪控室四坪あり、農村方面の施療には料金の割引を以て應ずる等其の施行方法のよろしきを得て、一般の信頼厚く常に門前市を成すの繁忙を極む。嚴父並に夫人との間に三男一女あり長男清高君(十六歳)は不動岡中學校在學中である。



氏丞之若代先 當家は分家獨立以來五代を經、初代は

鴻菴村 富士灸術所長 關根良治

先代若之丞氏に至つた。當主は先代の二男にして、資性濃厚、頭腦明敏、徳望四隣に普く、敬神思想に富み、旅行を趣味とし、また釣魚の快を樂しむことが多い。生れは明治四十一年七月八日である。夙に祖業たる鍼灸術を修めて、昭和二年鍼灸師としての資格を附與され、爾來現地に開業、若くして方技に冴え、人格の高潔と接客に懇切とを以て名聲頗り揚り幾許もなくして今日あるが如き隆昌を見るに至つた。誠に氏の鍼灸は神秘的とも稱すべきまでに効果顯著である。家庭は圓滿、團樂和樂を極めて母堂健在し、令弟潔氏は國學院大學高師部在學中、同康雄氏は不動岡中學校に勉學中の秀才である。



當院は、從六位新井多吉氏の經營に成

禮羽村 北埼玉物理治療院

氏は明治十四年一月十日の出生にして、不動岡中學校中途退學後不動岡師範學校に入り、昭和三十五年これを卒業するや加須高等小學校に教鞭を執り、次で北泉小學校に在職中學校教員の免許狀をとり、不動岡、滋賀縣膳所、桐生の各中學校教諭をつとめ、新潟縣新發田中學校を最後に教育界を退いた。在任中は物理及び博物を擔當し、兼ねて灸術を研究しつゝあつたが、生徒中に神經疾に悩む者を加療治癒してより愈々自信を持ち、灸の効果を確信したるにより、昭和四年灸術檢定試験に合格すると共に現在地に開

業、名灸として普く遠近に聞え、繁榮極みなきものがある。因に長男敏男氏は新發田中學校出身の俊才にして、現に東京市本所區の東北文化電業株式會社社員である。

笠原村

元小學校長
正七位勳七等

江原 詮佃



先々代詮
清氏の代ま
で代々名主
をつとめ農
を以て業と
せる當家は

村内有數の舊家である。當主は先代氏の長男にして、明治十年四月三日を以て生れた。明治三十一年埼玉師範學校卒業後、廣田、種足、羽生各小學校長を歴任在職三十二ヶ年にして退き、その間北埼玉郡小學校長會長、北埼玉教員會長をつとめ、引退後は社會教育委員會幹事、北埼玉郡教育會主事、郡教員會幹事、聯合青

年團幹事、學務委員、産業組合監事等をつとめてゐる。

共和村

産業組合長
農會會長

相原 徳治郎



當家の祖
は相州方面
より當地に
來りたる由
にて、代々
庄右衛門を

襲名し、舊幕時代には名主をつとめたる家柄である。家業は農。先代嘉吉氏は村會議員たること數期、自治功勞者としてその名を知られる。氏はその長男にして明治二十年三月十六日の岳降、夙に不動岡中學校を卒業し、家業に精勵して篤農の聞えあり、傍ら産業組合長に推され、また村農會長を十ヶ年、村會議員を三期つとめ、いづれも現在その任にあり、事績枚舉に遑がない。資性温厚、家庭には令夫人及び不動岡中學校在學中の長男一

慶君ほか二男三女がある。因に氏が組合長たる共和村信購販利組合は大正十二年の創設に係り、組合員百九十名、出資總額七千九百圓を擁し、貸付二萬二千圓、貯金八萬三千圓、購買年額五千圓、販賣年額一萬六千圓の事業量を示してゐる。

忍町忍女學校前

紅療學士

明戸 高吉



事に當り
て不撓不屈
研究心に富
み、發明に
趣味を持つ
氏は、明治

二十二年十二月二十八日、先代由太郎氏の男に生れた。抑々當家は始祖以來七代を閑し、代々大里郡別府村にて農を營み來つたが、氏は明治四十二年を以て現任所に移轉した。元來大工職なりしも、中途にて製氷會社を興し、或ひは建築請負を業となし、大正八年頃より國家の浮沈

は先づ食糧問題を解決するにしかずとなし、胚芽米の研究と同時に無砂糖によるビタミン醬油、ビタミン味噌、ビタミンパン等の發明を完成し、全國食糧品博覽會には胚芽米研究への感謝狀、子爵澁澤榮一閣下他三博士より普及贊成狀を寄せらる。現時東京食糧品研究所關東支部長紅酸療法自療會長を兼任する。夫人との間に二男一女あり、長男文助氏は松本家の養嗣子となつた。

南河原村

藤間醫院長

藤間 西一郎



「皇室ヲ
尊奉シ祖先
ヲ崇拜スヘ
シ」これ祖
先以來傳統
の精神なり

として家憲の冒頭に大書して、眷々服膺實行しつゝある當藤間家は、藤間源七氏を始祖とし、源左衛門氏、由右衛門氏、

由藏氏を経て先々代玄祐氏に及んだ。玄祐氏は名國手として謳はれ、酒井侯の典醫となり、功績を遺してゐる。現主西一郎氏は先代六郎氏の男、明治六年一月十四日の出生、同三十年濟生學舎を卒業、醫術開業試験に合格し、更に内科の實地

帝大卒業當時の安行氏



研鑽を積み、三十二年今の地に開業して逐年繁榮を見つゝ現在に至つてゐるが、村醫及び校醫を囑託され、名聲いよく、高きを加へてゐる。長男安行氏は昭和二年三月慈惠醫科大學を卒業して母校内科

醫員として勤務、加藤、藤井兩博士等の信任最も厚かつたが、二豎の冒すところとなり



利 行 博 士
同 三 年 四 月 二十九日、二
十五歳

を以て夭折されたのは痛惜に堪へない。二男利行氏は明治四十年の誕生、昭和六年帝大を出、同十二年まで産婦人科教室に研究し、同年東京淺草寺病院産婦人科部長に任じ、ますく研鑽を累ね、同年四月九日東京帝大醫學部へ學位論文を提出、同十三年一月二十二日同大學教授會を通過、同年四月五日醫學博士の學位を授與され、今後に多大の望みを囑されてゐる。三男弘行君は第二高等學校の出身長女由紀子さんは日本女大出、二女酒美子さんは熊谷高女在學中の才媛である。因に「子孫永代祖先ノ墳墓ニ歸幽スヘシ」と家憲第七條にかゝけてあるが、即ち子

孫は祖先の延長であるから、在世中は隨時隨所その天職を竭すべきは勿論であるが、身後は必ず祖先の側に安息せよの旨趣に基調する。

宮城遙拜門と



同家墓地

同家墓地改修の業成るや、その域頭にまづ宮城遙拜所を

設けて家憲第一條に即し、次で祖先累代の靈を祀るもの、これ家憲第七條に則る所以であり、以て當家の現在を察し、また將來のいや榮えを知ることが出来る。

なほ嚴父六郎氏の墓誌を左に

六郎諱弘毅藤間玄祐長子也母小林氏以嘉永元年十月五日生既長遊江戸修國漢學歸郷從



銳意専心奮闘的努力家と稱される氏は先代藤助氏の男にして明治

二十一年九月十七日の誕生である。家業は農なりしも、今より約三十年前、先代の時に鯉職の製造販賣業を創始し、漸次隆盛に赴いて今日に至つた。昭和四年には率先埼玉鯉職製造組合を組織して組合長に擧げられ、現時納稅組合長を兼ねる因に家業は年産十二萬圓餘の巨額に上り同業者中に覇を稱へてゐる。長男好之助氏は武陽商業學校出身にして目下支那事變に出征中である。

手子林村上手子林

明石屋 釀造場主 杉田 昌平

當家の祖先は越後の産、早くより熊谷に轉じて釀造業を經營し來りしも、三代目に至り、萬延元年當地に移り、引續き

事教育次入實行教舉庶務幹事進中教正任山梨縣直轄教長性實直而廉潔宣傳忠君愛國之思想將涉全國竭力于斯道偶爲二豎所侵不達素志而歿時明治三十九年十一月二十九日也享年五十九後贈大教正配名曾乃小菅友七長女也舉三男子有故大歸長男西一郎繼其後、

(以下省略)

加須町久下

山 屋 河合 新助

電話加須二四七番



努力の結晶

當家の清酒釀造業は先考助次郎氏の創業に係る。助次郎氏は新潟縣刈羽郡西中通村字春日に生れ、明治二十二年二十七歳の時當地に來り開業し爾來盛業今日に至れるものにして、その釀造に係る「東一天」は品質良好、左黨の愛飲措く能はざるもので、各種品評會その他に於て入賞七回に及び、年産二百石弱に上り、販路も年々擴張の一方にある。當主河合新助氏は先代の長男にして明治二十六年八月十一日の誕生である。不動岡中學校卒業後専ら家業に精勵して今日に至り、良品なるが上にも更に研究を積み努力を累ねて益々優良品として需要を多からしめてゐる。家庭には母堂健在し、夫人との間には三男一女あり、長男健吉氏は不動岡中學校を卒へて、目下東京に遊學中である。

騎西町

鯉職製造卸商 金子猪之助

電話騎西四七番

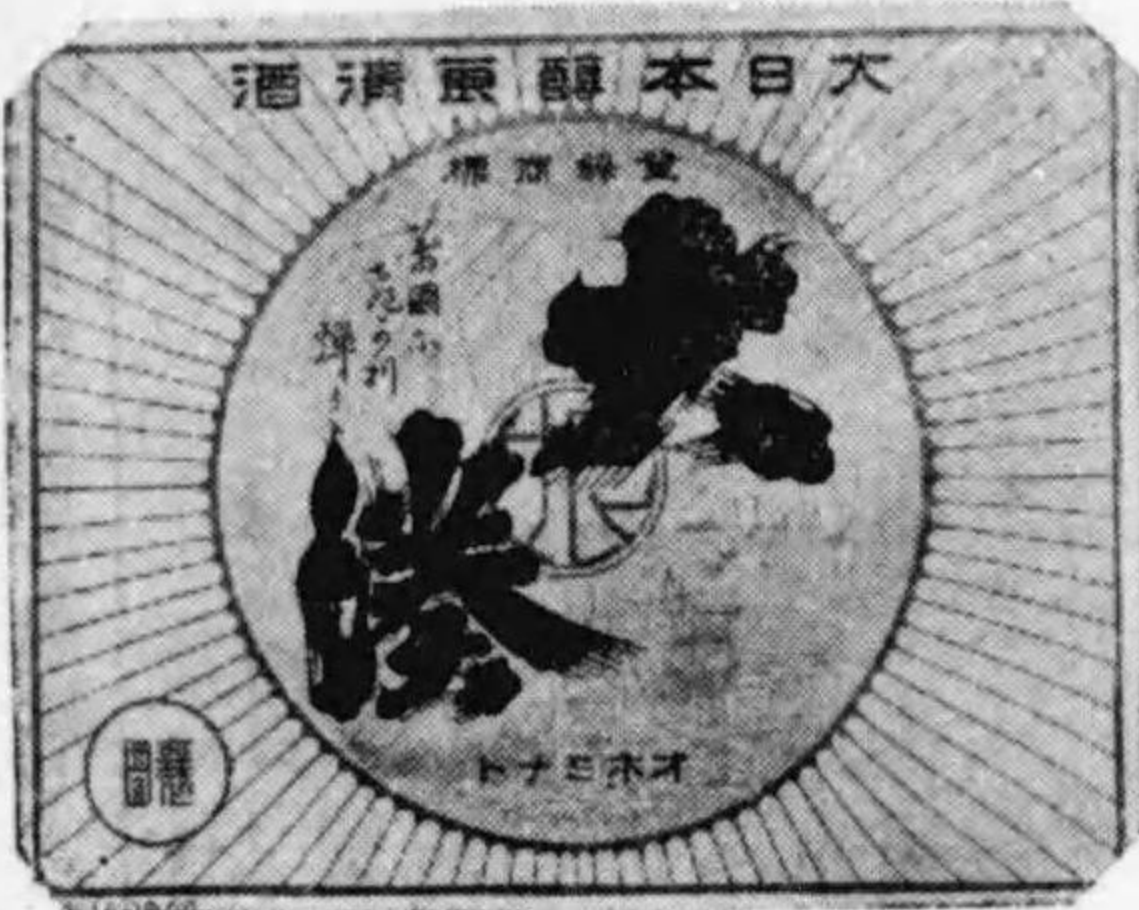
酒釀造に従事して當主昌平氏に至つた。氏は先代房雄氏の男にして明治四十四年三月六日の誕生である。不動岡中學校卒業後、一年志願兵として近衛歩兵聯隊に入營し、昭和八年少尉に任官した。現在

坪の廣さである。なほ家庭には祖母、慈母共に健在し、令夫人とは琴瑟相和してゐる。令弟は東京市根津酒造會社に勤務し、三弟は目下北支派遣軍に屬し出征活躍しつゝある。

種足村下種足

釀造業 池内直二

當家は先々代までは鴻葉村字芋莖にて農を業とせしが、先代勘造氏は三十二歳



明石屋の大湊

家業の傍らに在郷軍人分會長に推舉されて日夜盡瘁奔走してゐる。釀造の銘酒「大湊」は年産七百石に上り、縣内は勿論、廣く縣外へも盛んに移出し、好評を博してゐる。従業員は十名、釀造場は百五十



池内醸造所

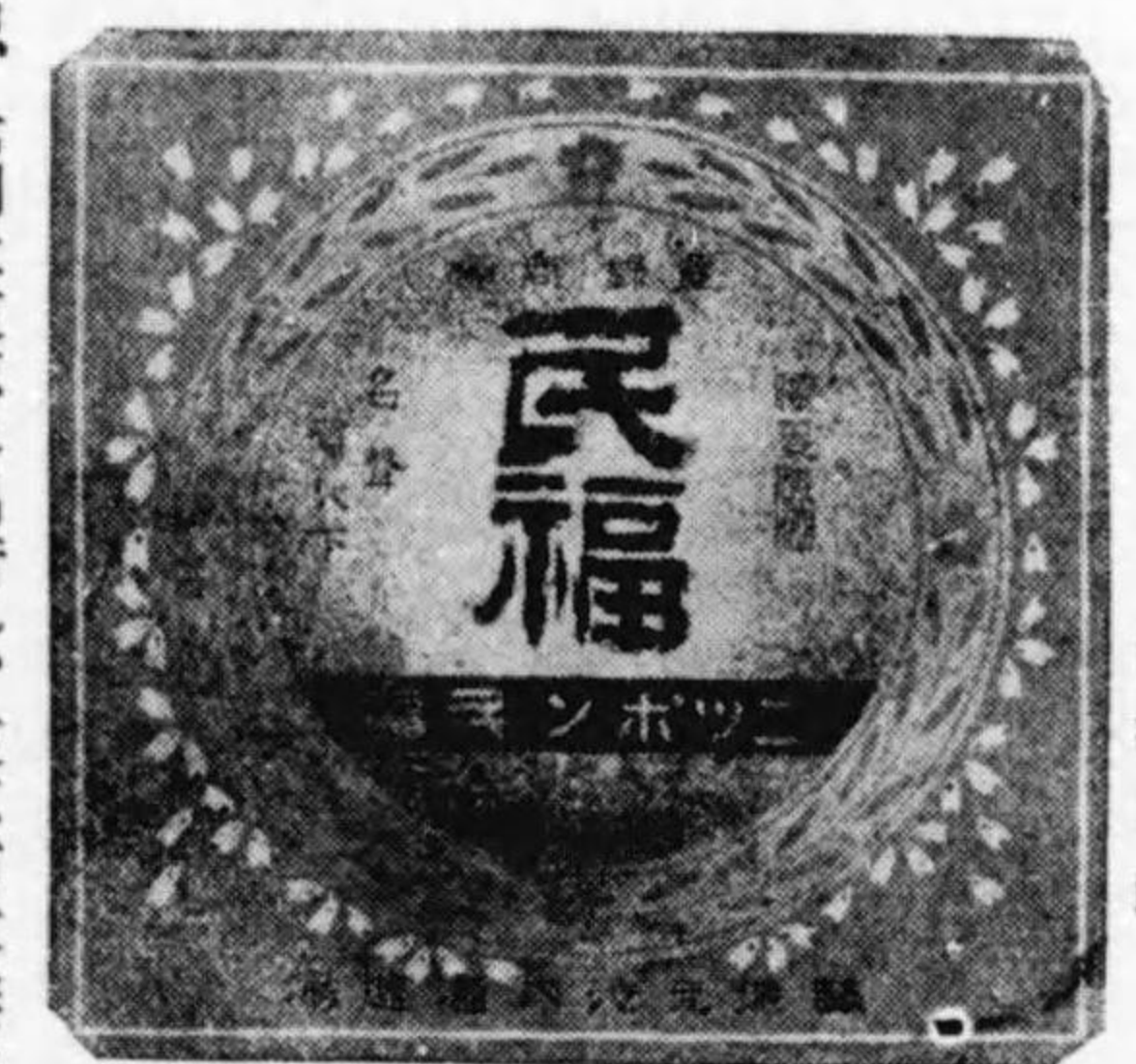
の時當所に來りて酒造業を創め、内山屋酒造場として大いに隆盛し、製品は品評會や共進會等に於て屢々受賞の榮譽を擔



梅擬正宗

つてゐる。先代はまた信用組合理事、村會議員に擧げられて自治にも貢獻するところあつた。當主はその長男として明治三十一年一月二十四日に生を享け、不動岡中學校卒業後麻布歩兵第三聯隊に入營し、滿期除隊後在郷軍人分會に關係して副分會長に推擧され、又郡聯合分會理事

に就任し、現在は分會顧問及び消防組小頭を兼任される。趣味は釣魚。家庭には母堂、令園のほか三男一女があり、二男敏輔君は不動岡中學校在學中。なほ内山屋酒造場は、工場八百七十坪、ニッポン民福及び寒月の二銘酒を醸造し、年産四百



銘酒民福

石、七割は東京に出荷し、東京市大森區入新井町に事務所を持ち、主に三岩食堂に入れてゐる。左黨に好評あり、年毎に

販路を擴張しつゝ、當地方醸造界に大いに氣を吐いてゐる。

志多見村

日の出屋

蓮原 キク



婦徳の龜 鑑といはれるわが蓮原キクさんは明治三十年一月十五日

本村字馬内蓮原師の長女に生を享け、手子林村熊井菊次郎氏の三男惣治郎氏を養子に迎へた。惣治郎氏は僅か二圓の資金を以て青物商を創め、夫婦協力し、夜は一時に休み、朝は四時に起き出で、碎身鑢骨の辛苦を重ねて漸次家業の繁榮を見その間八男二女を儲けたが女中も頼まず子守も傭はず、その費用だけを見積つて貯金せしに約五千圓に達した。然るに惣治郎氏は三十五歳の頃より胃を害し、藥餌の効もなく四十三歳にして遂に永眠し

た。女史はこれを悼み、夫の靈を地藏尊に刻んで毎日祈願し、夫生存中の計畫たりし家屋を新築し、十人の子女にもよく教育を施して學校時代にはいづれも模範生といはれ表彰を受くるの光榮を有せしめた。

手子林村下手子林

小暮ゴム

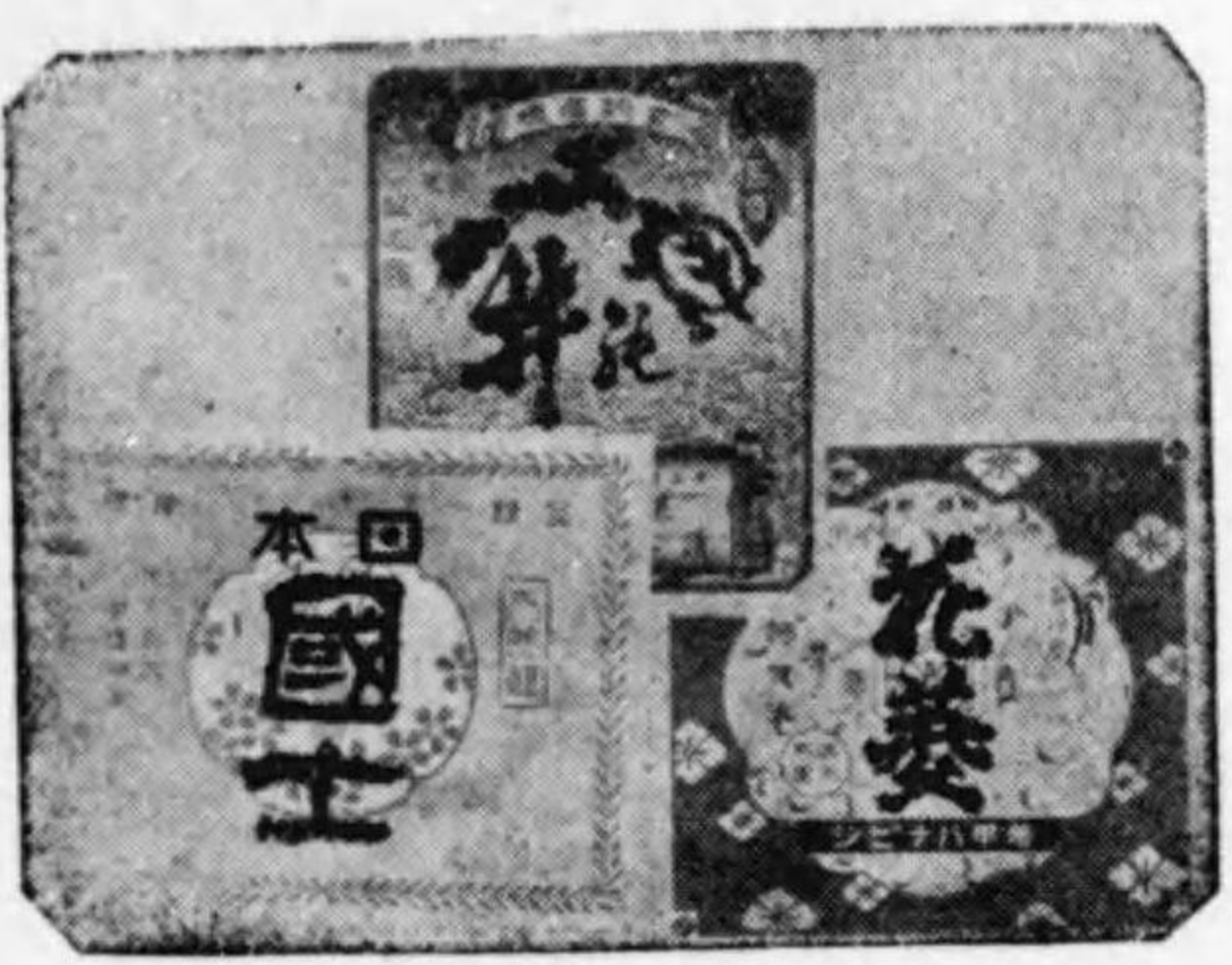
工業場主 小暮 勝治郎

電話羽生三一一番

活動家であり事業家である氏は、先代卓助氏の男にして明治三十五年九月十五日の誕生である。夙に先代の創始せる精米業に従事したが、昭和八年三月小暮ゴム工業場を興し、六百坪の敷地を擁して地下足袋及びゴム靴の製造販賣を開始した。現時従業員九十五名を算し、地下足袋五萬足、ゴム靴七十五萬足の年産あり行田、羽生、熊谷方面を主要販路とし、年飛躍的發展を遂げてゐる。家庭には兩親、令夫人、長男富彦君、次男政市君のほか二男三女がある。

種足村

清水 富五郎



三 大 銘 酒

當家は先代富五郎氏の時に清水五左衛門氏宅より分家せるものにして、當初農

を業としたが、明治十三年、先代三十歳の時から清酒醸造に従事し、研究に研究を重ねて、現在の如き縣下有数の醸造業者となつたもので、清酒「龜の井」「花

菱」「日本國士」の名を知らぬ者なく、年産千二百石に達してゐる。各種共進會や品評會等に於て褒狀賞状を受くること再三ならず、名聲は年と共に高きを加へてゐる。先代は永年村會議員に任じて自治につくし、當主はその男にして明治十一年九月七日の出生、夙に清酒の改善に志し、精勵努力すること多年、また埼玉縣酒造組合評議員となり該組合の發展向上に努め、その功績顯著なるにより、昭和八年九月、組合長より功勞賞を授與された。

禮羽村禮羽

米菓製造卸商

相澤 力三郎



當家は、先代作吉氏の代に當村字馬内相澤惣治郎氏宅より分家し

たもので、分家獨立と同時に青物及び菓

子の營業を創めた。氏は先代の長男として明治二十四年十一月九日に呱呱の聲をあげ、十三歳の時、父に他界され、爾來刻苦精勵よく今日の地位を築き上げし努力



場の工のそ

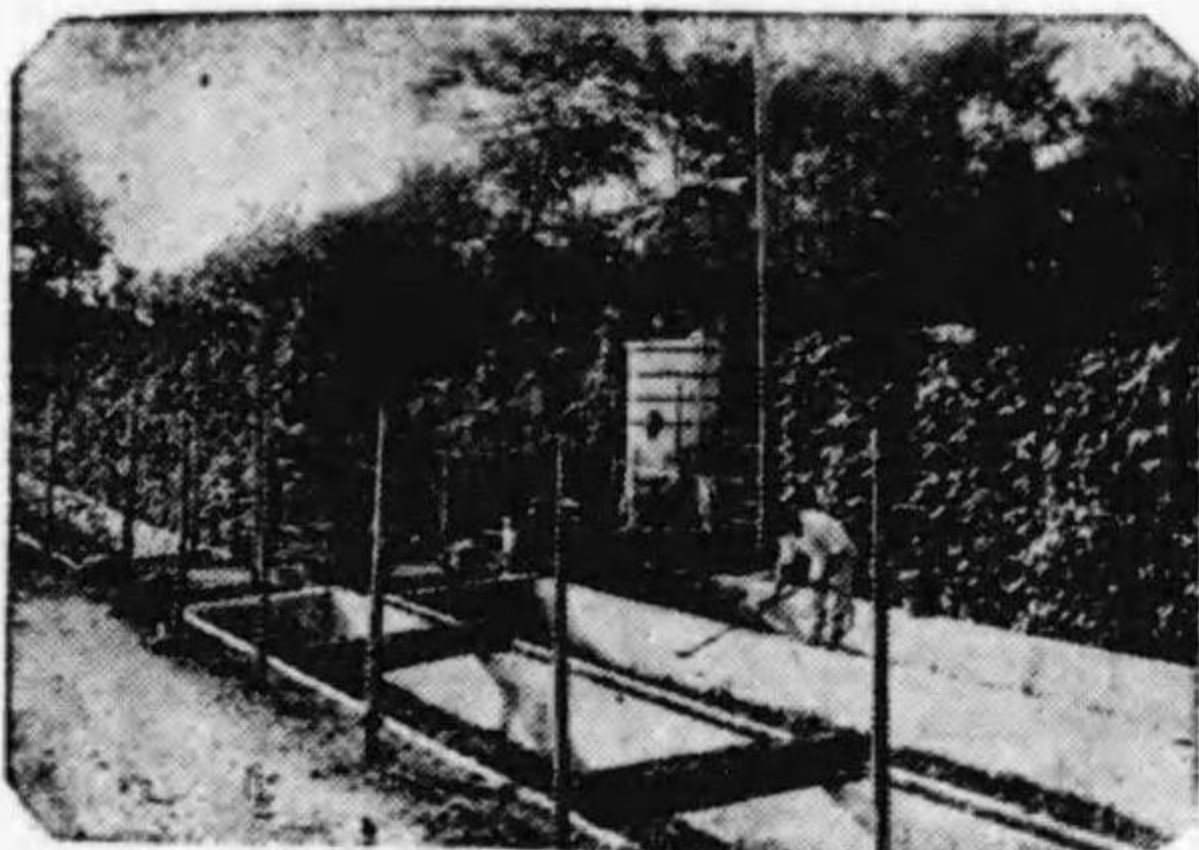
十坪、分工場が三十五坪の面積がある。しかも氏は埼玉米菓組合長二期をつとめ現在は同組合顧問に推されて業界のため貢献裨益しつゝある。長男喜一郎氏は支那事變に出征中、二男富一氏は海軍志願現役兵、二女桃子さんは久喜女學校在學中である。



氏は先代吉藏氏の長男にして明治三十一年五月三日の出生である

三俣村北小濱本田
三俣副業農事
組合種木販賣所 清水作次郎

大正四年頃より副業として樺に發生する椎茸栽培を志し、幾多先進地を實地見學して研究を積み、昭和四年頃よりこれを本業とし、三俣農事組合なるものを起し帝國農會及び農林省推奨の下に、補助金を受けて、今日ではフレイム栽培場（七



場の培栽

十七間のコンクリート造りの温床）を作つて冬季の栽培に充て、夏季は四坪の地下室で栽培し、春夏秋冬を通じて栽培生産しつゝあり、年産三千貫餘の生椎茸を出荷してゐる。販路は東京方面を主とし近來益々珍重され、農家副業としても漸

次降昌に赴かんとしてゐる。曩に北埼玉郡農會より表彰さるゝの榮譽に浴した。家庭には長男眞作君、長女みな嬢のほか

三人の令嬢がある。

手子林村神戸

小島染織
工場主

小島平朔

電話加須一六四番



氏は先代九萬平氏の男にして明治十五年六月二十九日の出生、不

當場マークの一



し、家業織物業に従事する傍ら村會議員並に埼玉産盛同業組合長として努力貢献しつゝあり、また埼玉ゴム工業株式會社重役として重きをなす。資性温厚篤實、家庭には三男四女あり、長男義朝氏は桐生高工の出身である。因に小島染織工場は明治十六年先代の創業に係り、爾來五

同二



十有餘年、廣巾加工綿布並に本場青綿の製造販賣に従ひ、殊に紺色染物に特色を有し、絶対に褪色の憂なき堅牢なものと有して知られ、主要販路は忍、加須、羽生各町及び東京方面で、年産八萬反にのぼり、従業員は三十六名を有し、業界稀に

見る堅實な業態を示してゐる。

種足村上種足

石川煙火
工場主

石川重三郎

當煙火工場は明治二十八年先代石川眞龍氏が三十五歳の時に創業せるものにし



クーマるた々噴聲名

て、煙火營業販賣の許可を得たるは縣下で第二番目である。業績年と共に隆盛を加へ、昭和四年先代永眠により當主石川

重三郎氏これを繼承し、新に玩具花火の製造を開始した。氏は明治十二年二月十五日の出生にして、郷校を経て埼玉英和學校に入り、これを中途退學後は中島武山氏に師事して漢籍を學んだ。家業に對しては頗る熱心をきはめ、煙火に對する



その二

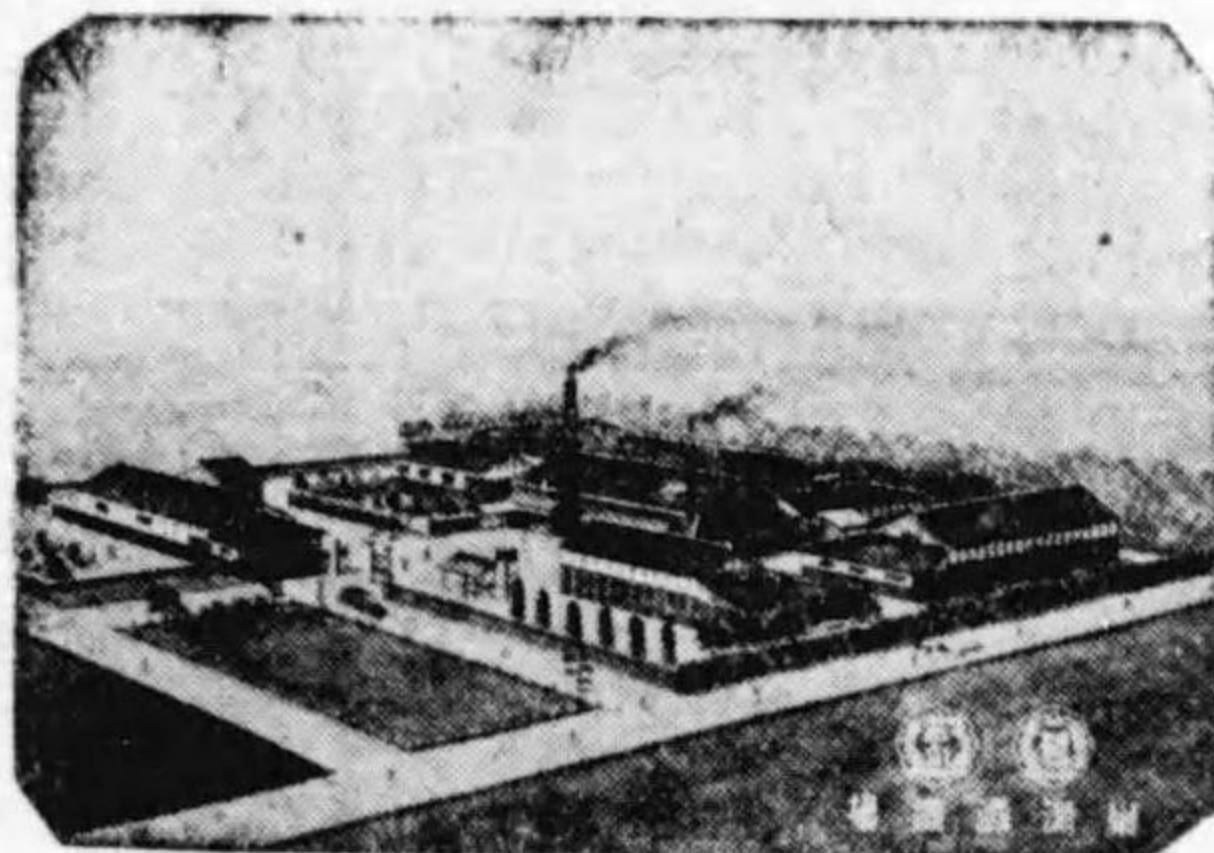
賞状を受けしこと一再ならず、昭和八年には從來の家内工業的なのから近代的工場組織に變更し、現在工場敷地六百坪建坪三十五坪あり、揚玉四千發、玩具として五百箱の年産あり、毎年東京市招魂祭に出品して名聲赫々たるものがある。

種足村中種足

稻卷司正宗
醸造元

巢瀬 重吉

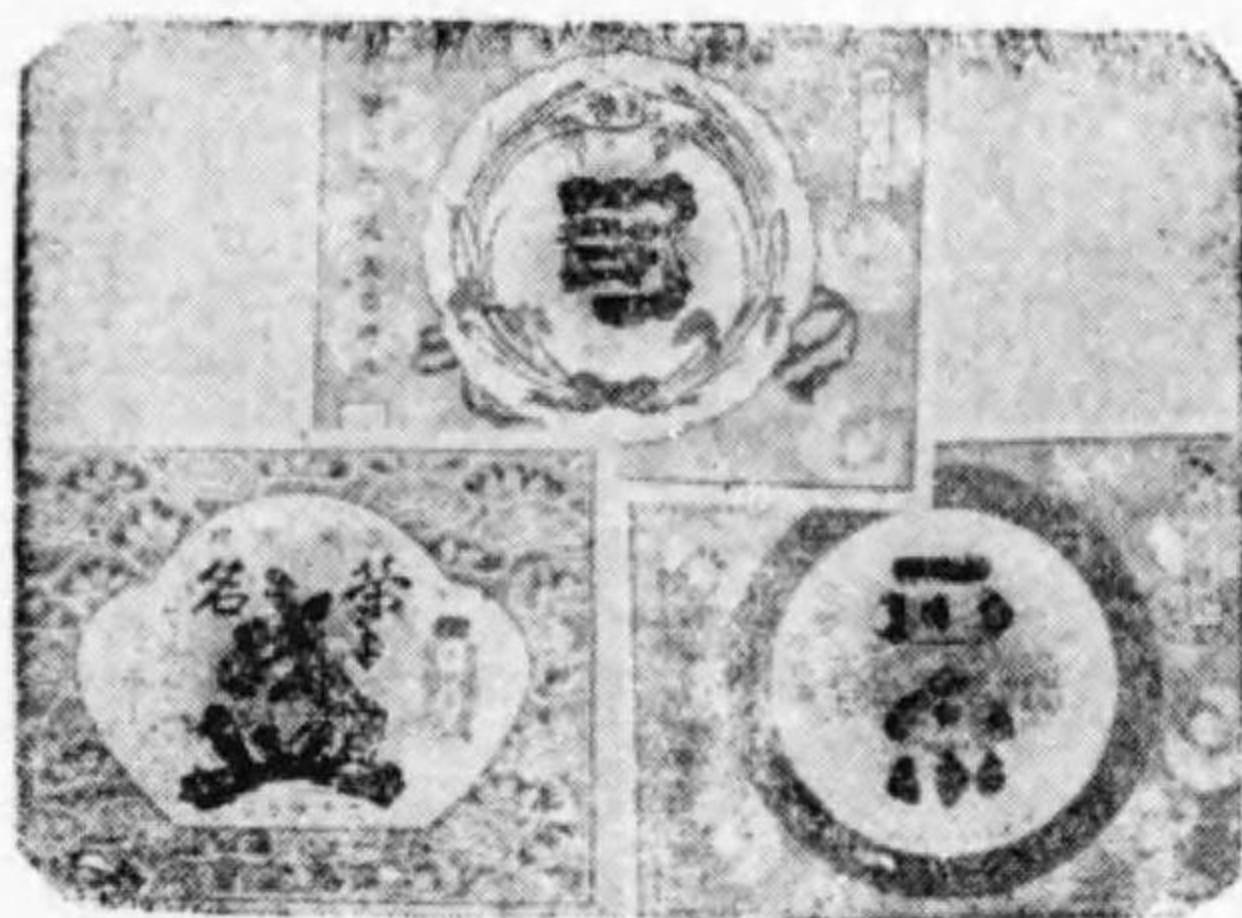
當家は先代金太郎氏三十七歳の時、北足立郡桶川町巢瀬善太郎氏宅より分家し



醸造場

て酒造業を肇めたるものにして、當主は二代目である。明治十二年十月二十七日の出生にして郷校卒業後は専心家業に精勵し、稻卷司、稻卷正宗、榮名盛等の銘

酒年産八百五十石に及び、各方面の共進會や品評會に於て入選受賞すること數回にのぼつてゐる。しかも村會議員、産業組合理事等に推されて公共に盡し、殊に消防組には私設時代から貢獻し、先年加須警察署に於て消防功勞賞を授與されるの光榮に浴した。現在は學務委員をつとめる。長男強平氏は埼玉實業學校卒業後



銘酒ツレテ

一年志願兵として騎兵第十五聯隊に入營し、昭和十二年滿期除隊後早稻田大學經濟科に入り現在勉學中である。

禮羽村

鯉織發賣元

橋本彌喜智

當橋本家は先代政治郎氏の時まで三俣村に居住せし舊家にして農を業としたが

献上のお雛様



當主の代に至り大正二年より鯉織製造販賣業を創め、時代の趨勢に應じて雛人形製作を昭和七年より開始して今日の繁榮を見るに至つた。氏は明治二十五年十二

月十三日の出生にして、斯業に對する努力熱心は他にその比を見ず、曩に飯沼縣知事の視察の榮を受け、昭和五年には皇



令息初雄氏

太子殿
下に鯉
織を獻
上し奉
り、ま
た同八

年には秩父宮殿下に勸進帳の雛人形一組を献上するの名譽に浴し、昭和十一年四月東京日日新聞紙上に當所の概況が詳細洩らさず傳へられるなど、隆昌愈々盛んなるを示してゐる。長男初雄氏は東京市淺草區藏前の雛人形師津田寶玉師に師事しつゝあり、なほ家庭には長女宇多子嬢がある。

手子林村下手子林

中島染織工場

中島 長藏

電話羽生三一〇番

當家の染織業は、明治五年、先々代長太郎氏の創始に係り、先代は家業の傍ら村會議員等に任じたる自治功勞者である工場五百餘坪にのぼり、青織生産を主に年約八萬反の多きを算し、東京七分地方三分の販路を有し、耐久力強くして廉價なるを特色とし、大正博覽會や平和博覽



製成品の一

會に出品していづれも優等賞金牌を授與されし優良品である。従業員は三十名を



二のそ

かぞへる。工場主中島長藏氏は事業に熱心なる努力家にして、従業員よりは勿論のこと普く信望をあつめてゐる。

岩瀬村

自治功勞者 故入江幾三郎
教育功勞者

村長、助役、郡會議員等を歴任されし翁は慶應三年の岳降にて漢學英語學に造詣深く、私利私慾のない學者肌の材幹である。日常、暑い、寒い、うまい、まづ

い等のことは決して云はなかつた。毎朝四時には起床し静かに讀書して家人の起るのを待ち、家人が起きると家の持田を一廻りするの習慣であつた。



村長在職中村の爲になると人にいはるれば先づ自ら體驗研究して後、村に施設するといふやり方であつた。村内の小學校は勿論、不動岡中學校の創設は全く氏の力によるものである。昭和七年他界さる。長男一郎氏は北海道宮部家に養子となり、次男氏は天折したため三男電氏が家督を嗣いだ。電氏は明治三十五年の生れ、競進舎甲種蠶業學校出身にて正八位陸軍騎兵少尉、現に在郷軍人分會長をつとめる。

種足村中ノ目

元小學校長 岡田三右衛門



資性温厚篤實、讀書に趣味を有し、俳句和歌に堪能なる氏は、先

代要太郎氏の長男にして明治十三年九月六日の出生である。先代は安政六年の岳降にして、十八歳の秋より國民教育に従事し、三十有餘年間、兒童の教養、青年の薰陶を樂しみ、最も力を種足村と騎西町との育英に盡し、昭和四年その薰化を享けし者相計つて頌德碑が建設された。當主も亦早くより育英に意を用ひ、明治三十六年埼玉師範學校を出て、直に騎西小學校に奉職し、次で一時加須小學校に轉じたが、三十八年四月再び騎西校に戻り、昭和六年三月退職まで二十有八年間教育事業に終始せる功勞者である。長男一衛氏は東京高師を出て現に中學校教諭に任じ、三男君は不動岡中學校に在學中である。

太田村下須戸

篠塚増地
工場主

篠塚喜之助



先代惣吉氏は、當家は今三、代目、先代惣吉氏は早くか

ら再製品製造の研究に心を馳せつゝあつたが、四十六歳の頃より現在の事業を創始し、大正二年工場を起して今日の大なる基礎を築き上げた人で、原料及び材料



總額は三千七百圓、二萬三千五百反を出し廉價にしてしかも堅牢、

その殆んどが行田に捌かれてゐる。當主はその長男、明治二十八年十月十二日の生れ、十四歳より行田の機械工場に入つ

て斯業を研修、今、父業を繼いで懸命に努力してゐる。同業者と相計つて富朗會を組織し、その會長に仰がれてゐる。因に父君は六十八歳を以て健在、篠塚支店を本郡羽生町に設けてある。

志多見村

舊家名門 酒巻景一



當家は酒巻計之尉といひ、忍城主成田家の家臣にその祖を發して

ゐる。明治初年に暴民の爲めに火災に遭ひ、家系圖其の他の沿革記録等を焼失した。現在の邸宅は明治十三年に竣工したもので、當地切つての舊家名門である。祖父倉之助氏は多年聯合戸長として功勞あり、嚴父敬之助氏は明治三十五年以降村長たること二回、村議、衛生組合長、土木委員、その他の公職に歴任して治績

大いに擧り自治功勞者として一般村民より讃稱された。人格又極めて圓滿、智力衆を抜き、忍商業銀行取締役、貯金銀行創立者にして副頭取等地方金融界に巨歩を印した名望の人であつた。當主景一氏はその男として明治十五年二月十一日に生れ、東京市開成中學を卒へて早稻田大學經濟科を卒業後、嚴父の衣鉢を襲いで銀行業に専念し、現在忍商業銀行常務取締役、忍貯蓄銀行副頭取として淬勵してゐる。その温容なる人格と加へて矜愍の情に厚きことは、當地方人の敬慕やまさる處となつてゐる。家庭は母堂並に夫人令弟夫妻とその子供さん六人の大家族にして、景一氏には子供がない。因に敬之助氏は萬延元年二月五日の岳降、大正十四年に病歿せるものである。

太田村眞名板

舊家名門 藤間徳太郎

當家は連綿實に四十三代を傳へる舊家にして我國刀劍界の名家栗田口藤間承國



先代八世翁

の爲め入唐を仰付られ藤間左衛門國友と名乗る即ち開祖たり。二代左衛門大輔國時は禁裏北面被召出三百町を賜つた。九代光國浪人して美濃國に住み、十代國成は源頼朝公院宣の折功あり三百町歩を受く。後北條の覇に不快を覺え十二代一藤次國宗鎌倉を浪人し、武藏國忍城主成田



長男義雄氏

三十二代新左衛門國吉に至り成田公と共に秩父山に立退き浪人となつた。三十三代藤間大郎左衛門に到り眞名板村に歸り

頼に出百姓となつた。爾來當地の名主として傳はつた稀有の由緒正しき名門である。先代八郎氏は本村初代の村長として其の他の公職にも歴任し、村治産業の上に巨大な足跡と功勞を遺した自治功勞者である。四十三代當主徳太郎氏はその二男として、明治十一年一月十五日に呱呱の聲を擧げ、爾來齊家修身に専心する温厚篤實の人格者である。家庭は夫人との間に三男二女を有する子福者にして、長男義雄氏(二十五歳)は既に家事に精勵して精農剛毅の聲が高い。

田ヶ谷村

岩崎鷺之助

當家の祖は曾つて茨城縣下妻の士族にて後當村に土着して豪農として傳はつた家系である。代々名主を勤めた家柄にして、その詳細を目下寺院等に依據して調査中であるが、嚴父藏之助氏は曾つて縣會議員二期、村長一期を勤め、地方自治政界にその人格と才腕を誦はれ、一方の

百材として重きをなした自治功勞者である。安政四年の岳降にして地方人士の信望誠に厚いものがある。鷺之助氏はその男として明治十九年一月十一日に生れた埼玉中學(不動岡中學)卒業後、東京法學院(現中央大學)法科卒業した逸材である。明治三十七年一年志願をなし主計少尉に任官。歸村後在郷軍人分會を組織して永年分會長として貢献した。現在は村産業の動脈たる産業組合の理事として鞅掌洋勵し、村民の信望實に厚いものがある。趣味としては盆栽に頗る造詣が深い。家庭は夫人との間に子供さん八人の子福者にして、長男富藏君(二十二歳)は日本大學法科在學中、二男安雄君(十六歳)は不動岡中學に在學中である。常に和樂春風の家庭として知らる。

鴻莖村芋莖

小山榮

小山家は遠く大織冠鎌足淡海公から發した名門舊家で、幕政時代には名主、代



公徳心厚く、報徳感謝の日常生活を送られる氏は、至誠敬虔なる

太田村小針

田島行夫

入つたが中途にしてこれを辭し、専ら久喜町中島先生に師事して勉勞にいそしんだ。劍道は十年間の修行を積み、拔群の技倆を持つてゐる。母堂及び令閨のほか長男政光氏、長女芳江さんがある。



長男政光氏

た先代伊吉氏の如きは多年に互つて村



令孫孝夫氏

當家の始祖は田島平左衛門氏といふ、

官等を勤め、土地發展などのために幾多の功績を遺した。先代角造氏は家業の農に精進すると共に、名主としての職を果し、六十七歳を以て永眠した。氏はその長男、明治二十七年四月二十五日の出生不動岡中學を卒へてからは一意家業に携はり、他面また消防役員として活躍するところあり、土地の衆望を一人で背負つてゐる。令弟昌氏は東京日本橋區通一丁目にて鍼灸醫を営み、西園寺公、山本条太郎氏等名士の需めに應じ、次弟賢作氏は埼玉師範を出て市村家に入婿、小學校に奉職し、三弟春三郎氏は不動岡中學、藥學專門學校を卒へて東京府立築地病院に在職、四弟浩三氏は不動岡中學を卒へるや埼玉師範二部に入り、業成るや葛蒲町林家に入籍、現に小學校に奉職するなど、一門みな顯榮の道を進んでゐる。なほ當主の家庭はすこぶる圓滿。

鴻莖村

上野仲右衛門

會議員、村役場書記、收入役、助役、産業組合長、區長代理等をつとめたる本村自治の偉大なる功勞者としてその名を知らぬ者はない。氏はその末弟に當り、準養子となつて家を嗣いだ。生れは明治九年十月十日、郷校を経て不動岡中學校に

その由來するところは遠く、江州佐々木家の末裔である。初代新内、二代幸助三代幸五郎、四代新六、五代新之助、六代竹之助、七代次郎氏で初代は農業の傍ら質商を営み、組頭をも勤めた。幸助氏は名主、三代目は産を傾けしも、新六氏はこれを挽回して再び名主となり、忍城主より三百石の知行を賜つた。當主田島行夫氏は先代新治郎氏の男にして慶應二

年十二月六日の出生である。夙に立進塾に漢籍を修め、明治二十二年より東京本郷聯隊區調兵係に任じ、その後郷里に於て村會議員に推され、本村自治のため盡すところ頗る多かつた。子弟の勉學をなさせしめるを以て趣味とし、令息令孫中現に大學を卒業せしもの五名に及ぶ。長男は明治四十五年高等官一等まで陞つたが惜しくも早逝し、令孫孝夫氏は早大卒業の經濟學士、現在東京に在つて會社員として奉職し、同龍司氏は今、帝大在學中である。

種足村戸室

舊家 若山 靜一郎

若山家は慶長年間以來の舊家として、また名門として當地方に著聞した家柄である。氏は明治二十三年八月十三日の出生、金澤醫科大學に入つて藥學を修めた藥學士で近衛師團に入營して藥劑官に任官、正八位に叙された人である。歸村後は村内のことに與り、曾て産業視察をか



祖 父 壽 作 氏

元和村平野
名望家 田口 勳

ねて滿洲にわたり、大に視野を廣うして歸國、視察によつて得たる體験を實行化へと努力、現在に及んでゐる。家庭には祖母あささん八十一歳の高齡を以て健在し、母堂しんさんは六十一歳でなほ家政を見、夫人との間に三男三女があり、和風霽々たる團樂さを見せ、他から欣美されてゐる。

して、亦當村開拓に功あり、當主の祖父壽作氏は本村二代目の村長に推輓を受け三十年以上勤績、在職中は寢食を忘れ、一身を挺して村治の改革、村民の福祉増進、村勢の發展の爲に努め、日露戰役に

當田口家は當地方屈指の名ある家柄にあり、先代福松氏も亦、壽作氏の衣鉢を襲ぎて村長の重責に在りて村治の統制その他幾多の難事に當り村勢繁榮に盡瘁し、村民の人望自ら高まつたが、不幸在職中に黄泉の人となつた。當主動氏はその男、明治三十八年の出生にて、既に幼にして學業成績優秀なる頭腦明晰な材幹、亦潑刺たる氣概を有し、立教大學英文科出身である。永らく草加尋常高等小學校に教鞭を執つてゐたが、今、某雜誌の編輯部記者として活躍中である。母堂みよし刀自は仙臺市の産婆學校を首席にて明治二十八年に卒業せる人、卒業後當家に嫁し、

夫君福松氏亡き後は女手一ツにて専ら當主動氏の保育に努め、村内の賢夫人と稱される女丈夫である。

鴻 莖 村

舊家 上野 馬吉



今より約三百年前、土岐定經氏が初めて上野家を起したもので、

代を累ぬる十回、代々農を本業となし現在に及んでゐる。氏は慶應元年九月二日來須盤意知家に生れ、十七歳頃まで珠算習字、讀書等を學習、後上野家に入つて家督を繼いだもの、同家先代故益三氏がぐつと睨んでこの男ならばと、ぞつこん惚れ込んだ人物だけに、家産を興し、村内のことに關與し、消防組役員などもして功績を數へられてゐる。長男久意知氏は當年三十五歳、郷校を卒へてから

騎西町で農業科を修得、家業に従事しつつあるが、他方また青年團幹事、消防手として活動貢獻してゐる。温厚にして摯實、なか／＼の人望家であり、これからの人材として多大の期待をかけられてゐる。因に父君の令甥上野彬君は二十三歳明治中學を経て明大商科に在學修業中である。

種足村戸室

篤行家 柴崎 末次郎



令 息 博 氏 鴻莖村 關田勝太郎氏の四男として

明治十四年一月二十九日に呱呱の聲をあげ、二十歳の時、當柴崎家の養嗣子となつた。祖先是平家の落人にて秩父より來たといはれ、相當の舊家である。實家の祖父藤藏氏は聯合役場副戸長、同助役四

期、消防組頭等をつとめ、尊父は村會議員二期をはじめ、消防組頭二期、衛生委員一期をつとめし自治界の功勞者である氏は養父の創業に係る米穀肥料商を營み商才に富み機敏の資性と相俟つて頗る繁昌を見てゐる。篤行多くして徳望普く、教育功勞者松本權藏氏の碑石を建立するに當つては特に奔走の勞を執り、多大の努力を拂つてこれを完成した。また商工會副會長を経て現時同會長の要職にあり人望愈々高きを加へてゐる。

鴻 莖 村

舊家名門 小山 嚴嵩



當家は同村小山榮氏の一族、大織冠藤原鎌足公の後裔古く歸農し

て代々農を本業となし、四代前の小山權兵衛政資氏は代官を勤め、三代前の末吉

氏は聯合戸長その他自治體の公職に就任して功を擧げ、先代天惠雄氏は農會長、消防部長等に推されて銳意盡力するところあり、今後大に成すある逸材として多くの望みを囑されてゐたが、不幸病魔に見入られて四十三歳を一期に、世を早うしたるは何ぼうにも惜しく、村人は等しく慟哭して止まなかつた。當主巖嵩氏は大正三年十月十六日その長男に生れ、不動岡中學卒業後は専ら父祖の業に勵んでゐるが、やがては村自治方面に乗り出すべく、今はたゞ眠れる獅子に甘んじてゐる。晴耕雨讀、溫順の士。祖母いそさんは六十九歳にして健在、母堂マサさんは四十五歳、夫君じき後は一家の支持に心を勞すると共に、身も世も忘れてひたぶるに子女の育生に熱と汗とを絞つた。なほ當主に三弟二妹があり、一家八人、春風の和かさをを見せてゐる。

樋遣川村上樋遣川
御室神社
内山 由藏



當内山家は始祖以來代々神職として神社に奉仕せる舊家名門にして、當主は先代鐵藏氏の男、明治六年四月十四日を以て生を享け、大宮町氷川神社に於て修業し、同四十年檢定により神

職會長よりその勳功を賞して感謝狀を贈られ、現時北埼玉郡神職會羽生副長を兼ねてゐる。因に氏が社掌たる御室神社は三諸別主命ほか七柱の祭神とし景行天皇の御宇の創建に係る古社にして、明治五年五月村社に列し、同四十四年無格社嚴島神社ほか十數社を合併して今日に至り境内千六百八十五坪、氏子五百二十戸、崇敬者一百六十三戸をかぞへる。



御室神社

職の免狀を授與された。曾ては村會議員及び納稅組合長等の公名譽職に就いて村自治のために竭し、北埼玉郡神職支會支部長たること十有餘年に及び、先年縣神

大英寺 石田 武範
住 職

師は山口縣出身にして明治二十四年八月八日の出生、有名な芝増上寺道重大僧正の秘藏弟子として知られ、大正七年七月、大英寺住職に迎へられて入山、當時騎西町小學校に教鞭を執ること前後十ヶ年に及び、その後昭和六年六月、寺内に託兒所を設置して率先社會事業に貢獻せられ、後、昭和十年四月より更に幼稚園を附設し、現在地方稀に見る優秀幼稚園として數百の園兒を送り出し、常に五十

餘名を收容しつつあり、直接間接、町の爲め盡された功勞は絶大である。他面、寺院關係としては同宗派五十九ヶ寺組の組長として盡力されてゐる。また民枝夫人は自ら保母となつて終日園兒の教育に任じ、師との間に長女孝子さん、二女芳江さんがある。因に大英寺は淨土宗鎮西派の古刹にして本尊は阿彌陀如來、檀家は百二十戸をかぞへる。

太井村
福聚院
佐伯 盛照

溫順典雅、讀書や旅行に興味を有する師は正に文字通りの大智である。明治八年十二月二十七日の岳降にして、新義眞言宗智山派たる福聚院十八世の住職となり、寺運の興隆に力を用ひて功あり、檀信徒の敬慕を一身にあつめ生佛とまで稱されてゐる。令閨ツマさんは賢婦人の譽れ高く、長男光盛氏は成田山に修業中で既に中僧都の資格を持つてゐる。因に福聚院は不動盛饒上人の開基に係り一乘院

の末寺にあたる古刹にして境内面積二反八畝に上る。

大越村
德性寺
梅澤 眞戒

德性寺は一に康永二年の建立ともいはれ、また明和六年正月當村別當の棟梁七郎兵衛なる者の建立との一札を見、いづれとも判然しないが、藥師尊を本尊とする縣下有數の舊蹟地として知られる。曾て小山判官朝政の崇信するところ極めて深かつたといふ。鎌倉三代將軍の頃から戰勝者武士の崇敬をあつめ、靈驗顯著にして多數參拜者があつた。堂宇は大永二年に再興、昭和十年二月には縣より史蹟として指定された。師は入山以來益々御堂及び庭園の改良など、史蹟保存とこれが顯揚につとめてゐる。なほ山門建立に際しては、明和六年正月、當時大越村別當德性寺及び同村名主仁右衛門、孫右衛門、伊右衛門、長左衛門、藤助の諸氏ほか七十二ヶ村の名主連書の共同願書

新郷村仲田
律 師 仲田 圓了



翁は故圓岩師の長男にして元治元年十一月十五日の岳降である。

郷里なる熊本縣松橋町小學校を卒へ、町の醫師に從つて明治十六年二十歳にして上京、その後鴻巣町に來て樋遣川に住み鴻巣勝願寺に於て修行を積み、明治二十八年川俣村小深藥師寺住職となつて今日に至つた。資性溫厚篤實、高潔なる人格者にて庶民の信望が厚い。長男亮俊氏は大正大學高等師範部の出身にして現時岩槻小學校に教鞭を執つてゐる。なほ尊父圓岩師は熊本縣下益城郡松橋町正願寺住職たりし大智識なりしが、惜しくも五十歳にて他界された。

大越村外野

大乗院 住職 荻野 隆俊

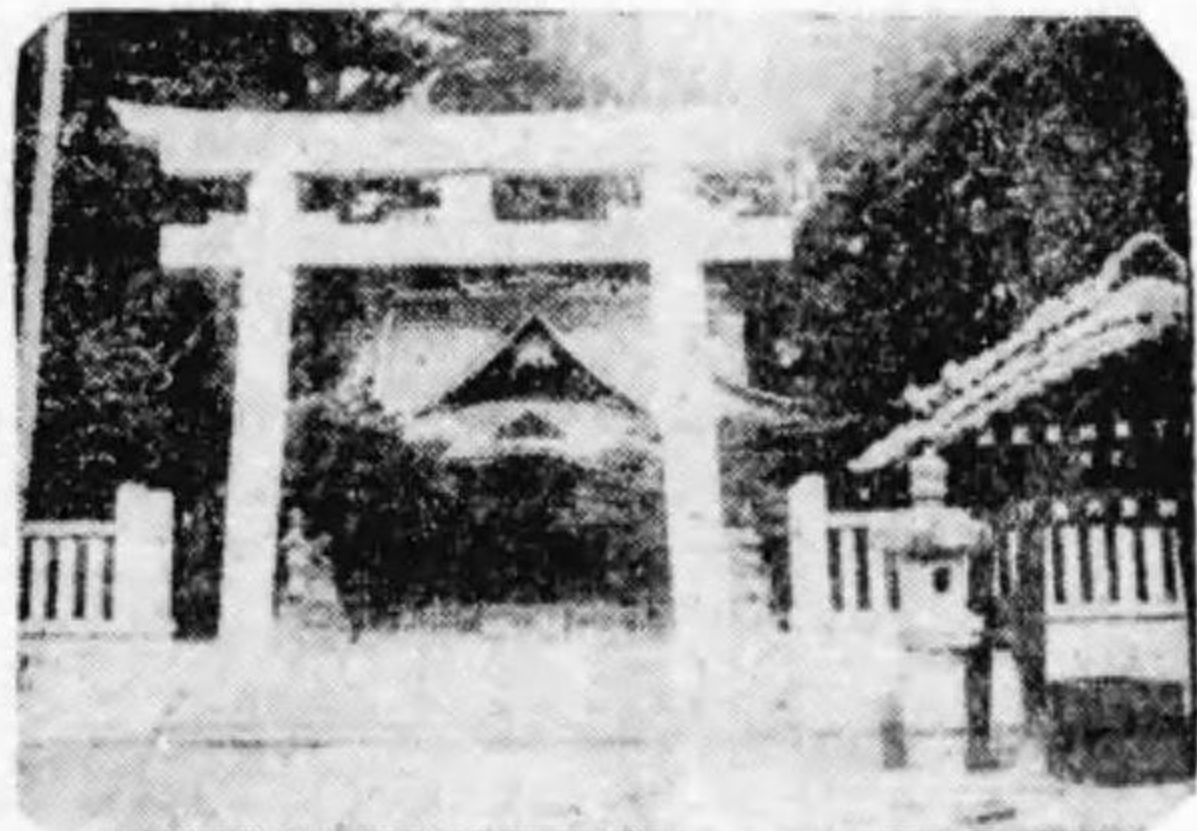
師が現住の川塚山大乗院は眞言宗に屬し、創立當初の本尊は阿彌陀如來であつたが、今は不動尊を安置する。十代目住職智隆法師は發戶村木村氏の産にして十九歳の時大病に罹り、同村觀乘院觀音に行水詣りする中、阿彌陀如來のお告げにより出家となり、法兄聖學法印に隨つて諸國巡錫の砌り、毘沙門天に祈るに金なきため兩手小指の先に燈明を點じて祈り居るうち、瓦の上に金銀の雨降りかゝり即ち翌日屋上を見るに蠶豆大の舍利二粒を得、その後寛政二戊年に當院に隱居せる名僧である。春秋二回の延命地藏尊祭あり、賑ひを呈する。

騎西町騎西

社 玉敷 神社

電話騎西二〇番

當社は延喜式内の古社で、明治維新前



は埼玉郡中の總鎮守、騎西領四十八ヶ村の氏神であつた。人皇第十三代成務天皇の六年に兄弟毛比命が武藏

國造となつた時、出雲大社の御分靈を祀つたとも、また第四十三代文武天皇大寶



河野 社司

とし、天照大神ほか四柱を配祀する。永祿五年、上杉謙信が私市城攻撃の時、

兵燹に罹つて社殿寶物等烏有に歸し、寛永年中、騎西城主の命により再建され、社領の寄進を受けた。現在の本殿は文化年間の建築で、拜殿は明治三十一年の竣工である。明治五年郷社に列し、大正十三年縣社に昇格した。古來御獅子と稱する神寶は庶民の尊信が極めて深い。例祭は十二月、大祭は四月、七月の二回。境内神社九社を有す。社司は河野省三氏である。

不動岡町下谷

安養山生善院

當寺は不動尊を本尊とする。眞言宗の古寺である。羽生町正覺院を本寺となす本堂、山門、鐘樓、庫裡等整然と並び境内七百坪、田畑一町三反三畝に上る。行事は彼岸、盆(八月十五日)を盛大に執行する。檀家百四十五戸あり、檀家總代は矢島政吉、矢島大右衛門、安藤又兵衛の諸氏である。現住職は矢島冥海師である。師は極めて矜愍の情に厚く、溫厚篤

實の人、高潔清廉の人格と共に村民の信望厚いものがある。

荒木村荒木

聖徳山天洲寺

慶長十二年八月、忍町清善寺五世住職によつて開かれし當寺は、釋尊を本尊と



當山御本尊

し、開山以來寺稱に變りなく、明治二年境内分割上地した。古來大阪四天王寺の末寺といはれ、當山所有不動産二町歩餘あり、聖徳太子堂は荒木承藤原長善氏の開基に係り、昭和七年、本堂と共に新築された。附近には太子島、太子沼、長善沼など當寺と關係深き名所あり、毎年

二月二十二日の聖徳太子例祭には遠近の信者集りて頗る盛大を極める。檀家は二百五十戸、總代は田代三郎右衛門氏である。

住 職 師は明治二十五年一月二十一日

中島孝雄 日の岳降にして、當山第二十

六世にあたり、小田原中學校の出身、曾



て忍北尋常高等小學校訓導たること二十ヶ年に及び、本堂改築の功

勞により本山の表彰を受けた大智である日支事變と共に村、銃後統制委員に推されて邦家聖戰のために努力しつゝあるの外、埼玉縣佛教社會事業協會北埼玉郡第一支部評議員を兼ねてゐる。夫人との間には四男一女がある。

岩 瀬 村

無邊山廣大院法性寺

當寺は殘微和尚の開基にして阿彌陀佛を本尊となし、宗派は淨土宗である。古くより徳川家御朱印寺として知らる。鴻巣の勝願寺を本寺となし、末寺は吉住院永眞寺、西福寺、大勇寺等がある。堂宇は本堂建坪三十坪、庫裡二十八坪に上り田畑一町五反、山林一反あり、寶物に御朱印關係の諸書類、御朱印の觀音、銅鑄の地藏像、百萬遍珠數がある。行事としては二月二十五日の御開山忌、施餓鬼、毎月の馬頭觀音祭(二月十七日本祭)等があり、盛大を極める。境内に徳川家康公手植の榎がその巨幹を誇つてゐる。檀家範圍は上新郷、住吉、中新田で檀家總代は、渡邊喜代三郎、砂川秀雄、鎗田孜、小村八郎の諸氏である。

住 職 氏は長崎の人小高木郡小江村

酒井良覺 に濱崎一太夫氏の次男として

呱呱の聲を擧げた。十一歳にて佛門に入り、久留米宗學院に修業、大正十二年上京して日本大學宗教科に研究を重ね、後京都智恩院にて修業した得度の善知識で

ある。人格極めて温厚篤實、矜愍の情に厚く地方人士の尊敬を受けてゐる。現在埼玉縣社會教育會委員、埼玉縣担任布教師、托兒所々長として淬勵し、宗教報國の實を擧げてゐる。家庭は夫人との間に五人の子供さんあり、長女愛子さんは忍女學校在學中である。

埼玉村下埼玉

小松山若王院盛徳寺



當寺は眞言宗智山派に屬する古刹にして藥師如來を本尊とし、境内七反歩餘、檀家約二百戸をかぞへ、町田正之介氏及び諸木新三郎氏を總代とする。

住 職 師は明治三十三年三月二十七日の岳降、不動岡中學校を経て大正十二年東洋大學哲學科を卒業し

直に當寺住職となつた。祖父光清師は寺運興隆のために巨額の私財を抛つた人、尊父は僧籍に入らずして農に専念し、精農家として數回表彰されしことあり、財産を現在の地位に戻した努力の人である

川俣村本川俣

附蛇落山延命寺



相澤英賢師

當寺は人皇五十代桓武天皇の延暦十八

年の建立に係り、開基は勝道上人、新義眞言宗智山派に屬し、千手觀世音を本尊とする。寶永七年の利根川洪水、享保二年の火災等二度の厄難に遭つたが、忽ちに復興した。然るに明治に至つて再び祝融の災に遭ひ、大正七年本堂及び庫裡を新築今日に至つた。境内五百坪を越え、觀音堂がある。本尊像は勝道上人の御作

といはれる寺寶である。檀家は約二百戸總代には杉田千一、今西清、中村治三郎の三氏が任ずる。住職は德行高き相澤英賢師である。

大桑村南篠崎

星光山普門寺

新義眞言宗智山派に屬する當寺は、十一面觀世音を本尊とし、文明二年に創建され、天保年中及び明治十年の兩度本堂庫裡等祝融の災に遭ひたる爲め、古記録等も同時に焼失されたが、現在の仁王門は慶長年間の建立なりと傳へる。本尊の靈顯は顯著にして、毎年六月十七八兩日



英淨淳師

は觀音經讀誦の慣習がある境内二千五百

五十坪。大桑、三俣、豊野、川邊各村を檀家範圍となしてゐる。

住 職 師は第三十二世にて權中芙蓉淨淳 僧正の資格を有す。總代には大越潤一、大越眞一、杉田晋吉、杉田多十郎の諸氏が就任する。

大桑村宮前

大福寺



當寺は寛文年間、惜しくも火災の爲堂宇及び什寶其の他焼失せる

に依り、その創建、開基、開山等不明であるが、口傳に依りて相當の古刹と傳へられ、眞言宗新義派に屬し、藥師如來を本尊とする。現在の本堂、庫裡は寛文を経て延寶年中、時の住職慶繁師に依り再建せられしもの、故に慶繁師を以て中興開山となし爾來今に至る。境内面積及びその他を五百八十坪有し、田地三反六畝 藤井虎松、野口治男、新井庄一郎、門井

恒雄の四氏がいま總代として盡瘁をなしてゐる。

住 職

寶源師は資性温厚、高潔なる人格の持主。亦明治二十八年十二月五日新義派大學林を卒業、主管權大僧正上野克憲師より優等賞を授與せられし善知識にて、檀徒間の人望頗る厚きものあり、敬仰されてゐる。尙當寺は京都大本山智積院の末寺である。

大桑村

元縣會議員 門井東一郎

志多見村

元村長 松村芳三郎



大里郡寄居町

町會議員 大森 貞三



今、三期目の町會議員に在るの外土木委員、産業組合理事、農會監事、共和委員、保健組合長、檀家總代等を兼ねて活動し、將來に一層重きを望まれてゐる氏は、明治二十一年一月十九日先代勝三郎氏の長男に生れた逸材である。父君は明治四十五年縣師範出の教育家で、育英事業に功勞あり、人望特に厚く、在職中町會議員に選舉されたほどである。また祖父喜代藏氏も町會議員をはじめ消防頭取社寺總代等を歴任、即ち三代相繼いで一村の繁榮、利福の増進に盡瘁した功勞は村史の上に特筆大書さるべきである。夫人勢いさんとの間に五男一女がある。

南埼玉郡

小林村

小林村役場

本村は郡の最西北部に在る一農村で、元荒川と星川とに挟まれた最低窪の土地であるところから、一度降雨到つて晝夜を續けんか、全村は忽ちにして湖沼と化し、加ふるに利根川の氾濫によつて家は没し、村民居なく、衣なく、食なく、僅かに生魚を捕へて食にかへるといふ惨状を、これまで幾十回となく繰り返したとだつたらうか。本村の當事者並に先覺有志等、戮力協心耕地整理案を提げてこれが實行にと邁進、一村救済の具體化のために努力した功果は、終に有終の美を濟して、現在の明るい村たらしめることが出来たのである。これを思ふと同時に歴代村長が血みどろの盡力を思はずには

られない。

小林村の一致團結、明朗裕福の平和郷三偉材—小林村には、自治三偉材がある。その第一は同村助役また同代理村長たる島田林松氏である。氏は島田家五代目の當主、明治二十五年八月一日徳太郎氏の男に生れ、夙に自治公共の事に關與貢獻し、大正十二年より四期間村會議員に任じ、また大正六年産業組合理事に推され學務委員たりしこともある人、昭和七年助役となり、同十二年三月代理村長の椅子に就き今日に至つた。家庭には長男洋君(鴻巣中學校在學)の他二人の愛兒がある。助役岩崎貞太郎氏は元村長たりしことあり、村會議員に當選三回、また産業組合理事、同専務理事を歴任せる功勞者である。明治十二年十二月二十三日

先代勸藏氏の長男に生れ、長じて岩崎家十二代目を嗣ぎしもの、先代は二十五年間村會議員をつとめ、昭和五年七十五歳にて永眠せる徳望家、現在家庭には次男茂氏は農に精勵しつゝあり、四人の女子はいづれも他へ嫁してゐる。更に三偉材の一人は、收入役島田菊藏氏である。氏は島田代次郎氏の男として明治十六年三月十五日に出生、夙に家業に服して精農家の聞え高く、傍ら村會議員に任ずること一期、昭和六年收入役に擧げられ引續き今日に至れる資性温厚の人格者である長男清重氏は明治三十四年生れ、篤農の材といはれる。

三箇村

三箇村役場

當村は齋藤菊次郎氏を初代村長として十四代を経て、現在は缺員中である。助役は伊藤芳五郎氏を初代として、現助役武淵氏迄二十代を経てゐる。現代議士古島義英氏、元縣議小林孝作氏、齋藤信之

助氏は本村の人である。現農會長は荻野榮藏氏、軍人分會長金子芳太郎氏、青年團長荒井義雄氏、産業組長荻野榮藏氏で、學務委員は小林孝作氏外二名、方面委員は宮田孝行氏外四名である、現村勢の樞軸をなす村會議員は左記の如し。

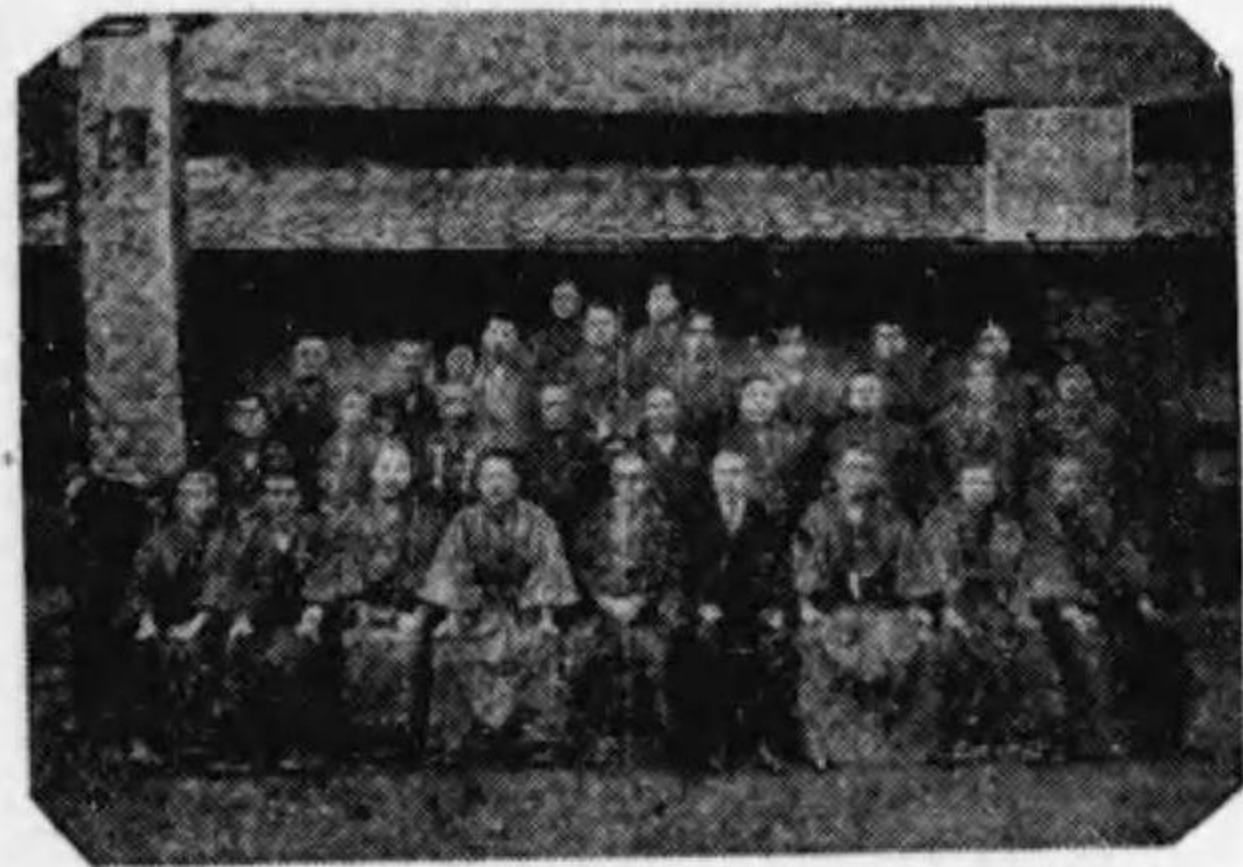
- 小林 孝作 杉原 長一 荒井 定吉
- 小山 龜吉 岩本 留吉 森山 七藏
- 荒井 重藏 齋藤彌五郎 平川豊次郎
- 荻野 定八 明石 莊介 齋藤 理八

助 役— 當家は連綿十五代を傳ふる武淵五一— 舊家にして先代七三郎氏は村會議員その他を勤め村自治の上に貢獻厚かりし人である。氏はその男として明治二十三年十二月三日の岳降、浦和中學卒業後夙に齊家修身に勤め、専ら自治方面にも思念する處あり。大正十二年本村助役に就任爾來、村治産業の實際に執掌し日夜淬勵村民の期待に答へ澎湃たる信望を博してゐる。又大正十二年以來村産業の動脈ともいふべき産業組合理事としてその伸展と内容の純化確立に太く盡瘁な

してゐる。因に長男君(二十二歳)は不動中學の出身である。

清久村

清久村役場



一方は久喜町、他方は鷺宮町、その間に位置する當村は、一の農村ではあるが交通は極めて至便一村擧げて農事の

改良、副業の奨励等に熱心邁進、着々として所期の目的を收めつゝある。村制施かれて以來の村長は、内田立輔氏を初代に、瀬田繁太郎氏、橋本辨藏氏、高木亮

助氏、細見勸兵衛氏、眞田陸三郎氏、瀬田喜藤治氏等相繼いで鋭意村治の刷新、發展に努力し、以て村民の福利増進を圖りつゝあるが、現在は村長を缺き、現助役中村勝一氏が一切を處理してゐる。なほ寫眞は仁丁町農事改良組合が、優勝旗拜受の際の記念撮影である。

助 役— 當家は氏を以て十五代目と

中村勝一— する屈指の舊家にして、始祖以來十三代目までは代々増右衛門氏を襲名せる名門である。先代要吉氏は助役をはじめ村會議員四期その他の公職に就かれ、村治のため盡力されし所多かつた。當主は明治十六年十月二十三日の誕生、東京京華中學校卒業後、常盤町農學校に學びし智識人にして、日露戰爭には勇躍出征、各地の會戰に武勳を樹て勳八等に叙された。凱旋後は家業たる農業に従事しつゝ社會公共の事に盡瘁し、養蠶實行組合設立に際しては特に功勞顯著なるものあり、創立以來の組合長として今日に至るほか、現時清久村助役五期目及び村

會議員を兼ね、民政黨に所屬する地方人材と普く聲望がある。長男武保氏は大正七年の出生、杉戸農學校卒業後教育界に身を投じ兒童より敬慕されてゐる。

柏壁町川久保

縣立 柏壁高等女學校

本校ははじめ修業年限を二ヶ年の柏壁町立實科高等女學校として明治四十四年四月に設立されたもので、柏壁尋常高等小學校長川上定之丞氏を校長に兼任、昭和四年組織を變更して修業年限を四ヶ年となし、同五年四月縣移管となり、縣立柏壁高等女學校と改稱、沼田龜之介氏二代目校長に補せられ、同七年四月兩陛下御眞影並に勅語謄本を奉戴、同年五月石井潔氏を三代目校長に拜し、同九年三月四代目校長として大森元幸氏赴任し、同年十一月高崎市乘附練兵場に於て御親閱を拜受、同十二年四月現校長馬淵友次郎氏着任、今日に及んでゐる。校地の總面積八一〇〇・〇〇坪、すべての設備全く

成り、これまで卒業生を送り出すこと實科高女本科で十八回、同補習科で十四回縣立として七回、その數實に一千三百餘人に達する。現在生徒約四百人を擁し、本校主眼とする教育方針に向つて一歩力進してゐる。因に馬淵校長は山梨縣出身東北帝大法文學部を出、多年教育界に投じ、前には柏壁中學校教諭として名聲を馳せた人、濃厚篤實、恪勤精勵の人格者である。

久喜町

縣立 久喜高等女學校

一、女は女らしく女の道を歩む事によつて自らを尊くするものなる事を覺らしめ、内に美しき心の姿を整へこれが外に表はれて自ら美しい容姿言動となるやう常に女徳の涵養に努む。
二、明敏なる頭腦の持主として健全なる常識を備へ中正の思想を持し明確なる判斷力を有し、卓越せる識見ある婦人たらしむべく、常に實際的知識技能を

修得と貴重なる體驗の蓄積とに努む。
三、國家社會の一員として尊き使命を有する事を自覺せしめ強健なる身體を保持し、家庭を通して其使命を果し得る有爲なる婦人として全き人たらしむるやう努む。

といふ教育指針の下に大正八年四月、久喜町外十五箇村組合立として生れた本校は初め久喜實科高等女學校と稱し、同十年二月縣に移管、名も縣立久喜高等女學校と改稱、卒業期を累ぬる事十六回、一千七百餘人を送り出してゐる。北足立北埼玉、南埼玉、北葛飾、茨城縣猿島各郡を學區となし、高柳悦三郎氏を初代校長となし、笠原義平氏、寶月勇三郎氏に次で昭和十一年五月宮川武氏着任、現在に及んでゐる。現任職員は二十名を數へ、極力校是に副ふべく懸命努力してゐる。

菖蒲町

菖蒲町信用販賣購買利用組合

して町自治の上にも極めて重要な役割を果しつつある。

久喜町新町

金山鈴木商店

電話久喜四番

當組合は明治四十四年三月十一日、當組合の功勞者である新井利兵衛氏が初代組合長として設立許可されたものである。大正七年二月十七日信販購組合に大正十一年利用の四種組合となり、昭和八年保證責任と變更され、左記の如き累年の發展を見た優良組合である。

新井仙吉、新井伊三の諸氏であつた。組合員中商工關係百十數名、農業三百七十一名、法人一組合となつてゐる。本組合の伸展は今後愈々その本格的協同統制に俟つて、内容に事業成績に多大の期待を持ち得るものである。

組合長 當大熊家は多年町長、縣會大熊一郎 議員を爲した當町の名門大熊榮作氏の分家にして、先代權内氏の創家に係り専ら齊家修身に勉め、積善の人として知られ、公名職に關與せず、資産を興隆した人である。一郎氏はその男として明治二十二年十二月二十六日に呱呱の聲を擧げた。不動岡中學卒業後漢學を修め資性稀れに見る清廉且つ眞摯熱意の人の温容なる風格を持し、町民の人望厚いものがある。曩に當産業組合理事として、事業の伸展、統制の純化に寧日なき碎勵を續け、町産業の動脈としての立場から、その功績顯著なる事業目的一致する處となり昭和七年組合長に推され益々盡瘁中にして、尙昭和四年以來町會議員と

大正二年	昭和二年	現在
貸付 一八四九	九一四二八	八〇一九六
貯金 六〇八	一三三〇〇〇	一七七一六三
購買 一一八〇	一七三五	五四二一一
販賣	二〇四九三	九四八七一

組合長は初代新井利兵衛氏二代新井與吉氏三代大熊新平氏四代大熊一郎氏である。大正十年設立工費一萬六千餘を費して農業倉庫の設置を見、収容力七千俵に上る。大正十年埼玉中央會より優良組合として表彰を受けた。附屬事業として昭和十年より賣藥業をも營む。尙創立當時の理事は青木清太郎、青木佐太郎、監事



商店と醸造場

當商店は昭和二年九月合名會社組織となりしものなるも、古く弘化四年頃より醸造業を營み來り代表社員鈴木仙右衛門氏を以て四代目とする。店員十三名、職人二十數名を使用し、年醸造二千石、六



商 店 代 表 的 の マ ー

割までは東京市内に販賣し他は群馬、栃木、茨城、千葉等の近縣及び本縣内に賣捌かれる。品評會、共進會等に於て優等賞その他入賞すること數回、品位良好なること夙に定評がある。本店事務所は滋

賀縣蒲生郡北比都佐村にあり、經營主鈴木氏はその村長をつとめられる。支配人町田貞吉氏は明治十八年十月一日の出生群馬縣沼田中學校より前橋中學校に轉校して卒業し、鈴木商店に入つてから三十有餘年に及び、昭和十年支配人となり今日に到つた。

蓮田町

蓮田町長 齋藤 專一

氏は先考氏男として、明治十九年十二月の岳降である。尊父は多年村會議員、學務委員として村治各般に淬勵した人。その衣鉢を襲いで現在は町長たるの外産業組合長（昭和四年就任）消防組頭（大正十三年就任）賃貸價格調査委員、其の他の公職に兼任して町政の中樞に剛健該博な才能を以て臨み、その清廉高潔の人格矜愷溫容の風格と共に町民の信望厚く比肩なき人徳の人として知らる。

蓮田町 本町は元綾瀬村と稱した。

現 勢 町勢頗る活潑なるものあり、

葛蒲町新堀

葛蒲町長 野本仁三郎

現齋藤專一町長を始め町役場係並に町會議員その他町民の協同戮力は數字的にもその伸展を如實に物語つてゐる。田一七二町歩、畑三四一町歩、宅地五九、二町歩山林八九町歩あり。（土地賃貸價格）二五、九三、畑一一、三三、宅地四〇四〇山林三、二三（人口）男二、五四二、女一、七〇六、生産價格農三六九、二〇一、畜一八、三三二、林四、六三四、工五四、六〇三、計四四七、一八七となつてゐる。蠶業は春蠶四三、九四四、夏秋二九、三〇五、生大根、里芋、蔥、甘藍、漬菜、梨、薪炭、麵類等は皆相當の生産額に上つてゐる。産業組合は組合員五〇三名、出資額一萬九千圓に達してゐる。優良なる成績を擧げてゐる。學務委員四名、區長七名、消防四二六名、衛生組合員九一八名、何れも豫算二百餘圓である。

當家開祖の年代等は不明なるも、古河



公方の別れ 加須町野本 茂右衛門氏 との一族關係にあり、 先代重吉氏

は村會議員に選ばれて貢獻した人、當年八十二歳、八十五歳のかさんと共に健在。當主は明治十三年一月二日、その男に生れ、疾くより町内のことに關與、町會議員を二期、學務委員を一期、農會長二期を歴任、夙にその功勳を賞讃、感謝されつゝあるが、今や町長として全町を背負つて立ち、また産業組合監事をも兼ねて前へ前へと邁進してゐる。なほ長男氏は熊谷農學校の出身、現に農業に従事し、外に一男三女がある。

助役勤七等

氏は昭和十二年五月、全大熊 光三 町の輿望を擔つて助役に擧げられ、町長の良補助者となつて町自治に參畫して將來を囑目されてゐる。氏は明治二十六年十月二十一日大熊彌市氏の

男に生れ、後ち大熊敬之氏の養婿となつた人、大正三四年並に九年の兩事變に參加して功あり、勤七等に叙された。

和土村黒谷

和土村長 濱野 次郎

濱野家は創始以來、小學校訓導を奉ずること十五年に於て育英の功勞者、夫妻共に退隱料を下賜されてゐる。夫人は國防婦人會及び愛國婦人會の分會長を勤めたことがあり。長男嘉夫氏は千葉市にあり、次男政夫氏は支那事變に出征して奮戦中の勇士である。三男宣夫氏は折戸農學校を卒業し、志願して滿洲國派遣部隊經理附を勤め、四男秀夫氏は粕壁中學校を卒業し、越ヶ谷の篠原製作工場に奉職し、二女は何れも他に嫁してゐる。家庭はすこぶる圓滿、夫人との仲琴瑟相和して和やか、

嚴父雲二氏は篤農家であるが、収入役を一期間勤めて功勞があつた人、今や七十歳の高齡でその元氣矍鑠たるものがあ

和氣霽々として春風駘蕩の感あり、和合の家として附近美望の的である。

日勝村

日勝村長 澁谷 塊一



最初の更生村として絶大なる成果を挙げ、今また愛育指定村として

て異色ある存在と優秀なる成績を認められてゐる日勝村は、村長に澁谷塊一氏を有するが故に、かく異数の成績を示し得るのである。愛育社会館の設立完備、各種團體の統制、産業發展に資すべき各種調査の遂行、銃後の堅實さ等々、村民の衷心からの支持を得て、氏の事業は着々成果を収めて行く。だがそれだけに氏の努力は大なるものがある。土も凍る嚴冬の朝、暑熱に沸る眞夏の晝、常に吏員の先頭に立つて熱心に指導され、自ら、範を

示される姿には、獨りてに頭の下る眞剣さが漲り溢れてゐる。曾ては縣會議員として活躍されしことあり、多年の蘊蓄を傾けて、今、本村のために竭す、健實を以て鳴る名助役と共にわが日勝村の誇りである。

須賀村

須賀村長 戸田 敬之

政黨には一切關係なく、事務方面に携はるを唯一の趣味となし、殆んど寧日なき氏は、明治十六年一月二十七日に出生埼玉師範を出て教壇に立ち、校長に榮進した教育界の功勞者である。退職後村助役に推されて村長のよりよき輔佐役たること二期、その至公忠實なる性格は疾く村民の認識を深め、昭和十年一月十六日、村内一致の推薦によつて村長の要職に就任、孜孜營々、村治績の刷新向上にと力進貢獻し、以て村民の期待に副はんことを念となしてゐる。が、その勞や實に大なるものがある。

太田村

大田村長

産業組合長

坂本 賢治

當家は土地屈指の舊家にして、敬神家坂本角藏氏を出してゐる。先代右衛門氏は多年に亘り、村自治の爲めに粉骨碎身大いなる功績を残した人である。當主賢治氏はその男として、明治二十四年十一月十一日の岳降、粕壁中學校卒業後専ら齊家修身に努め、資性極めて濃厚篤實而も剛毅にして矜愍の情に厚く、村民の徳望年と共に厚い。曩に村會議員三期、在

郷軍人分會長(五年)消防組頭一期、村會常設委員等を勤めて、その才腕を揮ひ村民の期待に沿ふ。昭和二年村長に擧げられ昭和十年産業組合長に就任、村治産業の樞主に執掌して、益々その進展に淬勵なしつゝある。氏も亦一村の代表者として日本精神の興起には日夜思念する處あり、自ら衷心敬神崇祖の實を擧げ、村民の師表たるの行往座臥は益々以て氏の仁徳を高からしめてゐる。神社へ山を寄進する等積善の數枚擧に違がない。家庭は長男友雄君は粕中二年に通學中他に四女あり長女さん(二十歳)は久喜高女卒業の才媛である。

黒濱村南新宿

黒濱村長 大塚 健四郎

犠牲奉公の念強く、新銳村長との定評ある氏は、明治三十四年一月一日の出生にして粕壁中學校卒業の俊英である。抑抑大塚家は十數代前より當地に居住する舊家にして、代々郷民の信望あつく社會

公共のため幾多の貢獻をなせる名門である。先代は敬左衛門氏といひ、氏はその長男に當る。夙に家業に精勵する傍ら消防組に關係して同部長たること四ヶ年、統御の才に富み、若き才幹として名聲噴噴たるものがあつた。現在村會議員二期目の任にあり、昭和十二年四月にはオール黒濱村民の輿望を双肩に擔つて村長の要職に就き、力量と人格と才智とを兼備する名村長と稱揚され、その手腕は萬人の等しく期待囑望するところであつたが氏はこれに應へて、就任幾許もならざるに業績頗る擧り、功勞頗る顯著なるものあり、愈々好評を博してゐる。殊に支那事變勃發後は、表裏兩面に互つて夙夜淬勵休むことなく、帝國所期の目的達成に向つて至誠奉公の熱意を捧げ、村内物資需給の調節に、或ひは農業の擴充に、あらゆる手段を盡し、就中消費の節約、貯蓄の増加に就いては短時日ながら他に見られぬ好成绩を収めてゐる。家庭には母堂健在し、令との間には長男榮一君

(昭和四年生)ほか一名の愛兒あり、頗る圓滿幸福を極めてゐる。

篠津村高岩

篠津村長

小島 清



大正八年以來、篠津村長に擧げられて歴代村長中の第一人者と謳

はれる氏は、明治二十五年九月三日の誕生である。徴兵検査には甲種合格して入營、軍隊の模範となり、歩兵少尉にまで陞進した。現時消防組頭、村農會長、産業組合理事、郡養蠶組合評議員等の重責を帯び、篠津村を双肩に擔つて熱と力、そして手腕と人格とを以て克く村勢の發展と村民の福利増進に邁進し、名村長の名は獨り本村民の間の評判のみならず縣下の定評である。嚴父覺之助氏は明治三十九年より大正三年に亘る久しき間、こ

れまた名村長としてその名を顯はし、祖父紋平氏また戸長役場時代より筆生或は副戸長として自治のため活躍した。なほ愛嬢美重子さんは久喜高女卒業にして才媛の聞え高い。

太田村青毛

久喜町助役
村會議員

關根 筠藏



時局への
正確なる認
識を有する
氏は明治十
二年十一月
十六日の岳

降、當家十五代自に當る。嚴父熊次郎氏は縣下の名士として公名譽職に關係するところ頗る多く、村會議員、常設委員二十有餘年をつとめ、八十二歳の高齡にて逝去された。氏は夙に中山撫山師の門下に入りて修業、家督相續後は推されて自治公共のことに關與し、久喜町及び太田村の發展に貢獻甚大であり、且つ産業組

合運動の先覺者として普くその功勞を謳はれてゐる。太田村の村會議員二期、信用組合理事をつとめ、また久喜町收入役十年の後助役に任じて十餘年の長きに及び、更に信用組合を設立して専務理事たるほか、町農會幹事、行政事務會幹事に歴任、太田村の關根より久喜の關根として聞え表彰されること數次。敬神思想深く、毎朝大神宮に參拜することは有名である。長男茂氏は明治三十九年生れ、在郷軍人分會副會長たりしが、支那事變に應召上海戦線に活躍中。次男は帝大文科卒業、三男は粕壁小學校教員、また一女春子さんは久喜高女の出身。

粕壁町濱川戸

町會議員
區長

村田 富彌

當家は祖先の詳細なる由緒は明でないが、當主まで十二代を傳ふる町内屈指の家柄である。先代富士太郎氏は郡會議員村會議員、土木委員等に推されて功勞のあつた人である、古くは家業として材木



願兵砲兵少
尉たり、曩
に在郷軍人
分會長とし
て活躍、現

に町會議員、方面委員、區長に推轉されて碎勵なし、町自治の中核に確然たる存在をなしてゐる。政黨に偏せず町民の信望厚く、將來待つある材幹として囑望される人である。家庭は夫人との間に一男一女あり。常に團樂和樂を極む、因に電話は一六八番である。

越ヶ谷町

町會議員
酒類問屋

秋元 政吉

電話越ヶ谷二八番

當商店は従業員十餘名を使用する。東武地方屈指の一流紳商として知らる。氏は先考政吉氏長男として呱呱の聲を擧げた。嚴父の衣鉢を襲ぎ、堅實確固を商法の第一義諦とし、良質品種の安價供給と共に榮を以て營業的信念として、今日の興隆を來したものである。氏は未だ三十六歳の壯年、事業の發展のみならず、町自治の發展に對しても衷心より思念する處あり、圓滿なる人格と才腕あり而も溫容矜愍に厚き風格は共に町民の推轉する處となり現に町會議員(二期目)、土木委員學務委員、稅務委員の重職に歴任して碎勵する處あり、人望益々高きを加へつゝある。殊に眞面目且眞摯なる熱意は町政並に町産業の上に將來の寄與太きことを期待を以て俟たる人である。

久喜町新町

町會議員

石井 嘉七

氏は明治二年五月十六日の生れにして夙に町産業殊に蠶絲方面に鋭意貢獻せる



創立して、
組合長に就
任し、明治
四十四年三

業組合に變更して副組合長となる。又大正八年以來五期町會議員として碎勵する處あり、當町稀れに見る人望家である。人氏を呼ぶに無資産にも不抱大盡の稱を以てなす、よつてその徳望を窺知するに足る。又通常正國の名を以て善く知られてゐる。蠶種販賣同業組合には創立以來關係して、北足立、南埼玉、北葛飾三郡を一轄せる支部の支部長たり、蠶業取締所の久喜町設置に當りては、氏單獨の運動によつて遂にその設置を見るに至つたものである。實に蠶業界に於ける重鎮とも云ふべくその功績甚大なるものあり、



熱誠事に
當り、曾て
は名村長と
謳歌された
る氏は、高
橋家十二代

目の當主にして明治十年八月三十一日の出生、慶應義塾大學出身の俊才である。現在町會議員に選ばれて町會の元老を以

鷺宮町上内

町會議員

高橋 政治

て遇せらる。子女十一人あり、長男は分

家、次男健介氏は千葉醫大を卒業せる新

銳刀圭家である。嚴父莊之丞氏は双鏡と

號せし人、安政元年七月の岳降にして、

明治五年早くも二門村副戸長に命ぜられ

同七年戸長となつた。また學務委員、聯

合戸長を経て、明治二十二年自治制發布

と共に村會議員に當選、更に同年五月初

代鷲宮村長となり、同年十二月まで發芽

期の自治に貢獻した。同二十五年縣會議

員に當選、縣政界にその人ありと云はる

る迄に敏腕を揮ひ、大日本武徳會囑託、

小學教科用圖書審査官、埼玉縣農工銀行

設立委員、大落堀惡水路普通水利組合會

議員、埼玉縣農會副會長等に歴任、明治

四十一年埼玉縣織布株式會社を起して社

長に任じ、また翌四十二年埼玉農工銀行

監査役に就職、その他宅地賃借價格調査

員、相續稅審査員、水利組合長等に推さ

れ、大正元年陸軍特別大演習の際、賜饗

の榮に浴し、大正四年には大禮記念章を

受け、また縣知事、郡長より神社功勞者

及び水利組合功勞者として表彰された。

蓮田町

町會議員 田口角三郎

電話蓮田一四番

明治維新後の我國にとりて起つか亡び

るかの非常時であつた日露の戦役に勇躍

出征し、各地に奮戦、軍功に依り勳八等

に叙されて居る氏は明治十二年一月七日

の出生にて先代命助氏の次男、極めて獨

力獨行の氣性に富み、青年時より獨立、

大正十一年以後金物商を家業となしたが

以前は肥料、木炭、甘藷を歐洲方面迄出

荷してゐた事がある。自治公共方面にも

頗る功多くして、區長、郵便局長等を永

く勤め、亦、氷川銀行支店長として活躍

せし事もあり、町會議員は當町の未だ村

制時代の村會議員から引續き二十數年歴

任するもの、兼ねて耕地整理組合の會計

及び評議員の任にもあり、信用組合理事

の重責にもありて産業發達の爲に活躍し

てゐるが、その理事の任は創立當初より

歴任し來たるもの、その多年に亙る努力

寄與頗る大にして、特に學校増築には勞

多く、町民の等しく感謝するところであ

る。政黨には何の關係もないが、政友會

の佐野先生に師事してゐる。趣味は將棋

商業方面に將亦自治に有する才腕と清廉

潔白な人格はよく盤上に現はれ人々の感

嘆するところ。長男命氏は資性頗る穩健

消防第七部長の任にあり活躍しつゝある

日勝村上野田

村會議員 澁谷作造

岡泉郵便局長

昭和十年

七月一日岡

泉に於て待

望の郵便事

務取扱を開

始したるは

實に我が澁谷作造氏にして粕壁、萬蒲間

御成街道の交叉點に位置する同所は、ヤ

がて内牧、慈恩寺方面を集配區域に持つ

べき異常なる期待をかけられ、ますゝ

健實なる發展をなしつゝあり、十年度四

萬二千圓、十一年度六萬圓の貯金拔高を

示して監督官廳をして啞然たらしめ、近

く電信、保險等一般事務も取扱はれんと

してゐる。氏は實に村内の信望厚く、明

治四十年粕壁中學校卒業後、師範學校に

學び、業卒へるや教職を奉じて任に在る

こと九ヶ年、同村太田新井の齋藤源六氏

宅より今の澁谷家に入つた。養父房吉氏

の後を繼いで産業組合理事に就任し、現

在村會議員であるの外、學務委員、乾繭

杉田組合支部長、養蠶實行組合長、アン

ゴラ兎毛組合長として自治に將た産業に

獻策怠るところがない。長男光君は十六

歳、粕壁中學校に學び、長女喜久代さん

は福井縣土木技師牧野秀一氏に嫁し、次

女恵久代さんは喜久高女卒業後、雄々し

くも職業戦線に立つて目下陸軍省に勤務

し他に美代さん、千代さんの二女がある

須賀村東条原

村會議員 齋藤利八

養蠶實行 組合長

既に幼少より智慮衆に勝れ、俊才と稱

され、大正四年に收入役として役場に入

り大正十二年に至る久しき間、村經濟の

爲に精勵努力せる氏は退職後直に村會議

員に推輓を受け、歴任する事三期、現に

亦、衆望を擔ひて再選されたる人望家に

して村政の元老である。兼ねて養蠶實行

組合の創立以來の組合長の重任にある。

出生は明治十二年一月二日、先考與三郎

氏早逝せる爲、祖父利三郎氏並びに母堂

たね子刀自に依つて養育され、勉學に努

めし獨力獨行の氣性に富む人物である。

家庭は頗る圓滿、長男章一氏粕壁中卒業

後師範二部に入りて上高野小學校に八ヶ

年奉職せし事あり現在は縣庶務課の重要

位置にある。尙次女さん三女さん共に久

喜高女、師範二部を出でて教職にある。

須賀南 部 齋藤利八氏を組合長と

養蠶實行組合 する當組合は昭和六年實

行組合に改稱、稚蠶共同飼育競技會、繭

質改善競技會亦是達成同盟等をも結成し

て増收を改善を生産費の輕減を計り、殊

に共同作業場に依る蠶具用品の自給自足

桑苗、肥料、木炭、粉炭等の共同購入、

更に片倉製絲會社の社長今井氏等の信賴

厚き故を以てその特約に依る共同販賣等

をなし、組合員利潤便益を計る點斷然他

組合に傑出、昨春の如きは四十餘名の大

多數の他組合の組合員が加入し來り、こ

れを見ても當組合の如何に内容の充實せ

るかを察知出来る。縣下稀に見る郡内一

の貯蓄額を占めず。これ實に齋藤氏の盡

瘁に依るものと感謝を集めてゐる。

河合村馬込

村會議員 本橋素治

勳七等

資性濃厚、圓滿なる人格者にて村民仰

慕の的となつてゐる氏は明治十二年二月

一日先代正輔氏の男に生を享け、夙に家

業たる農に精進すると共に自治公共の事

に意を用ひ、村會議員を歴任する事六期

現議員中の最古參者にて、亦昭和八年成

立されし馬込耕地整理組合長に推され田

地六十町歩に亙るその完成を終り、引續

き現任中にて目下本年度中の整理を期して盡瘁中、曾ては農事改良組合長、區長農會、氏子、檀家各總代を永らく勤めし事あり、その多年に互る貢獻多大である尙氏は習志野騎兵旅團の三十二年兵、日露の役に出征し勤七等に叙されし騎兵軍曹、凱旋歸郷後は初代在郷軍人分會長として勝捷記念碑にその榮績を残してゐる家庭は常に團樂、二女あり、長女うめ子さん、次女つる子さん共に久喜高女出身の才媛である。因に先考正輔氏は自治制發布當時に於ける初代村長にして、村長引退後大正六年迄引續き村會議員その他各名譽職を歴任せる本村開拓者中の筆頭にて、今もその名を誦はれ、その父子二代に渡る努力盡瘁に當家は村民感謝の眼に包まれてゐる。

篠津村白岡

村會議員 大橋貞之助

當家はその祖を玄藩と稱し、徳川初代の頃より連綿と家系を傳へる家柄、亦當

村開拓に功多く明治初年に際しては勇藏氏、與八氏共に引續き副戸長として盡瘁貢獻す。先代孫左衛門氏は亦、早くより常設委員として努め、村會議員其の他の公職をも歴任、その男に明治十一年十二月十三日生を享けたる氏は尊父の衣鉢を襲ぎて夙に村治に進出、大正九年村會議員に推輓を受けて以來歴任する事數次、今や議員中の最古參者として名聲を博しつつある。尙、學務委員、區長、消防部長、水利組合議員その他關係する公職枚舉に遑なく、多年努力活躍して村勢發展に貢獻するところ實に多大である。氏は亦、温厚にして明朗なる紳士、その圓滿なる人格は功と相俟つて村民等しく敬慕するところである。長男太助氏明倫館中學卒業の俊才にて現に目蒲電鐵に勤務し次男和助氏は神戸商船學校出身にて正八位海軍豫備中尉、今海軍檢定協會に勤めてゐる。因に當家の家業は吳服商にて兼ねて繭商を営み盛業を極め、近在にその名聞える。

粕壁町上町

町會議員
産業組合
専務理事

九法 繁藏

當家の祖は往昔滋賀縣に於いて發せしもの、如く、足利家に亡されて當地に流れ来たものといはれて、村屈指の舊家である。先考寅之助氏は専ら家業に精勵した。氏はその男として明治十九年八月二十一日に呱呱の聲を擧げた。明治三十九年東京に於いて、大正元年分家した。資性極めて眞摯剛健にして、事に當り未だ倦むことを知らず。高潔なる人格温容なる風格は町民多大の讃仰を受くる處となり、曩に自警團長、衛生組長、電氣需要者組合長等に推されて貢獻する處あり、現在は粕壁衛生組合總代、産業組合専任理事、町營電氣部委員、警備委員、學校建設委員、納稅組合長、町會議員、埼玉縣自轉車聯合組合長、粕壁町外三ヶ村古物商組合長等の重職に歴任して町治、産業の上に多大の功勞をなしてゐる。氏の

如く町政の中核に能動的な氣宇によつて没我的碎勵を爲す人は實に稀有である。將來町治の樞主に閣座すべき材幹として期待される。因に氏の専心した當町自警團並に町營電氣の現況沿革の大略は次の如くである。

自警團 現十二團體 町内消防組は五十株にて人員二百八十五名であつたものを大正十三年改正して三株に變更人員も百十二人となし關東震災後自動式唧筒に改め現在の消防手は五十八名となり諸設備も愈々整備を完全ならしめつゝある。町營電氣 電氣會社より電氣の分讓を受け、これを町經營の下に送電してゐるが、料金は現在一キロワット時三錢七厘五毛で改正すれば三錢三厘となる見込である。全町需要量五十五萬キロワット、動力六十馬力、晝間線約四割となつてゐる。

久喜町本町

町會議員 松村作太郎



當家は代
代篤農家を
以て知られ
る家柄、先
考武吉氏は
家業に精勵

する傍ら町會議員、區長を多年に互りて盡瘁、兼ねて馬場農事組合長として功績あり、當主はその男、明治十八年二月十八日の出生にて資性穩健にして篤實なる人格者、嚴父の衣鉢を襲ぎ馬場農事組合長の重任に在りて一身を挺して産業發展の爲に活躍、亦信用組合評議員の重責にも在り、その貢獻するもの頗る大なるものあり、衆望自ら高まつて遂に昭和四年町會議員に推輓を受け引續き二期歴任、學務委員、水利組合委員も兼ねて執掌しつつある。亦曾ては區長と



長
の重任に
在りて一身
を挺して産
業發展の爲
に活躍、亦
信用組合評

議
員
の
重
責
に
も
在
り
、
そ
の
貢
獻
す
る
もの
頗
る
大
なる
もの
あり、
衆
望
自
ら
高
まつ
て
遂
に
昭
和
四
年
町
會
議
員
に
推
輓
を
受
け
引
續
き
二
期
歴
任
、
學
務
委
員
、
水
利
組
合
委
員
も
兼
ね
て
執
掌
し
つ
つ
ある。
亦
曾
て
は
區
長
と



町會議員 相澤 章三

初代新兵衛氏より代
代武家にし
て足利氏の
臣であつた
が、中途よ
り農を業としつゝ名主となりて統治に勤められ、當代にて十三代目の舊家である七代領右衛門氏は郷土の開發展及び庶民救済に特に功あり、八代太兵衛氏また幾多郷黨のために盡して名聲治く、この時より古に還つて苗字帶刀を許された。十一代は忠右衛門と稱し、十二代たる先代僖一郎氏は安政二年七月の岳降、明治五年すでに葛梅村副戸長を拜命、爾來自治公共のために盡力するところ頗る多く

町村制發布前に於て戸長、學務委員、聯合戸長等を永年に互つて歴任、明治二十二年十二月には鷺宮村長となり、翌年三月第五組合會頭に推された。本村の産業教育消防交通、その他あらゆる方面に互つて事績顯著なるものあり、自治の基礎を固めた偉大なる功勞者との定評あり、本町今日の隆盛あるは偏へに自治制施行前後に於ける氏の努力と手腕とに俟つところが多い。當主は即ちその男にして明治十年三月十日の出生、鷺宮小學校を経て久喜高等小學校に學び、現時町會議員及び學務委員として、町政に參劃獻策してゐる。家庭には令閨並に正巳氏、同夫人みねさんがあり、至福至幸頗る圓滿である。

蓮田町

町會議員
陸軍主計大尉
正七位勳六等

齋藤 増太郎

當家は慶長年間以前に於て秩父地方より來住せる舊家にして、邸内には樹齡四



三箇村

元縣會議員
元郡會議員

齋藤 信之助

氏はその男にして明治十二年一月の出生不動岡中學校を経て明治大學を卒業して兵役に服し、漸次累進して陸軍主計大尉に任じ、正七位勳六等に陞叙された。その後退役郷里に歸り、初代北埼玉郡在郷軍人聯合分會長に推されて勤続約十年、郷軍分會の發展に寄與尠なからざるものがある。また推されて自治産業の事に關

與し、昭和四年信用組合監事を拜命、同年學務委員及び區長に任じ、同十二年町會議員に當選、いづれも現にその職にあり寢食を忘れて努力してゐる。母堂コマさんは文久元年生れ、久子夫人は賢母の譽れ高く、長男増雄氏は日本大學法科の出身、次男博文氏は日本醫大在學中、他に一人の愛嬢がある。

卒業なし嚴父の衣鉢を襲ぎて全く、自治伸長に思念強く、昭和八年迄三十年間村會議員、明治三十年より郡會議員三期、その他縣會議員に推輓さるゝ等多數人士の信望を一身に擔ひ、地方自治に巨大なる功績を残した。又明治三十年葛蒲町に銀行を創立し三十七年より頭取となり六ヶ年間斯業の爲めに貢獻し、在職中參事會問題につき奔走した。殊に地方産業の樞幹たる産業組合の創立をなし組合長として十數年間の格勵は其の功實に多とするに足る。實に氏の如きは地方自治の元老とも稱すべく、その衆望普ねく厚きことと共にその功績も枚擧に遑ない程である。表彰又數知らず。氏は又家庭的にも團樂和樂の繁榮に餘惠されてゐる。長男英氏は明治大學卒業後東亞煙草會社に入り、現在營業部長の重職に在る。現在の氏は専ら一切の公職を退き悠々自適の生活をしてゐる。因に齋藤家は長命の家柄まん刀自とて百二歳まで長命せられた人がある。

日勝村上野田

村會議員
勳八等

吉澤 一太郎



氏は先代佐市氏の後を承けて、頗る精農家の名の高き人、明治十

七年十一月二日の生れ、漸く財を積みて信望厚く、數年前より産業組合理事に擧げられ、また昭和十二年四月の村會議員改選に推され當選、現に村政に參與、挺身努力をつゞけられてゐる。氏は明治三十九年奉天會戰終了後に編成されたる戦利野砲隊に屬して出征、功に依つて勳八等に叙し、瑞寶章を下賜された。また實弟森田啓次郎氏(東京市淺草區光月町)は十六聯隊の後備砲兵少尉であり、第二弟加島儀三郎氏長男榮氏は歩兵少尉であり今回の日支事變に出動活躍してゐる。なほ夫人そめさんとの間に四男一女があり



須賀村西条原
村會議員

黒須 伊作

現在西条原部落は約百戸の戸數あるも、當家は舊家十七戸の一に

かぞへられ、三百年來連綿たる歴史を持つてゐる。先々代治郎右衛門氏及び先代伊左衛門氏は共に部落の信望をあつめて重きをなし、功勞炳として永遠に輝いてゐる。氏は先代の男、明治二十八年四月七日を以て生をこの世に享け、大正四年徴兵検査に合格して横須賀砲兵隊に入り除隊歸郷後、在郷軍人分會のために奔走し、班長、副分會長を経て、昭和五年よ

り一期間分會長をつとめ、手腕あり統御の才に富む氣骨の人との定評を得た。また消防組に關係しては遂に擧げられて部長に任じ、永年に亙つて本村消防事業に寄與盡瘁し、稀に見る優秀役員と賞讃を受けた。大正十四年職を役場に奉じ、昭和九年まで十ヶ年間兵事係をつとめ、村自治によく精通し、米穀検査員五年間勤務の経験に基きて産業方面に關する事務にも明るく、吏員中の一異彩であつた。昭和十二年衆望を負ふて村會議員に當選議員中の年少者にしてその活躍は大いに期待されてゐる。令閨は村社鷲宮神社の氏子總代たる矢部林藏氏の令妹、長男浩君(昭和十年生)あり、令弟伊吉氏は小林家に養子となり、現に消防組部長をつとめてゐる。

篠津村篠津

村會議員 大橋常三郎

當大橋家は今より百五十年前熊次郎氏に依つて染物業を家業となせる家柄、後に

七藏、彌七、峯吉の三代を経て常三郎氏に至る。氏は獨力獨行の氣性に富む人物にして明治十八年九月十日の出生、幼時不幸にも兩親に死別せるが、資性剛毅にして不拔の精神を有する氏はよく克苦精勵、遂に家運を挽回、斯業界の驚異と稱され遂に萬蒲、久喜兩町染色同業組合長に推輓を受けた。その勤めて盡瘁する事大正十年より昭和十年迄の久しきに亙り亦、村民は氏の村治進出を渴望し、村會議員に擧げられし事二期に及び、農會總代或ひは上田用水路委員、殊に栢間堀悪水路普通水利組合普通組合會議員となりては近在の各村間に起れる諸種の問題解決の爲に奔走活躍、貢獻多大にして過般同組合長より感謝狀並に記念品を授與せらる。亦氏は頗る義侠心に富み德行多く人望四隣に普く及ぶ。家庭の圓滿振りは近在羨望の的にして、實弟熊次郎氏は家業精米業にて常三郎氏と共に家運の挽回に努め、相當の業績を擧げつゝある。長

男友隣氏は父君を助けて家業に精勵、次に

男隆治君は逓信省官吏養成所を出でて地方逓信局に勤めたるが、最近選出されて更に傳習所に於て勉學中である。

栢壁町仲町

町會議員 伊草茂



先代宇吉氏は關根喜兵衛氏の次男に生れ、後分家して米穀商、經

木真田を以て業となしたが關東大震災より當所に移り新聞販賣店をなした。當主茂氏は石川信篤氏の二男として明治三十一年一月八日に呱呱の聲を擧げた。名古屋中學に修學し後當家の養子となる。東京朝日新聞社に入社なし販賣部に勤務、昭和七年退社なし、歸家して家業に従事氏は資性極めて濃厚篤實且剛毅眞摯の風格は町民の推輓する處となり現に町會議員にて、又三業組合長、朝日新聞埼玉朝

日會の幹事として活躍なし町政の將來に多大の囑望を以て俟る、偉材である。家庭は夫人との間に女學校二年在學中の令嬢がある。因に電話は一四一番である。

蓮田町貝塚

町會議員 小林百次郎



先代門治郎翁

當家は約十五代に及ぶ舊家にて先々代次郎吉氏は明治初年より種々公職に就き村治の上に太く盡瘁せられた功勞者である。先代門次郎氏はその長男にして明治元年に生れ、時趨の機を把握するに敏、明治末期頃より機業界に着目し、其の經營を創め、數年にして數十萬の産を築き大正八年大宮町に支店を設ける等、活潑なる事業を展開した。織物組合長、町會議員二期間を勤めて貢獻なす。又公共方

面に關係し幾多の功勞を爲した。武州織物を近郷に行つたのも氏であり、蓋し異數の事業家と云ふべきである。當主百次郎氏は先代門次郎氏長男として明治二十五年二月十一日の岳降である。氏も亦尊父の衣鉢を襲ぎ齊家修身に勉め事業の發展に精勵した。又當町の町制施行に際しては率先活躍なし、その圓滿なる人格と識見は町民の信望益々厚きを加えてゐる。曩に織物組合役員をなし、現に町會議員蓮田機業同志會長、消防組長、選舉肅正委員、武州織物同業組合代議員、俱樂部幹事、第三區副區長、寺總代等の要職を連ね、常に純正な思念と理想を立脚點として事に當り盡瘁恪勵してゐる。家庭は長女さん既に嫁し、次女愛子さんは浦和高女在學中にして、長男は小學校通學中である。



昭和四年春日光御成街道に架けられし日光の名勝の一たる往還橋

を初め篠津村南埼玉乾繭組合倉庫、岩槻町の郡農會、久喜の金山酒造店、その他近郷近在に於ける學校、役場等の大小建築物にして白岡工業所の手を煩はさざるものなく、その白岡工業所は土木建築請負の外設計製圖、製材、その販賣を業として大正十三年創立せられ經營者は資性果斷にして三面六臂の材幹たる倉持政三郎氏である。氏は明治十九年三月二十七日の出生にて白岡工業所の盛業と共に村民の人望頗る高く、消防部長、養蠶實行組合長、農會長等の重責を経て現に區長産業組合理事、乾繭利用組合總代、商工會評議員、氏子及檀家總代、耕地整理組合評議員等の重責に在りて執掌しつゝあるが、今期更に村會議員に推輓を受け村

日勝村實ヶ谷

村會議員 倉持政三郎

電話白岡五番

治の圓滿なる運行、村勢の繁榮、村民の福祉増進に意を用ひて努力活躍してゐるその各方面に盡瘁する功勞一々枚擧に遑なく、當村に缺くべからざる人物として村民の等しく畏敬感嘆するところである尙氏は若竹そのもの、如き三男子あり、長男良男氏は智慮業に勝れ潑刺たる氣概を有す俊器、日大高工出身にて父君を輔佐して家業に精進、二男清君は明大商科に、三男莊作君は板橋商業にそれ、在學中である。尙東京市荒川區々會議員倉持邦造氏は氏の實弟の由。

須賀村

村會議員 門井 清六



ある。氏は先考榮藏氏の男として明治二

當家は代

代農業を營

み、中興の

祖以來五代

目、當村屈

指の舊家で

篠津村白岡

村會議員 細井 三吉

電話白岡三番

氏は白岡細井長吉氏の實弟、明治二十四年一月十五日の生れ、大正二年より白岡驛前通りに洋品店を開業、今日に至つ

てゐるが、常に家業に精勵するの傍ら、商店街草分け組の一人として土地發展のために盡すこと久しく、その功また多大なるものがある。時に白岡商工會評議員となり、時にまた私設消防



組頭なるなど、日に衆望を累ねて來た。現に二期目の村會議員として村政に與り氏子總代をも兼ね、更に今後に囑望されてゐる。長男虎壽君はまだ幼少なるも、長女豐子さんは二十二歳、浦和産業學校を卒業して看護免狀を得、次女才子さんは二十歳、ミシン學校を卒へて家業を手傳ひ、三女晴子さんは粕壁高等女學校に學んでゐる。

日勝村白岡驛前小久喜

村會議員 細井 藤作

氏は明治十七年二月九日の出生、白岡

に於て四百年來の舊家として知られたる細井巳之助氏の長男なるも、明治四十四年養子健一郎氏に實家を委せて、小久喜



地なる現在の所に出でて蘭商の傍ら薪炭業を營み、隆昌

日に加へて當地有數の大商家となつた。性來霸氣に富み、同地商店街の發展のため獻策貢獻するところ極めて多く、自ら商工會設立を主唱して會長となり、大正三年御大典記念に際し、同商工會の公認を許され、引續き今日まで永年に互つて斯界の親睦融和と村勢の發展に力を致されてゐる。なほ消防組頭をなしたることあり、後、擧げられて村會議員たること三回、現にその職に在りて村自治のため東奔西走私利を捨て、公事につくすの誠心を披瀝してゐる。議員一方の雄を以て自他共に任ずる人だ。令聞かなへさんは

信州松本の産、陸軍少將齋藤隆閣下及び元日本銀行北海道支店長河瀬一郎氏の姪にあたり、内助の功多くして良妻の譽れあり、餘生を令孫敏行君(昭和六年生)の養育に専念されてゐる。

須賀村和戸

村會議員 菊地 半次郎



明治二十二年十二月三日この世に生を享けし氏は圓滿潤達な柔和

な人格者、亦極めて勤直なる紳士にて粕壁中學出身、麻布三聯隊の四十三年兵にて歩兵伍長である。除隊歸郷後は専ら家業たる農に精進、それと共に公共の爲に盡瘁、在郷軍人分會理事を勤めし後、更に分會長に推されて執掌寄與をなし、後大正十三年村役場に收入役として入り昭和十二年一月六日迄、實に十數年間の永

きに亘りて村經濟の圓滿なる運行の爲に一身を挺して粉骨碎身の勞を執つた。その永年に亘る精勵努力に表彰を受け五號金庫一個を授與された。勤直にして柔和なる人格は衆望を一身に集め、今期村會改選に際して最高點を以て推され、愈々その信望を高めつゝある。家には吉田村の名望家須田半藏氏の令妹に當る令閨きの子さんととの間に二男二女あり、正敏君悦爾君共に粕壁中學に在學中、長女靜江さんは川崎第百銀行に勤務する商學士粕谷喜氏に嫁して、次女絢子さんは粕女在學中である。因に當家は代々長命の家として知られ、家運を挽回し繁榮せしめた曾祖父重次郎氏は八十三歳に、祖父仲右衛門氏は七十七歳に、先考翁助氏は七十歳にて昨年十月永眠しそれぞれ長壽を完ふした。亦、今次の日支事變に岩佐部隊の大隊副官として、赫々の武勳を樹て十月六日遂に名譽の戦死を遂げた陸軍歩兵大尉關根愛次氏は氏の從兄弟なる由。

篠津村白岡

村會議員 濱田 陽三郎

電話白岡二五番



氏は明治二十九年五月二十日生れの大正五年兵、所澤航空隊出の

上等兵にして、前在郷軍人分會長であつた。資性頗る潤達、率先即決斷行主義にして、昭和七年三月同村小學校々庭に忠魂碑建設の難業に成功し、白川大將を迎へて盛大な除幕式を舉行したのも、實に氏の力に負ふところが多かつた。また消防組に關係しては部長に推され、鐵筋火の見櫓の建設、器具の購入、或は服裝の統一等に就いて實績を挙げ、消防協會より功勞章を贈られた。或はまた野牛部落より高岩に通ずる水路開通等のためにも多大の努力を拂ひ、手腕は終に萬人の認

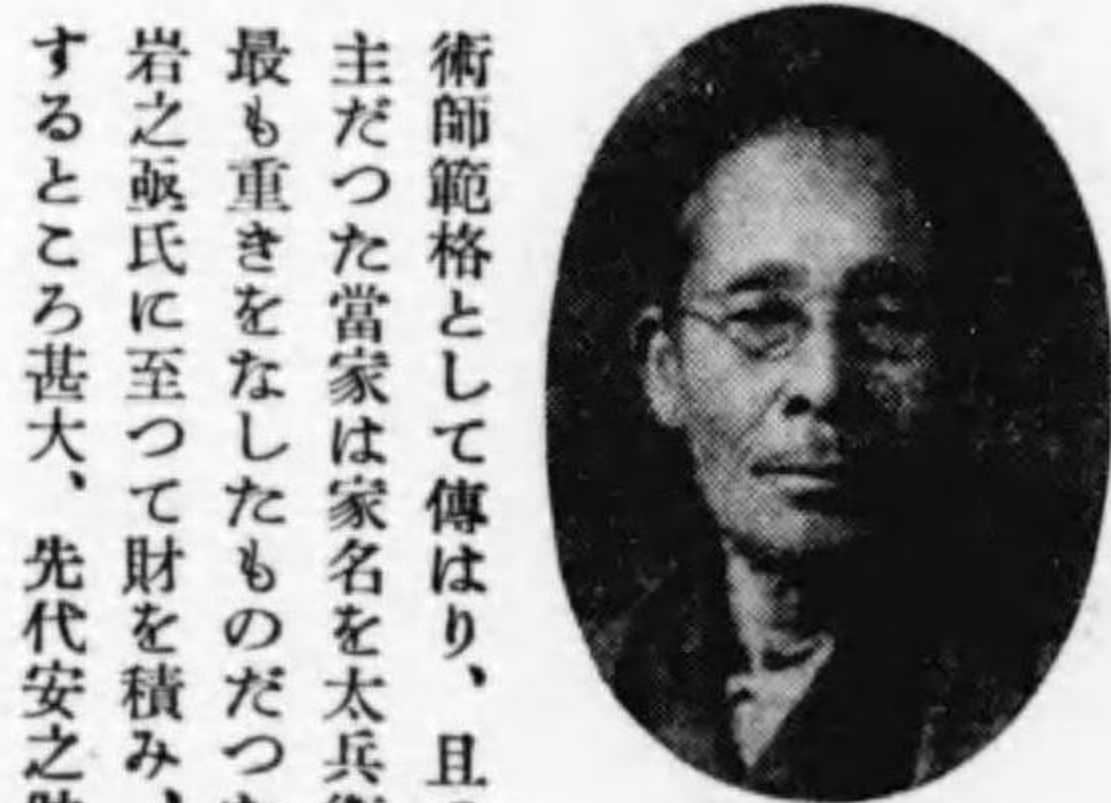
むるところとなり村會議員連續三期、現に任期中である。父君仙之助氏また區長村會議員に推され、殊に乾蘭利用組合創立委員として奔走するところがあつた。當家は野牛に於て代々五郎左衛門氏を稱した舊家、當主は實弟亮太郎氏に家督を譲り、白岡驛前に出で、料亭「若葉」を経営、なか／＼の盛業である。

日勝村上野田

村會議員 濱田 章



村會一方の雄を以て任



先代安助之氏

徳川初代より代々近郷に鳴り響いた武術師範格として傳はり、且つ一橋藩の名主だつた當家は家名を太兵衛と稱し村に最も重きをなしたものだつた。十五代目岩之亟氏に至つて財を積み、自治に貢献するところ甚大、先代安之助氏また頗る

活動家にして郡會議員を連續四期、村助役、區長、村會議員、學務委員等に推されて、終生を公職に奉じてゐる。當主はその後を繼ぎて現に區長、村會議員を三期、

須賀村西条原

村會議員 柿沼 作次郎



令息啓三氏

明治九年の暮近き十二月十日深井戸十

六戸中の最舊家にして代々部落伍長として重きをなした當柿沼家に呱呱の聲を擧げし氏は資性濃厚篤實、早くより區長、農會總代等を永年勤め、區民の福祉増進産業發展に寄與するところ頗る多大にして今期の村會改選に際しては老境なるも衆望辭し難く遂に推輓を以て當選、活躍中である。尙、當家は昔時より村社鷲宮氏子總代を代々勤めたが、氏もその任に在りて盡瘁をなしてゐる。長男啓三氏(三十四)は近衛歩兵三聯隊兵にして除隊歸郷後、家業たる農に精進すると共に在郷軍人分會班長として活躍、次で顧問に舉

げられ亦、久しく消防小頭としても執掌努力中であつたが今次の日支事變に際し昨年七月三日勇躍出征、先ず北支方面で活躍した。家には啓三氏長女しづ子さん以下三女さんがある。

須賀村西条原

村會議員 野本 啓治

現在村會議員二期目の重責にある外、社會教育委員の任にあり、今次の日支事變に際しては國民精神總動員を力調して西条原統後援會を組織し各團體と協力應召軍人家庭に對して努力奉仕を主唱せる氏は明治二十一年四月六日の出生にて頭腦明晰なる材幹、その説くところ理論整然にして村民の等しく感嘆するところ曾ては學務委員、農事實行組合長、縣農會評議員、國勢調査委員三期其の他各公職を兼任して盡瘁せし事あり、縣の指定に依り土地調査試験地を經營せし事もあ

浴びてゐる。因に當家は當村西条原野本性八戸の總本家にして徳川二代將軍時代より連綿と家系を傳へる家柄、先代佐七氏は高潔なる人格の持主にて氏はその男當家十二代目である。令閨かね子さんは當村野本孝治氏の令妹にて間に長男眞一氏(二十六歳)あり、川道村の小學校に奉職中にて俊敏の氣性に富む才人、その將來に多大の期待を寄せられてゐる。

須賀村和戸

村會議員 石井 市郎

北葛飾郡高野村に於て代々漢法醫たりし柳齋氏の長男陸軍三等軍醫で從六位勳四等石井良齋氏故ありて當地に移住、居を定め、當家先代福松氏即ち良齋氏の令弟にて、曾て村會議員として活躍せし事ありその功勞多大なるものがある。その男に明治二十二年十月五日生を享けし氏は、資性極めて勤直、キリスト教の敬虔なる信者にして日本基督教會に屬し、亦兒童の育英には常に心を盡し、公正志氣

の風、涵養に努め、爲に粉骨碎身の勞を執つてゐる。曾て十數年前小學校増築問題の紛争に際し、寢食を忘れて文字通り東奔西走、遂にこれを圓滿解決、その幹旋盡力の功に依り表彰を受け、その後消防小頭に推されて永年盡力、衆望頗る高く、現にその會計を一任され、今期遂に村民の推輓を受けて村會議員に就任し、いま村民の福祉増進の爲に一身を挺して活躍しつゝある。その村勢産業經濟の向上に寄與するところ甚大にして、村政の中樞の位置を占め村民感謝の的となつてゐる。家庭は圓滿、長男松城君は未だ幼少なるも長女光江さんは久喜高女出身の才媛にして、現在北葛飾御奉小學校に教鞭を執り次女君子さん亦久喜高女出身、三女榮子さん、四女良子さん揃つて同校に在學中である。

久喜町

産業組合長 野原 吉太郎

元町長 野原 吉太郎

の如く、初代より十代目二百十餘年間連綿の家系を傳ゆる舊家であり代々土地の爲めに功績を累ねた名門である。先代吉兵衛氏は町會議員三期、郵便局長十數年間を勤め町治、通信の上に多大の功勞のあつた人である。當主吉太郎氏はその男として明治十一年十月に岳降した。明倫館及中島撫山先生の門下として十年間勉學なし後早稲田専門學校を卒業、資性極めて濃厚而も剛健の氣宇に富みその眞摯な態度は若くして既に町民の大いなる推輓を受ける處となり曩に町議四期、収入役、町長、農會長(十數年)を歴任し町治の上に巨大な足跡を印せし人である。産業組合の創立に獻身して、設立後は組合長に就任して今日に及ぶ。終始組合事業の伸展内容の確立純化の爲めに淬勵して赫々の成績を擧げてゐる。組合の協心戮力、統制の整備等々他組合の模範たらしめたことも組合員一同の努力もさることながら、野原組合長の盡力功績に俟つ處が多い。

須賀村

元村長 小林 易之助



當家は當地屈指の舊家なるも、四代以前はその記録が詳でない。

喜十郎氏當時は名主として功績のあつた家柄である。先代林藏氏は自治制施行以來村會議員として明治四十五年長逝する迄自治産業伸展の爲めに太く貢獻した人で殊に消防組織には身を以て當つた。當主易之助氏はその男として明治五年二月二十六日の岳降、日清日露の兩役に參戰した。氏も亦尊父の衣鉢を襲ぎ、若くして夙に村治、産業の革進、伸展に思念する處あり、人格又極めて清廉而も剛毅にして、事に當りては誠に眞摯の人、村民の輿望太く、曩に在郷軍人團を組織して團長となり、水利組合議員の最古參と

して二十六年に及ぶ。推輓されて助役三期(村長缺員中)後村長となり、その他學務委員四期、區總代三期、農會長二期等を勤めて、殆んどその半生を村治産業の中樞に執掌して巨大なる足跡と功績を残した自治功勞者にして、現在は村政の元老として、村會議員の席にあり老ひて尙矍鑠然たる存在たり。多數人士の信望厚きこと他に比肩なき程である。曩に土地賃賃價格基本調査員として、第一回は大藏省稅務監督局長官より感謝狀を受け、第二回(昭和十一年中)には同感謝狀及び木杯を受けてゐる。又村より銀杯三組を贈られ表彰されてゐる。政黨は政友系に屬する。

清久村新久喜

元村長 眞田 陸三郎

當家は所藏の古文書に寛文時代「初代故人となる」ことが記されており、且屋敷の構造一段高くなつて砦の型をなす。古くは士分にて後農となりたるものなら

ん。記録に於いては當主を以て十一代目となす。村内唯一の舊家として知らる。九代目清兵衛氏は永らく戸長として貢獻嚴父孝三郎氏も亦聯合戸長として明治十七年頃より村治の爲めに淬勵する處があつた。當主陸三郎氏はその男として明治十一年の岳降、漢學者中島撫山師の塾に學び後明倫館に入學、十年の研鑽をなし物理學校を卒へた。若くして日露戰役に參戰して功あり。又専ら齊家修身に勉む資性剛毅明哲、溫容の風格は該博なる才腕と相俟つて、村民多大の讃仰を受ける處となり、明治四十三年より昭和五年迄學務委員、大正二年より村長たること十六年間、清久信用組合を創立、その組合長、後理事に就任、その他多くの公職を歴任、村治産業の中樞に執掌し、巨大なる治績を擧げた。現在は總ての公職を引退して大公望の閑日月にあるが、現に當村治政の元老として重きをなす。長男氏(三十一歳)は京都帝大の出身、次男孝繼氏(二十八歳)は目下上海出征中である。

家庭頗る圓滿を極めてゐる。

三個村

元縣會議員 小林 孝作

三個村の元老として、今尙村會の一議席に在り、村治産業の上に壯者をしのぐ矍鑠さを以て誠心の思念を致し村民の間に翕然たる徳望をもつ小林孝作氏は其の祖を遠く慶長年間に發し、初代孫一氏より約二百餘年を経た村内の最古家である。初代孫一氏は輕少の地を繼承したが、二代目に至り、齊家修身克く二十數町歩の産を築き、米百俵、金百兩を徳川幕府に上納して、苗字帶刀槍一筋を許され墨付を下附されしも、百姓にして之を好まず依つて徳川より門を建てる事を許された家柄である。寛政七年建設の門が現存してゐるが、古くて危険多き爲めに取壊して保存されてゐる。先代啓之助氏は名主、村會議員等を勤め功績のあつた人である。氏はその男として明治八年二月十四日の岳降、東京中學を卒へて、慶

應大學に學び、資性極めて剛毅且温容の風格を持し、眞摯地方自治の爲めに精勵した人である。村會議員、學務委員たること三十餘年、明治四十二年三十四歳の時縣會議員に當選して、縣治の上にも貢獻する處頗る多かつた。又村長として、村治産業の樞主に執掌して多大の功勞あり。大正四、五兩年に互り相當の反對を押し切つて、耕地整理を斷行完成したのも氏である。氏は又郡會にも關與したが、曩に久喜銀行の重役をも爲したことあり

明治四十三年大風水害の對策として生れた現在の行政事務會も、各町村を叫合して發起の衝に當つた。人格、手腕、頭腦共に三個村の重鎮として兼備せる稀れに見る自治界の功勞者である。長男仁(四十一歳)氏は帝大行政科を出で安田銀行に入り目下歐米視察中の逸材で將來銀行界に囑望さるゝ人、次男加須氏は早稻田大學商學部を卒へ、野本理助氏の養子となつてゐる。他に尙五男三女を有する子福者にして、團欒の家庭として知らる。

百間村杉戸驛前

元村長 中村 金次郎



三千年の歴史を有する我國の脈々流れる血液を成すものは大和魂

即ち日本精神である事は誰もが知るところである。而して日本精神とは武道の精神の事である。その武道の中の精粹である劍道を幼少より修業、現在五段の肩書を有し南埼玉武徳會支部常議員にして亦杉戸警察署及び杉戸農學校囑託として多數の門下を有し、常に劍道の普及に努め尙曾ては埼玉代表二十餘名を引率し全滿洲劍道對抗試合の爲渡滿、大連を初め各地に於て萬丈の氣を吐きし氏は資性剛毅明治八年十一月二十八日の出生にて先考藤太郎氏の男、因に當家は十數代を傳承する村内屈指の舊家であるが、その名あ

る家門の長として將亦公共の一員として一頭他を擡んじ、曾ては村助役を勤めて盡瘁せし事あり、明治三十八年には推されて村長一期を盡瘁、大正八年再度出馬を懇願されて一身を挺して努力貢獻、その功勞多大にして村役場、隔離病舎建設は實に氏の活躍と言つても決して過言ではなく村會議員三期を歴任せし事もあり現在は氏子、檀家各總代の任にあり武道の大家と共に自治の敏腕家としても近郷近在に聞へる。尙長男利道氏(三十四歳)は粕中出身にて尊父の訓練を受けて劍道三段の腕前、百間村小學校に奉職してゐる。利道氏夫人さく子さんは粕壁高女出身の才媛である。

太田村

前助役 並木彌一郎

當家は藤原爲泰氏を祖とする當地有數の舊家である。爲泰氏は太田彌六と稱して北條氏に仕へたるも、後、當地に來て姓を並木と改め、農を以て家業となすに



遂に當主彌一郎氏に及び、當村の草分けとい

はれる舊家名門にして、之を證するものに光了寺過去帳並に舊記録がある。二十五代彌右衛門氏は二十九歳の若さで村助役に擧げられたる材傑、その前にすでに戸長、收入役等をつとめて功績多かつた二十六代たる先代禎次郎氏また自治産業のことに意を用ひ、助役三期勤続の後村長に選任、才智と手腕と人格の三者を兼備せる名村長と謳はれ、交通の開發、教育の普及、産業の勸奨に幾多の治績を遺してゐる。當主は二十七代目、明治十八年八月十日を以て呱呱の聲をあげ、初め教育家を志し、教壇に立ちしこと約三ヶ

年、後、辭して自治界の人となり、助役三期をつとめ、現時村會議員のほか方面委員、學務委員、久喜地方常務方面委員會幹事を兼任、俳句に興味を有し句作頗る多い。

江面村太田袋

元助役 高山 惣作



當家は中興以來六代を重ねる舊家にして、三代名源藏氏は、名主

戸長等を勤め祖父宇三郎氏は副戸長をなし、尊父益三郎氏も副戸長をなし自治制施行以來明治三十八年の逝去まで、村會議員其の他に就任して功績のあつた人である。氏はその男として明治十年に呱呱の聲を擧げた。中島撫山師に就いて漢學を修め、その後専ら修身讀書に勉めた。資性清廉にして剛毅且矜愍の情に富み圓

満なる人格は、多數人士の尊敬と興望を擔ひ、明治三十三年以來村治實務に當り眞摯率勵他の活模範たり。大正三年推轉されて助役となるや所謂三耕九耕の勞を盡して、村治産業の伸展に精勵する事實に二十年、昭和七年後進に途を拓き村より感謝状と慰勞金を贈られた。自治功勞の木鐸たるべき人である。氏は又明治四十一年以來村會議員たること六期、學務委員一期、區長四ヶ年、信用組合專務理事一期其の他數多の村政各般のことに關與して功勞あり、郡農會議員三期を勤めて行政事務會より表彰される等、其の功績は一々枚舉に遑なき程である。現在は第一線を退き悠々自適してゐるが、尙信用組合理事、消防組顧問として、壯者としての矍鑠ぶりを示し、村政の元老として重きをなし趣味としては釣をなす。家庭は長女富子さんに本郡篠津村長小島氏の令弟貞助氏を迎へて、常に春風團欒、圓滿を極め附近村民の美望の的となつてゐる。

太田村青毛

農會長 關口 揆一

當家の祖、慶長元和の頃、攝津より來りて此地に移り住む。元祿年間武右衛門



と稱する者關口家より分家して一家を創立し後連綿として今日に到れり當家中興の祖。市郎右衛門(晴春は祖號なり)

と云へる者、幼にして精敏よく算數の學に秀で、長じて江戸へ遊學し後、郷に歸りて私塾を開き地方篤學の士を指導誘掖するなど、當家は代々篤學の士多く輩出

せる家柄なり。氏は先代市右衛門氏の男にして明治十二年三月二十二日出生す。

小學校卒業後明傳館に學び皇漢學を研究せる篤學家なり、資性聰明、濃厚なる人格高潔の士なり。現在村會議員、太田村農會長、太田村第二區長、學務委員等の要職に在り、村民の信望特に厚い。氏の趣味は讀書にして家庭は至極圓滿なり。曩に自治制發布五十週年埼玉縣記念會より自治功勞者として表彰さる。

日勝村岡泉

學務委員 和泉 洪



當家は和田盛の後裔、享保以來の舊家で竹里の郷士として著聞

し、幾代かを丹波笹山に過したが、再び幕郷に戻り、兄吉兵衛氏は和田姓を名乗つて岩槻に止まり、弟甚兵衛氏は岡泉に

出、岡泉の岡を去つて和となし、以て和泉姓を創して今日に至つてゐる。後ち十

數代を経て當家の祖父善助氏は義宣と名乗れる免許皆傳の劍道の達人で、岩槻城下近郷に師範し、令名をたゞへられた。父君龍助氏は粕壁中學のまだ郡立時代の卒業生で、篠津小學校に奉職、永年育英界に盡瘁、後ち村役場に収入役として入り、次で助役に進み、自治の上にも功を樹てゐる。洪氏はその男、曾て村會議員に擧げられて村政に與るところあつたが、現在は學務委員に消防組頭を兼ねて大に努力、その職のために力進してゐる長男潔氏は當年二十八歳、日大齒科を卒へて今、東京市板橋に開業中である。

河合村

學務委員 栗原 重雄

在滿洲〇〇軍獸醫部長從四位勳四等小笠原長淳大佐こそは實に栗原重雄氏の令弟で、幼名を淳平と稱し、粕壁中學校卒業後、鹿兒島道士館に入り、更に農大獸

醫科卒業後、東京府士族小笠原長儀氏の養嗣子となり、長淳氏と改名した。宇都宮師團獸醫部、獸醫學校教官等を歴任後



浦鹽野戰衛生材料支廠長を経て第一師團獸醫部長に榮轉したが、昭和

和十一年の春選ばれて渡滿し、目下某方面の要務を双肩に擔つてゐる。この近邊切つての出世頭たる現役大佐を持つ栗原



佐大原笠小弟令

年來の舊家で、祖父重藏氏は明治初年に於ける戸長役場時代の筆生或は副戸長を勤め、父君安治郎氏はまた村會議員、學務委員、區長等に推され、現主重雄氏は

明治十三年六月十七日生れで三十三年兵

習志野旅團に屬する騎兵軍曹で、日露役に出征、勳七等を下賜された。父祖の衣鉢を襲ふて氏子並に檀家總代、區長、消防部長、農會長、耕地整理組合長幾多名公職を歴任、現に學務委員として熱心職に當つてゐる。なほ長男安雄氏は粕壁中學校卒業後家業に精勵し、長女綾子さんは栗橋高女出身、浦和市の自治功勞者松本武治の長男騎兵少尉長世氏に嫁し琴瑟相和してゐる。

篠津村白岡

白岡郵便局長 細井金左衛門

大正九年五月、井上宗一郎氏の努力により開局されし白岡郵便局は、二代目細井金之助氏を経て、大正十四年より三代目現局長細井金左衛門氏となり、昭和五年より内外電信事務を開始した。氏は糸次郎氏の長男にして明治十九年十月十五日の出生、同四十二年より現在の白岡驛通りに雜貨商を經營した。同地商店街の

最古級にして土地發展のため努力されし

功績尠ならず、氏子總代、檀徒總代、乾蘭利用組合總代等のほか、大正四年消防組頭に擧げられてより現に第三回目の組頭をつとめるなどその信望の厚きこと察するに餘りあり、村會議員にも當選せることあり、現時白岡商工會長として益々土地の隆榮のために貢獻しつゝある。家庭には古河商業學校を卒業せる長男喜右衛門氏(大正二年生)のほか五名の子女がある。

粕壁町

粕壁郵便局 本多 悟三郎



當本多家は新潟本多氏家より分れたる名門にして、元千葉縣二川村に住し、氏を以て十八代目とする。先代省一郎氏は郷里千葉に於て名主、戸長

及び村長等を歴任せる自治の恩人にして刻煙草製油粕商を営んだ才と腕の人であつた。氏は明治二十三年八月を以てその男に生れ、古河中學校の出身、宇都宮郵便局に八年勤続し、後、粕壁郵便局に轉任、爾來今日まで二十四年間當地通信事業の發達に盡し、現に同局主事として局員一同の信任をあつめてゐる。また獨自に日曜學校を經營し、子弟現在約七十名の多きを數へ、育英を最大の趣味として努力されてゐる。令閨との間には二男一女がある。因に粕壁局は明治五年七月の開局に係り、現局長山田平六氏は六代目に當る。従業員は三十五名である。

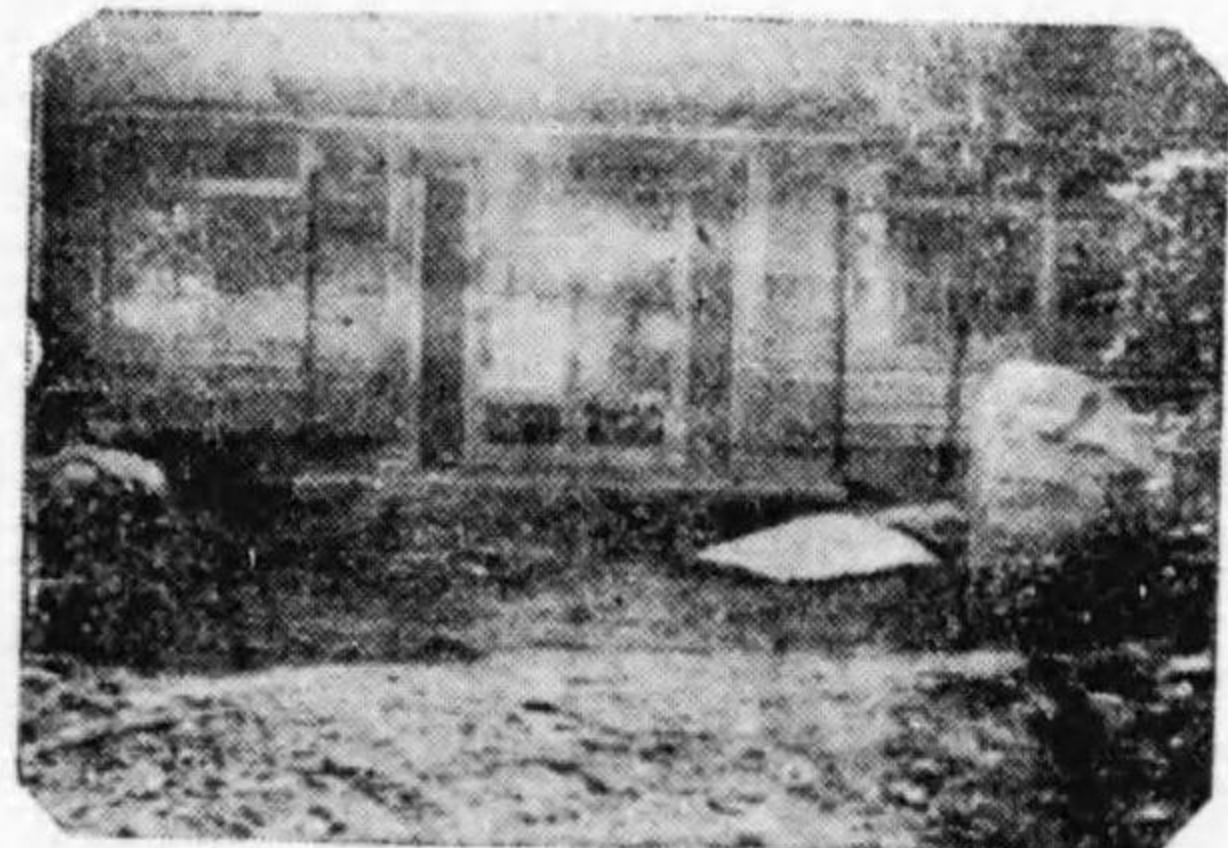
和土村飯塚

村農會長 岡田康一郎

村會議員に現はれて盡瘁多かりし岡田喜八氏の男として明治十六年に呱呱の聲をあげたる氏は、日露戰爭に出征、功により勳八等に叙された。浦和中學校を卒業せる才智の人で、耕地整理組合長たる



昭和六年區長となりて引續き今日に至り、曾ては村



國勢調査員をも歴任した。かく村内樞要の職に就きたるうち最も産業組合と農會とに功績あり、殊に産業組



氏 耶 一 喜

入院に研究勤務、昭和十三年當所に開業方技卓抜の新進刀圭家として將來の隆昌を期待されてゐる。次男潔氏は大正元年生れ、粕壁中學校を経て高千穂高等商業學校を卒業し、目下東京市築地中央卸賣市場に勤務する。長女は他に嫁す。かく一家愈々繁榮、幸福の限りを盡してゐる

久喜町 町會議員 山中竹次郎

當山中家は機屋、染物商を業となし、

世界開發等に貢獻する多大なるものあつたが、社會の大勢にかんがへて大正十五年廢業するに至つた。氏は明治十二年九月五日の生れ、曾て武州織物同業組合副組合長として努力、業績を樹てるころがあつた。現在は二期目の町會議員であるの外、農事實行組合長、土木委員、出納検査委員等を兼ねてそれ〴〵盡瘁、功績を大ならしめつゝある。なほ大正博覽會開設當時、大島耕を出品して入賞の譽れを収めた。長男正平氏は今、足利市に在つて織物研究に熱心従事してゐる。

和土村笹久保新田

元 村 長 新井仁三郎

新井家は村内有数の舊家且つ資産家として知られ、古くから酒卸商を営み、先々代徳次郎氏の代より肥料商を兼營爾來引續き今日に至り、地方切つての豪商である。氏は先代啓助氏の長男として明治八年に呱呱の聲をあげ、長じて家業を嗣ぎ、精勵恪勤夙夜淬勵して家産を愈々大なら

しむると共に、社會公共のことに參與盡瘁し、信用組合理事多年の後現時同監事に任じ、學務委員は約八ヶ年に及び、社會教員委員たること三十ヶ年、また村會議員六期間に亙りて自治産業上に貢獻せること甚大にして筆紙につくし難く、その他村長にも選任、區長三期等もつとめ民政黨系の偉材と稱され、本村開發向上と郷土の福祉のため努力し來つた。長男善治氏は明治四十一年の出生、軍人分會役員たりしことあり、現時消防組部長に推されてゐる。

栢間村上板間

元 村 長 代理 石井誠太郎



に當る。明治七年三月を以て先代係右衛

當家は約三百數十年を閱する村内第一の舊家にして氏は十六代目に當る。明治七年三月を以て先代係右衛

門氏の長男に生れ、築地中學校を卒業、大正二年より同十四年まで三期間助役をつとめ、小學校の統一、副業の獎勵等難事業を遂行し、この間代理村長にも任じ功勞炳として自治史上に輝いてゐる。また村會議員四期村農會長四年、衛生組合長、消防組部長各二年のほか土地貸賃價格調査員、耕地整理組合長を歴任、現時養蠶實行組合長、やまといも出荷組合長栢間赤堀水利組合議員、農事實行組合長信用組合理事を兼任する。

黒濱村南新宿

元 村 長 齊藤松五郎



ることは、地方有識者の喫緊事でない

國體觀念を明徴にし日本精神を涵養し、國家的信念の確立を期す

ばならぬが、氏はその実践者である。慶應三年一月、惣次郎氏男として生を享け、學を幸福寺住職に就いて修め、若くして小學校教員をつとめ、在職四年の後警察界に轉じ、各地に署長としてその手腕を揮ひ、在任二十有七年、錦を飾つて歸郷の後は推されて自治の事業に竭し、昭和四年村會議員に當選、同十二年までその任に在り、この間昭和八年には全村民の輿望を荷つて村長の椅子に就き、村治上幾多の事業を遂行して任を後進に譲つた趣味は園藝。令息晴氏は東北帝大工科卒業後、鐵道技師たること十三年、昭和六年高等官六等に叙されしも先年不幸他界された。その長女壽美さんは久喜高女在學中の才媛である。

清久村

清久村長 高木 棗

電話久喜一二四番

當家は齋藤、瀬田の兩家と共に本村草分けの家柄として連綿今日に至つたもの

で、當家の開祖は遠く寛文時代にあり、治郎左衛門尉重之氏の代に葛蒲城主佐々木源四郎秀綱に仕へたるも、同家の没落と共に現在の地に移住し、重元氏は雪齋と號し、蘭學を學んで醫を業となし、當時郡下に久喜の宮本、清久の高木と併稱された名醫であつた。當主棗氏は十三代目、明治二十六年一月三日の出生、大正十年帝國大學醫學部出身の刀圭家、扶養堂醫院を経営、嘖々たる令名を馳せてゐる。從來幾度か村長候補者として擧げられたが、家名を重んずるに甚だ厚き氏はすべての名譽職等に關與せず、一意家業に精勵しつゝあつたが、昭和十二年村民一致して禮を篤うし、要請切なるものがあつたので、終にこれを容れて八代目村長に就任、今に及んでゐる。蓋し村治に對する手腕等は、今後に俟たねばなるまい。なほ氏は日本古來の武道の荒廢し行くを慨し、大正元年來弓道の研究に専念練磨し、昭和八年日本武徳會より教士の免狀を得、現に門下生數十名を數ふるに



元村長 中村 耕袂

至つて、一層熱心斯道に當り、現に千數百坪にあまる大邸宅地の庭園に大弓道場を建設し、寸暇を割いて精進してゐる和土村飯塚

中村家はその創始の年代は詳でないが、相傳へて十二代に及んでゐる。中村一門の總本家である。先代榮太郎氏は聯合戸長役場に筆生を、六年間勤続したが、二十九歳を以て早世した。耕袂氏は明治十三年、その長男として生る。嚴父を失つた時には年甫めて四歳、具に苦心を重ねたが、浦和中學を卒業してより、村會議員に當選五期、區長勤続二十年、學務委員に二期、消防組部長に十數年勤続し、農會長をも兼ねて功勞甚だ多大であつた。功成り名遂げて勇退し

閑地に逍遙自適してゐる。長男一夫君は仙臺の第二高等學校に在學中、なほ二男一女がある。

黒濱村南新宿

元村長 矢島 末五郎

當部落に於て明治維新前より姓を有せるは當矢島家のみにて、それを以て見ても當家の如何に舊家なるか分る。その祖は不明なるも十數代以上傳承する家柄にして先考佐市氏は頗る圓滿な人格者であつた。當主はその男、明治五年の岳降にて資性穩健、亦清廉潔白なる人格の持主、現在家に在り讀書を唯一つの趣味とし悠々閑居にあるが、曾て役場生活四十年間なせる本村行政事務の元老にて、自治制發布以後五十年過ぎし今日、村民等しく氏の功勞を思ひ更に感謝を寄せてゐる。その盡瘁するところ書記より收入役助役と經て村長に推され、勿論區長代理學務委員その他の重任も勤めて盡瘁、村會議員を勤めた後、すべての公職より隱

退、その多年に渡りて各方面に寄與貢獻するところ尠からず、當村發展の功勞者として村史に残るべき人物である。氏は亦、日清戰爭當時より報知を讀んでゐた關係上、民政黨に屬して活躍した。尙表彰も數回に及び、縣よりも表彰を受けてゐる。

和土村

元村長 新井 眞一



連綿五百年の相嗣ぐ當家は、本村有數の舊家である。先代誠一氏

は家業の傍ら擧げられて聯合戸長をつとめし自治功勞者にして、六十二歳の時、この世を去り、その逝去は全村民の甚だ惜しむところであつた。當主はその男として明治九年に生を享け、寺小屋に通つて勉學の後、笈を負つて上京、東都に學



各組長の創立に奔走して、いづれも初代

を修め、歸郷後は父祖の業を嗣ぐと共に自治公共の事に關與盡瘁頗る多く、消防組部長を振出しに、農事、柿出荷、花卉組合長に任じ、副業の勸奨と普及並にその發達に力を注ぐこと甚大にして本村産業史上に燦々たる光彩を放つてゐる。明治四十二年村長に選任、一時辭職し、大正九年十二月再び村長となり、村治各方面に卓越の手腕を發揮した。また村會議員たること三期、區長一期、水利組合會議員三期を歴任、今や村内の長老として悠々自適の日を送つてゐる。長男頼一氏は明治三十七年生れ、岩槻農學校を優等で卒業、昭和八年軍人分會長に推され、また三十二歳にて村助役に任じ、現時村會議員に當選活躍しつゝあり、一面精農

家として文部省より表彰されたる稀有の材幹にして將來を期待されること甚だ大なるものがある。

黒濱村黒濱

元村長 中村長右衛門



氏は中村家九代の當主、明治六年を以て生をこの世に享け、同三

十七年及び昭和三年の二回に互り村長に推され村治上に赫々たる功勞を致せる本村發展の大恩人にして、また明治三十二年及び大正四年の二回收入役に推され、更に區長二期、村農會副會長四年、産業組合監事二期等をつとめ、大正十二年には村會議員に當選、村治に竭すところ多き偉材である。趣味は植木盆栽。因に先代多藏氏は二十有餘年間村會議員として活躍し、その間土木委員、學務委員等地

方自治のため幾多の業績を残した材幹であり。家業は農、夙に篤農家の聞えも高かつた。また養嗣子貞治氏は明治四十一年の出生にして陸軍少尉、頭腦業に勝れて明敏、郷黨の模範とするに足る人物である。

百間村西原

砲兵中尉 元村會議員 從七位

新井 隆

代々四郎左衛門と稱せる當家は昔時、名主を勤めし家柄にて、先考三郎治氏は郡會議員、村會議員其の他を多年に渡りて勤めし郡政村治の功勞者、當氏隆氏の長男に明治二十一年四月三日生を享けし明朗瀟灑な氣性の士、明治三十九年粕壁中學卒業後、世田ヶ谷野砲兵聯隊に入營、成績頗る良好にて中尉に昇進した。除隊歸郷後は家業に精進し、その傍ら自治公共の事に意を用ひて明治四十三年在郷軍人分會を創立、村會に出馬せし事もある。因に當家一族には軍人多く、伯父

豊次氏は當村唯一の最高帶動者にして陸軍中佐、故松四郎氏は陸軍少佐、清四郎氏は陸軍少尉の名譽の一族である。家庭は常に團欒してかね子夫人との間に一男四女あり長女静子さんは多額納稅者鹿間半藏家に嫁してゐる。

清久村中曾根

元村會議員

福田 清作



當家は稀に見る由緒正しき家系にして判然せるもの十二代、その

開祖は清和源氏頼基の後、福田賢物と稱し天和年中新田義貞に屬し、文明年中武士に列し萬蒲城主故有りて、信州上州西國大士大道寺駿河守北條の旗下に屬せりと、後頼則に到り頼忠、頼房（中興先祖）亮長、清生、頼紀、頼致（清兵衛）訓寬（源左衛門）祖父清兵衛（此の當時農事

に從ふ）領太郎、清作（當主）の連綿たる系列を保つた名門である。頼則は天正

年中殿下小田原陣關東五十八ヶ城没落後伊達陸奥守仕兄弟四人昭宥法印中曾根村に一字建、是觀音院開山也併鎮守祀福田五左衛門代々大道寺家仕、福田清兵衛は徳川家任知行五百石領、四ッ谷住御旗本たりし家柄なり。先代領太郎氏は初め戸長を勤め、村制施行の後、助役二期、村會議員其他を歴任して太く村治の爲に格勤し功勞のあつた人である。清作氏はその男として慶應二年呱呱の聲を擧げ、大學豫備校に學を修め、岳父の衣鉢を襲ぐ、氏は村會議員たること三十年間、學務委員、區長等を二十餘年間の永きに互つて淬勵し、産業組合の創立するや理事に就任して夙夜盡瘁せり。村の常設委員當時より五十年の間、村治産業の伸展に思念碎身、蓋しその功績大なりといふべく、殊に學校、役場、病舎の新築に對して常に率先之が一大運動に當りて其の悉くを完成せり。村自治功勞者として表彰さる

こと數回、實に當村の元老的存在である。

和土村

元村會議員 元學務委員

黒田 權三郎



始祖詳細ならざるも氏を以て七代目とし、邸内には樹齡二百數十

年を數ふる大木が繁つてゐる。先代權次郎氏は篤農家として著聞し、明治二十九年多幸の生涯を終つた。當主はその男、明治九年の岳降である。明治四十三年より昭和六年まで學務委員に任じ、また同年以來區長及び村會議員を約二十年間つとめ、大いに活躍貢獻し、部落の大恩人といはれ普く讃仰されてゐる。また社會教育委員にも任じ、水田堀代用水路組合會議員たること二十餘年、現にその任にあり、産業組合設立には寢食を忘れて奔

走し、創設後は理事に選ばれたるも在任一期にして辭退、その他國勢調査員二回、村農會副會長等に推され、功績顯著にして一々枚擧の遑なく、水利組合よりは銀盃を贈られ、教育功勞者としても知られ、區長時代には感謝狀を寄せられ、消防組の發展充實に盡力するところ多き廉を以て表彰を受け、更に氏子總代に推されて神社に奉仕すること多年、昭和十年五月には南埼玉郡氏子總代会より表彰狀を贈られるなど數へ擧げれば際限なく、誠に郷土のため寢食を忘れて努力盡瘁せる功勞者といふべきである。長男權四郎氏は明治三十一年生れ家業を繼いで夙夜淬勵されてゐる。

百間村蓮谷

元村會議員

加藤 豫十郎

當加藤家は村内切つての名門の家柄、藤原氏の後裔にて伊豫の城主に出で、天文六年濃州橋詰庄に於て從五位に任じた遠江守作内は文錄二年八月朝鮮西生浦

に討死したるも、その後遠江守として経幾代かの後、外記平右衛門に至り當地に住す。時は明暦四年四月二日にして以後十數代連綿として傳はり名主職を勤め近在近郷にその家名聞える。當家内には五倫の道を教へたる定書、阿片煙草鐵砲の禁制に關する覺板札書數枚の外、その他數知れず、中には蜀山人の書幅等を藏される。先考豫左右氏は佐倉藩主堀田齋堂侯に仕へ、亦幼少より神童と稱されし程の智慮業に勝れし才人、村勢發展に盡すところ甚だ多い。當主豫十郎氏はその男文久三年四月二十九日の出生にて、尊父の衣鉢を襲ぎ、夙に村治に進出、村會議員、學務委員、消防部長その他を三十年以上も歴任、亦是區長、衛生組合長、水利組合議員、同委員等村内凡ての公職に任じて盡瘁、現在は氏子、檀家總代として鞅掌中、長男豫喬氏は不幸早逝せる爲寺川村の名望家和江田壽一郎氏を養嗣子に迎へ、壽一郎氏は縣立師範出身にて現在彦成小學校に奉職してゐる。亦三女あり、長女さと子さんは川崎アルミニウム會社重役奥田豐駒氏に次女さか子さんは臺灣總督府學務課長小川嘉明氏に、三女とみ子さんは粕壁野口達氏にそれぞれ嫁し、その他加藤家一族には名門の家が頗る多い。

黒濱村黒濱

元村會議員 中野 忠祐

當家は十七代家系を傳承する當村屈指の舊家にして往時は士族でありし家柄、その名ある家に先考伊勢氏の男に明治八年十二月出生せる氏は圓滿にして高潔なる人格の持主、不幸にも六歳の未だ幼少の折尊父に死別、以來祖父源藏氏の手に従つて育まれ勉學を續け、郷校卒業後は家業たる農に精進してゐたが、その頭腦明晰なる才腕は夙に青年時より期待を寄せられ、明治二十七年小學校建設には敷地を寄附する等の篤行あり、翌二十八年村會議員に推轡を受け、村政の新鋭として活躍、貢獻するところ多大であつた。

次で學務委員、穀物検査員、常設委員、區長代理等も多年に亙りて盡瘁、明治四十三年の大風水害當時の活躍は實に村史に記録さるべき獻身的努力にて、衆望自ら翕然と集まり村民感謝の的となり、亦寺院社總代をも勤めてゐたが現在長男金作氏父君の衣鉢を承てその任にあり氏は家に在りて悠々自適の生活を送り、而して村繁榮の功勞者として、村政の元老として尊敬を寄せられてゐる。金作氏村會議員の重責にも在り、議員中の白眉と稱される材幹、村政の今後は氏に俟つところ甚だ多い。

黒濱村城

方面委員 齊藤 宗憲

齊藤家の祖は岩槻城主の重臣であつたが、同城が徳川氏のために落城した時に戦死した。その後子孫は歸農して土着した。邸内に藤原時代の豪族の塚がある。歴代相傳へて名主役を勤め、文化、文政及び天保時代等の年貢米取立帳等を寶藏

し、二十代に互る名門たり。曾祖父惣一郎氏は戸長として功勞あり。嚴父與藏氏は村農會長に二期、村會議員に三期功勞多大であつた。大正十五年五十歳を以て永眠した。當主宗憲氏はその長男として明治三十二年に生る。浦和中學を卒業し、昭和四年村會議員に當選、一期間にて勇退方面委員、區長、た學務委員二期に在任し、昭和六年以來信用組合理事、十年に専務理事に陞任して現在に至る。水利組合議員、養蠶實行組合長をも兼ね、殊に産業組合に熱心に盡瘁してゐる。きく子夫人は貞淑にして、



り、長女さと子さんは川崎アルミニウム會社重役奥田豐駒氏に次女さか子さんは臺灣總督府學務課長小川嘉明氏に、三女とみ子さんは粕壁野口達氏にそれぞれ嫁し、その他加藤家一族には名門の家が頗る多い。

長男仁君は粕壁中學に修學中。

篠津村高岩

粕壁中學校教諭 正六位 勳六等

關山 勉



讀賣新聞連載小説「獨體錢」の皇朝十二錢中、和同開珍、隆平永寶、貞觀永寶、寬平大寶、延喜通寶等我國に於て最も珍重される古錢その他を三百有餘種を秘藏する氏は實に安倍定任の後裔、日光街道四十四ヶ村の名主大總代を勤め名字帶刀を免されたる菱沼家の出にして明治二十三年四月一日の出生、幼時より頭腦業に勝れて學業優秀、明治四十一年粕壁中學卒業後、仙臺に於て數學を専攻し、後松山中學に教鞭を執りたるを振り出しに浦和中學を経て母校粕壁中學に奉職、勤続二十三年の永きに渡りて育英界に盡瘁せる功勞多大正六位勳六等

に叙されてゐる。氏こそ文字通りの教育家、思想穩健にして高潔なる人格の持主青年時當關山家に懇望されて入り、家運の挽回を計りて精勵、亦自治公共の事にも功多く、故新井啓一郎氏の參謀格として里仁會を組織し郷黨の指導に當り貯蓄心の普及、肥料の共同購入等産業開發發展に盡瘁、その功と人格は今尊德の名を以て誦はれてゐる。

鷺宮町

鷺宮神社 相澤 正直

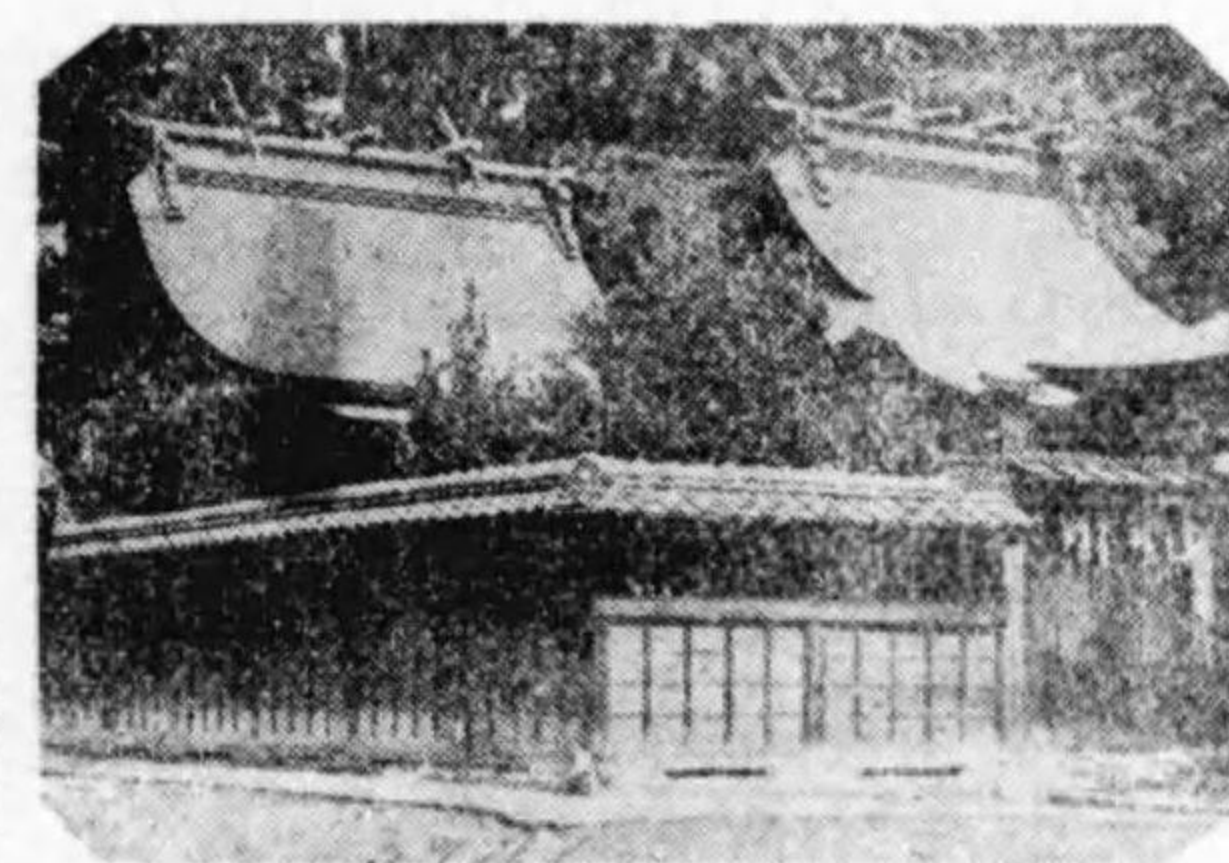


相澤家は今より六百年前、群馬縣新田より現地に移住したもので先代善章氏は町役場收入役、助役、久喜町役場書記等を勤め、日露戦争によつて銀杯を授けられたほどの自治の功勞者であつた。後ち實業界に投じ、忍商業銀行

支配人たるなど、銀行界に盡瘁する三十餘年の永きにわたつてゐる。當主はその男、明治三十四年十一月十九日の出生、京都國學院の出身、鷺宮神社々司たるの外、同神社奉齋會長、南崎氏子總代理理事、南崎神職會理事、縣方面委員、青年團顧問、愛國婦人會役員等に推されて懸命の努力をなしてゐるが、しかもこれからの人材として囑目期待されてゐる。昭和十年神社功勞者として郡より表彰され記念品を贈られた。

社 「俗に大鳥明神とも云ひ、州鷺宮神社」郡所々に分祀せられ、殊に江戸近世の俗、オホトリのトリは取得と語言相通するを以て、得分を祈る所とす。論者又ワシはハシの訛にて、武藏國造の遠祖を祀る者と云ふも、未其明徴を得ず或は鷺山ともいへり」と古書に見える。祭神は天穂日命、大國主命、天夷鳥命で縣社に列する。現在の社殿は安政六年の再建にかゝるもので姫宮、八幡、神明、鹿島、淡島、八坂等の攝末社を有し、境

内三町五反歩餘、境内に「明治天皇御用水之井」「明治天皇御乘馬繫留處」の遺蹟があり、七十種類の寶物が秘藏されてゐる。



鷺宮本宮

町村にわたつて、その數實に五萬餘戸、以て當社の靈績顯著、崇敬のいかに治ねく、且つ廣大なるかを知ることが出來よう。當社の氏子信徒の崇仰は殊に熱烈眞剣を極め、特に祭事に於ける奉仕は誠心誠意を傾注して稱讚すべである。

鷺宮町

山本内科醫院

當院は内科を専門科目となす。院主山本要氏は明治十六年十一月五日の岳降である。愛知縣八名郡の出身、豊橋市濟生學舎を卒業後上京なし多年臨床、學理の研究に没頭なし、その蘊蓄を累ねた人である。資性極めて矜愍の情に富み、溫容の風格は氏の臨床手腕と共に町民多大の信頼敬仰を受ける處となり、村健康、衛生の父として貢獻する甚だ太きものがある。治療室一、控室一、藥局等の設備も完備してゐる。氏は亦醫術のみならず、推輓されて町會議員二期、學務委員として自治公共の爲めに淬勵す。殊に學校醫として町兒童の保健に於ける功績は顯著なものがある。因に當町での開業は大正六年にして、長男弘衛君は不動岡中學を卒へ目下岩手縣岩手醫學專門學校に在學中にして、將來の活動を囑望されてゐる尙當院の貧民無料診療は山本要氏の人

と相俟つて町民多大の讃仰を呼んでゐる實に醫は仁術の體顯者といはる。

久喜町 釀造元 小林 榮吉



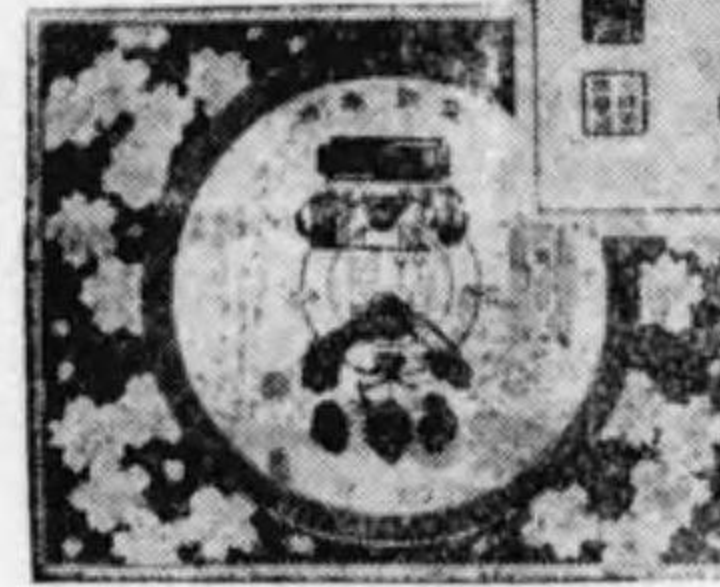
電話二〇番 氏は元滋賀縣犬上郡川瀬村の人十五歳にして本縣に來り、祖父小

林庄兵衛氏の酒造所に入る。後北埼玉大桑村に移り更に大正十二年久喜町に轉じた。その間専ら釀造の實務に當り研鑽數十年、年に月に品質の優良化を圖り、業績又大いに伸展して、現在工場二五名店四名、工場坪數四反七畝、年産額千四百石に上り、竹生島、竹生島正宗の名は東京方面(三分)關東地方一圓に互り、販路網を張り取次店百を算する。氏は又事業のみならず、前町會議員たり、現在所得

調査員、信用組合幹事等の要職にあり、町治産業の爲めにも貢獻する處が多い。人格頗る圓滿矜愍の情に厚く人望がある



一のクーマ 趣味として謡曲を愛好する長男辰次郎氏は當年三十八歳、彦根中學



二 同

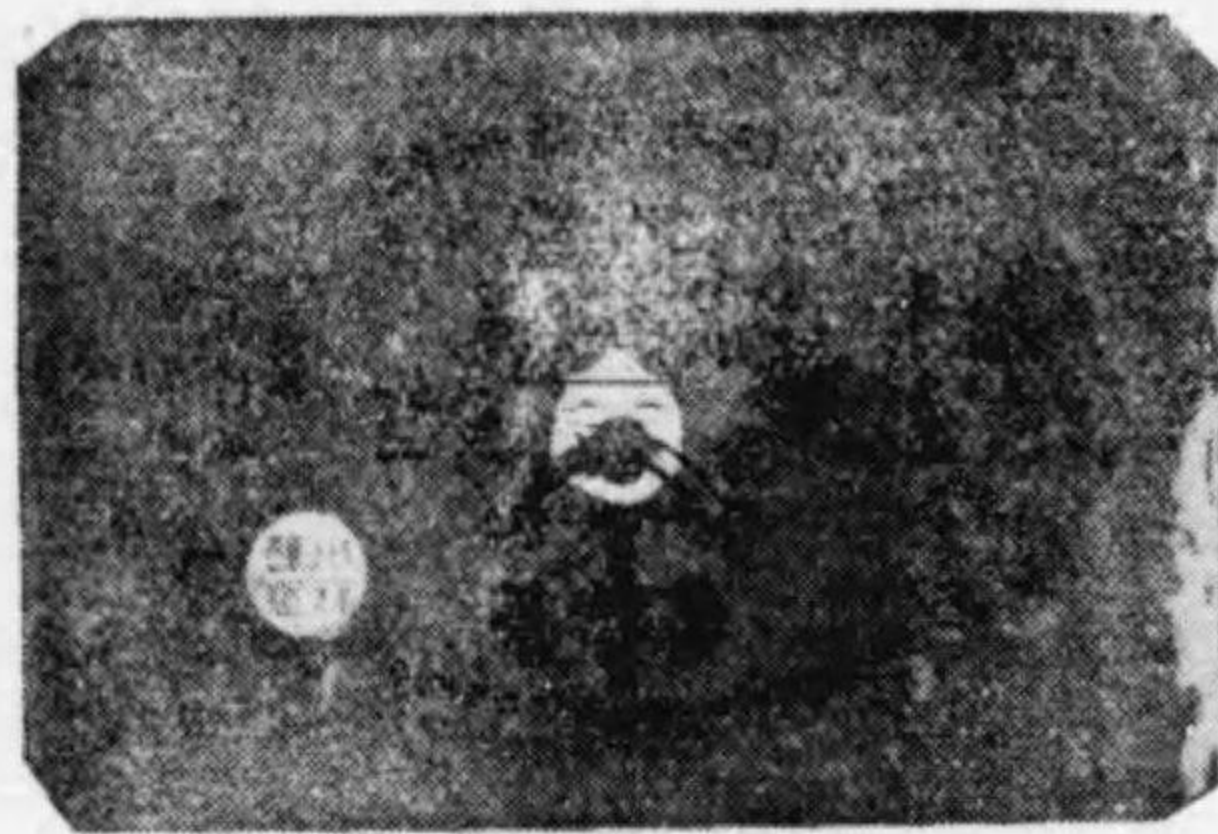
を卒へ慶應義塾理財科を卒業なし現在家業に精勵する温厚の紳士にして將來各方面に多大の囑望を以て俟たる人である。因に吟醸の竹生島並に竹生島正宗は各品評會、博覽會に多數入賞してゐる。由來地方酒は獨特にして、他の追隨を許さぬ風味がある。小林家の所釀亦た然りである。

鷺宮町

酒釀造業 小林 しづえ



小林 夫人



一のクーマ

越後中頸城郡旭村金子庄作氏の二女として明治二十五年二月十八日に生を享け庄作氏と小林

權藏氏とが兄弟なりし縁により權藏氏の長男松五郎氏の許へ二十歳の時に嫁し、夫を扶けて醸造を専らとせしが、不幸昭和七年養父を失ひ、次で同九年夫君に先



二 同

備と不便を嘆かざるを得ず、先年後夫一夫氏を迎へて一家圓滿なりしも、昭和十二年九月支那事變に應召し目下出征中にして、再び醸造は女史の手によつて続けられ、愈々名聲をあげてゐる。誠に女丈夫といふべく、男勝りの才と智と努力の人である。令息權藏氏は目下東京に於て勉學中で、その將來は郷黨の等しく期待囑望するところである。因に當家の酒造は當主を以て五代目とし、大西正宗、鷺盛、西市正宗の名は普く喧傳され、年醸造高六百五十石のうち約七割は東京に販賣する。従業員十八名、品評會に於て二等或は特選に入ること三回、以てその品質の良好を察するに餘りある。

河合村馬込

神龜正宗
醸造元

小川原 仙松

南埼玉岩槻近郷に於いて、好評を博しつゝある神龜正宗醸造元伊勢家號は六十年前越後の名職清右衛門氏此の地河合村に來りて創業せしに始まる。その後増五

蓮田 町

素封家 飛田 育男

郎氏を経て當主仙松氏に至り、その間品質の向上に寧日なき研鑽を加へ、漸く大をなして、現在二百石を産するに至つた粕壁管内に於ては夙に特選褒状を受け、外に「日ノ出鶴」をも出してゐる。仙松氏は斯業精勵のみならず、村自治方面にも貢献する處あり。前收入役、村會議員等に推されて、村民の信望極めて厚く、現に受檢組合長、區長等に推されてゐる長男正治氏(二十八)は粕壁中學卒業後麻布三聯隊に入り、歩兵中尉に任ぜられ、今期支那事變に出征、谷川部隊青海川大隊副官として幾多の功績をなし、報知新聞、東京朝日新聞等に令名を謳はれた人である。今や凱旋を待つ家庭はくろ夫人及び久喜高女在學中とし子嬢(十六)とあり、常に團欒春の如く圓滿を極めてゐる。

當村秀藏寺は富田吉右衛門尉の創建に

立たれ、女ながらも意を決してこの大事業たる酒造業を繼續經營し、夙夜淬勵身を休めることなく、以前に勝る事業の隆昌を來した。しかし一家に主人なきは家屋の柱石を缺くが如く、あらゆる點に不

係るが、而して當飛田家の祖先の碑に富田との姓あり、富田吉右衛門尉こそ當家の祖と思はれるが詳かならず、而しそれを以ても當家は當村屈指の舊家にして、當村開拓に功ある家柄たる事が察知出来る。當主育男氏の祖父百之助氏は勤七等に叙されし人にて、亦一生を村治産業の



祖之百父祖

爲に捧げし當村開發の功勞者、助役より

村長にと勤め、兼ねて産業組合長としても貢献するところ頗る多大であつた。先考英之助氏は埼玉縣師範學校卒業後、小學校に奉職する事四十年、退職後は専ら自治公共の事に竭し、村長として盡瘁する事實に二十五年間の永きに渡り、昭和十二年二月二日、惜しくも四十九歳にて長逝された。當主育男氏はその男にて大正二年十一月九日生れの頭腦明晰にして

俊敏の氣性に富む人物、物理學校出身にて、今新沼商業學校に奉職してゐるが、その前途は光明輝き洋洋たるものあり、由緒深くして功ある家門の長として將又村を背負つて立つべき器として申分なき人物である。

菖蒲 町

舊家名門 大熊 久雄

當家は近江源氏田中吉政氏の後裔にして、吉政の子源吉安の時、當地に來住して農を業とした。吉安は下種足村に田畑を相當買收して、家運の基を開いたが、明和十六年七十二歳にて永眠、その長男吉昌は十人の子女を儲けたが、長男は早世、次男磯右衛門氏は村内に分家し、三代目吉光は養嗣子にして、一ツ橋領除堀村茂木喜平次氏の二男である。この人の時雜穀商を營み、西ノ藏を建造した。四代吉長はその長男、文政の大洪水の時に庶民救助のため百十兩を寄附し、その他社會郷土のため貢献多く、邑主内藤政

久喜町新町

名 門 榎本 善兵衛

當家の由來はその年代不詳と雖も、本家は代々大名主を勤めた家柄にして分家以來連綿十五代を傳ふる舊家である。代

代善兵衛を襲名する。先代善兵衛氏は明治二十三年酒造業を創めしも大正年間に到り之を廢業した。町制施行以來二十數年間自治産業に効せる巨大な足跡と功勞は枚擧に遑なき程で、多額納稅者としてその巨富を知らる。當主善兵衛氏は嚴父の男として、明治十一年四月に呱呱の聲を擧げ、中央大學を卒へ、曩に町會議員たり現に信用組合顧問、商工會名譽會員として、町治産業の爲めに功績多大なるものあり。その圓滿なる人格と高潔且矜愍の情に厚きことは町民の深き瞻仰を受ける處となつてゐる。長男美躬氏（三十三歳）は帝大農學部を卒へ、長女（二十歳）は久喜高女出身の才媛にして他に三人の令嬢あり。家庭常に團樂和樂を極めてゐる。因に當家は幸手町の名門現町長小林善次郎家と親戚關係あり。本郡内屈指の資産を擁す。

鷺宮町
舊家 針ヶ谷重太郎



當家は地方切つての舊家名門にして郷士として著聞する家柄、代

代名主の役をつとめ、郷黨に信望頗る篤く、先代十左衛門氏は明治初年の頃小学校教員となりて地方教育の振興につとめ後、郵便局長を拜命、文化の先驅、産業の原動力たる通信事業の第一線に活躍せる材幹である。氏はその男にして明治六年五月十三日の岳降、助役二十五年、村會議員二十五年、収入役一年、信用購買販買生産組合長二十年等をつとめ、自治功勞者として縣より表彰されし名譽の人である。趣味は魚釣。長男重夫氏は明治二十七年一月生れにて、粕壁中學校及び明治大學法科を卒業し、現在内務省外事務課長の任にあり、從五位勳五等に叙され高等官三等、東京市麹町區内務省官舎に居られる。次男俊次氏は明治三十年六月



粕壁町濱川戸
八幡神社司
勳七等

押目 由太郎

郷社八幡神社は新田義貞の家臣春日部治部少輔重行が當郡を領せし時、相州鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を敬信屢々靈驗を蒙りたるに鑑みて、鶴ヶ岡に擬し

て當地に勸請せしものにして、社前にある大公孫樹二本は昔鎌倉より一夜にして飛來し生立ちたるものなりと傳へる。攝末社四社を有する郷社にして、境内九反一畝餘、本殿、幣殿、拜殿、社務所等の社殿壯嚴を極め、社寶に劍一口、鞍、陣太鼓その他がある。氏子總代は村田富彌山口良亮、山田平六、鹿島市兵衛、齋藤八右衛門、田村新藏、金子二左右衛門の七氏。社司押目由太郎氏は明治二十三年五月の出生、歩兵特務曹長にして勳七等に叙され、竹里村在郷人分會長、同村消防組部長等をつとめしことあり、言行一致、意志と信念の材幹である。

菖蒲町
南藏院 青木 俊全

氏は青木啓治郎氏の男、明治三十二年一月十四日の出生。資性英邁高德明智の持主、大正元年十月二日菖蒲町正法院住法全師の弟子として入門、得度して佛門に入り、大正十三年當南藏院の住職とし

て入山、今日に至つてゐるが、その高德その明智、町民は氏の高潔なる人格と識見圓滿無碍なる性格とに歸依してゐる。昭和五年十二月智山派支部評議員を振り出しに五等布教師、本派密嚴流准師範を拜命、また教化團體事業に盡瘁し遍照議菖蒲支部を設置して支部長に任じ、その他農繁托兒場を設置するなど、民衆の便を計り、社會公共事業に貢獻せる功績は頗る顯著である。十年一月埼玉縣知事飯沼氏より地方方面委員を命ぜられた。因に氏は詠歌和漢文に造詣深く、淑徳の譽高い令閨との間に二男二女がある。

愛宕山 當山は本町新堀にあり、開基南藏院 開山は詳かならざるも當主を以て十九代目である。御本尊は不動明王、宗派は新義眞言宗智山派なり。本寺は同町吉祥院にて本堂、庫裡、山王神社、山門あり、年中行事は四月十一日の大祭若七月十二日の不動王祭典、八月十四日の施餓鬼、九月一日の山王神社祭典及び、毎月十二日、二十一日の大師法會等を執

行する。檀家は、菖蒲新堀六十餘戸にて檀徒總代は荒井直吉氏、加藤美三郎氏、齋藤定吉氏等である。農繁期托兒所を経営専心之が保護に努めてゐる。

久喜町
西光院 石川 徳雲

當寺は蓋天和尙を開山として創建されし黄檗宗の古刹にして、開山以來の住職は孰れも大智識と稱され四民の崇敬をあつめてゐた。境内には鬼子母神を祀り、毎年八月十日の祭事は極めて盛大に行はれ、當地方著名行事の一に數へられる。檀徒總代は土屋豊吉氏ほか二名である。現住職石川徳雲師は、寺務を管掌しつゝ、小學校に教鞭を執りしことあり、熱心温厚の教育家として兒童父兄の信任厚く、在職滿二十ヶ年の後これを辭した。その後は専ら寺運の興隆に意を用ひて功多く老いて猶矍鑠たる元氣を有し、家内圓滿、近郷に令名高く、洽く崇敬されてゐる。和歌俳句等日本古來の文學に造詣深

く、作品も多数あり、敏感新鮮な感覚を備へた歌句は表現の妙と相俟つて凡人の追隨を許さざるところである。

鷺宮町上内

住 壽 德 寺 井 倉 教 如



壽 德 寺

抑々當寺は勝道上人を開山とし不動明王を本尊とし新義眞言宗豊山派の靈刹にして、千二百年の古き歴史を有し、足利

時代に最も隆盛を極めたといふ。曾ては京都醍醐寺末なりしも、今は大和長谷寺末にして、境内二段四畝、本堂建坪五十坪あり、珍奇の寶物等多數寺寶として藏される。檀徒總代は羽澤惣次郎、高橋平七、山口宇三郎、齋藤抑吉、石井庄五郎、田口作治郎の諸氏。現住職井倉教如師は慶應三年三月の岳降にして夙に大和長谷寺に於て修業し、二十三歳の時當寺の住職となつたもので、現時二等教司少僧正の資格を有し、江南村寶光院及び大田村西藏院住職を兼任する。嗣子龍海氏は鷺宮町収入役をつとめ、また常任輔導師の任にあり、日本徴兵保險會社代理店も兼營する。

和土村飯塚

前 法 華 寺 住 職 天 野 俊 道

當寺は臨濟宗鎌倉圓覺寺派に屬し、足利尊氏の開基と稱さるゝも詳細不明である。建武元年法眼是徹師を開山として創建され、本尊は釋迦牟尼如來、末寺五ヶ



野 家 是 紀 州 堺 市 中 之 濱 に 永 ら 居

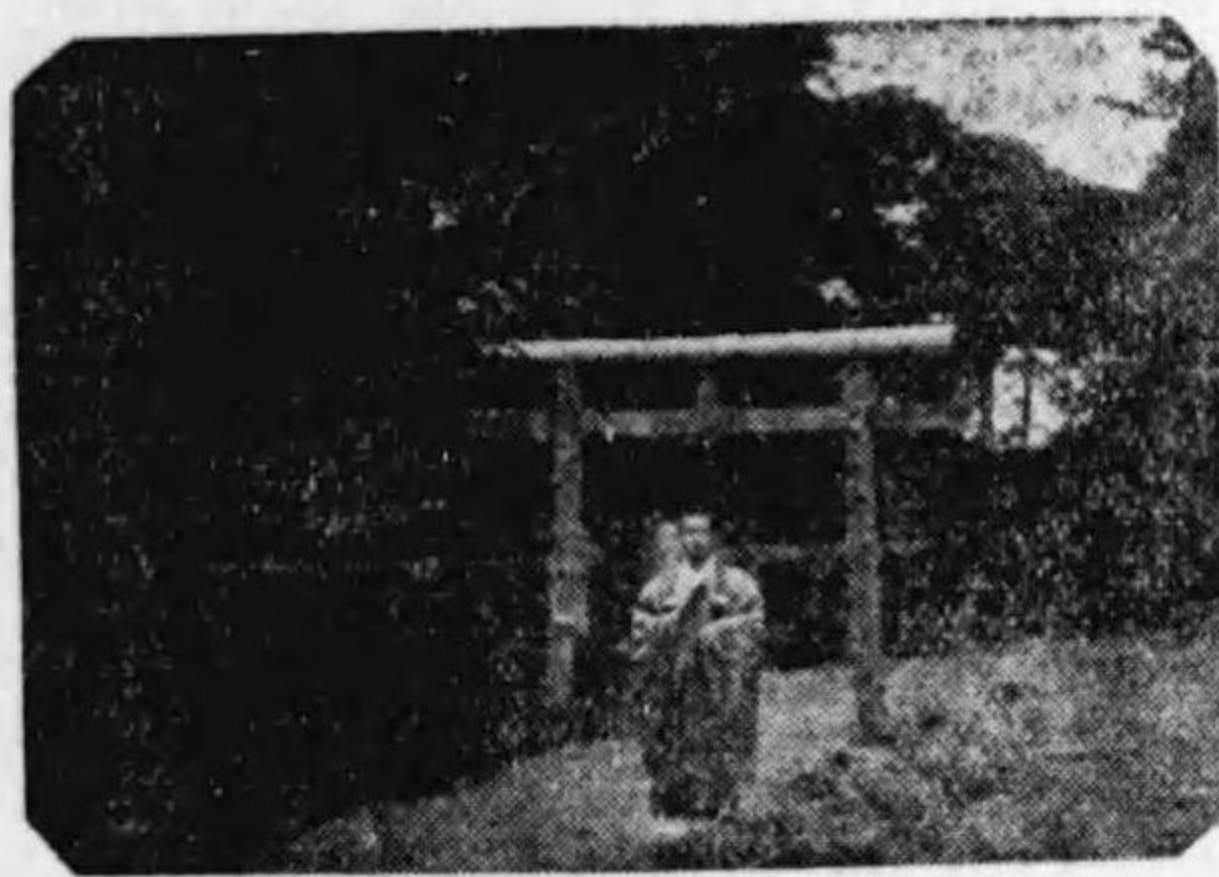
寺を有し、境内一千四百餘坪、寒松老人の遺墨を寺寶として藏する。檀家約八十戸、總代は有山聰次郎氏ほか數氏である。前住職天野俊道師は明治十三年の岳降、玉堂和尚を父とする。抑々天野家は紀州堺市中之濱に永らく居住せる舊家にして、安政年間、玉堂師の代に當地に移つた。師は鎌倉中學校の前身たる鎌倉學校の出身、圓覺寺執事たりし事あり後、當寺住職となり、傍ら村會議員二期目及び和土村耕地整理組合役員を兼ね、自治産業方面に功績顯著である現住職禪恭師はその長男にして明治三十六年の出生である。

粕壁町旭町

住 慈 恩 寺 鷺 尾 諦 如

當寺は千手觀音を本尊とする新義眞言

宗智山派山城國醍醐三寶院末にして慶長十年寺領十五石の朱印を賜はりし古刹である。末寺十五ヶ寺を有し、古來信仰歸依する者頗る多く、春日部重行公の遺跡



慈 恩 寺

多く、毎年五月一日には重行公祭典を執行して盛況を呈する。境内七反八畝、田畑約四町歩を有し、檀家は百八十戸をかぞへ、杉原源兵衛、須川信、高橋八五郎氏の三氏が總代になつてゐる。住職鷺尾



同 須 彌 壇

有し、智山派東部宗務支所副官を兼ね、また春日部重行公史蹟保存會を設立して勤王の遺跡を後世に傳へるべく努めてゐる。まことに師は密教の神祕を究め盡し、即身成佛の原理を體得せる人、遠近に互り隨喜渴仰の徒甚だ多大である。

越ヶ谷町

天 嶽 寺

當寺は無量壽如來、觀音菩薩、勢至菩薩及び慈覺大師を本尊とす。淨土宗總本山西京知京知恩末本の寺にして、名稱は至登山遍照院天嶽寺と稱す。開基は大和國の源證大和尚、開山は太田下野守起立にして、文明十戊年の創建に系れる古刹である。本堂は表間口九間、奥行八間約七十坪、鐘樓二間四方、梵鐘の高さ四尺五寸で、境内の面積は二千坪に上る。檀家は四百五十戸あり、古寂し老杉古松鬱々蒼々として生ひ茂り、幽邃にして閑寂、まことに靈域として壯嚴森々たるものがある。現住職は檀本一成師であつて、當山第三十世に當り、稀れに見る智徳圓滿の善知識にして、檀家及び信徒の尊信歸依厚い。淨土念佛の大傳燈は相傳へて絶へること無く、法幢いよいよ高く掲げられて宗風益々振ひ、澆季を照し末世を淨める法城の一として、山當への尊信は遠近より集まつてゐる。

黒濱村江ヶ崎

元村長 石川 伊兵衛

當家の祖は、遠く鎌倉時代の石川武藏守義基の弟、石川兵衛判官義資にして、武藏守戦死せしため義資繼承、その後室町時代を経て戦國時□には、直ヶ江城にて貳萬石を領したるも、北條家の關東平定に至りて漸次縮少せられ落城の悲運に遭ひたりと傳へらる。その子孫民間に下りて八江(古代地名)、現在十ヶ村の名主取締を勤め來りしも代々早世のため明治維新前には江ヶ崎名主にすとまると云ふ。代々非常に治水を重んじその功績また大なるものがある。氏は先代庄兵衛氏の男にして明治十二年八月二十九日に出生。高等小學校卒業後大作暢三郎先生に就いて漢學を三ヶ年修業する。資性濃厚にして篤實、公共の念に篤い氏は村是を旨とし治水の確立をなし村民一意産業に精勵されんことを熱望し、當村の治水の不確立道路の不備を慨嘆しこれが具體化

に夙夜盡瘁してゐる。氏の識見、才腕共に衆の認むる處で、曩に村長の重職を勤めよく村勢發展に力を盡し、又、郡農會議員、所得税調査員として數々の功績を擧げてゐる。現在は南崎乾蘭組合に關係し及安田生命の代理店及富國徴兵の事務取扱所を營んでゐる。外、南崎乾蘭組合理事、黒濱信用販賣購買組合長の要職に在りて、村自治産業に活躍してゐる。曩に勸農納税、治水等で表彰を受けてゐる。曹洞宗を信仰し、家庭には二男四女の子福である。因に氏の長女美津子さんは陸軍主計少佐岡野將平氏の許へ嫁し、四女喜久子さんは騎兵中尉島村千秋氏の許へ嫁してゐる。

南久喜町久喜本

校 元町會議員 宮 本 保

電話久町三七番

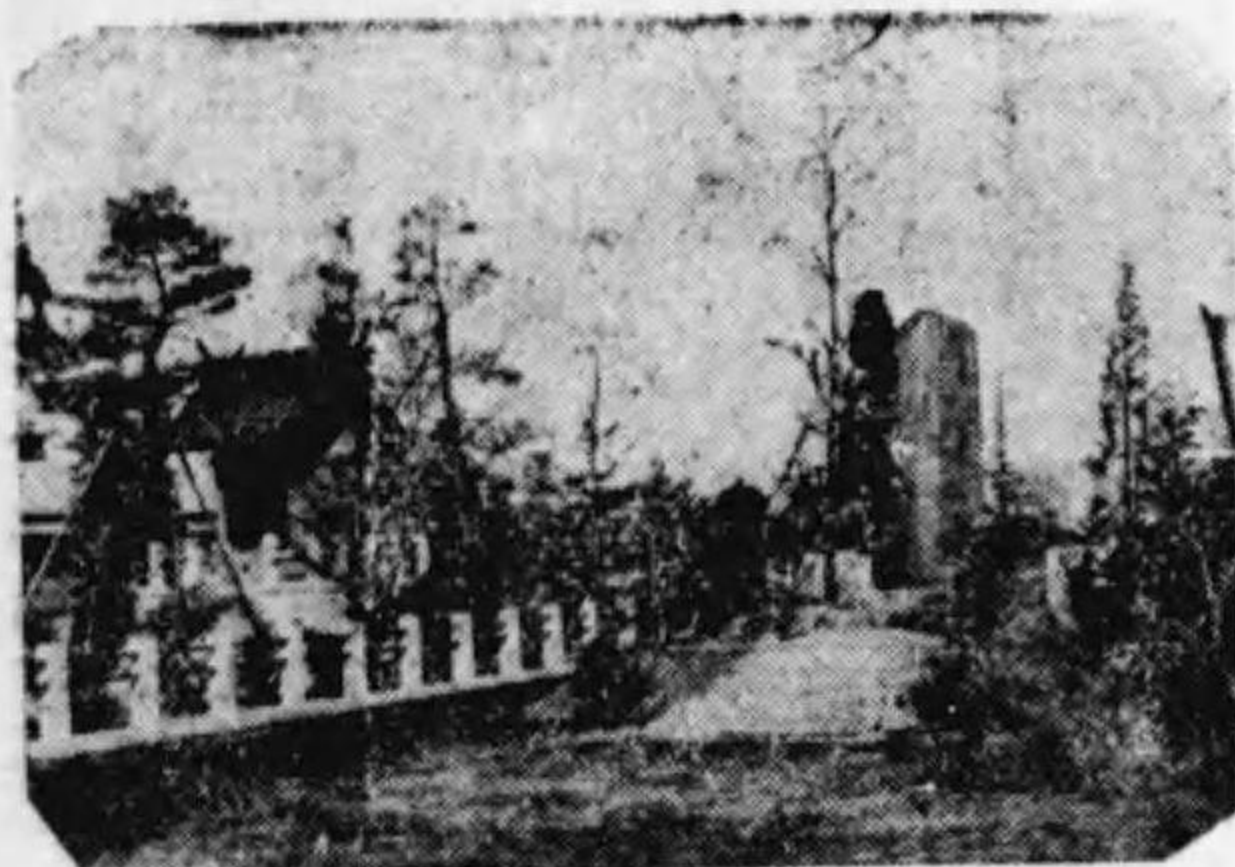
當家はその始祖すこぶる古く、藤原鎌足公以來の系圖あるも詳かなるざるが、今より約三百五十年前、周悅 地に居を

定めしより連綿として十二代の家系を傳え、代々醫術を繼承せる家柄、その舊き名門に明治に以て十二年十二月十一日先考秀悦氏の二男に生を享けし當主の保氏は幼時よりすでに頭腦當敏を以て期待を寄せられし英器、その有する資性穩健にして柔和、人に接するに笑顔を以てする人格者である。郷校を出でしうち東京帝國大學醫科に入學、大正四年十二月卒業後ち大正六年現地に祖業を繼いで開業、以來その卓拔なる技術と圓滿にして高潔なる人格は町民より絶對の信頼を寄せられて盛業を極め、いま當町々醫、縣立久喜高等女學校、久喜小學校兩校の校醫にして當町切つての刀圭家としてその名聲いよいよ高きを加へ、また自治公共の事に盡瘁貢獻する處甚大なるものあり、町會議員として町政の樞主に執筆せし事がある。二男二女の令息令嬢ある圓滿なる家庭にありては謠曲、俳句、弓術等を趣味として日々を楽しみ、因に氏は臨濟宗を奉信する篤信家である。

北葛飾郡

幸松村八丁目

幸松尋常高等小學校



校 學 小 高 尋 松 幸

本校は自治會、音樂的環境調査、體育の施設、特別母子關係調査、特別健康相

談等の特殊施設を有し、特別母子調査は他校に見られぬところで、異母子につきその日々の環境を調査研究し、兒童に及ぼす影響を考慮することに努力しつゝ、

奉安殿



あり、また特筆すべきは、夏期休暇中職員は一日として休むことなく出勤し、諸種の準備研究をなすことである。體育に對する表彰及び賞状を受けること二十數

回に及び、醫療室の設備もあり、體育の發揚も本校の特色の一である。兒童數五百三十餘名、卒業生二千八百名をかぞへる。現



町 田 校長
田 憲 氏
は町田
理吉氏
の男に

して明治二十三年十月十一日の出生、上杉氏家臣の末裔十八代目に當り、粕壁中學から埼玉師範二部に學びし人、嚴父は埼玉縣教員免許狀第一號を以て認許せられ、若槻校に奉職三十餘年に及びし功勞者である。

富多村神間

富多尋常高等小學校

本校は明治二十五年富多尋常小學校と稱して開校され、同三十七年高等科併置大正三年に現校舎を新築した。自力發展の知育、感謝報徳の德育、學校中心の社

會教育、自己本位の體育を主眼とし、兒童三二五名、就學歩合は一〇〇%を示し出席歩合九七%六三、卒業生累計千五百名に上り、中に醫學博士大瀧郁三郎氏、同内田三千太郎氏等の名士がゐる。職員は校長ほか八名、校醫は大橋喜一氏である。現校長中島寅之助氏は明治二十三年十二月の岳降、大正二年埼玉縣師範學校を卒業以來教育界に在る事二十有餘年、縣下有數の名校長と謳はれてゐる。因に養父作平氏は寶珠花銀行創立者として知られ、村長二十有二年間勤続のほか村會議員、衛生委員、土木委員等に擧げられた自治功勞者である。

吉田村惣新田

吉田村信用販賣購組合

當組合は組合員二百九十人、出資一口十圓の總額二千七百三十圓にして、設立以來順調な發展を遂げて今日に至り、郡下産組中の模範である。今、区域内の概況を數字的に検討するに、田二五七町步

畑二六四町步、宅地四三町步、その他山林原野等を併せ約六百二十町步の地域を有し、農家の土地所有別から見ると、五段歩未滿が最も多く二百八戸、次で一町步未滿四十八戸、二町未滿三十二戸と順次少くなり、五十町步以上二戸、百町步以上一戸である。世帯數は四八四、人口二八五六人。小學校は青年學校を附設し教育状態は頗る良好。村税は一世帯十四圓七十一錢平均である。かゝる環境に在つて當組合の躍進は殊に著しく、貸付總額一萬四千圓、貯金三萬五千圓、購買年額六千餘圓、販賣一萬一千餘圓の業態を示し、農業倉庫を有し、益々發展の一路を進んでゐる。主唱發起功勞者は初代組合長たる川島庫平氏、次で對開專一郎鈴木又次郎、金澤福次郎の三氏を経て、現組合長鈴木祥氏に至つた。氏は鈴木家十代目に當り、明治十一年端午節句に初代村長たる先代健吉氏の男に生れ、篤農家として郡農會より表彰を受けしことあり、村會議員三期をつとめ、現時村長の

要職に在りて村農會長をも兼ね、本村屈指の人材である。長男宇吉氏は目下支那事變に出征中。

幸手町幸手

幸手組合病院

電話幸手一五五番電話

本組合は産業組合法により設立され、有限責任幸手醫療購買利用組合と稱し、昭和九年度末縣下に魁けて幸手組合病院を設立、診療開始するや全縣下醫療界の注目するところとなつたが、設立の趣旨及び事業の性質も認識され業績順調なる



現院長

發達を遂げ、世評も益々良好となり、遠く各地より視察見學に來訪するもの日に多きを加へた。最近、傳染病室その他各室の増築に伴ひ、内容設備の充實擴張に

専心、銳意員役職員協同して之に當り、醫師の技術も組合員をよく知るところとなり、病院の基礎は確立、益々將來を囑望されつゝある。内科、小兒科、外科、産婦人科(分娩室完備)、耳鼻咽喉科、眼科、レントゲン科、物療科、皮膚泌尿科、整形外科を有し、診療時間は午前九時より午後四時まで、入院料は藥價を含めて一日一圓より、醫療費、藥價共に甚だしく低廉、昭和十一年には幸手町外五ヶ村よりなる傳染病組合及び久喜町外一町三ヶ村傳染病患者の委託を受け非常なる好評の下に進出しつゝあるは特筆に値する組合員約四千名、出資拂込三萬三千五百餘圓、理事は關角之助氏、野口裕氏、小林善次郎氏、青鹿慶次郎氏ほか七名、監事は山崎秀次氏ほか三名である。



現組合長

幸手町幸手

幸手町幸手

大宮製布工場

電話幸手五三番



大宮工場主

治四十一年三月の創立である。當初はハラブレード原料製造を主としたが、今はテープ製布に全力を注ぎ、年産一萬五千グロス、東京大阪方面の電氣機械製作工場及び、メリヤス製造業者間に販路を有す。曩に政治博覽會に出品して受賞せる事あり、製品は優秀を以て聞える。資本金十三萬圓、従業員約五十名、東京市日本橋區小舟町に營業所を設置する。工場主大宮庄助氏は明治十三年四月の出生、その祖は越後の人にして先々代清藏氏の時當地に移住し地綿糸の販賣に従ひ、

幸手町幸手
幸手町長 小林善次郎



當小林家は父祖代々公事に貢獻裨益するところ多き名譽の家である。即ち先々代伊平氏は郡會議員四期、町長、町會議員等に歴任して、その才腕を顯はれ、大正八年七十八歳にて永眠、その子たる先代格三郎氏は幸手町商會の創立に奔走盡瘁からず、初代會長に推されて當地商工業發展のため大いに努力したが、明治三十九年三月三十八歳の働き盛りに逝去された。當主はその長男

明治三十六年十月を以て生れ、日本大學商科を卒業、助役一年、青年團長一期をつとめ、昭和十年より町長に選任町治に努力し、また昭和八年より町會議員、同十年より醫療組合事務理事、同十二年より消防組頭等に擧げられてゐる。趣味は尺八と釣魚、餘暇を見て自適の日を送つてゐる。

杉戸町

杉戸町長 渡邊勘左衛門



祖は信州の人にして南朝の忠臣村上義光の家臣と稱され

當主を以て八代目とする。先代勘左衛門氏は町長、町會議員六期、學務委員、區長等自治要職を歴任せる功勞者にして、當主はその男、明治二十一年八月四日を以て生を享け、帝大農學部を卒業せる英

才、大正二年より昭和二年まで町農會長をつとめてその改善發達に盡し、昭和八年町長に選任引續き今日に至り、現時學務委員、區長、町會議員、耕地整理組合長を兼ね、諸方面に互つて功績甚大なるものあり、他面杉戸商事株式會社社長としても著名である。長男は早稻田大學出身長女文子さんは東京家政學院卒業、他に二男二女があり家庭頗る圓滿を呈する。因に杉戸町は多數人物を輩出せしめ、孝子小河原みね女の如き美談の持主を生んでゐる。

靜村島川

靜村島川 池田 保次

支那事變勃發以來幾百日、この間畏くも 聖上陛下には大元帥として、親しく皇軍を督して勝を千里の外に決し給ひ、一方政務については宵衣旰食の勞をとらせられ、またひたすらに國民の幸寧を軫念あらせられるのである。億兆蒼生感激に堪へず、益々盡忠報國の一念に生さね

ばならぬ秋である。わが池田保次氏は尊皇奉公の念強く、自治報國の精神に燃え寢食を忘れて公共のため盡力せる人、正に非常時局下のわが國に於ける模範的人物である。抑々池田家は氏を以て十二代目とする舊家にして、代々新左衛門を襲名し、庄屋をつとめたる家柄、氏は明治二十年を以て先代庄三郎氏の男に生れ、不動岡中學校を抜群の成績で卒業し、大正八年縣會議員に當選、引續き當選して二期間勤続、本縣治政に貢獻裨益するところ甚だ多く、その後村長に就任今日に至り、また消防組頭たること十五年、信用組合長十年をつとめて共に現任し、昭和十年七月には村農會長に擧げられて引續き現在もその任にあり、本村第一の自治功勞者と稱され、全村民の信任と尊敬を一身にあつめてゐる。皇道精神に基く村政は、村民をして明朗たらしめ、且つ福祉の増大大いに見るべきものがある。氏の如き實に當村の元老とも云ふべく今後の寄與こそ刮目して期待すべきである

行幸村

行幸村長 蓮沼 良次郎



今より二百六十餘年前の延寶二年前秋に初代が逝去されし記録ある

ところよりすれば、當家も亦相當の舊家にして、代々傳右衛門を襲名、十代目傳右衛門氏は戸長三期、村會議員等村治のために竭し、その子十一代賢次郎氏また夙に區長、村會議員等二十餘年の長きに亙り自治のため盡瘁するところ多かつた當主は十二代目に當り、誕生は明治十三年正月、日露戰爭に出征して勳八等に叙され、郷に在つては先代より引續き區長をつとめ、大正十四年より昭和十年まで助役たること三期に及び、同十一年村長に就任今日に至り、産業組合事務理事及び學務委員を兼ねる。畏くも明治大帝の

行幸を仰ぎ奉りし由緒に因んで名付けし行幸村の名に背かざるやう、銳意努力して業績顯著なものがあつた。

權現堂川村 大木 寛治



權現堂は櫻の村であり、坦々たる道路の村であり、それ以上に江

戸幕府時代から治水行政の心臓部をなした村である。今は治水事業が完成して村民は鋤鋤を肩に泰平を謳歌してゐる。わが大木寛治氏こそかゝる由緒ある村の首班として申分なき材幹であらう。明治十九年五月を以て大木權藏氏の男に生れ、同四十五年役場書記を拜命して大正二年まで勤続、その後大正六年再び役場に入つて収入役に任じ、昭和四年引續き助役に昇進、事務的才能に富み、村治の識見

高く、同十一年には推されて村長に就任、銳意村勢の向上に努力して今日に至る、特に産業改善、教育の普及、衛生状態の改善などに實績を擧げ、この間組合病院議員にも任じ、現時四期目の村長を兼ね全村の信任をあつめ、普く讃仰の的となつてゐる。

豊野村 田中 一雄



園藝家として地方屈指の學識を有する

氏は、先代榮造氏の男にして明治三十四年四月の出生、夙に東京府立園藝學校を卒業し、歸郷後、梨樹園を經營、現在二十世紀を主に七百數十本を栽培し、良好な結果を收めてゐる。曾ては消防組部長たること二期をつとめ、現時學務委員及び

村長二期目のほか昭和十二年以來村長に選任地方自治のため夙夜淬勵されてゐる



惟代夫人との間には長男恒雄君、長女豊さんがある。先々代田中恒

固氏は金澤藩士の次男に生れ、豊野村田中小兵衛氏息女めうさんと縁組、後助役、村長、郡會議員、信用組合役員等に歴任、村治のために竭すところ多く、義侠心に富み、豊野村發展の大恩人と稱されたが、大正十年六十八歳で永眠した。先代はその長男なるも二十五歳にて夭折。

櫻井村合常

櫻井村長 新井 俊平

圓満村長の稱ある氏は、資性濃厚篤實役場生活二十數年、助役三期、村長は現任にて四期目をつとめ、郡内に令名高く濃厚の中に謹嚴の風あり、篤實の中に融

通無礙の機才を有し、名村長と謳はれ、意氣愈々軒昂たるものがある。流石に祖先代々名主、戸長等をつとめて来た家柄の出身たるに背かず、信任愈々厚く、聲望益々高きを加へてゐる。抑々櫻井村は純農村とも稱すべく、農業盛衰即村勢、置されば本村施政は農業行政にその重點を置き、最近に於ても水稻及び大小麥、大豆等の優良品種の普及並に統一の目的により補助金を交附し、各農事組合を主體とし、水稻七反、大麥一反、小麥三反、大豆二反の採種圃を設置し、これが普及に努めた結果、本村作付の七割は縣獎勵品種に統一されるに至り、その成績顯著なるものあり、その他鹽水撲の勵行、共同害虫驅除、品評會及び共進會を開催し産米麥の改良を圖らんため米麥検査票箋及び検査申請書等を無償で當業者に交附し、馬鈴薯、大根、白菜、茄子、胡瓜、葱その他の種苗を共同購入するなど種々の方途によりて農業の發達改善に力を致しつゝあり、氏はその先頭に立つてよく



富多村 富多村長 大瀧 隆一

指導誘掖の任に當り、全村一致協力の美風と相俟つて村勢の向上顯著なるものがある。 明朗平和な郷土を建設するため一致協力するは銃後國民の任務である。わが大瀧隆一氏は昭和十二年村長の要職に就いて以來、協心協力、一致團結して村勢の發展のため盡力すること期して村政を執掌し、事績顯著にして着々その効を收めてゐるは、非常時日本の一細胞たる本村のためのみならず、縣のため國家のため誠に悦ぶべきことである。氏は明治二十年九月の誕辰、夙に粕壁中學に學び、學務委員をつとめしことあり、現時村長のほか村會議員四期目及

び村農會長の重任を帯び、全村民の輿望をあつめて村自治に全力を注いでゐる。趣味は植木園藝。因に當家は三百年餘を關する舊家にして、十代目たる先代三之助氏は助役、村會議員に任じ、また篤農家の聞えが高かつた。トキ夫人との間には慶應大學理財家出身の長男のほか六名の子女がある。

南櫻井村

南櫻井村長 岩井 八郎



岩井家の祖は小田原北條氏の家臣にして、北條氏滅亡の時、山伏

となりて主に従ひて金之井(南櫻井村)に落付いたといふ。その子孫代々土地開拓に精勵、徳川時代に入つてからは水運業を創め、爾來引續き今日に至り、農業兼營は日清戰爭以後のことである。先代義

吉氏は早稻田大學を出て區長等の要職をつとめたるも不幸早世し、當主八郎氏は主として慈母きよさんの手に育てられた。明治三十六年二月二日を以て生れ、粕壁中學及び明治大學を卒業、國學に興味造詣深く、郡内有數の智識ある村長の稱がある。若年乍ら實行力ありて縣下にも令名高く、大正十五年産業組合理事及び區長、昭和三年學務委員、同四年農事組合理事、埼玉縣郷土會常任理事、出荷組合長等に推され、昭和六年村長に就任今日に至るものにして、昭和八年には消防組頭をはじめ埼玉縣經濟更生協理理事、青年團聯合會評議員、村會議員に選ばれ先年農會及び消防協會よりそれ〴〵功勞者として表彰せられた。過去の南櫻井村は村内不和を極め、村民の困憊その極に達せしも、氏が村長に就任以來、漸次明朗平和を取戻し、學校も新築され、産業も發達を見るなど、村政各方面に絶大の効果を擧げてゐる。本村は徳川時代以後排水悪しく、寛保二年以來水害その他の

川邊、村

川邊村長 關根 喜一郎



關根家は七代以前より當所に住し、代々獸醫を業とし先代桐藏氏

は村會議員に擧げられしこと二回、よく郷土の發展に盡力した。氏はその男にして明治十三年五月の誕生、夙に醫術報國を志して螢雪の功を積み、徴兵検査に合

格するや特別志願して三等軍醫に任じ、歸省後醫院を開業、卓抜の技術と深奥の學識を有して忽ち流行を來し、履は戸外に溢れるの盛況を呈するに至つた。傍らに在郷軍人團當時より郷軍のために竭し、軍人分會創立と共に分會長に推されて今日に至り、この間村會議員をつとめること三期、功績燦然たるものあり、昭和二年より信用組合理事、同十年より北葛飾郡醫師會長に任じ、昭和十一年十一月村長に選任、平和主義に立脚して村治を掌り、明期川邊村の建設に邁進してゐる。家には母喜與さん、夫人たけさん、長女富美さんがある。

栗橋町仲町

町會議員 齋藤 治
消防組頭

當家は同郡靜村高柳の舊家として知られた家柄であつたが、後ち今の地に居して現在に及んでゐる。氏は明治二十年四月十四日の出生、若くして齒科醫へと志を向け、終に目的を果して齒科醫界へと

進出、他面また町自治へ寄與貢獻するところがあり、大に人望を博して町會議員に選ばれ、また消防組頭の要職をも握つて、町民の輿望に副ふところ甚大なるものがある。曾てはまた區長、消防部長、武道會支部長等を歴任、その功績も決して尠なるものではない。しかも氏の本職に立ちかへるや、醫は仁術なりをモットーとなし、貧困者等には進んで無料施術に應じてゐる。夫人らくさんは良妻賢母の譽れ高く、間に長男孝一君(十二歳)は小學校に、長女政江さん(十五歳)は久喜高女にと在學中である。

幸手町

町會議員 野口 裕



自治は國政の基本であり、國民の日常生活と極めて密接な關係を



長男 節 君
先代は年齒七十七歳なほ妻と

て壯者を凌ぐ氣概の人である。氏は家業に格勵すると共に夙く自治公共の事業に關係し、町會議員五期、方面委員十五年、商工會理事二十年、信用組合理事十六年をつとめていづれも現にその任にあるほか組合病院専務理事に推され、衆庶の福祉増進に貢獻甚大なるものがある。その信望、名聲噴々たるもので、氏の長男節氏は在郷軍人分會長たりしも目下支那事變に應召出征中。

杉戸町杉戸

町會議員 大木 亮三
元杉戸町長

當家は駿河國今川氏より出で、中興氏部之介氏の時大木庄を賜りて姓を大木と改めた。その子隼人は士族を脱して農となり、慶長年間五郎兵衛と改名した。その次男安右衛門氏分家して當大木家を興し、清二郎氏、庄右衛門氏、清五郎氏、與右衛門氏、新右衛門氏を経て、七代庄藏氏は戸長、町會議員、學務委員等をつとめたる自治功勞者、氏はその男にして明治三十八年助役拜命以來自治界の人となり、大正十年及び昭和四年の二回町長に選任、商工會長にも推され、町會議員たること五期、現にその六期目の任にある。長男亮一氏は在郷軍人分會長の要職に在り、氣骨ある材幹として信任されてゐる。

靜村

元村長 町田 正作
村會議員 七等

近衛首相は「支那事變發生以來戰場に銃後に涙ぐまじき日本精神の發露を見、躍進日本の呼吸を感得して密に心強く思つてゐる」と言はれた。十全を盡して銃後の援護に立つことは日本人の誇りとするところ、殊に氏は銃後國民の師表と仰がる人、曾て日露戰爭當時に於ても、幾多功勞多かりしにより勳七等に叙されたる榮譽を有し、今また戰時體制下の時局を深く認識理解して、卒先衆庶の先頭に立つて皇運扶翼の一助たるべく、不斷の努力を捧げてゐる。抑々町田家は約三百六十年前に創家され、氏は文久三年八月二日を以て先代定七氏の男に生れ、町田家二十代目を繼承した。夙に寺小屋に通つて勉學し、長ずるや祖業たる農に従ひ、一方その卓見博識を買はれて村長に擧げられること二回、村會議員たること二十ヶ年の長きに及び、現に村會議員及び村農會總務の重責を帯びて居り、村内の元老であり且つ有数の村治功勞者として普く尊敬されてゐる。令閨は意志堅固

豊田村

村會議員 長 山野井榮次郎

にして内助の功多き賢夫人、長男昭氏は齡すでに不惑を踰え、令孫三人があり、和氣藹々として形容すべからざる幸福な家庭をつくつてゐる。

春光融々天に滿ち、薰風爽かに地を互つて馥郁馳蕩たる様は山野井榮次郎氏一家の繁榮をさながらに表現するに格好の言葉である。抑々山野井家は遠近にその名著はれたる篤農家にして、氏は山野井安八氏を父とし、明治十六年を以て生をこの世に享けた。幼時より資性英邁の聞え高く、群童の中に斷然一頭地を抜いて將來の大成を期待されてゐたが、長ずるや益々衆望をあつめ、家業に精勵しては父祖に劣らず篤農の人といはれ、傍ら早くより自治公共のことに竭し、區長たること二十有年、現にその職にありて部落のため一身を忘れて奔走盡力し、部落の大恩人と仰がれ徳望普く、また農會總代

及び評議員に歴任して功あり、信用組合創設に當り發起人の一人として庶人に組合事業の時勢に適合せると有利なるを説き、設立後は監事に推され、組合の充實發展のため努力を惜しまず努力貢献しつゝ今日に至り、現時また村會議員を兼ねて村政に幾多の獻策を致しつゝある。全人格を傾けて衆庶幸福の増進に熱中せる氏の如き材幹は誠に稀有といふべきである。長男頼氏は明治四十二年の誕生、一家和氣霽々として至幸至福を極めてゐる

行幸村

縣會議員 三ツ林 幸三
村會議員



多年郷土のため奉仕して名聲噴々たる氏は先代安五郎氏の男にして明治二十六年九月の出生である。夙に収入役二期をつとめ、現時縣會議員三期

目、村會議員四期目、村農會長十餘年、學務委員四期目等を現任し、いづれも多年の経験によりて業績顯著を極め、縣下の三ツ林として重きをなしてゐる。抑々當家は貴族院議員遠藤柳作家の分家にして、創家初代を茂兵衛氏と稱し七代目たる先々代彌七氏は多年學務委員に任じて功勞あり、昭和二年三月八十九年の齡を全ふして永眠せしも、學事功勞者として賞動局より表彰せられた。先代はその男夙に學務委員に任じ、村會議員、區長等に推されしも、不幸早世された。現在家族は母堂クマさん、夫人コトさん、長男彌太郎氏、長女淑子さんのほか一男一女がある。

上高野村

村會議員 野口 小一郎
刀圭家

謠曲、讀書に興味深く、名刀圭家の稱ある氏は明治十年七月の誕生、開成中學を経て千葉高等學校醫學部を卒業し、直に當所に開業、二十九歳の時村會議員に

選ばれ爾來引續き今日までその任にあるほか、現時村醫、學校醫を囑託され、縣醫師會評議員、郡醫師會名譽會員として重きをなし



曾ては郡醫師會長をもつとめた當地刀圭界の先輩である

長男重治氏は帝大を出て目下實地研究中因に當家は結城家の末裔にして農を業とし、當主にて十二代、尊父碩氏は年少にして村治に奔走し、聯合戸長廢止と同時に、明治二十二年初代上高野村長に選任小學校設置には特に功勞多く、本村教育の今日あるは偏へに翁の力に俟つ所多大である。明治二十年九月急病を得て村長在任のまゝ逝去、痛く村民より惜しまれた。

吉田村三田
村會議員 對 間 連

當家の祖は大和國廣瀨郡弓削之里の人當麻左間之丞氏にして、身長七尺八寸體重四十貫といふ大丈夫であつた。その後



先代專一 氏
九代を経て有名な當麻天眞 正飯塚 長威入

道塚原ト傳が出で、ト玄、ト心、ト兵衛家次、ト右衛門ト山と相嗣ぎ、いつの頃よりか多岐摩、當間、對間と順次改められた。ト山は織部と稱し、土着して農を業とした兩



來連綿名家として郷黨の聲望をあつめて今日に至り、先

代專一郎氏は村長二期、助役五期、區長三十六年の永きをつとめ勳八等に叙されし自治功勞者中の第一人者である。氏は

その男にして明治二十四年十月の出生、在郷軍人分會長五期、學務委員を歴任し現時専ら村會議員に選ばれて奔走盡力し事績大なるものがある。趣味は狩獵。政黨的には絶對中立。家庭には令夫人及び長男ほか六人の子女がある。

八代村長間
村會議員 倉持 康三



自治界稀に見る人格者として聞え高き氏は櫻田村下川崎の産、明

治二十八年二月十九日を以て呱呱の聲をあげ、長じて倉持治助氏の養子となつた抑々倉持家の祖は徳川家に仕へて武藝の譽れ高く、民籍に入つて當地に住し農を業としてより十二代、世々郷土の開發と發展のために寄與貢獻するところあり、内有數の名望家といはれる。先代治助氏

は村會議員三十有餘年勤續して村治各方面に幾多の功績を遺せるほかその他種々の公名譽職に歴任して獻策裨益頗る大なるものがあつた。氏もまた養父に劣らず公共のために竭すところあり夙に農事獎勵委員、産業技手たりしことあり、明倫館中學校を優等で卒業せる秀才だけに、智能手腕相共に具備し、現に八代村信用組合理事、農事實行組合長、區長等の要職にありて部落のため産業振興のため、赴くとして可ならざるなき力を發揮し村内中堅人材中の第一人者とまでいはれてゐる。しかも宗教的信心の念あつく殊に相州大山に信仰あり、同山より感狀及び木盃を贈られしことがある。夫人くらすんは國防婦人會及び愛國婦人會の分會長をつとめ、地方婦人の先覺者である。長男敏夫氏は杉戸小學校に奉職他に次男實君及び愛嬢がある。

田宮村
村會議員 中島多左衛門
學務委員

中島惣右衛門氏宅より分れて六代目、氏は先代徳右衛門氏の男として明治九年四月二十八日に生をこの世に享けた。先



代は家業農の傍ら組合役場時代の副戸長をつとめたる功勞者である。

氏は早くから父の薰陶を受けて奉公報國の精神に富み、資性温良篤實の中に犯すべからざる威嚴と氣品とを有し、中等學校卒業後家業に奮勵すると同時に自治公共の事業に參與貢獻して衆庶福祉の増進に資するところ甚だ大なるものがあつた。即ち既往の公名譽職を列記すれば

村會議員、第三區長、學務委員等を初めとし、普通水路組合委員、悪水路水利組合委員、農會總代並に評議員、信用組合常任理事、田宮神社氏子總代、衛生組長、消防組小頭及び同部長、郡會議員、國勢調査員、保健衛生調査員等々、多角

的瘁盡努力は際限なく、多年恭敬神明に奉仕し神職に盡瘁したるにより縣知事より神社の維持に盡したるにより縣神職會長より區長として功勞尠なからざるため田宮村長より、水利組合委員として二十有餘年間勤続せし功勞により八代村長よりそれ〴〵表彰或は感狀を寄せられ、顯彰された名譽これに過ぐるものはあるまい。現在は農會總代委員及び神社氏子總代たるほか、檀家總代、村會議員、用水路普通水利組合常設委員、學務委員、第三區長等を兼ねてゐる。

豊野村

村會議員 野邊 數光

熱誠なる愛郷心を有し、營々致々として村勢の發展に努力貢獻せる氏は、野邊爲十郎氏の男にして明治三十二年十一月の出生である。抑々當野邊家は氏を以て九代目とする名門にして、始祖以來先々代等は八左衛門を襲名し來り、先代爲十郎氏は祖先の名に因んで八八園と稱する

園藝樹林をつくり、現在に於ては樹數及びその反別に於て縣下一二を争ふ有名樹園となり、年々販賣する庭園樹木の數は夥しい數に上り、父祖の名を今に傳へて益々繁榮の一路を辿つてゐる。また先代は村會議員をつとめること七期、區長に推舉されること四期、その他村内名譽職を歴任して功勞頗る多く、本村發展の偉大なる恩人と仰がれてゐたが、昭和七年惜しくも幽明境を異にせられた。その薰陶を受けて成育せし當主數光氏は夙くより八八園の經營に精勵して家運の隆昌に力を致し、また粕壁中學校を優等で卒業後一年志願兵となりて兵役に服し、正八位に叙され陸軍少尉に任ぜられし關係により、除隊後は推されて在郷軍人分會長の要職に就き、勤続六年、郷軍精神の鼓吹、社會奉仕、その他幾多の功績を残し現在村會議員及び學務委員共に二期目を兼任し、烈々たる愛郷心を以て村のため獻策頗る多い。家庭には母堂久さん、令閨、長男八郎君、長女あり、和氣瀟々

としてゐる。

櫻井村倉常

村會議員 元縣會議員

名倉 光之助



奉公報國は國民の義務である。皇國聖業の達成は、一にかゝつて

國民精神の如何に在る。氏は夙にこの點に意を用ひ、國民精神の作興と尊皇敬神思想の徹底につとめて功多く、一方産業金融界に於ては曾て寶珠花銀行頭取たりし前歴を有し、地方産業の開發と發展に私利私慾を離れて努力貢獻した人である。森衛門氏を父として明治九年一月に呱聲をあげ、長じて名倉家五代目を相續、大正三年より引續き二期間縣會議員に選出されて縣政界に令名を馳せ、また村會議員に推されて居村のため寄與尠なからず現に四期目をつとめてゐる。令閨アイ

さんとは琴瑟相和し、長男順一郎氏ほか一男一女を有す。因に先代森衛門氏は戸長をはじめ、助役、收入役等を歴任せる自治の功勞者である。

富多村上吉妻

村會議員 元富多村長

關根 和三郎



本村自治界の元老にして重鎮たる關根和三郎氏は明治十五年三月

の出生である。嚴父勇太郎氏は村會議員三期のほか戸長及び區長に任じたる自治功勞者にして、部落のため村のため寢食を忘れて盡瘁せる功績は文字に現し難い程大きい。氏はその遺鉢を受けて公共に竭すところ頗る多く、加ふるに頭腦明敏にして資性衆に勝れて英邁、一を聞いて十を悟るの偉材である。村長在任當時は村内道路問題の解決、教育の普及徹底、

本村警備の充實改善、副業の多角的獎勵、その他諸方面に互つて事績頗る顯著なるものあり、不世出の名村長とまで謳はれた。村會議員に當選三回、現にその職に在りて獻策益々多きを加へてゐる。家庭にはカツ夫人、長男正次氏（杉戸農學校出身）ほか二男四女がある。

南櫻井村

村會議員 村農會長

新井 浩三郎



人に接して懇切丁寧、事に當つて用意周到、自治公共のことに關與

して功績顯著なる氏は、先代秀三郎氏の男にして明治二十六年七月の出生である。夙に粕壁中學校を卒業し、家業たる農耕に従ひつゝ、神社氏子總代、産業組合監事等をつとめ、大正九年より昭和二年まで村農會長の任にあり、昭和七年再び擧げ

られて元の椅子に就いて今日に至り、その他村會議員二期目、區長を兼ね、且つ大正九年以來郡農會議員、昭和四年以來消防組部長として活躍貢獻され衆望を一身に擔つてゐる。因に先代も區長、村會議員三期、氏子總代等をつとめし人。家庭には母堂コトさん、夫人はる子さん、長男正男氏、長女愛子さんのほか三男三女あり、春風馥郁として和氣家内に溢れてゐる。

川邊村水角

村會議員 林 啓次郎



敬神崇祖の念篤く、水角神社の氏子總代として幾多貢獻せんとこ

ろ多き氏は、また村會議員三期目を現任して道路改修、農業經營の改善等に功績あり、更に寶珠花ほか六ヶ村米穀商組合

長の椅子に在ること三十年、斯業界の雄と稱され名望高く、四隣にその名を知らぬ者は一人もない。劍道に達し、剛毅の資性を有す。祖父は川越代官所書記をつとめ、地方的に活動多き材幹。氏は林家五代目に當り、先代淺次郎氏の男として慶應二年八月の岳降、幼時より頭腦明敏にして英邁の聞え高かつた。長男常作氏は明治二十五年の出生、令孫武雄氏は柏壁中學校卒業後自動車業を創始し、年毎に隆盛を見つゝある。一家益々繁榮、和氣瀟々として春風堂に滿つる感がある。

栗橋町仲町

町會議員 深廣寺住職

石垣 周含



權少僧都の位を有し地方切つての名僧と謳はれる師は新潟縣中蒲

原郡の産、郷愛を出るや直に佛門に入り

業を積み行を修めること多年、至信心樂の境地に悟入して徳望普く、夙に比企郡松山町城恩寺、鴻巣町勝願寺等に住職をつとめて後、深松寺住職となり今日に至つた。師を得て深廣寺の法燈愈々燦然たるものあり、寺運日に隆昌に赴いた。しかも師は單に法燈を守るのみならず、社會事業、自治、産業等諸方面に活躍貢獻し、現に衛生委員、戸數割調査員、町會議員二期目、方面委員、教區會議員等を兼ね功勞顯著なるものがある。夫人との間には四人の愛兒あり、長男誠善氏は早稻田大學法科在學中、次男秀光氏は第一高等學校に勉學中、三男貞雄君及び四男春夫君は小學校に通つてゐる。因に深廣寺は無涯山單信院と號し、阿彌陀如來を本尊とする。開山は新郷村大山東林寺六代の住職無涯閑榮上人にして、口碑として徳川時代の頃は寺内に辨財天を祭り、參詣人夥しく日に日に百八十貫文の賽銭があがつたといふ。現堂宇は昭和四年の新築、庫裡のみにて四十坪の廣

さあり、本堂は七十二坪に及ぶ。寶物單信上人像、十王鈴、徳本上人御名號、祐天上人御名號等あり、檀家は約百三十戸をかぞへる。

幸手町國府間

町會議員 樋口 政吉



始祖は近畿大阪の人今より七代前當地に移住し、初めは酒造業を

営みしが、祖父清左衛門氏に至り製菓業を創始、鹽が満は名産として廣く知られ徳川公の愛好を受け、長くも明治天皇より御買上の榮を賜つた。嚴父喜兵衛氏はこれより分家し味噌醸造販賣業に従事、兼ねて米穀商を営んだが、味噌醸造は中途にして廢止した。氏は明治十七年四月の誕生、米穀商を繼承して益々隆盛を來せるほか、大正七年より肥料並に食鹽販

賣を創め、今日の繁榮を見るに至つた。明治三十七八年戰役に出征して勳八等に叙され白色桐葉章を受け、一時金八十圓を賜はつた。曩に消防部長六年、同小頭一年をつとめ、現時町會議員、北武鹽小賣人組合長、幸手米穀商業組合専務理事その他の要職を兼ね公共のため貢獻頗る多い。

杉戸町

町會議員 元杉戸町助役

井上 直吉



一系十二代、始祖以來村頭をつとめて重きをなし、郷土開發のため

め寄與貢獻尠ならず、部落の恩人といはれる名門である。先々代直五郎氏は郡役所新築に際して努力多く、土地を寄附して縣より表彰され、その他各方面の公共事業に盡した功績は今なほ燦々たる光

茫を放つてゐる。當主直吉氏は先代直次郎氏の男、明治六年四月を以て呱呱の聲をあげ、長ずるや家業に精勵すると共に公共事業に力を致し、縣當局より銀杯を贈つて行賞されること三回、また千勝神社總代十三年、區長十年、學務委員、水利組合長三期、消防組頭、助役四期を歴任し、現時町會議員に選出されて居り、本町興隆のため幾多難事業を遂行せる敏腕の人である。長男直氏また父祖の血を享けて公共のため竭すところが多い。

靜村

村會議員 矢島 惣十郎



大阪落城の時の落武者に矢島匠なる者あり當所に居を定めて農耕

に親しみ、當矢島家の基礎を開いた。村内有數の舊家といはれ、代々農を以て世

に立ち、近隣の信望をあつめてゐた。氏も亦家業に精勵して篤農家の聞え高く、傍ら消防組頭約二十年、衛生組合長二十年をつとめ、功勞渺ならず、その手腕力量と人格とは萬人讃仰の的である。現時村會議員四期目の任にあるほか區長を兼ね、夙夜寢食を忘れて自治公共のために淬勵し聲望愈々厚きを加へてゐる。民政黨に所屬す。令閨は内助の功多し、賢母の譽れあり、長男瀧太氏夫妻の間には不動岡中學校通學中の賢治君ほか二人の子女あり、長女正子さんは久喜高女卒業の才媛にして現在母校研究科に通つてゐられる。

豊田村

村會議員 小森谷 進治

郡乾蘭組合長 今や暴支膺懲の聖戦はます／＼その歩武を進め、皇軍の猛威は四百餘州を震駭せしめてゐるが、これを榮光なる終局に導くためには前線統後等しく氣を新たに、舊に倍進する努力を重ねねばならぬ

行幸村

村會議員 町田 琴三郎



嚴寒の冬を物ともせず、香氣凛然として四邊を壓する梅の花の如

のは明である。小森谷氏が、よく勤よく儉、荒怠相戒めて範を衆庶に垂れ居るは誠に奇篤の事、賞讃の行といふべきである。氏は先代小森谷松藏氏の男として生をこの世に享け、若冠二十七歳を以て村長に選任され、村治各般に當つてよくその難局を打開し、功を千載に遺し、若き名村長と謳はれて在任三期の長きに及んだことは、村民の等しく忘れ得ぬところである。村農會長の要職に推されては本村の事情に適合せるやう農業の改善改良特に合理的多角的經營に意を用ひて効果を擧げ、現在も引續きその任にありて勤續二十有餘年に及ぶほか、北葛飾郡乾蘭組合創立以來の組合長として令名高く、村會議員、學務委員、方面委員等を兼ね、統後國民の覺悟を心として公共に盡瘁し功勞洽く、本村のみならず郡下の大恩人と稱されてゐる。誠に氏の如き材幹は稀にのみ見出し得るところで今後村勢發展上氏の存在は益々重きを加へその功績こそ期待すべきである。

き、氣高き品位と犯すべからざる仁徳とを有する氏は、町田三造氏の令息として生をこの世に享け、早くより家業に精勵しつゝ村治公共の事に盡瘁貢獻多く、村會議員に選ばれること四回、學務委員たること十有二年、更に方面委員二十年、區長六年等をつとめていづれも現在その任にあり、業績益々顯著を極め、五領俱樂部發起者としても有名である。夫人との間に長男典氏ほか三名がある。因に當家は氏を以て十代目とし、七代庄右衛門氏は村役人をなし、八代松太郎氏は

戸長に任じ、九代三造氏は村會議員二十年の長きに及び、村當局より表彰を受けし自治功勞者である。

上高野村茨島

村會議員 江森 康友

第二次ロンドン軍縮會議が、わが國の正當な提案にも拘らず、英米の不當な横車によつて破局を見てから、世界は正に軍擴の時代に入つた。一方に暴支膺懲の聖戦が進められてゐる時ではあり、億兆のわが民草は、一致戮力、この國際的難局を突破しなければならぬのであるが、かかる時、わが江森康友氏の有する忍耐力、克己心、愛國的自覺、岩をも徹す強き信念など、すべてが衆庶の以て範とすべきものであらう。氏は先代角三郎氏の男にして明治二十二年四月七日の出生である。粕壁中學校に學び、在學中は秀才の聞えが高かつた。思想穩健、中庸を以て旨とし、傳統的日本精神に生きる典型的な人格者にして、曾て助役に推されて三

期間勤續、愛郷心に加へるに事務的才能を以てし、名助役と謳はれた。現在は村會議員四期目及び村農會長を兼ね、村のため貢獻裨益するところ益々大なるものがある。令閨との間には長男啓友君のほか二人の愛兒を有し、家庭頗る圓滿である。因に當家は北埼玉郡熊谷在の出にて約三百年を経る舊家、本村開發に盡すところ甚だ多く、代々農を業として名主を勤め、先代角三郎氏は村長、村會議員等多年に及び、村内第一の自治功勞者とまで稱され、その功績は今も燦々たる光を放つてゐる。

吉田村一ツ家

村會議員 青木 進

新銳の氣に燃え、村勢の發展に偉大な貢獻ある氏は、資性濃厚にして英邁、識見の豊富、人格の高潔なること他に類を求めんに難しく、衆望普く、名聲四隣に轟いてゐる。その祖は信州の人、空徹法師と稱せし佛門の異材にして、釋尊の

聖き御教を遵奉して諸國行脚中、當地に留まりて遂にここを永住の地と定め、庶民の教化救済に力を用ひ、遠近にその徳を慕ふ者頗る多かつた。二代もまた僧籍に入りて衆庶の歸依あつく、二代目の時初めて俗籍に還り、農を以て業とするに至つた。それより代々地方の信望深き篤農家として聞え、當主を以て十四代目とする舊家である。先代儀一郎氏は郡制實施當時地方自治に關係して功績渺ならず、當主はその男、明治三十三年十二月十九日を以て生をこの世に享けた。少年時代には神童とまで稱され、吉田村小學校卒業後粕壁中學校に學び、在學中は成績優秀の俊才と謳はれた。中學卒業後、職を縣廳に奉じ、農政家勤務の若き吏員として將來を囑望せられたが、退職自宅に入り、祖業を嗣ぐと共に、自治方面に參與、村會議員に選出され、民政黨の逸材と評されてゐる。家庭には母堂健在のほか令弟二人あり、夫人との間には長男勉君ほか三人の愛兒がある。

八代村天神島

村會議員 尾崎 行雄



代々當地に名主をつとめたる舊家名門にして、現在に於ても榮吉

名主といへば當尾崎家なることは三歳の幼童もよくこれを知つてゐる。當主行雄氏はわが國憲政の功勞者野堂尾崎翁と同姓、村會議員二期をつとめたる先代幹之氏の男として明治四十一年十一月に生れ、杉戸農業學校卒業の時は文部省より表彰されし全國三名の内の一名にて、如何にその秀才なるかを察しられる、現時村會議員に選ばれ、若きエキスパートと稱され、絶對中立を標榜し、人氣がある。先々代榮吉氏は多年に亙つて部落の開發と發展に盡瘁し、私利奉公の誠を遺憾なく發揮せる功勞者、郷黨の信望沸くが如く

燦々たる名聲四隣に高く、功績の碑はその遺業を忍んで建設され、業績は永遠に炳乎として輝いてゐる。

田宮 村

村會議員 增田 柳藏



自治制發

布五十周年の祝典に當り、長くも天皇陛下には勅語を賜は勅語を賜りて「私を去り公に奉し」と宣ひ、臣民奉公の道を御諭し遊ばれた。定に感激に堪へぬ次第である。自家を顧みず、自身を捨て、奉公の一路に力を盡すこそわが日本國民たるの道であり、わが増田柳藏氏はその典型的ともいふべき模範人物である。その祖は八代村増田家より分れ當地に居を定めて農を業とし、爾來世に篤農家として郷黨の信望をあつめて今日に至り、氏はその十二代目に當り、先代甚

右衛門氏の男、明治十五年二月十四日を以て健かな呱呱の一聲をあけた。櫻井尋常高等小學校に學び、模範兒童と稱され智徳體三者揃つて目覚ましい發達を示し櫻井校が他に誇りとせる存在であつた。その後家業を承けて熱心に勵み、傍ら社會公共のことに竭すところ多く、現に區長、信用組合理事、村會議員等の要職を兼ね、また十三年來村農會總代に擧げられて居り、私利を離れて公共に盡瘁せる氏の如きは誠に少いのである。趣味は植木盆栽。曩に鹿島神社に多額の寄附をなせるにより縣社會課より表彰を受けた。家庭には令閨、長男夫妻、次男勝治氏（明治四十年生）ほか令孫二人あり、頗る圓滿である。

豊野 村

村會議員 關根 五郎吉

始祖以來十三代、世々精農家として郷黨の信望をあつめ、先々代は村會議員に選ばれ、先代五郎右衛門氏は區長に推さ

れ、共に郷土のため寢食を忘れて貢獻せる偉材である。氏は先代の男にして明治



十年の岳降資性濃厚篤實にして、又公共自治の精神に富める氏は日

露戰爭當時より收入役、助役、村長十數年を歴勤、明治四十三年の關東大風水害にはその復舊に當つて盡力殊に多く、大正十二年の大震災の時は直に小學校舎を新築するなど、その機敏と手腕とは萬人の等しく讃嘆するところであり、その功や實に偉大である。現時村會議員、産業組合理事、農事組合理、養蠶實行組合理等を兼任、寄與盡瘁益々多きを加へてゐる。行政事務會その他より表彰數次に及ぶ。趣味は讀書。家庭には令閨ヨネさん、長男近吉氏（明治三十一年生）があり、和樂の家庭として他の羨望すところである。

櫻井村倉常

元郡在郷軍人聯合分會長

松本 高治



その昔、後宇多天皇の御代より戰國時代の頃まで信濃國松本に住

せしが故に松本の姓あり、後、當地に移住せるものにして、分家以來相嗣ぐこと七代、世々名主をつとめし名門である。氏は先内宇内氏の男として明治二十二年三月を以て呱呱の聲をあげ、粕壁中學校卒業後軍務に服して中尉に任じ、除隊後明治四十二年以來まで軍人分會長をつとめ、大正九年北葛飾郡在郷軍人聯合分會長に推され引續き二期間動績、有功賞を授與され、當地方軍人分會發展の大功勞者と稱される。また學務委員二期、現にその任に在るほか、村會議員、産業組合

理事、村農會總代等を兼ね、功績甚だ大なるものがある。書道に精進して書をよくし、雄健の筆は何人も追隨し得ぬところである。家庭には母ソメさん、夫人ケイさん、長男治夫氏がある。

富多 村

村會議員 平野 勝治



地方有數の舊家たる平野平兵衛家より分れて九代、農

業として篤農家と謳はれた家柄、氏は明治十六年二月二十三日先代嘉藤治氏の男に生れ郷校卒業後兵役に服務、偶々日露戰爭勃發して出征し、滿洲各地に轉戦幾百日、武勳赫々として後世に残すべきものあり、勳八等に叙されるの光榮に浴した。その後精農奉公を旨とし、村會議員三期、區長十ヶ年、悪水路組合會議員二期、村農

會評議員二期、衛生組合長等をつとめ、功績焔乎として村史上に輝いてゐる。また養蠶實行組合長に推されて四十五名の組合員を指導し、蠶業の利益増大と改良發展に竭すところ至大である。長男唯光氏は消防組部長、他三人の令息は共に各方面に活躍しつゝあり、なほ家庭には祖父母及び令孫がある。

幸手町幸手

町會議員
矢島染色
工場主

矢島 喜一



氏は南埼玉郡黒濱村の産、嚴父は掃部之助、秀勝と稱し武藝の達人であつた。氏は明治十二年八月に生を享け、幼少の頃、父に伴はれて東京に出で長ずるや染物業に従事傍ら下谷區入谷町會議員、同會計係を囑され、大正十三年



三男健八郎君

徒たる時、級友の水に溺れんとするを見るや身を以て救助に勉め、遂に自ら難に倒れたることは今なほ世人の感動を呼ぶに足り、幾百千の青年のため範を垂れたるものとして権現堤に記念の碑が建てられてゐる。因に工場は十七坪の建坪を有し、綿糸染色を専門とし、栗田工場、大宮工場等大工場の委託品を主とし、糸染年額八千貫、製品油落年額千三百貫に上る。

町會議員
消防組頭

深井 喜一



當家は先々代の時分家創立せるものなるも祖先是代々名主をつと

め、名字帯刀を許されたる名門である。先代禮助氏は自治制發布當時より町會議員並に消防組頭等の要職に就き、杉戸町政に盡瘁せられ、本町の礎石を固めた功勞者である。氏はその男として明治十九年八月に生れ、曩に八ヶ年間埼玉鹽小賣人組合長をつとめたる手腕ある人望家に於て、現時町會議員三期目、消防組頭、司法省囑託少年保護司、方面委員、一町十四ヶ村消防組聯合會長等の要職を兼務し、就中消防組には小頭、部長時代から三十餘年間その改革に盡力せられし功勞者にして、設備の改善充實、財政の確立

に業績を挙げ、縣下稀とまでいはれる改革を成し遂げた敏腕家である。資性濃厚篤實の紳士タイプの人、町民の信望厚く家庭は令閨しん子さんと琴瑟相和してゐる。

靜村伊坂

村會議員 奈良 善次

中庸を踏んで公事に竭し、資性濃厚にして謹嚴、村内有數の人格者と謳はれる氏は、本村奈良茂市氏の次男として明治十七年十月十九日出生、今より約三十年前當奈良家の先代喜三郎氏の養子となつた。抑々當家は代々農を業とする村内の舊家にして、氏は郷愛卒業後専ら家業に精勵、篤農家の聞え高く、農事經營上幾多の改善貢獻をなせし人、しかも一面公共の事業に力を注ぐこと多く、國勢調査員を囑託されること二回、消防組小頭にも推され、現在は村會議員並に方面委員として至誠奉公の一路を進んでゐる。信念に強く、情と意を併せ有し、人格的

に見ても異數の材である。令閨は内助の功多き人、長男和市氏は家業に精勵し夫入との間に一子勝君を儲けた。二男新君は豫備海軍兵、三男理一氏は歩兵第三聯隊に入營し目下支那事變に出征中である。なほ二男三女を有し、皆家庭に在りて圓滿なる日々を送りつゝあり、氏は實に子福者といふべきである。俚諺にも笑ふ門には福來ると稱し、和樂堂に滿つるが如き霽々たる當家には彌々幸福の女神が足繁く訪れることであらう。

行 幸村

村會議員 關根 由之助



剛毅瀟達なる一面濃厚の性を有し、人望噴々たる氏は先代平作氏

田宮村蓮沼

村會議員 五月女茂一郎

當家の祖は豊臣家に仕へし武士、大阪夏之陣に主家の敗れるや、徳川氏の目を偷んで世を忍ぶ身となり、その子孫元和八年に當地に移住して農を業とするに至り、それより六代の孫某の時より代々名

主をつとめし家柄にして、當主にて十六代目に當る本村屈指の舊家である。氏は先代太右衛門氏を父として明治二十四年十月六日を以て健かな嗚聲をあげ、田宮南、富多兩小學校に學んで後、粕壁中學校を優等で卒業せる俊英にして、家業に従事しては精勵よく祖業をして益々隆盛ならしめ、衆人篤農家を以て氏を呼び、名聲四隣に普きものがある。思想穩健堅實にして句且にも過激を好まず、中庸の道を進んで人望あつく、先年區長に推されて在任八ヶ年に及び、部落民から宛も慈父の如くに敬ひ慕はれ、功勞顯著にして本村史上に燦たるものがある。現在は村會議員の任にありて村政に參劃し、獻策頗る多く議員中有數の人格者である。家庭には老父母健在し、夫人との間には七人の子女あり、長男は農學校を出て家業に従ひ、二男は粕壁中學校卒業後埼玉師範二部に、三女は粕壁女學校に共に勉學中にて、いづれも頭腦明敏を以て聞える。

櫻井村深輪

村會議員
農産組合長

青木 六五郎



十八代連綿たる當家は、郷黨に信望ある名門の家柄にして、代々

農を以て業とした。氏は先代牧太郎氏を父として明治二十一年五月に生をこの世に享け、粕壁中學校を経て麻布獸醫學校を卒業、大正元年當所に青木獸醫院を開業、技術の卓拔なるを以て名聲高く、日に隆盛を呈し今日に至り、傍ら乳牛十頭を飼育し、毎日約五十宛の搾乳をなしつゝある。しかも消防組頭、學務委員を歴任し、現時村會議員四期目たるほか村農會長、北葛畜産組合代議員を兼ね、また數年來産業組合長として敏腕を揮ひ名聲治く高きを加へ、業績各方面に顯著

なるものがある。小松夫人との間には杉戸農學校出身の長男一元氏のほか四男一女を有し、家庭圓滿、霽々の氣に満ちてゐる。

富多村

町會議員 岡 安善次郎

當家の祖は不明詳かならざるも、當主を以て五代目と聞く。氏は先代本治郎氏の男として明治二十六年一月三十日出生した。資性豪放調達にして、村政刷新に盡瘁し、村民の福祉増進に貢獻寄與すること甚大、村治績を高める等、其業績頗る顯著である。又意志鞏固なる氏は郷黨の信望を一身に集めて政友系を支持し縦横にその材幹を驅使し噴々たる名聲を博してゐる。曩に青年團各部長、消防部長に歴任し、現在は社内領用水路組合委員、水路委員、治水中社内領用水路組合委員、發動機組合理事、村會議員、養蠶實行組合長、埼玉縣藥工組合代表議員、米穀實檢組合長等の要職にある。又先代

本治郎氏は區長を二十數年間勤続した人である。家庭は至極圓滿で五男、三女といふ子福者である。因に昭和十一年埼玉縣より、同年社内領より、同十一年小山製鐵よりそれ々々受賞してゐる。

幸手町幸手

町會議員
幸手自動車營業組合長

中村 孝作

電話幸手七七番

中村家の祖は大阪府泉南郡熊取村の人中村喜右衛門氏の子太左衛門重政氏の時南埼玉郡豊春村に移住した。八世の孫敵石氏は俳諧連歌をよくし、號を匏匊庵と稱し、遺文多し。その後代々農を業とした。氏は三郎氏の二男として明治三十四年四月に岳降、二十五歳の時分家獨立して當地に自動車業を創始、現時貨物自動車四臺を有し、幸手自動車營業組合長に推され業界に重きをなす。昭和十二年五月町會議員に當選、齡古稀に達せず議員中の若手として積極的に活動し、將來を

期待されるところ大である。刀劍に興味を有して研究深く、鑑定眼の鋭く正確なること類例少なく、近隣にその名を知らぬものはない。郷土地誌及び郷土史にも蘊蓄がある。家庭は夫人との間に二男一女がある。

杉戸町

町會議員 細谷 録樓



雅緻あり
氣品高き人格者たる氏は、明治三十四年七月の出生、夙

に家業の傍ら自治公共に竭して功績多く現に町會議員二期目、區長、學務委員その他の要職にあり、人望治く、名聲噴々たるものがある。日本大學法科出身にして、趣味は尺八、一男二女の愛兒を有す因に當家は清和天皇の皇子貞純親王六代の孫源經基より七代目の政氏、その子國

氏氏の始祖となし、秀氏、秀國、秀清、清房、保房、爲房、資房を経て、九代資遠氏は約六千石の領地を有せし將領、それより資實氏を経て資光氏の後、岩槻城下より當地に移住、初めて農を業としたその後十四代を置いて二十六代孝氏は即ち當主の實父、二十七八代は氏の令兄なるものいづれも家督相續後早逝、氏が代つて二十九代の當主となつた。

靜村佐間

村會議員 鳥野見 德壽

當家の祖は豊臣氏の家臣にして、今より約三百年前、大阪落城の際、落武者となりて當地に來り住し、爾來代を累ねること二十二回、先代々久右衛門氏は明治維新直後戸長役場戸長たりしことあり、名望四隣に普く、敏腕を以て謳はれた。先代久藏氏は農業の傍ら、村會議員五期島中領水利組合長五期を勤め、本村産業の開發振興に多大の貢獻あり、今もその功績は村民の腦裡に浸み込んでゐる。當

主はその男にして明治二十二年四月二十二日の出生、静小學校卒業明倫館中學校に學び、優等の成績で同校を卒へ、その後家業たる農に精勵しつゝ自治公共のことに竭し、島中領水利組合長をはじめとし、村會議員、學務委員たること多年、また佐間第一養蠶組合長、納稅組合長、學校建築委員、中川水利組合委員、權現堂川水利組合委員、消防組部長など村内名譽職多數を兼任し、堅實の手腕、博識の才智、村内人材中の白眉といはれ、功勞赫々たるものあり、消防の進歩改善に力を竭しその功勞顯著且つ他の模範となすに足る故を以て縣消防協會長より表彰されしをはじめとし、渡邊製絲大宮養蠶部、自彊會長等より感謝狀を贈られた。家庭には母堂、令閨、長男一郎氏、次男芳郎氏ほか四男二女がある。

田宮 村

村會議員 山崎 富五郎

富家は當村内有數の舊家であるが、そ



の詳細は二回の火災によつて、記録等を焼失し不明である。代々農を以て傳ふ。氏は明治二十六年十月九日富吉氏男として呱呱の聲

を挙げた。資性濃厚篤實、若き頃より専ら農事の研究に

精勵して篤農家を以て稱さる。現在村會議員、農會總代、養蠶實行組合長、埼玉縣牛馬耕作指導員、産業調査員等の重職に推されて、村治産業に貢獻する處多大にして村民の德望又大いなるものがある。氏の組合長たる養蠶實行組合現況は、組合員數三十五名、掃立量春九五〇瓦、秋夏一一五〇瓦、春收繭七六〇〇、夏秋七〇〇〇、桑園反別六、八町歩、肥料反當り一〇となつてゐる。當縣探種穂一等賞の表彰を受けた。家庭は尊父母堂共に健在にして夫人との間には三男二女を有する子福者にして、常に團樂春の如く和こ

やかである。

櫻井村倉常

村會議員 橋本 住

皇國を礎石とする東洋永遠の平和と福祉を確立するためには、わが國民が、確固不拔の決心と堅忍持久の覺悟を以て、所期の目的達成に勇往邁進することが第一の要件である。世は國家總動員の時代である。物と共に人材を必要とする時代である。かゝる時本村に橋本住氏を有することは、大きな力強さを感じしめるものである。氏は橋本家十四代の當主に當り、名門の血を承けて人格高潔を極め、祖業農を繼いで篤農家として衆望をおつめ、信念に強く、個性の瞭りした材幹にして、堅忍持久の精神を有し、事に當つては周到、正に衆庶の以て模範とすべき人材である。明治十九年八月八日、呱呱の聲をあげ、夙に區長に推されて部落民のために盡力貢獻するところ尠なからず、現在村會議員に選ばれて村政に獻策

寄與するほか、産業組合評議員として組合の順調なる發展に意を用ひてゐる。誠に氏の如き人材は容易には求め得られず本村の大きな誇りでなければならぬ。長男宏氏は明治四十四年生れ、杉戸農學校卒業後、兵役に服し、少尉に任じ止八位に叙されたる典型的軍人肌の人、現在在郷軍八分會長の重責を帯び、全會員の信望を一身にあつめてゐる。

富多村神間

村會議員 福田 市郎



富家は十數代前に櫻井村より移住し來りしものにて、當地草分け

の舊家といはれる。氏は富多小學校卒業後同校代用教員たること二年、次で大作暢氏に就いて漢籍を學び、後、埼玉縣師範學校講習科を卒業し、小學校教員たる

こと十數年に及び、またその間東京皇典研究所神職講習會に入り、同所卒業後指定村社富多神社々掌たりしこと八年間、大正十五年職を辭して家庭に入り今日に至つた。明治三十九年頃、本村に青年會を組織し、村内七部落に各試作畑一反歩を耕作せしめ、本村青年の思想善導及び産業の改善向上に寄與貢獻すること多く現在村會議員の要職にあり、中堅人物として信望をあつめつゝ功績愈々顯著なるものがある。

田宮村佐左衛門

村會議員 横山 英一



溫良寡言しかも實行力ある争闘家と稱される氏は、本村中堅人材

中の異彩として名聲噴々たるものがある。祖先は堤郷村の由緒深き舊家横山氏より

分家し、氏を以て十代目となし、先代英之助氏は農を家業とするほか、多年村會議員、郡會議員、利根川水害豫防組合委員等に任じて地方自治に至公無私の貢獻を致せる德望家にして、氏はその男として明治十五年九月五日を以て生をこの世に享けた。田宮小學校及び杉戸高等小學校に勉學の少年時代から頭腦明敏、資性英邁なるを以て知られ、學業成績は常に拔群の優秀さであつた。日蓮宗を信仰し日常生活は極めて謹嚴なるものあり、家業に従事しては精勵よく家産の増大につとめ、一方埼玉縣産米検査員たること十餘年の長きに亘りて恪勤、また水利組合理事に推されて公事に奔走すること多く現在専ら村會議員として村治に關與し尊父に劣らぬ功績を郷土發展のために累ねてゐる。令閨は内助の功多くよく琴瑟相和し、長男謙二君大正十四年生の秀才にして、ほか五人の子女があり、家庭頗る圓滿幸福を極め他家の羨望するところである。

櫻井村會常

村會議員 横井 豊

榮枯盛衰は世の慣ひと雖も、一代の風雲兒豊臣秀吉卒去後、秀頼が辿りし殺害への生涯は、轉々歴史の悲哀を感じしめるものがある。當家の祖五郎右衛門氏大阪落城の後永年住み慣れし攝州尼ヶ崎を離れて當地に來り、拔山蓋世の勇あると雖も時勢の流れは如何ともしがたく民籍に入りてこゝを墳墓の地と定めた。記録によれば正暦三年變轉多き生涯を終つたといふ。それより子孫相嗣いで十四代、當主豊氏に至り、家門愈々繁榮を加へ、村内屈指の舊家名門として聲望四隣に普きものがある。八代五右衛門氏當時は醸造を業とせるものゝ如く、九代目より農を本業とし、爾來變更現在に及ぶ。氏は即ち先代光五郎氏の男にして明治三十五年十一月一日當所に呱呱の聲を擧げ、早くより青年團支部長、消防組部長十年、在郷軍人分會長一期等をつとめ、消防功

勞者として表彰されしこともあり、新進中の白眉たる存在である。現在村會議員に當選活躍のほか農家組合長を兼ね、今後の活動は大いに期して俟つべきものがある。政黨政派に偏せず、嚴然中立を標榜して自治の刷新に力を注ぎ居る姿は、正に勇將の颯爽たるに似て頼母しい。家庭には母堂、やま夫人、長男昭君及び愛嬢、令弟、令妹等がある。

富多村神間

村會議員 會田 太郎



當家の祖は川邊村の人にして今より十七代前に當地に移住、代々農をなせし舊家で、組頭村役人等をつとめし家柄である。先代要吉氏は自治制發布後最初の村會議員に選ばれし人、氏はその男にて明治三十一年九月の出生、篤

櫻井村會常

村會議員 知久千代吉

質實剛健、勤勞を愛し、奉公の至誠に燃ゆるは、わが知久千代吉氏である。その祖は信州神峯の城主知久豊前守の三男にして、民籍に入りて農を業としてより十二代を數へ先代元九郎氏は町村制發布と同時に村會議員に選ばれ、明治四十五年逝去せられたるまでその職にありて貢獻頗る多く、また區長たりしことあり、本村自治功勞者中の偉材である。氏はその長男として明治十年六月四日に生をこの世に享けた。産業組合の設立に際して

は主唱發起人となりて盡力奔走し、創立以來理事、監事、組合長を歴任、多年に亙りて組合の擴充發展に寄與するところ多く、氏の努力により郡内屈指の優秀組合と稱されるに至つたもので、先年産組功勞者として特に表彰されるの光榮に浴した。また昭和十二年三月まで區長四期をつとめ、部落の發展と融合とに努力を致し、學務委員にも推されしことあり、消防組に第二部の設置されるや推されて初代部長となり消防事業にも炳乎たる功績を遺してゐる。現在は村會議員及び村農會代議員を兼ね、寢食を忘れ、私利を捨て、公共の福祉をのみ慮つて活動し、名聲噴々たるものがある。令閨シマさんは内助の功多く、長男千代太郎氏は大正二年生れにて杉戸農學校出身の俊才である。

富多村

村會議員 産業組合長 勳七等功六級

大瀧 相之助



多村産業組合の組合長としてその手腕と人格を謳はれる氏は、大瀧家十一代目の當主にして先代彦藏氏の男、明治十二年三月十四日を以て呱呱の聲をあげ、日露戰爭には各地に轉戦して功多く陸軍歩兵軍曹に任じ勳七等功六級に叙され青色桐葉章を授與された。埼玉縣農林物産検査技手たること二十有餘年、昭和十一年これを辭した。現時村農會評議員及び區長を兼ね部落のため貢献甚大なるも、昭和七年五月以來富多産業組合長としての氏の功績は、本村産業史上に永遠に炳乎たる輝きを放つものである。同組合は明治四十五年の創設、初め信用は購買の二事業のみを経営したが、大正十一年から販賣事業を兼營、氏が組合長就任後、昭和

北葛飾郡 内第一の優良産組といはれ、縣下に於ても一二を争ふ富

十一年五月に有限責任から保證責任に變更すると共に利用事業を創め、同年農業倉庫も建設された。組合員約二百四十名出資拂込額三千七百餘圓を算し、近來頗る業績の良好を傳へ、縣下有數の組合として自他共に許すに至つたが、最近に於ける概況を數字によつて見れば、準備金及び各種積立金八千三百餘圓、貸出金一萬九千圓、貯金二萬二千圓を示し、役員は理事渡邊敏尾氏、飯塚新吉氏ほか五名監事二名である。

幸手町

元幸手町長

野村 市郎



先代 頭 次郎 氏

天正 九年二月、遠江國高天神城主岡部市郎兵衛尉藤原興行居城に於て戰歿するや、その子長綱は參州碧海郡東端郷に潛

匿し、岡部を野村に、藤原を丘部に變へて民籍に入つた。これ即ち當家の祖にして、家紋は左三ツ巴、それより五代の孫長朗氏は松順と號し元祿二年に永眠した六代武興氏は延寶八年郷關を出て、居を武州葛飾郡幸手驛竹町に卜し、酒造並に麴の業を創め、享保十六年正月逝去、七代晟植氏を経て八代辰隆氏は留閑亭と號して俳諧狂歌をよくし、九代敏嗣氏は性豪磊英邁、常に郷黨のために盡し、今孔明と稱された。十代義寛氏の後、十代益躬氏は起倒流柔道及び東軍流鎖鎌の達人として著はれ、十一代即ち先々代詢三氏は白根縣令當時縣廳に勤務、縣史地誌の編纂に盡瘁され、また自治の功勞者である。先代類次郎氏は明治三十五年幸手町長に就任、町制實施當初の偉大なる功勞者たりしも同四十五年長逝した、されど鐵道、電話、電氣等を本町に引入れ町發展の基礎を築きし人として著聞する。當主市郎氏は明治十七年五月の誕生にして野村家十三代目に當り、大正十一年名譽

町長に就任するほか町會議員たること三期、父祖にも増して功勞多く、先年町當局より表彰されるの光榮に浴した。長男は不幸夭折されしも、次男秀夫君は目下商業學校に勉學中にて、學業成績頗る優秀なる俊才と謳はれ、梅檀は嫩葉より芳しとか、將來の大成は多大の期待を以て囑望されてゐる。當家は實に上述の如き有數の舊家にして、祖先中には幾多の偉材英才あり、現に小林善次郎町長、小林靖司商工會長、その他著名の親戚縁者を有する名門である。

靜村高柳

學務委員 遠藤市郎兵衛



氏雄政男長

質朴 溫和といふのが氏を表現する最もよい言葉であらう。明治十六年先代彦太

郎氏の男に生れ、家運の興隆に意を用ひると共に、自治公共のことに力を致し、區長二期、村農會總代、信用組合理事、消防組部長等に擧げられ、現時學務委員として盡瘁寄與頗る大きい。抑々當家の祖は武士にして歸農後の初代を七兵衛氏といふ。邸宅内庭園の入口にある柿の木は數百年を経る古木といはれ本村名木の第一である。家庭には嚴父彦太郎氏(嘉永二年生)、令閨もと子氏(明治十七年生)、長男政雄氏(明治四十年生)、同夫人千江子さん、次男英夫氏のほか令孫三名あり、長男政雄氏は正八位歩兵少尉、現在農産物検査所技手をつとめ、五ヶ年間勤續賞を得ること二回、村内切つての模範青年である。

櫻田村

學務委員 小澤政次郎

庄内古河用水組合の最古參議員として敬慕され、三十有餘年に及ぶ水利事業への貢獻は筆舌に盡し難い程大なるものが



ある。また學校新築以來の學務委員として終始渝らざる努力を捧げ

幸手町

學務委員 竹村清一郎

電話幸手六三番

つゝあり、年齢喜壽に達せるもなほ矍鑠たる元氣を以て公共のため津勵してゐる姿には自ら頭の垂れしめる威嚴がある。

豊臣氏の家臣として武藝を以て鳴りし竹村某、奥州より來りて當地に居住し、農を業とした。これ即ち當家の祖にして爾來連綿十四代、遂に今日に至つた。古くは旅人宿を營みしことあり、中途にて酒屋に轉じ明治維新の大變革に遭ひ、同

氏はその男にして明治十年十月四日の誕生、夙に町會議員たること三期に及び、現時學務委員に擧げられ、功績頗る顯著なるものがある。家庭には夫人との間に二男三女あり、長男易男氏は大正八年八月三十日の出生、東京市高橋商業學校を卒業せし俊英にて、若年々幸手町青年團長として衆望をあつめてゐる。

幸手町

幸手町商工會長 全國蠶絲業組合聯合會長 小林靖司



幸手町に電話が架設され一般通話が可能になつてから當地の文化

會ては收入役六年、信用組合長をも歴任更に郡會議員、同參事會員に當選して郡政にも參劃功績あり、村會議員は三十有餘年の長きに亙り昭和十二年まで勤続した。また村長在任當時學校合併の難問題を無事解決して手腕の冴えを見せたことは周知の通りであり、その他村内各方面に幾多の事績を遺し、寺院總代も五十數年の永い間つとめ通した。養嗣子安之助氏は日本醫大出身、の刀圭家にして現を足利市に開業その眞摯に探究的態度と、圓熟せる技術は市民の信望頗る厚く履戶外に溢れる繁昌振りを示してゐる。

利組合長等をつとめて公共のために奔走盡瘁し、明治三十年には幸手郵便局長に就任、新時代の流れに敏感なる性格は常に新しい事業を次々と遂行して異數の敏腕家との定評を受けてゐた。當主清一郎

及び産業の進展に多大の影響を及ぼせしことは、すでに周知の通りであり、氏はこの電話開通の大なる功勞者として著名である。始祖以來五代目、代々製糸業及

び材木商を經營、先代幾平氏は町長、町會議員三十年、消防組頭、郡會議員三期等をつとめたる元老にして、八十五歳の高齡を以てなほ矍鑠たるものがある。氏はその男にして明治十一年七月の誕生、大正二年東電合併前の幸手町電氣株式會社社長として實業界に重きをなし、埼玉縣製糸組合聯合會長に推されて業績多く方面事業に盡瘁して縣聯盟より表彰を受けし徳望家、現時幸手町商會長のほか全國蠶絲業組合聯合會長、郡乾繭組合專務理事、町會議員四期目を兼任する。

櫻田村

區長 奈良榮次郎

當家の祖は一代の英雄兒豊臣氏の家臣にして、大阪夏の陣に敗れて落人となり當地に上着して農を業とした。名は主税百一歳の長命を保ち、土着後當地の開発に幾多の功績を積んだ。その後代々次郎兵衛氏を襲名、七代次郎兵衛氏は近隣三十數ヶ村の大總代をつとめ、利根川改修

工事その他に赫々たる功勞をあらはし、郷土發展の一人と稱されてゐる。大總代とは當時の行政、警察事務を主管せしものをいひ、現在の村長に警察權を附與したやうな役柄であり、武家の出とはいへ、この大役に任ぜられる者は、學識人格手腕共に備はらなければならなかつた

八代目次郎兵衛氏からは代々名主をなし十代目は吉十郎と稱し同じく名主をつとめ、爾後先代まで吉十郎を稱した。かく由緒ある名門にして村内の有数の舊家であり、先代は村會議員たること二十有餘年の長きに及ぶほか、區長、學務委員等多年つとめたる自治の功勞者として著名である。當主はその男、埼玉縣多額納稅者中五十番目の地位にある資産にして、曩に村長及び村會議員をつとめ、現時區長及び學務委員を兼ねて共に二十有餘年勤続また産業組合理事に推されてゐる。長男秀夫氏は明治三十九年生れ、村會議員に選出、且つ農事組合長を兼ねて盡してゐる。



八代村
米穀検査組合長
區信用組合理事

増田源太郎

當家は代篤農家として聞え、先代安右衛門氏は七十二歳にて逝

去、當主源太郎氏はその男にして明治六年八月の出生、夙に祖業を承けて大いに家運を盛大ならしめ、郷土稀に見る奮闘家と稱され、村治公共の事には自己の仕事も忘れても率先盡瘁努力し、村民の信望頗るあつく、區長十六年勤続のほか米穀検査組合長、農事組合長、信用組合理事、その他十數種の役員を兼職し、本村の重鎮と稱される。家族は令閨きい氏、次男隆夫氏ほか四名である。和樂の聲が門に溢れて附近村民の美望の的となつてゐる。

田宮村並塚

産業組合
専務理事
勳八等

小沼本一郎

共存共榮をモットーとして産組事業の第一線に活躍する氏は、彬右衛門氏の男にして明治十六年八月二十二日の岳降である。抑々當家は八代前より世に名主をつとめたる家柄にて、嚴父彬右衛門氏は西南戰爭に參戰せる勇士にして永らく教職に身を置き、大正七年不歸の人となつた。氏もまた日露戰爭に出征せる勇士、勳功により勳八等に叙し白色桐葉章を授けられたる名譽の人である。夙に教育報國の志を抱いて小學校教員となり田宮校一校にだけ二十八年の永い間勤続し、教へ子より慈父の如く今も慕はれてゐる。大正十三年、在郷軍人分會長當時會の増資運動を起して今日の隆盛を呈する基礎を固めた功勞者であり、現在は専ら産業組合理事として活躍してゐる。夫人いせさんは内助の功多き賢夫人、長男治氏は

大正二年生れにて柏壁中學校卒業後産業組合學校を卒へたる秀才である。因に氏が専務理事たる田宮村信販購組合は、明治四十一年七月の設立に係り、大正十三年頃より本格的に事業を經營し、村内一圓を區域とし、組合員四百五十五名、出資總額一萬五千圓に上り、昭和十二年六千俵の收容能力ある農業倉庫を建設、貸付六萬三千餘圓、貯金七萬六千圓、購買年額八千三百餘圓、販賣七千九百圓をかぞへてゐる。

豊野村赤野間

赤野間區長
養蠶實行
組合長

岩井彌一郎

當家は寛文年間の創家に係り、村内有数の舊家名門、當主を以て十六代目とする。先代瀧右衛門氏は村會議員に當選四回のほか養蠶實行組合長、産業組合監事等村内自治産業關係の要職を歴任し温厚篤實にして達見あり、村治の圓滑なる運行と村勢の發展に多大の貢獻を致し、就

中明治四十三年の風水害、大正十二年の大震災當時は實によく活躍、文字通り寢食を忘れて奔走したことは村民の忘れ得ぬところである。氏はその男、明治十四年を以て生を享け、父に背て資性温厚人格高潔、夙く公益に盡し、村會議員に選ばれて獻策頗る多く、現時區長二期目のほか養蠶實行組合長に擧げられ、部落のため部落民のため一意奉公の實を示してゐる家庭には兩親健在し令閨との間には二男四女を有し、長男淳一氏は越ヶ谷農學校の出身である。

幸手町國府間

農會長
産業組合
専務理事

木村治右衛門

幸手町の元老であり功勞者であり、北葛乾繭組合の創立者たる氏は、事に當つて熱心眞摯、眞に衆庶の模範とすべき異材である。明治三年四月十八日を以て生れ、柏壁中學校の前身校が未だ小學校の二階を假校舍としてゐた頃に卒業し、明

治三十五年以來郡農會評議員をつとめつ
つあり、町會議員たること三十ヶ年、昭
和八年の改選の時よりこれを辭退したが
その間の業績は到底筆舌に盡すべくもな
い。大正十三年乾藪販賣利用組合を率先
奔走して設立し、爾來十數年間専務理事
の要職に在りて組合の發展擴充に力を注
ぎ、現時二十數年間連綿として農會長に
推舉され居るほか幸手産業組合理事に選
ばれて貢獻なからざるものがある。長
男映一氏は陸軍少尉にして郷に在りては
動力作業組長並に町會議員の重責を帶
びてゐたが、今回の支那事變に出征、赫
赫たる武功を樹てゐる。因に幸手町産
業組合は信販購利の四種事業を兼營する
保證責任組織にて、組員員三百二十餘名
出資拂込高三萬二千三百餘圓、準備金及
び各種積立金一萬餘圓に上り、昭和十一
年度末の概況を見るに、餘裕金總額二萬
八千圓、貯金の如きは日一日と増加して
九萬三千圓、販賣は米麥藥種を取扱ひ年
母に良好の成績を収めてゐる。

幸手町内國府間

農會副會長 鈴木 潔
勳七等

當家の祖先は不世出の英雄豊臣秀吉の
家臣として武道に達したる人、當地土着
後は農耕の業に従ひ、世に郷黨の信望を
あつめ、部落のため盡力して來た。先代
傳三郎氏は九十四年の長命を保ち、大正
十五年幽明境を異にしたが、生前は村農
會役員その他の要職に就いて村のために
働いた。氏はその男として元治元年七月
二十九日に生をこの世に享け、年齒古稀
を過ぎたるもなほ矍鑠として壯者を凌ぐ
の元氣を持つてゐる。明治三十年、三十
五歳の若さで助役を任せられ、同三十五
年町長に選任、大正十年まで一意専心町
治の圓滑なる發展につとめ、また町會議
員一期にも任じた。助役時代には用水問
題で時の町長小林幾平氏を輔けてその解
決に當り、快刀亂麻的手腕のあざやかさ
は郷民の等しく驚異讃嘆するところであ
つた。町役場當局及び帝國農會より表彰

せられしことあり、教育會長十年、政友
會埼玉縣支部評議員にも推され、縣會議
員に選ばれて縣政界に活躍、縣當局及び
行政事務研究會の表彰も受けた。現在は
十年來の農會副會長たるほか教育會評議
員を兼ねて、謂はゞ町の元老株に納つて
ゐる。長男功一氏は明治三十一年生れ、
二男敏郎氏は同三十七年生れにて武州銀
行動務である。

豊野村

方面委員 時田 源三

本村産業の開発、特に農業方面の改善
に努力して今日の隆盛を見るに至らしめ
た偉大なる功勞者と稱され、本村人材中
の代表的存在たる氏は、先代金太郎氏の
男にして明治十六年の岳降である。その
祖は豊臣氏の家臣として武藝の聞え高か
りし人、豊家滅亡後、徳川の目を逃れて
當地に隠棲し、子孫代々土着して農を業
とせしものにて、十代の孫の時、分れて
一家を創立したのが即ち當時田家であり

爾來當主まで八代をかぞへ、本家は連綿
十八代に及んでゐる。先代金太郎氏は自
治制施行と共に村會議員に選ばれてより
連續二十有餘年間その職にあり、また區
長をつとめること十六年、郡會議員にも
選出され、その他地方自治の公名譽職多
數を歴任し、村治に盡すところ頗る多く
自治功勞者中の首位に數へられる傑材で
ある。當主はその遺跡を受けて夙く村幹
を現し、大正七年京都に於て種球株式會
社を起せしことあり、現在は斯業日本一
の折紙ある瀧治三郎商店の幹部として縱
横の手腕を發揮してゐる。また村農會長
村會議員等に擧げられ、尊父にも劣らぬ
功績を本村自治産業界に残し、事實本村
農業經營の改善は氏の努力によつて遂行
された。現在は方面委員の任にあり、専
ら社會事業に功績を累ねてゐる。

幸手町

國手 秋間 恒造

秋間家は當主恒造氏を以て十一代目に

相當し、その祖先は豊臣秀吉の後胤と稱
され、十一代前の市郎右衛門氏の代より
當地に居を定めた。六代目魯齋翁は幼時
足の關節を傷めたるも、頭腦明敏、書を
能くし、十八歳の時長崎の蘭學者正介師
の門に入り、修學數年の後郷里に歸り、
蘭醫學に更に創造を加へて家傳藥を創製
するや、効能顯著なるを以て忽ちその名
四隣に擴がり、名藥として今も傳はつて
ゐる。また翁は敬神の念厚く、毎年一月
十八日には醫神の祭事を行ふを常とし、
七十四歳の一月十八日、即ち弘化四年、
醫神の祭日に忽然逝去されしもまた醫藥
と何かの關聯あるもの、如く思はれる。

後年、生前の篤行を嘉してその碑が建て
られた。十代禮佐氏は性豪放にして文武
兩道に達し、特に書を能くした。屢々町
長に擬せられ固辭してこれを受けずと雖
も、當時の先覺者として町勢の發展に盡
すところ多く、現今幸手町を語る者、常
に自治に産業に功勞者の筆頭として氏に
指を屈せざるはない。當主は明治二十一

年三月の出生、東京の醫學に學び、現在
東京市下谷區御徒町に病院を經營して隆
盛を見つあり、長男植祐氏は日本醫大
の卒業、他に長女嘉久子さん、次女久美
子さん、次男哲夫君あり、名門の家益々
繁榮を辿つてゐる。

杉戸町

杉戸農業學校長 鳥海 茂敏
從五位 勳六等

氏は明治二十四年十二月七日の出生に
して東京帝大農學部の出身、初め鳥根縣
立農業學校教諭を拜命、次で本縣川越農
業學校教頭に任じ、大正十一年縣立杉戸
農業學校の創設されるや三十二歳の若冠
を以て校長に任ぜられ、爾來銳意農業教
育の振興と農村中堅人材養成につとめ同
校をして全國農學校の冠たらしめた才腕
家である。曩に文部省よりは光輝燦たる
優良模範校として賞され、昭和十二年夏
第七回世界教育會議には大日本農學校代
表として氏はこれが代表委員となりて列
席され、同時に同校を會議場として協議

された。實にこの拔群の功績は「世界一切皆之一」の信念より生れ出るものにて昭和九年十一月、畏くも天皇陛下に單獨拜謁を仰付けられ、多年に亘る教育界の功勞を賞され御菓子を下賜された。單に本縣教育界の誇りたるのみならず、全日本の大いなる悦びといふべきである。貞子夫人は明治二十二年生れ、令嗣敏男氏は宇都宮高等農林學校を出て、現在縣立川越農蠶學校教諭をつとめる。他に三男三女の子女に恵まれてゐる。また嚴父は朝鮮全羅南道主事（現在の知事）として多年活躍せられ、退官歸郷後は北埼玉郡種遺川村に於て農事に楽しみ、篤農家と稱され、傍ら村會議員數期に及ぶ功勞者である。

幸手町幸手
須藤製絲場
支配人 須藤 勇助

電話幸手二七番

氏は茨城縣古河町の産、明治三十七年十月七日を以て須藤親治氏の男に生れ、



長じて浦和中學校に勉學し、大正十二年十二月須藤製絲場幸手工場

の設立されるや、若年ながら明晰な頭腦と卓越の手腕を認められて支配人に任せられ、爾來優良多製品を最高目標にして一絲亂れることなく工場事業を統制し來り、今日の雄大な發展を見るに至りしものにて、今後益々その敏腕を囑望されてゐる。自治方面にも關係して功勞多く自治研究會を組織して副會長に任じ、また消防組副組頭たること二期、現時村會議員二期目及び埼玉縣懇話會幸手支部長の要職を兼ねてゐる。令閨との間には長男幸則君ほか二人の愛兒があり、春光融々家に満ち溢れてゐる。因に須藤製絲場は敷地三百餘町歩坪六百坪にて、従業員百四十人を算し、工場内に慰安及び修養を目的とする春風會の組織あり、春

秋二回には、従業員運動大會を催して體育を奨励するなど幾多優遇施設を有す。製品は生絲六千三百貫物一萬八百貫の年額に上り、殆ど輸出され日本生絲の聲價を海外に高めてゐる。曾ては製品を天覽に供するの光榮に浴し、表彰狀を授與されること數度に及んでゐる。資本金は二十一萬五千圓。

靜村松永

自治功勞者 川島 兵庫



靜村切つての舊家名門たる川島家の祖先是新田義貞の一族河島左

近藏人惟頼の子にして兵庫と稱し、義貞義彥を上野に擧ぐるや馳せてこれに加はり、矢口の合戦に義貞戰死するや、武藏に走り勝鹿郡伊坂村に歸住した。即ちこれを以て民籍の初めとし、爾後代々玄藩



代には農を營みつゝ、名主をつとめ

て來た。當主兵庫氏は松三郎氏の男嘉永五年七月二十一日を以て生れ、眞刀無念流戸ヶ崎氏の門人となりて修行數年、現に劍道師範免許皆傳の達人である。自治公共に功勞頗る多く、明治二十五年以來村長二十年間勤績をはじめ、村會議員四十五年、領地内水利組合委員二十五年堤防組合役員二十年、大落組合議員八年等に任じ、現時區長をつとめて居り、文部省、赤十字社、縣教育會、その他より表彰數次に及ぶ。長男猛男氏は明治十八年六月十二日の岳降にして不動岡中學の出身、弘道軒道場を開き、劍道及び柔道師



事業家的手腕と才智とを有する氏は和歌山縣の産、芝家四代目の

當主に當り、先代吉松氏の男として明治二十二年二月一日の岳降、郷里和歌山縣日高郡切目村字島田の郷費を出、長ずるや大正三年當地に來り、同十一年獨立して現在地にメリヤス工場を經營、堅實を旨とする經營方針を以て遂に今日の大を成すに至つた成功者である。工場は初め

幸手町久喜町
芝メリヤス工場主

芝 甚三郎

幸手町仲町にあつたが、昭和九年八月現在の幸手町久喜町に移轉した。その坪數三十坪、従業員常備九人あり、資本金一萬圓、製品は靴下のみで年産一萬三千ダースに上り、主なる販路は東京及び大阪である。従業員待遇のためには毎年運動會を催すほか、年二回宛名所旅行をさせるなど、理解の深きこと他工場に擡んで和歌山縣下に於て切目村信用組合長新宮町商業同盟會評議員、新宮町會議員日高郡軍人分會長、新宮町弓俱樂部會長たりしことあり、現時埼玉縣懇話會幸手支部幹事の要職をつとめてゐる。先年郷軍功勞者として表彰を受けた。令閨との間には長男幸雄氏（大正四年生）のほか一男一女がある。

八代村

舊家名門 新井 俊次

祖先是源氏一色家の末裔にして小堀土佐守の家臣荒井伊勢守の時、寛永三年當



地に住居し
爾來連綿十
三代を相繼
ぐ舊家であ
る。伊勢守
は明曆三年

にこの世を去つた。代々農を業とせる名望家にして、また篤農家としても知られた。當主は丘祐氏の男として明治二十八年八月二十八日に生れ、後、先代司馬五郎氏の養子となりしものにて、資性濃厚篤實、人に接しては丁寧、事に當つては沈着、思想穩健にして中庸の道を踏み、政黨的にも一黨一派に偏することなく、常に中立の立場を取つて來た。八代小學校を経て東京錦城中學校を卒業し、曾て收入役たりしことあり、現在は帝國生命及び富國徴兵各保險會社代理店を經營する。淑徳のほまれ高き夫人との間には長男愿君（大正十一年生）ほか一男二女がある。家庭はすこぶる圓滿にて春風洋々としてゐる。



幸手町幸手
栗田龜造
電話幸手六番

先覺として知られ、メリヤス業は當代に於て初めて創始された、即ち氏は先代又吉氏の男として明治二十二年十月十九日に生を享け、幸手小學校卒業後は獨學螢雪の功を積んで中等學校卒業程度の學力を得、大正四年時代の潮流に乗つてメリヤス製造業をはじめ、爾來隆盛をつゞけて今日に至り、縣有力工場懇話會有功章を授與されたる優秀工場として知られてゐる。家庭には兩親健在し、令闈との間には三人の子女がある。工場は作業場二三五坪、寄宿舎七一坪半、事務所二〇坪



當家は上
古の名門藤
原氏の後裔
に當り、高
祖大職官藤
原鎌足公の
末裔伊藤太秀郷の十一代の孫田原又太郎
忠綱の八代の孫加藤太郎左衛門は幼名を

栗橋町船戸
舊家名門 加藤市郎

孫太郎、下野赤堀肥前守ともいひ、徳川家康の旗本に列し、治田金山奉行をつとめ栗橋宿に移つてから姓を森と改めた。二代森重兵衛政善氏は關所守を仰付られ三代豊兵衛政信氏の時、寛文五年より舊姓加藤にかへつた。四代加藤政尚氏より政之、政才、政芳、政章、政彦、苗嘉、政須、政武と十二代まで關所守に任じ、十二代政武氏は明治元年葛飾郡出仕となり、次で小田縣、埼玉縣各出仕を経て、第八區及び第十區事務掛等をつとめた。十三代利喜太氏は織物業を創めて加藤家今日在るの基礎を築いた。當主市郎氏はその男として明治十九年十一月二十五日に出生、夙に父業を承けて大いに奮闘し今や羽二生、縮緬等を主に年二百匹の絹織物を製出するに至り、品評會に出品して受賞すること數度に及んでゐる。工場安全週間安全委員を囑託されしことあり現に工場懇話會幹事に推されてゐる。また衛生委員三期、區長代理多年をつとめた部落のため盡瘁するところも多い。家庭



には嚴父健在し、夫人との間には重政君健二郎君、勝久君の三令息がある。
幸手町仲町
幸手米穀
商業組合長 増田瀧次郎
電話幸手三七番

有する氏は、先代瀧次郎氏の男にして明治二十三年十一月の岳降、夙に祖業たる米穀商を繼承、また精麥業を營み、傍ら町會議員、區長、消防組部長、水利組合會議員、村農會、農事組合長等の公職に歴任、農事組合功勞者として縣より表彰されしことあり、現時幸手米穀商組合長及び産業組合常任監事を兼任する。米穀商組合は昭和十年十一月の設立にして、組合員六十五名、出資總額五千四百餘圓



尊皇精農
の精神を以
て家業に従
事する氏は
讀書特に農
事研究書に
親しみ、經營上幾多の改良をなせし篤農家である。資性濃厚篤實、夙に父祖の遺業を繼承して刻苦するところあり、村内切つての模範青年として將來を期待されてゐる。先代松太郎氏は縣會議員、郡會議員に選ばれて活躍永年に及び、地方政界の重鎮にして、徳望家であり、本村のため幾多の業績を挙げた材幹である。氏

行幸村
篤農家 高島 憲

は即ちその男、明治四十年十月を以て生を享けた。母堂はつ子さんは明治十五年生れ、先代逝去後、憲氏を補佐し専ら家業の向上に努力したる稀有の賢夫人であり、今なほ矍鑠たる元氣を有して家庭にある。とよ子夫人は大正元年生れ、氏は琴瑟相和して家庭圓滿、益々繁榮しつゝある。

幸手町

舊家名門 中村正三郎

當町切つての舊家多門たる中村家祖先には幾多郷土のために盡瘁した功勞者が

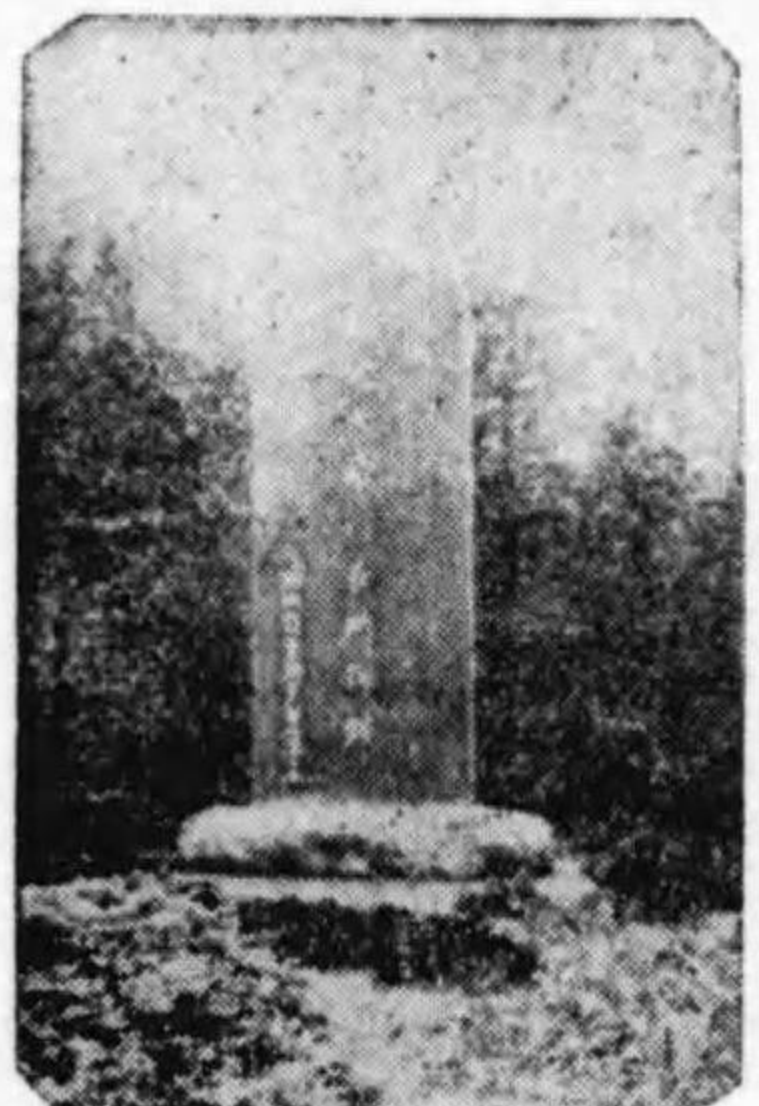


家族の人々

明治大帝



多い。その祖新井伊勢守源貞氏は小田原北條氏に隨ひ三千貫を領せし武家にして一色宮内大輔に從ひ幸手宿にて名主庄屋を勤めた。子供二人あり、上は女子、次



大帝行幸處

子は勘太郎といひ、相州中村郷の人中村某の子を長女に養子として迎へ、勘太郎氏を分ちて新井勘左衛門と號せしめた。養子平左衛門氏は常州下妻、川面等をも支配した。その後幾百年、今も家寶に徵宗皇帝の鷹の書及び狩野尚信畫の屏風一双、その他古文書、古記録等多數が藏される。先代愼太郎氏は永年司法官吏として名聲を博せし人望家、當主正三郎氏はその男に當り、明治三十五年八月二十九日を以て生をこの世に享けた。郷譽を卒へるや直に埼玉師範學校に進み、拔群の成績を以てこれを卒業、先づ豊田小學校に奉職し、在勤二年の後權現堂小學校に轉じ勤續六ヶ年以て今日に至り、前途多幸の教育家として普く囑望せられ、兒童よりはよい先生として愛慕の限りを盡され、父兄母姉の信任厚く、先年郡教育會より表彰さるゝの榮譽に浴した。家庭には母堂健在し、夫人との間には長男正志君ほか二人の愛兒がある。なほ當主は壁間に明治大帝の御寫眞をかゝけて日夕

禮拜に歸めてゐる。

權現堂川村

舊家名門 卷島保治

當家は清和源氏の後裔たる由緒ある家柄にして舊記に「鳥羽院北面足利大夫尉義康の四男桃井兵部少輔後遠江守義胤が嫡子桃井三郎頼氏五世孫六郎直光産城州久喜郡横島之邑」云々とあり、次郎左衛門尉光基三郎光貞、孫三郎直久、孫三郎顯光次郎三郎正光、孫三郎某、孫六郎昭光を経て横島主水祐久光に至る。久光は即ち當家中興の祖にして、關宿の戰、築田の戰に功あり、天正十七年御感狀を賜はり、その中に横島を卷島と記されたるにより爾來姓を卷島と改めた。家紋は桐竹の丸。中興二代久右衛門吉久、三代兵部元次、それより五郎兵衛、半之丞、六代五郎兵衛、吉十郎、五郎右衛門を経て爾來吉十郎を襲名、十四代清十郎氏、號を刀江と稱し寺小屋師匠たりし事ありまた郡會議員、方面委員、村長、氏子總代

を四十餘有年に亘つて歴任し、近郷での博識多才者であり、文久三年の岳降なれば齡すでに喜壽に達するもなほ鏗鏘として壯者を凌ぐ元氣を持つてゐる。十五代即ち當主保治氏は明治十六年六月十一日の出生、村會議員三期目、區長十六年、學務委員、氏子總代を兼ねて公共のため盡瘁するところ大なるものがある。

豊野村

桃林舎 遠藤信太郎

素晴らしい讀書人だ。そして素晴らしい事業家だ。外字新聞等を購入愛讀してゐる程の人は地方には滅多に見られない。正に氏は郷土が有する最大の智識人である。抑々當家は代々名主をつとめて二十七代を経る舊家にして、先々代源藏氏は戸長二十年その他に推舉されし人、先代榮太郎氏は村長、村會議員、郡會議員、同議長等を多年に亘つて盡瘁し、事業家たると共に自治功勞者であつた。氏はその長男、明治大學商學部の出身にして特

幸手町

權僧正 今井眞靜

大智と謳はれた徳僧と稱される師は、今井和平氏の男にして明治四年七月の出生、幼少の頃より佛門に入り、現時權僧正の位を有す。生地は愛知縣中島郡平和村、學校は柴中學の前身校、曩に南埼玉郡竹里村眞福寺に住職たりしことあり、また宗會議員、埼玉教務所長、埼玉布教團長等に歴任、聖福寺住職に就任以來約四十年を閱し、現時北葛飾郡教育會顧問社會教育會長、同青年男女教育部長等を兼ね法燈を守りつゝ社會教育方面に貢獻

するとところが多い。長男幹明君は粕壁中學校に在學中。因に聖福寺は淨土宗知恩院末にして、應永十四年四月安阿上人によつて開山され、徳川將軍日光御參拜の際休憩されしことあり、明治初年まで十三石の御朱印を受けてゐた。本尊は阿彌陀如來、檀家三百三十戸、末寺は二ヶ寺を有す。

松伏領村松伏

醬油醸造業 石川仁平治

電話松伏三番

堅實を旨とし、需要家の立場から醬油醸造に精勵しつゝある氏は、智徳兼備、且つ輿望を一身にあつめてゐる人格者である。抑々當家の醬油醸造は寛政元年一月の創始に係り、爾來一百餘年、代々これを專業として今日に至り、屋號は柳屋今や縣下一回到るところに顧客を有し、二十五名の従業員が年三千石の醬油を造り、良質にして廉價、好評嘖々として需要者間に高く、各地博覽會、共進會、品

評會等に出品して賞牌を受領すること一再ならず、縣下同業者中一方の雄と稱されてゐる。氏は常に時局に敏なるものあり、また常に研究的態度を崩さず、製品の販路は年毎に擴張され、産出高また年毎に多きを加へてゐる。

幸手町馬助町

朝倉旅館

電話幸手四番

幸手驛前を左に折れた本通りに三層樓の壯大華麗な建物を有する當旅館は、明



町の誇 朝倉旅館

治五年、故新井宗次郎氏の創業せるものにして、現在客間十室、即ち階下三室、二階五室、三階八疊二室に分れ、收容人員は約三十人、親切をモットーとし、客の便宜を圖ることを以て經營の第一方針となし、旅館に泊るといふ感じは全然なく、宛も家庭の延長の如き氣樂さを以て宿泊し得られるのが一大特色である。陸軍第一師團の指定旅館であり、附近には中村家の行幸跡、利根川堤、權現堂櫻その他の名所舊蹟がある。現經營主新井まささんは明治二十一年三月の出生、幸手町加藤友次郎氏の四女にして鋭意旅館經營に力を竭しつゝあり、家庭には古河商業學校在學中の長男耕太郎君がある。

櫻田村西大輪

迦葉院

茨城縣猿島郡五箇村山玉東昌寺住職たりし默山和尚が、慶安元年加正院を創設その後享保年間(約五百年前)眞言宗の寺を買収して今日に至り中途迦葉院と改め

住職 關根虎雄師



曹洞宗に屬し、釋迦如來を本尊とする。秋葉さんと稱する高さ三尺許りの木像あり火難除けに靈驗顯著である。寶物に默山和尚の足袋、雨乞の玉を藏す。雨乞の玉は、默山和尚が諸國修業中相山大山に於て驟雨に遭ひし時、雨宿り中の夢に龍神があらはれてこの玉を和尚の掌に授けて行つたといはれ、早魃の際、當寺に祈願すれば即座に降雨あるといふ偉大な玉である。總代は白石昌字、渡邊昇兩氏。住職は關根虎雄師である。師は人格すこぶる高潔にして檀信徒間の信望厚き善知である。

權現堂川村

通光山淨誓寺

淨土



職住 師峻川廣

眞宗大谷派に屬する當寺は慶長九年の開創に係る。初代住職久念法師廣川民部通光と稱せし武人にて、夙に蘭學を修め、後大阪石山本願寺に得度、諸國廻曆中當地に入るや眞宗派寺院のなきを嘆いて本寺を草創した。二代了恩法師は寺運の振興に意を用ひること多く、寺領二十五石を有するに至らしめた功勞者、三代久信師は本堂及び庫裡を改築するほか寺内一字を建て、藥師如來を安置した。その後了山、了等、了愛、了應、周道を經て九代順勝師は本堂を再建し了覺、廣專、常了、順掌、順廣の五代の後先住皆順師に至り寺小屋を設けて教育に力を致

し、また方面委員に任じて社會事業にも功勞あつた。現住職廣川俊郎師は十六代目に當り、方面委員、佛敎講師、その他の要職を兼ねてゐる。

八代村平須賀

大鱗山寶聖寺

當寺



前住職 師如隆倉朝

は古くは富影山光明院と號し、覺

有上人の開山に係り、二代目は小山城主左馬之助義政の庶子宥信上人である。新義眞言宗豐山派に屬し、胎藏界大日如來を本尊とする。弘法大師の御眞筆なる不動明王の像、同大師の遺物たる松虫の鈴依藤太秀卿の軍扇、これを當山三大寶物といひ、世に珍重なものである。慶安元年九月十七日徳川三代將軍家光公より御朱印を賜はつたをはじめ、

貞京二年六月十一日 綱吉公
 天明八年九月十一日 家齊公
 享保三年七月十一日 吉宗公
 萬延元年 家康公
 寶曆十二年八月 家治公
 延享四年八月 家重公
 安政二年九月二日 家定公
 天保十一年九月一日 家慶公

朝倉隆觀師は四十一世隆如上人の男にして明治三十七年八月二日の岳降、豊山中學校に學び、現在五等司教權中僧部の位を有し、溫良篤實、德望洽き名僧と稱される。因に前住職は二等司教權少僧正たりし大智にて、東福寺、寶藏院、聖福寺、福寺等の名刹に住職をつとめた。

幸手町波寄

龍興山寶持寺

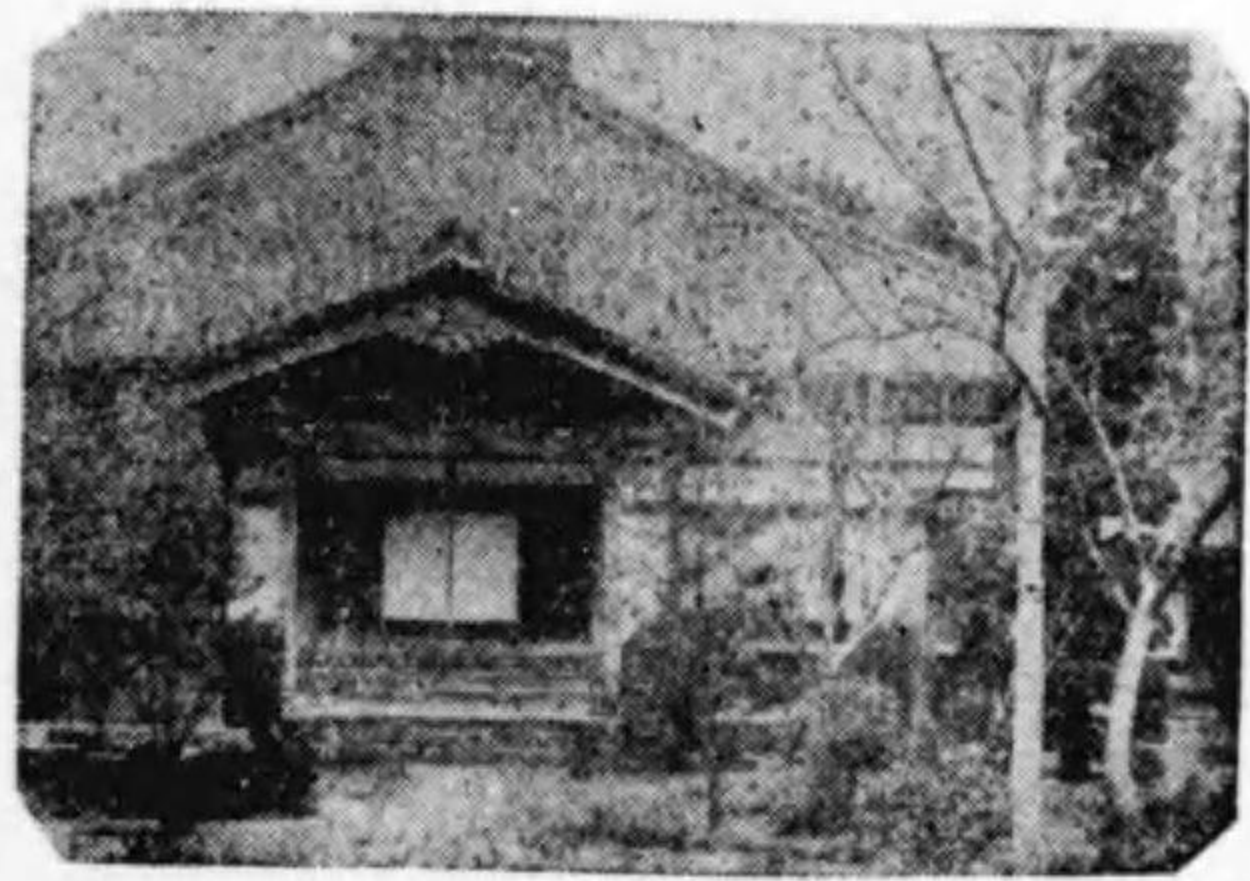


住職朝倉隆觀師



は末寺
 百三十
 三ヶ寺
 を有し
 堂塔伽
 藍整備
 なつた。檀
 家は二十五
 部落に互つ
 て三百戸を
 有す。現住
 職四十二世

明應七年五月、石堂四郎義房當地を卜して父の爲に一寺を建立し、太安禪師を請待して住職たらしめ、父の法號寶持殿孝巖相公庵主の寺號を用ひて寶持寺と稱し、七堂伽藍の道場であつた。開山は季雲禪師である。曹洞宗に屬し、本尊釋迦如來、傍立は文珠、普賢兩菩薩、静岡縣榛原郡坂部村石雲院末に當り、寺格は隨意會地、末寺は幸手町心鏡院及び祥安寺高野村に全長寺、宗泉寺、大島院あり、櫻田村に正蓮寺及び寶昌寺、他に小林村正眼寺、行幸村常福寺、八代村藥王院等



本堂

十ヶ寺をかぞへる。檀家は十一ヶ町村に亘つて散在し、總代は久田量平、岩上文治、新聞九藏、吉岡常吉、鈴木氏の四氏住職一色賢山大和尚は第三十代にして、明治十四年の岳降、東京中學校を出て佛敎大學に學びし俊才である。

櫻田村八甫

光巖寺



住職大川原俊雄師

曹洞
 宗に屬
 し、本
 尊釋迦
 如來、
 三百八

十五年前開翁正安和尚によつて創建され鷲宮町靈樹寺末に當る。中世に於て祝融の災に襲はれ、現本堂及び庫裡は昭和九年の改築に成るもの、毎年五月二十四日の地藏尊會、八月十五日の大施餓鬼、八月二十八日の子育不動尊會、三月二十八日の大般若法會には善男善女群集して盛大を極める。檀家百八十餘戸、總代は渡邊左仰、小澤政次郎、神谷隆の三氏。現住職大川原俊雄師は大本山併置専門宗洞に修業し、南埼玉郡平野村寶泉寺住職を八ヶ年間つとめて後當寺に移つた。

比企郡

小川町

埼玉縣小川製紙組合

當組合は明治三十四年六月、製紙業の發達を圖り同業者の福利を増進するを以て目的として創立され、組合區域は三郡二町十箇村に互つたが、現在は小川町、大河村、竹澤村、玉川村、大河原村の一町五箇村となつてゐる。初代組長、杉本啓三郎氏、副組長平野平三郎氏創業の奮闘を以て基礎を確固にし、第十一次幹部は組長横川禎三氏、副組長梅澤惣兵衛氏及び平野眞三郎氏、評議員は細井長八氏等七名、代議員は笠間利七氏等二十二名が現任してゐる。製造戸數五百戸、年産額七十萬圓に達す。幹部に英士傑材を網羅し、熱心なる優秀なる技術家と支持者

とを糾合し、前途洋々たるものありその發展は期して待つべきである。

小川町

小川紙業信用販賣組合

電話小川二七九番

本組合は大正四年十月創立になりたる



もので現在組合員は百六十九名にして一口二十圓、出資總額は、一萬四千六百十圓である。本組合の創立功勞者は横川禎三氏で氏が初代理事長に現任してゐる。氏は元縣會議長の外幾多の公名譽職を歴任し來り、氏の巨大なる足

跡は枚舉に遑なしである。家族は、母堂やすさんの外、令閨さんとの間には三男二女有り、長男四郎氏は明治學院高等科出身、二男顯氏は陸軍中尉にして目下近衛二聯隊大隊副官として勤務中令嬢よし子さん、節子さん共に才媛の譽れ高き佳人である。宗教は曹洞宗にして圓滿なる家庭である。

大河村

大河信用購買組合

本組合は明治三十四年十二月二十五日設立認可、同三十五年一月二十五日事務開始、一口金額二十五圓にして、組合員は現在六百九十五名、出資總額は、三萬四千六百二十五圓である。區域は廣く大河村一圓にして、現在は購買なるも、將來販賣を開始すべく決議ありたり。

貸付總額 十四萬二千七百八十三圓
貯金 七萬五千三圓
購買價額 六千七百圓(昭和十二年五月開始)

本組合の功勞者は松田文三氏にして、氏が初代理事長を勤め、二代職員久五郎氏現在は三代目にして理事長横川重次氏、組合長は横川重次氏、常務理事磯田久五郎氏、外に理事八名、監事十名である。縣支會より昭和三年表彰を受くる。

玉川村玉川

玉川信用販賣組合

當組合は大正十年三月創立になる。保證責任信用組合である。出資總額は二萬五千三百八十圓にして一口金額十圓、現在の組合員は四百九十二名である。



貸付總額 八萬二千六百七十七圓
貯金 七萬七千九百三十六圓
購買價額 四千六百九十圓
販賣價額 六千九百三十七圓

にして、廣く事業資金に運用されてゐ

る。歴代理事長は高山義三郎氏、現理事長は柏俣彌作氏で現任役員は十五名である。現理事長柏俣彌作氏は明治五年六月五日先代故隆之助氏の男として岳降し、篤實温厚の聞へ高い人である。又、夙に村政に參與して村會議員四期、商工會長産業組合長として創立當時より功勞者として功績頗る顯著なるものがあり又、學務委員を四期勤めてゐる。村内の信用絶大なるものがあり家族は令閨けいさんと間に三男あり圓滿なる家庭として衆の羨望の的である。信仰は曹洞宗である。

小川町大塚

小川無盡株式會社



當社は社齡既に十有餘年、大正十四年創立以來庶民金融の十字軍として、庶民經濟の純化、人道經濟の根

幹たるべき事を最大の信條として標榜し爾來その努力は時流の必然に適應す處あり、日に月に年に社業の隆盛、内容の充實を來し社礎の安固盤石をなす。契約高一千萬圓の抱負も漸次實現の域に達し、名實共に縣下斯業界に君臨するに到つてゐる。その金融的意味に於いても縣下金融界の壓巻として縣民人士の間に澎湃たる信望を博しつゝある。當社資本金は拾萬圓、株主二十六人、現社長は横川重次氏、常務取締役は磯田開二、細井龜之助氏で、其の營業區域は比企、秩父、兒玉、入間、川越の一市四郡に及び、出張所も亦松山町、秩父町、兒玉町、坂戸町飯能町、入間川町、川越市の七ヶ所に亘つてゐる。殊に特筆に價ひする事は當社がそのいはゆる人道經濟の精進に沿つて契約者に對する業務遂行に當り、いさゝかの遲疑なく正鵠、嚴正、親切を極むることは、過去十年の業跡に歴然たり、又將來へも一層之が徹底を劃し、横川社長並びに磯田開二、細井兩常務以下社員一

同の統合一糸紊れぬ精勵は益々以て多くを期待され、金融報國の實績は、頗りに高揚されるものと確信されてゐる。

玉川村玉川

玉川郵便局



玉川三等郵便局の開局は遠く明治十三年一月に遡る。爾來當地通信界の爲めに歴代局長の熱心なる努力と従業局員の協心戮力によつて赫々の業績と貢献を残した、その區域は玉川村、明覺村、龜井村の三村に亘り昭和五年より電話事務を開始し、昭和七年四月より内電電信事務を取扱ふに至つてゐる。簡易

保險受持契約件數二千有餘件に及び、現局員數は局長以下十二名、歴代局長は高山忠三氏を初代とし同義三郎氏二代、現局長高山榮藏氏を三代とする。

局長 氏は前局長であり嚴父た高山榮藏 義三郎氏の長男として明治二十九年二月二十七日に呱呱の聲を擧げた。川越中學卒業直ちに嚴父を輔けて局の實際に當り、其の間軍籍に入り歩兵軍曹となる。専ら局務の迅速、確實の爲めに精勵し、逐年業務の擴大に勉捷する處あり、大正七年三代目局長に就任した人格温厚篤實の紳士である。昭和十一年八月通信功勞によつて勳八等を賜つた。其の功績は三ヶ村民の既に敬仰する處となつてゐる。家庭はさと母堂並びにまつ夫人との間に長男義助君(松山中學)の外一男二女あり、子福者として團樂を爲す。

八和田村中爪

大塚喜惣治

喜惣治氏は故賢助氏の長男として、明治七年四月三日に生れた。夙に自治産業の事に志して奔走するところあり、村會議員に擧げられること前後五期に及んで

現在就任中であり、農會長を兼任して二期に及んでゐる。率先して同志を糾合し信用組合を創立し、當時より同組合理事として現在に至つてゐる。幾多の功勞あり然も功に誇らず謙讓にて勤勉、人望全村を盡うてゐる。即ち昭和十二年推されて村長となり今日に至つてゐる。名村長として令聞甚だ高いものがある。政友會に屬し、地方の重鎮として推服されてゐる。資性は圓滿にして温厚、極めて篤實である。天台宗を信じて甚だ篤い。かめ夫人は貞淑勤勉を謳はれ、長男昇氏は農會役員を勤めたことあり、今は嚴父君に代りて家業を一手に引請け精勵甚だ力めてゐる。二男勇氏は小川町なる商業銀行に奉職中である。令孫は七人を算し至樂至富の一家は益々繁榮してゐる。

八和田村

高橋宗治

氏は故先代勘太郎氏の男として明治十七年六月一日に生れる。資性温厚篤實に

して高潔なる人格者である。明治四十一年埼玉師範卒業後、母校八和田校に奉職し後轉じて竹澤校に至りて校長に累進、更に龜井校、菅谷校の校長を歴任して、昭和八年退職。氏はその間實に教育事業に献身的努力を拂ひ幾多の業績を残してゐる。退職後高見區長となり續いて村會議員に推輓されその學識人格共に村内に重きを爲し、現在二期目にして村政の刷新に盡瘁してゐる。氏は更に學務委員を兼ね本年二月衆望を擔つて現助役に就任、行政方面に氏の手腕は多大の期待をかけられてゐる。家族は母堂みつさんの外、令閨ますさんとの間に三勇四女あり長男敏雄氏は青山師範卒業、二男芳郎氏は東京商業學校卒業し、現在は大坂中山製鐵場に勤務中である。至極圓滿なる家庭で、和樂の聲は常に氏の門に滿ち溢れてゐる。

大河村古寺

大河村長 小久保

麟

本郡内各町村の代表的名村長として敬慕されつゝある氏は、島山重忠の後裔二十七代の舊家名門に生れた人、夙に村治方面に進出、大正十五年村助役に擧げられ、村長を輔佐しつゝ昭和十二年に及びその功績甚大なるものがあり、村民の信望更に深く、この年村長に推薦されて現在に至つてゐるが、また農會長、村會議員その他の公職等を兼任、只管に一村の明朝化へと邁進してゐる。

島山 西ノ部八丁ほど登つた山嶺

重忠培 に至り、古くは太郎莊司墓と稱した。四間四方の塚、形状は塔石にて五層、塚の中央にあるが、數百年來雨露にたゞかれて僅かに形を止むるのみである。重忠戦死の後、その三男重慶、この地に至り、祖父の伯父山三郎重遠の塚によつて父の靈をこゝに葬つた。後ち重慶諸所を流浪し、日光山に於て宗政のため

に誅せられたと稱し、別當辨覺の情けによつて安穩に遁走し、再度來つて重遠の養嗣子となつた。父討死の際の遺言によ

り、その靈を慰むべく都幾山に登り、剃髮して慈光寺二十九世の別當となる。故に重遠及び重慶の後裔小久保勘右衛門氏に位牌、實印、秩父家より傳はる器物等が、今に残つてゐる。

明覺村別所

馬場章夫

當家は近村に開へた最舊家にして、代名主總代を勤め、又明治初年には戸長などを勤めた家柄である。代々農を家業とせしも氏の嚴父章輔氏の代になりて酒造業を始めたものである。氏の祖父貞治氏は安政四年七月五日生れにして今年八十二歳の高齡なるも壯者を凌ぐ矍鑠振りである。貞治翁は明治二十二年に市町村令施行後、最初の助役として村行政に盡瘁せし功勞者で其後村長の要職に就き自治功勞者として村民の信望厚く、又郡會設立最初の議員として翁の業績頗る顯著なるものがある。功勞により勳八等を賜はり現在は學務委員會のみに列席し悠々

たる自適生活に餘世を愉しんでゐる。氏はその令孫にして嚴父章輔氏の長男として明治四十年八月三十日生れである。早稲田大學の専門部を優秀なる成績で卒業し祖父の後を承けて村役場に入ったものである。温厚、眞面目なる青年紳士にして、その識見時流を抜き、卓越せる手腕才智共に衆の認めるところで本年三十二歳の若冠をもつて村の中樞に執掌し議員中の白眉として燦たる氏の存在は刮目して今後を期待すべきである。氏は又現任助役として村行政には献身的努力を拂ひ曩に區長も歴任しその功績顯著なるものがある。信仰は曹洞宗にして、家族は氏の祖父(八一)祖母(八一)と、氏の尊父(五七)慈母(五六)並びに氏の令閨とよ(二八)さんに女子一人、と云ふ珍らしくも三代健勝の家庭で村内羨望の的である。

小川町大塚

町會議員 加藤理介
勤七等

當家は連綿既に十三代を傳ゆる土地有



倉田三郎氏に就いて漢學を修め、荒川學校を卒業し若き頃より修身齊家に篤く、その清廉高潔な人格は町民の信望絶大なものあり明治二十二年町村制施行當時より、小川町々長に就任、爾來昭和四年迄名町長として町民の期待に應へて全く普ねき敬仰を受けた。その間衛生委員、學務委員、農會長として功多く西郷從道公より表彰受た。殊に農會の發揚と道路の開發に於ける功績は多大である。又郡會參事會員としても大いに力を致した人である。當主理介氏はその男として明治十六年七月三十日に呱呱の聲を擧げた、熊谷中學の三期生として卒業、一年志願をなし軍曹たり、明治四十二年より昭和六年迄實に二十數年教職に在つて子弟の

數の舊家名門たり。先代故忠雄氏は安政四年十二月二十四日に生れ四日に生れ教導訓育に貢献した。資性温厚篤實、心事嚴正高潔にして町民の信望厚く、曩に在郷軍人分會副會長を勤め、現に二期目町會議員の外、納稅組合長、郡畜産會評議員、軍友會副會長等の要職に執掌して格勵益々厚く町民の推輓愈々太きを加へつゝある。家庭はとも母堂、はま夫人との間に長男正次氏あり商大専門部を卒へ日産に勤務、次男長次氏は早稲田大學在學中にして彦次、純次君等も夫々勉學の途にあり、四人揃いの子福者として羨まれてゐる。

七郷村越畑

村會議員 青木五三郎
産業組合理事

嚴父喜市郎氏は區長を勤めて令閨があつた。五三郎氏はその男として、明治十四年一月十六日に生れた。明治四十三年收入役に任ぜられ、助役、消防組長、農會長、區長、郡農會評議員に歴任して功勞甚大なるものがある。郡制當時に於いて比企郡役所より、産業組合視察のため



及び組頭等を勤めた名門である。代々専ら農を以て業としてゐる。嚴父文七氏は區長、消防組頭等を歴任して功勞あり、今や七十四歳の高齡にして矍鑠壯者を凌ぎ、養昌寺の檀家總代を奉仕して熱誠を極めてゐる。惠喜氏はその長男として、明治二十二年三月二十九日に生れた。區長、學務委員、青年團支部長、衛生組合長及び農會長十五年間を歴任し、現に村會議員に任ぜられ、養蠶實行組合長、比企郡乾繭組合總代、信用組合理事を兼務してゐて、それぞれ盡瘁貢獻すること甚だ顯著である。氏はその資性は謙遜にして眞面目、人情に厚くして寛厚、頗る徳望を博して絶大なものがある。天臺宗を奉じて信仰甚だ鞏固である。昭和十二年十月六日東京稅務監督局長より、土地賃賃價格調査委員としての功に依り、感謝狀を授けられ

大河村青山

村會議員 野崎廣吉



初代村長 野崎廣吉
當家は近

に茨城縣に派遣されたことがある。當村に産業組合が創立さるゝや村民ののぞみを容れて入つて理事となり、のち専務理事に進み、昭和六年には組長に推され、同十二年その任を退職して現に理事として盡瘁す。また村會議員に擧げられて二期目を現任中である。その功勞に依りて郡農會より表彰せられた。曹洞宗を奉じて信仰が厚い。長男義夫氏は東村山青年學校教諭を奉職中、二男守平氏は熊ヶ谷農學校を卒業し、東京農業大學にて修學中である。三男茂平君は松山中學を卒業し、四男敏三君は熊ヶ谷中學に修學中であつて、一學は常に、圓滿和樂を極めてゐる。

八和田村下横田

村會議員 久保田 惠喜

久保田家は、その本家は天正年間より連綿相傳はれる舊家にして、當家は三分家であるが、享保年間より代々傳承し來つて今日に至れる舊家である。代々名主

久保田家は、その本家は天正年間より連綿相傳はれる舊家にして、當家は三分家であるが、享保年間より代々傳承し來つて今日に至れる舊家である。代々名主

村に於ける最舊家にして、現在の野崎慶次郎醫院(村會議員)はそれにあたる。代々農を以つて家業とし、先代故野崎爲憲氏は市町村施行前の聯合戸長にして明治二十二年大河村となると、初代村長となり、後、縣會議員(四期)を歴任、その間二回に涉り名譽助役たりしこともあり又村會議員も兼ね、縣政、村政にその功



績多く、大河村にとりては、實に自治功勞者の代表者である。大正

八年七十五歳の高齡をもつて死去、勳八等の所持者である。氏はその養子にして慶應三年十月九日の岳降、濃厚篤實、君子肌の人である。曩に小川高等小學校に訓導として奉職累進して校長になりその間實に二十年、兒童の育英に盡瘁してきた人である。明治四十年退職後は比企郡役所へ奉職し、翌年助役として當村に入り、大正九年二月迄、その間村會議員も兼ね村政の刷新、村治績の向上に貢献してきた人で、現在は村會議員の外學務委員、出納立會人をも兼ね行政方面に於ける氏の功績は頗る顯著である。村民の信望絶大なるものあり、教育關係で表彰されしこと數回あり、家庭は、三男ありて氏の長男は現在消防部長、農家組合長を



勤め村産業、公共事業に活躍してゐる。
王川村五明
村會議員 正八位
村田久義

記録物及び家寶焼失せし爲め不詳なるも、當村に於ける舊家として知られ、代々名主、組頭等を勤めし家柄である。先代故金藏氏は日清、日露の二大戦役に参加し功に依り勳八等を賜はり、篤農家として令名高かりし人、昭和五年六十七歳を以つて死去。氏はその男にして、明治二十九年三月十二日の出生である。川越中學第十三回の卒業生である氏は一年志願兵として、宇都宮第六十六聯隊に入隊し、現在退役歩兵少尉である。資性聰明にして言語明快穩健なる紳士として、村民の信望厚く、現在、村會議員、信用組合理事、消防部長（今年で



村會議員 竹本徳一

當家は旗本上田家の家臣、竹本將監芳廣氏より十二代目の將監俊廣氏は武田家二十四將の一人三枝家より來て相續、終に當地に土着し郷士となり代々當地の名主を勤めて功勞のあつた名



創業の基礎を鞏固にして人に於ける町の發展のためにも功勞甚だ大な

あるが、あつた。庄三氏は八郎氏に迎へられて養子となり浦和中學を卒業し、東京に遊學した。先代長逝の後を承けて家督を相續し第二代の局長に任ぜらる。一意思心公務に盡瘁し貢獻からず、撞球、寫眞術、及び盆栽に興味深く造詣淺くない。

村を管轄區域とし、集配三等郵便局として著々成績を挙げつゝあり、初代局長は笠間嘉八郎氏にして第二代局長は笠間庄三氏が現任中である。今や郵便取扱は引受五十七萬通で、配達は八十二萬通、小包は引受四千個、配達は九千個、電信は發信五千通、着信六千通、航空郵便は引受八十餘通、配達四十通、郵便貯金は積込二十四萬圓、拂戻二十三萬圓、保險加入五千件、年金七十件、吏員十二人、集配手十人、一心同體となつて公務に献身盡瘁してゐる。

菅谷村菅谷

郵便局長 山岸徳太郎



氏は先代故源吉氏の男にして明治十一年九月七日生れ當地の舊家

小川町

笠間庄三

小川郵便局長 從七位勳八等
笠間家は小川町隨一の舊家にして素封家である。養父嘉八郎氏は小川郵便局の初代局長に任じ、銳意職務に盡瘁し當局

ある家柄である。氏は明治七年十二月二十二日二十三代目の當主として岳降、先代氏早世の爲め、すでに幼年にして家督を相續し、現在村會議員の要職にあるの外學務委員、農事實行組合長、農會總代、産業組合理事、神社並に寺院總代等を兼任してゐる。濃厚篤實、眞摯なる氏は、又龜井村屈指の自治功勞者として村民より敬仰せられ、人望重きを爲してゐる。家庭は四男四女の子福者で、長男政憲氏次男甚三郎氏は家事手傳中、三男禮三氏は、埼玉師範を卒業後、同郡大河村小學校に奉職し、四男信平氏は松山中學を卒業し、進んで東洋大學に螢雪の功を積み、現在深川佐藤興業會社に勤務してゐる。

小川一當局は明治五年七月一日郵便郷便局一事務を開始し、十九年十一月十六日に内國爲替事務を開始、二十五年七月一日外國爲替事務を開始、二十九年七月一日小包郵便事務を開始、三十年三月六日内國電信事務を開始、四十五年四月一日電話通話事務を開始、大正二年三月二十一日電話交換事務を開始し、小川町を中心として大河村、竹澤村、八和田

士學校設立等の土地買入れに盡瘁し、又學務委員として貢献しその功績頗る顯著なるものがある。當局開局と同時に局長となりたるもの。又氏は忠魂碑を土地に寄附してゐる。家庭は四男三女の子福者で長男高平氏は日本大學(眼科専門)を卒業してゐる。

菅谷 大正十一年五月二十日開局郵便局の三等局にしてその區域は廣く菅谷、七郷一圓に八和田(一部)宮前(一部)である。局長は温厚にして清廉の士、山岸徳太郎氏、現在従業員は四名である。

七郷村吉田

村會議員元中 學教師正七位 **藤野嘉谷**



藤野家は藤原道春の子孫にして元祿年間の創始に係り現在に至る

まで十一代三百年間を閑したる名門である。亡父文八氏は明治二十七年より一期間、及び明治四十年より一期間の二回村長に任ぜられて功勞多大であつた。大正年間には郡會議員に任ぜられ、盡すところがあつた。久しきに亘つて村會議員、學務委員を勤めて、功績は枚舉に遑がない。當主嘉谷氏はその男として明治十七年四月十二日に生れた。幼時より頭腦明敏を以て知られて明治四十年静岡山手山學校を卒業し、大正七年川越中學校教員の職を奉じ、十四年四月退職した。その後轉じて村會に進出し、現に村會議員として二期目に在任中である。學務委員、社會教育委員、家屋稅調查委員、土地賃力價格調査委員を兼務して盡瘁貢獻甚だ力めてゐる。日本赤十字社特別社員に列してゐる。資性は穩和寛厚にして剛毅遠曹洞宗を奉じて信仰が厚い。たつ子夫人は愛國婦人會幹事、國防婦人會副會長に任ぜられて活躍中である。夙に貞淑を謳はれてよく家を齊へ、長男秀谷君は小

學校に修業中である。なほ二男重治君、三男博君、四男功君、二女節子嬢、三女千枝子嬢があつて、一家常に春風駘蕩たるものがある。

八和田村

村會議員 **根岸初太郎**



根岸家は山緒久しき當地の舊家であつて、代々農を以て業として

ゐる。亡父啓二郎氏は小川町に出でてより五十年間、或は質商に、或は金融商に奮勵努力し、政治界の有力なる有志として活躍したが、七十九歳を以て昭和六年七月三日に永逝した。初太郎氏は啓二郎氏の男として明治十五年五月二十五日に生れた。區長を始め衛生組合役員、國勢調査員二回、土地賃力價格調査委員、農事實行組合長、養蠶實行組合顧問を歴任

してそれぞれ功勞顯著なるものがあつた。現に村會議員に任ぜられ、八和田信用組合理事、學務委員、消防組役員、及び檀家總代を兼務して盡瘁貢獻甚だ力めてゐる。政友會生拔にして地方の權威者である。イク子夫人は淑徳の譽甚だ高く一男二女がある。長男和市君は熊谷農學校に修學中である。

大河村飯田

村會議員 **笠原芳宣**

笠原家は創始年代不詳なれども相當に年數を経し舊家にして、祖父の代までは代々名主勤役に、名字帶刀御免の名門である。亡父芳孝氏は始め助役を勤めてより、明治二十三年二月より三十五年十月まで、及び大正元年十一月より十年八月迄の二回に亘り村長を勤續して大功があつた。率先鳴導して實行を促進したる植林事業は今や完成して全村の感謝を博してゐる。氏は在職中六十八歳を以て永眠村葬の禮を受けた。芳宣氏はその長

笠原家の人々



芳孝氏

信之砲兵少尉

男として明治十二年十月十五日に生る。學務委員、區長を歴任して、現に村會議員に任ぜられ四期間に及び、信用組合理事、方面委員、農會評議員等を兼務して盡瘁貢獻する所多大である。長男彌介氏三十五歳は陸軍歩兵伍長として支那事變に出征し、昭和十年十月十日午前九時大場鎮陥落の直前に名譽の戦死を遂げた。

次男信之氏二十八歳は正七位砲兵少尉にして、滿洲國境警備軍に入り、滿洲國の上尉に任ぜられてゐる。三男三郎氏は農學校に在學中である。

龜井村

村會議員 **平井竹三郎**



當家の先代啓三郎氏は忍苦不拔の精神に富み、無言

實行よく當家を再興した人である。祖父藤五郎氏は精農の人、苗字帶刀を許された代々中の偉物なり。又、代々名主を勤む。氏は先代啓三郎氏の男として祖父、亡父の血を享け、明治二十年四月二日生れ、夙に村政の爲め盡瘁し、村民の福利増進に碎心してきた。現在村會議員の要職の外、學務委員、方面委員、養蠶實行組合長、分會長等を兼任してゐる。元消

防部長も勤めた。家庭は至極圓滿で三男一女の子福者にして、現に長男高三郎氏は海軍一等兵曹として日支事變に出征し最新驅逐艦に乘組み、名砲手として活躍中である。

大河村腰越

村會議員 田端梅吉

梅吉氏は明治十一年四月二日に生れ、田端勝五郎氏に迎へられてその養子となる。田端家は代々農を以て業として來たが、梅吉氏に至りて土木請負業に轉じ、縣の指定土木請負人となる。その信望と實力とは推して知るべきである。先に區長、納稅組合長、衛生組合長等に歴任して功勞少からず、その他各種各般の公職名譽職に就任して、孜孜營々として誠心誠意、その使命を全うし、今や村會議員に任ぜられて二期目に及んでゐる。然も氏の業態より推すると全然反對にて、氏はその資性は温順にして寛厚、清濁を併せ吞んで、人情味津々特に義侠に富んで

ゐる。長男要吉氏は消防組第二部長、二男義一氏は陸軍工兵として支那事變に出征奮戦中である。三男宰一氏は海軍一等兵として支那事變に出征奮戦中である。四男文藏氏は目下東京に遊學中である。なほその他に一女があつて他家に嫁してゐる。

龜井村熊井

元郡會議員 小鷹一郎



當家は同地屈指の舊家にて、代々名主を勤めたる家

創立と共に衆望を担つて監事に就任し今日に至る。又、元消防組頭たり。家庭は二男一女にして、長男源一氏は現村會議員、現消防小頭、現養蠶實行組合理事等の要職にあり、次男五郎氏は、幼年學校を経て士官學校卒業、現在歩兵大尉として大阪師團に勤務中である。

七郷村越畑

元村長 元郡會議員 久保三源次



温厚篤實なる氏は、明治五年八月十一日岳降、日清

柄なり。亡父嘉藤氏は同村二代目の村長にして、村長、助役、村會議員、學務委員等を歴任し村治に貢献すること甚大、村内有数の功勞者である。温厚篤實なる氏も又引續き村政に盡瘁し村會議員、學務委員、郡會議員等を勤めて、産業組合

戰爭に従軍し名譽ある勳七等に叙せられた。家業に銳意努力の傍ら村治に關與し村會に勤續すること實に二十五年、その間、助役、收入役、村長、郡會議員各消防組頭、衛生組長、學務委員等に歴任してゐる。又赤十字社より功勞者として日

露戰爭當時特別會員に推され、村の自治功勞者として有名である。長男英雄氏は北葛飾郡川邊村青年學校教員、二男茂男氏は分家し、三男龍三氏は現在北支の第一線に活躍してゐる。

八和田村

村會議員 戸野倉常藏

氏は先代重藏氏の長男として、明治十八年十二月二十二日出生す。謹嚴實直眞摯なる氏は、村民の衆望を擔つて八和田村助役、收入役等を歴任し、現在は村會議員の要職にある。又曩に養蠶組合創立當時、理事にも就任、大に活躍して組合を成立同組合今日あるの土壌を築いた。家庭は至極圓滿で、長男鐵藏氏は農學校を卒業、現在日支事變のために出勤中である。

竹澤村笠原

元村長 櫻井榮之丞

正確な記録なき爲め詳ならざるも當家



は十幾代續いた舊家と聞く代々農を以つて家業とし、

大河村腰越

村會議員 馬場莊衛

繁榮は、他をして欣羨に堪へざらしめてゐる。

先代國次郎氏は竹澤村の前身笠原村の戸長を勤め地租改正に付き盡瘁した功勞者である。氏はその男として明治二年二月二十六日に岳降し夙に村政に參與し、村産業開發に貢献し、その功績頗る顯著である。氏が村長として在職中、一町二反歩の役場と一町二反歩の學校を村所有地として植林し現存村民の福利増進に寄與せしことは特筆すべきである。曩に收入役、助役(二期)村長(明治四十四年より大正四年まで)村會議員に數回當選して來た氏は、現在總ての公職より退き、後進に路を譲つて餘生を楽しんでゐる。温厚にして篤實、圓滿なる人格者として村民の敬仰深く、現在家族は令閨との間に二男五女といふ子福者で、しかも一家の

齡未だ少壯にして其識見時流を抜き、才智手腕共に絶大の信望を贏得三十四歳にして村會議員の要職を占めてゐる氏は議員中の白眉としてその前途刮目して期待すべきものがある。才氣煥發の氏は先代故秀吉氏の男として明治三十八年四月九日生れ。當家は又三百年來繼續せる舊家にして先祖代々、名主組頭を勤めし家はさきに消防小頭、軍人分會評議員、青年團副團長、區長代理等を歴任し、現在村會議員の要職に在り産業自治の開發向上に献身的努力を拂ひ、村青年の精神指導に盡瘁してゐる。家庭は、母堂キヤウ(六二歳)さんの外、貞淑なる令閨公子さん(三三歳)との間に二兒あり圓滿にして和樂の聲は門に滿ち溢れてゐる。

七 郷 村

元村長 田中長亮



田中家は創始以來八代を閉せる、舊家である。亡父

億次郎氏の男として明治十一年三月二十八日に生れた。三十三年埼玉師範を卒業し、小川高等小學校訓導を経て、菅谷小學校々長となり、十五年間勤続精勵し、顯著なる成績を挙げた。その後七郷小學校長に進み大正十年三月勇退して、後進のために路を開いた。轉じて村治界に入り、助役に一期間在任し、村長に擧げらる。なほ學務委員、方面委員、社會教育委員、金錢借務調停委員、納稅組合長をも歴任して、功勞甚大であつた。縣知事より大正六年二月十一日、教育功勞者として表彰され銀時計一箇を贈られた。ま

た氏子總代を奉仕してゐる。資性は穩健篤實、人情に富んでゐる。曹洞宗を信じて信仰が厚い。みつ子夫人は貞淑を誦はれ、長男穩氏は熊谷農學校を卒業し、支那事變に出征中である。次男常雄氏は松山中學を卒業し、高等蠶絲專門學校に在學中。長女さい嬢は小川女學校に修學中である。一家常に至福至樂である。

竹 澤 村

元村長 松本匡吉

亡父啓三郎氏は、當村の初代村長にして、郡會議員、郡參事會員、小川製紙同業組合の初代組長に在任し陸軍省の御用を勤めて優秀の成績を挙げた。匡吉氏はその男にして明治六年三月十一日に生れた。村長、村會議員、學務委員、郡會議員等あらゆる公職、名譽職にして、氏の勤めざるものなき有様であつた。更に産業組合の創立者にして初代組合長であつた。島田縣知事よりその功勞を表彰された。今や一切の公職を辭して勇退し、悠

悠自適の閑寂生活にひたつてゐる。長男一郎氏は現に區長代理に任ぜられ、衛生係を兼務してゐる。

七郷村吉田

信用組合理事 藤野良助



先代亡父富次郎氏は、區長、組長を勤めて功勞があつた。

つた。良助氏はその長男として明治十五年三月十六日に生れた。三十七年に埼玉師範を卒業し、熊谷男子小學校に訓導を奉ずること五年間、小原小學校々長に榮進し十二年間勤続し、永井小學校に轉じて勤続五年間、明治四十二年より十七年間小學校々長の職に在つて勤精勤勉、優秀なる成績を挙げ、昭和五年勇退して後進に路を開いた。その功勞を賞せられ勳八等に叙せられた。現に信用組合理事に

任ぜられ、養蠶實行組合長を兼務してゐる。資性は温厚にして寛容、誠實にして熱心である。曹洞宗を奉じて信仰は甚だ厚い。古都子夫人は貞淑を誦はれて内助に力め、長男定良君、二男良次君は共に熊谷農學校に修學中である。三女ありそれぞれ良縁を得て他家に嫁してゐる。氏は教育家として地方の風俗人情を審かにし、これより自治に産業に躍進せんとする氏にとつては、多年開拓したる自己の地盤に秘策を抱いて奮闘することであつて、今後の活躍こそ、期して待つべきであらう。

菅谷村千手堂

村會議員 關根茂良

氏は先代茂重郎氏の男にして、明治三十三年生れである。現在村會議員の要職にあり、當家は代々名主を勤めたる同地唯一の舊家にして又、關根家の總本家である。傳來農業を本業とし、先代茂重郎氏は、村長の重職に永年携はり、且つ信



先代義重郎氏の用組合創立當時よりその功勞を表彰された。今や一切の公職を辭して勇退し、悠

役、郡會議員等を勤めた。なほまた、茂重郎氏は、地方開發の爲めに資財を投じて之に努め、其功績現在に至るも顯著なるものがあり、又地方青年の思想善導に努力した。なほ日蓮宗の法蓮山光照寺は天正十八年松山城落城の際、家老だつた關根丹波守の後裔關根藤兵衛の開基したものである。藤兵衛は當家の祖である。

八和田村中爪

村會議員 松本治助

松本家は祖父の代まで代々茂兵衛を襲名し、組頭等を勤めた名門であり、創始以來現在に至るまで實に十代を閉したる舊家である。世々専ら農を以て業とし篤農の譽が頗る高い。亡父甚五郎氏は區長



を勤めて功勞があつたが七十歳を以て永眠した。治

助氏はその長男として、明治九年五月二十六日に生れた。區長等の公職、名譽職を歴任して、現に村會議員に任ぜられ、養蠶實行組合長、檀家總代を兼務して盡瘁貢獻大いに努力してゐる。俳句に練達し運座を催して同志と練磨するに力む。氏の資性は圓満温厚、酒脱淡泊にして、清濁併せ呑むの風あり、天台宗を奉じて信仰が厚い。カネ子夫人は貞淑を誦はれ二男三女あり、長男次郎氏三十二歳は小學校訓導を奉職中に、支那事變に出征し奮戦中である。二男正男氏二十七歳も亦令兄と共に應召して某聯隊に入營してゐる。一家は武門の譽高く村民の尊敬をおつめて、その歩武は更に向上へと進められつゝある。

七郷村太郎丸

元村長 田幡 宗順



藤野家はその創始の年代は詳ではないが、中興より

現代まで十二代を閔したる舊家であつて代々名主勤役に名帯刀御免の名門で素封家として著聞せる豪農の家である。先代宗順氏は名主及び戸長を勤め、明治二十二年町村制施行以來初代の村長に擧げられ、功勞頗る多大にして、よく村是村礎を確立した。六十四歳を以て永眠した。當主宗順氏はその男として明治十三年二月十三日に生れた。慶應義塾を卒業し、二十歳にして村會議員に推され二十年間勤続す。明治四十一年道路改修工事に當りこれが委員長として重任を負ひ、縣費補助三年間一萬五千圓の支給を受け

遂に全工事を竣成し當局及び村民より讚嘆感謝を博した。遂に擧げられて村長に就任し盡瘁貢獻ますます努めて倦まず、功績は枚擧に遑あらず愈々信望を博す。父子二代に亘り村長に就任して自治に貢獻するは、實に當家の以て光榮とすべきところである。つね子夫人は淑徳の譽高く、長男順一氏は日本齒醫學專門學校を卒業して、目下菅谷町に開業して、業勢望々、新進齒科醫師として德隆甚だ高大である。令孫一男二女あり、次男辰男氏は第三高等學校を卒業し、今や朝鮮總督府に奉職中である。一家は曹洞宗を奉じて、何れも信仰頗る厚く、家長の資性を享けて各々温厚寛容、俊敏明識の人々である。一家は常に至福至樂、春風駘蕩たるものがある。

七郷村古里

産業組合長 安藤 寸介

當家は村隨一の素封家にして、氏の祖父安藤貞亮氏は當村二代目の村長を勤め

又郡會議員として、郡政、村政に功勞ありたる人で、又當家は代々古里の名主を勤めし家柄である。氏は明治十九年一月十七日生れ、先に村政に參與して産業開發自治に盡瘁し、村民の衆望を擔つて村會議員の要職二十年間在任、又村助役として一期勤め行政方面の業績並々ならぬものがある。氏は現在、學務委員、産業組合長、社寺總代等の要職にあり、その温厚篤實にして、圓滿なる人格は村民の深く敬仰するところである。家族は母堂ひさゝんの外、令聞久能さんとの間に二男一女があり、長男文雄氏は、熊谷農學校を卒業し現役場の書記を奉職、二男富夫君は熊谷中學校在學中、又長女滿壽子さんは家政學校卒業して家庭に在る。氏の家庭は常に春風駘蕩として笑聲門に滿ち溢れてゐる。

福田村福田

前村會議員 栗原 嘉章

亡祖父芳太郎氏は當村二代目の村長と



して令名頗る高かつた。村是村礎を確立したる大功に

至つては没すべからざるものである。亡父嘉範氏は當村第四代の村長に任ぜられて功勞多大であつた。更に郡會議員、村會議員、學務委員、區長及び信用組合長を歴任して、それそれ功績甚だ顯著であつた。特に信用組合の創立者として初代組合長として



盡瘁したる功勞拔群、等しく村民の感謝するところである。嘉章氏は嘉範氏の男として明治二十七年九月二日に生れた。東京の金城中學校を卒業し、比企郡役所書記、村會議員を歴任して自治産業のた

めに貢獻寄與するところ著大であつた。氏は天理教を奉じて信仰殊の外篤く、自邸内に集會所を開設し身を挺して布教に努力しつゝある。長男克丸君は松山中學校を卒業し、高等師範學校に在學中である。二男淳次君は熊谷商業學校に修學中である。三男行夫君は小學校に修業中である。長女因子嬢は松山實科高等女學校に在學中である。なほ三女がある。一家は常に圓滿和樂を極めてゐる。

玉川村玉川

農會長 高山 政治

温厚篤實の氏は又、精農家として聞へてゐる。先代故牛藏氏は助役、村會議員等を歴任した自治功勞者で大正四年四十七歳をもつて早世した。氏はその長男にして明治二十六年八月二日出生、熊谷農學校を修學し家業に精勵し、又、村産業の開發には献身的に努力した。曩に推輓せられ村會議員二期、區長一期、消防部長、衛生組合長等を歴任して、現在は玉

川村農會長、方面委員、信用組合監事、木炭受檢組合長等を兼任してゐる。氏は農會長を二期勤め、現在玉川農會が平穩無事に發展しつゝあるは氏の力に負ふ處甚大である。信仰は曹洞宗にして家庭は圓滿である。

龜井村竹本

竹本區長 舊家名門

保積 助次郎



明治十九年火災の爲、惜しくも記録書類を燒失せる

爲、當家の家歴不明なるも、口傳に依れば鉢形北條により當地に來り、以來農を家業とし、代々名主役を勤めし名門の家柄、亦當村内法恩寺の總代人として累代盡瘁せし功多き舊家にして、當村屈指の素封家と稱される。先考氏は永らく戸長役場當時の戸長を勤めし當村發展の功勞

者、當主はその男にて今六十歳であるが元氣壯者をしのぐものあり、その資性は濃厚篤實、圓滿にして高潔なる人格を有し村民の人望すこぶる厚く、尊敬の念を寄せられ、いま竹本部落區長、法恩寺檀家總代、受檢組合長の任に在りて一身を挺し區民の福祉増進に寺運興隆に産業の發展に寄與精進してゐる。曾ては創立委員として養蠶實行組合創立に活躍貢献した。令弟東天氏はいま東京市世田谷區新町二丁目に在りて漫畫家として活躍しつつある北澤樂天氏の弟子にて、懸賞に當選し、樂天氏に見出されてその門に入りたるもの、その畫は藝術的にも興味的にも非常に優れたものである。



た。當主はその男は明治二十一年六月二十五日の出生、信用組合創立と同時に評議員に推されて奔走、功績を擧げる甚大なるものがあつた。五男二女の子福者、長男英一氏は松山中學出身、國勢調査員として功あり、次男正一氏は横須賀に入團、支那事變と共に出勤、第一戦に立つて活躍中であつたが、終に名譽の戦傷を受けて目下入院中、なほ三男武一氏は家事を手傳ひ、四男福二、五男三千雄の兩名は小學校に通つてゐる。

夙に村内公共のことに興與、現に中爪第三區長に養蠶組合役員を兼ねて盡瘁貢献してゐる。曾ては縣報徳會、農會技術員青年聯盟會長、神社總代等を歴任、その功績著大なるものがあり、郡農會より表彰された。長男丈夫氏は伍長として出勤し、次男志朗氏は上等兵として何れも勤務精勵してゐる。

龜井村 奥田

奥田區長 栗原 森藏

當家は土地に於ける舊家、古くから代氏子總代を勤めて來た家柄であるが、氏は民政黨に籍を置いて夙くから村治方面に進出、現在は區長として部落民の福利増進に盡力貢献しつつあるが、曩には



人格高 潔、英邁 なる氏は 明治六年 十二月二 十六日岳

七郷村 吉田 朝比奈桂堂

五ヶ村佛敎會 副會長 宗心寺住職

降した。幼少より漢學を研鑽し、十三歳僧籍に入る。明治三十六年本山より選ばれて當宗心寺の住職となる。傍ら夙に農

八和田村中爪 松本 誠一

當家先代榮次郎氏は、俳號を丈令含可及と稱し、地方に俳名を馳せた人で、且つなか／＼の隱徳家、一村開發に人知らぬ努力をさしげ、六十七歳を以て長逝し

福田村 福田

村醫校醫 正八位

栗原 公一



當家は刀圭の家として杏林に廣く令名を謳はれてゐる外に、實に武門の譽高き一族として遠近より尊崇敬仰を寄せてゐるのである。明治三十三年先代の開業以來引きつゞき醫院を經營して業勢隆々たるものあり、現院長公一氏は先代の長男として明治三十六年六月一日に生れ、熊谷中學を卒業してから日本醫科大學に進み、優秀の成績を以てこれを卒業し、濟生會に奉職してから、昭和七年自宅にて先代の後を承けて開業した。麻布の陸軍第三聯隊附陸軍々醫に任ぜられ、正八位陸軍々醫少尉に任官した。内科一般を開設し診療甚だ懇切適確を極め、遠近の信望を博するこ

と絶大である。また宮前及び福田兩村の校醫及び村醫をも兼任してゐる。栗原家は十數代を關した舊家名門である。父君壽良氏は夙に醫學に志して濟生學舎に學んで内科を開設し、擧げられて當村第一代の村長となり、更に郡會議員、郡參事會員に任ぜられ、盡瘁貢献するところ甚だ顯著なるものがあつた。母堂ひめ子刀自は頗る健勝である。公一氏令弟故凱二氏は明治三十八年六月十二日に生れ、從六位勳六等功四級に叙せられ、陸軍歩兵少佐に任ぜられた。陸軍士官學校第四十三期生にして、昭和七年第一次上海事變に當り、陸軍少尉として出征し、また同



十二年北支南行鎮にて偵察飛行中、遂に名譽の戦死を

遂げ、武勳を永遠に遺して護國の英靈と化し去つた。その後 天皇陛下は陸軍士

村自治に關心を持ち方面委員として貢献するところ甚大である。昭和七年推輓せられて社會教育委員となるや、育英事業に盡瘁し、其の功績頗る顯著なるものがある。又七郷村結核豫防委員、五ヶ村佛敎會副會長、支部長等の要職にある。元第三教區長も勤めた。趣味甚だ高尚にして讀書、盆栽等識見高く、仲々博識を持つて有名である。

三休山 當山の本尊は釋迦如來、宗心寺 宗派は曹洞宗にして開基は折居市左衛門次忠、開山は了山雲哲大和尚で、同郡宮前村慶徳寺の末寺になつてゐる。草創以來祝融氏に見舞はるゝこと二回、寺寶並に記録等を烏有に歸したが歴代住職は法運の再興に銳意し、庫裡並に本堂を完成した。現住職は、當山第十二世朝比奈桂堂師の法甥、中島慧宗師である。なほ當山の財産は田一町、山林九反である。檀家は吉田部落一圓にわたつて百餘戸を有する。檀徒總代には有力者を集めてその奉仕は甚だ熱心である。

懇切適確を極め、遠近の信望を博するこ

官學校に行幸あり、御前講演の中に於て凱二少佐の勳功は歴々として上聞に達するの光榮に浴した。まことに武門最大の榮譽とすべきである。次弟省三氏は慶應義塾大學を卒業し、今や松山實科高等女學校教諭を奉職中である。

菅谷村平澤

舊家 奥平 明詮



當家は嘉祥二年京都の大覺寺宮の永山律師が當地に

來り大阿羅惹寺を草創し後顯密山不動寺持正院と改稱し、代々住職となり來れる家柄である。二十六世住職が成覺山實稱院平澤寺をも開山し兼務し來れる外公家の鎮守として白山神社を祀り後、明治維新の時、村社となりたるものである。祖父に當る榮宜氏は、眞平兵庫と名乗りて

明治維新の時、勝海舟等と共に東西奔走し維新の大業を奉參せし傑物である。氏はその令孫にして、明治三十六年六月二十八日日露の風雲急なる時呱呱の聲を擧げた。郷土校卒業して、兵役は習志野騎兵十四聯隊に入隊、上等兵として除隊後は警視廳の巡查を拜命し累進して部長となり十一ヶ年勤務、昭和十二年一月退職した。氏は在職中に三井寺光淨院の徒弟となり、歸郷後は、父業を繼承して住職となり、當地の青年の指導教化に盡瘁し又平澤佛教青年會を組織し現に會長として社會公共に献身的に努力してゐる。家庭は貞淑なる妻女シズさんとの間に一女あり圓滿なる家庭である。

龜井村泉井

自治功勞者

石井周吉

顯密山不動 嘉祥二年以前京都大覺寺持正院 寺宮の出なり。最初大阿羅惹寺と稱す。永山律師の開山たるもので、宗派は天台宗寺門派である。御本尊は不動明王なり。當寺の寶物は、御朱印狀(三代將軍家光より)九通、經筒一個があり、當寺住職奥平明詮氏は齡少壯な

當家の開祖は詳かならざるも、當主を以つて八代と聞く。氏は先代幸一氏の男にして明治九年二月六日岳降。資性謹直代々農を家業とし夙に篤農の聞え高い。又村民の福祉増進の爲め、身命を献けて盡瘁し、大正四年村會議員の要職に推擧せらるゝや昨年未迄、村政刷新、村治績を高める等その功勞頗る顯著なるものがある。區長、納稅委員、消防功勞組頭等にも歴任し、聯合會より功勞者として表彰せられてゐる。家庭は令聞いささんと間に一男一女あり、長男友治氏は大正五年近衛四聯隊野戰砲兵として服務せしことあり。現在其長男才一氏は川越商業學校卒業、長女タマさんは小川女學校在

學中、次男正男氏は川越商業に在學中である。

大河村青山

素封家 金子捨三郎



氏廣光父祖

金 子 家
は 代
代 名
主 勤
役 に
して、名字帶刀御免の名門にて、創始年代を證する記録を喪失し、その年代不詳なれども、由緒久しき舊家である。代々の豪農にして素封家として敬仰されてゐる。亡祖父光廣氏は夙に政治に志し自由黨に投じ、板垣退助伯の麾下に在つて、指導薰陶を受け交情恰も琴漆の如きものがあつた。また實業界にも進出して先驅者として活躍し大功勞あり、選ばれて第一回より縣會議員となり數期間勤務して功績甚大なるものがあつた。亡父光寧氏

は二十餘年間大河小學校に奉職し、功勞多大にして名教育家として知らる。大正四年五月十二日永眠した。捨三郎氏は亡父光寧氏の長男として明治三十二年二月四日に生れ、秩父農林學校を卒業し、浦和農事試験場に奉職した。その後比企郡平村小學校訓導を奉職し、今日まで勤務すること二十一年で現任中である。夫人は埼玉女子師範を卒業し、小川尋常高等小學校に勤務すること十四年現任中である。教育者の家庭として理想的であり、近隣の尊敬をあつめてゐる。

小川町大塚

郷社 八幡神社



氏助之亮澤梅 掌社

當 社
郷 社
に 列
せ ら
る 。
後 醍 醐 天 皇 の 元 弘 三 年 (正 慶 二 年) 鎌 倉

幕府滅亡の時に當り、將軍守邦親王は一且上洛してより、程なく當地に下向し梅王子と稱す。鶴ヶ岡八幡宮を勸請して祈願をこめ、再興を祈念してゐた。右大辨近信の女に依つて得たる一子梅廣天折し親王も亦た薨去せられた。時に貞治二年九月十日であつた。郷人彼の八幡宮の社殿を修營し、親王父子の靈をも合祀し神明社と共に毎年九月十九日祭事を營み親王の生前的場にて馬術を練習したる故事に因み、流鏝馬の古式を執行して今日に傳へてゐる。應永二十年七月八日附の文書にも所領を實證されてゐる。その後八幡宮を主とし、神明社を攝社とし、明治四十一年には更に神明社及び、山王社大塚稻荷、中城稻荷を合祀した。當社の守札は矢除守と稱し、親王の御父久明親王將軍となつて鎌倉に下向の時、御母御匣殿より賜はりたるものに因みて作つたといはれ、武運を守護する神徳あらたかであるといふ。例祭は流鏝馬祭ともいひ十月十九日に行はる。ついで二十日祭

即ち後の祭が行はれて古式を營み壯重嚴肅を極める。從來子育八幡として崇敬され、今は蠶育八幡として參拜者盛大を加へてゐる。また十一月二十三日の新嘗祭三月十日の新年祭もそれぞれ嚴肅盛大である。現に梅澤亮之助氏が社掌の職を奉じて誠心誠意を盡し、奉仕して至らざるころがない。

宮前村伊古

伊古乃速御玉姫神社

當社は郷社に列せらる。祭神は大柄和氣命、息長足姫命、武内宿禰命を奉齊してゐる。人皇第二十四代仁賢天皇の御宇蘇我石川宿禰の末裔が當地を開拓し、三韓征伐のために當村小宇二宮山嶺上に弓箭の祖として奉祀したと傳へられる。延喜式神名帳には、武藏四十四座中、比企一座に伊古乃速御玉比賣神社と記載されてゐる。文明元年、二宮山上より現在の地に遷座し社殿を建立した。享保、延享の頃は阿州大明神と稱したが、江戸末期

に至つて前稱に復した。安産の神、武運の神として靈驗あらたかたで、一般の崇敬が頗る篤いものがある。境内は千四百八坪を算す。例祭は十月十五日に行はれ盛大を極む。氏は村内一圓百戸に上り信徒五十戸である。四名の總代が奉仕してゐる。社寶としては神轡一對がある。幅四尺、丈四丈、左は勝海舟筆、右は龜田鵬齋の書である。また額面二面を藏してゐる。

社掌

熊谷中學校を卒業し、先代刀平氏、先々代尾之松氏の後を襲ぎて誠心誠意、神明に奉仕してゐる。學徳に秀で人格高邁、村民の人望を博して絶大なものがある。

小川町小川

村社 八宮神社

當社明治初年に村社に列せられ、大正十一年指定村社となる。祭神は天照大神の御子八男の正哉吾勝速月天忍穗身命、



氏茂幹島千 掌社

天津彦根命、天忍月命、活津

彦根命、熊野櫛日命、月讀之命の三女の田心姫命、市杵島姫命、瑞津姫命を奉齊してゐる。末社には青淺神社、諏訪神社御嶽神社、甲子神社、稻荷神社、天満神社があり、境内は九百坪に上り、社殿、社務所、社掌宅が備はつてゐる。二月十日



氏郎三息令

九日祭の祈年十一月十三

日の新嘗祭は特に盛大を極める。氏は小川町一圓にわたつて六百戸を算し、氏子總代には笠間茂平氏、新井吉五郎氏、下崎龜吉氏、瀬川林平氏、笠間龍郎氏、

吉田辨吉氏、森平九郎氏の諸氏が熱心に奉仕してゐる。現任社掌は千島幹茂氏であつて、當社の他に八幡神社、八坂神社飯田神社、白山神社、八和田神社、四津山神社等を兼務してゐる。令息三郎氏は二十八歳支那事變に出征して奮戦中である。

菅谷村鎌形

威徳山班溪寺



氏雄良藤伊 職住

當山は木會義仲奥方山吹の開基と稱す。御本尊は釋迦牟尼佛にして、曹洞宗大本山總持寺派なり。梵鐘の銘に曰く武州比企郡鎌形村威徳山班溪禪寺者木會義仲長男清水冠者義高爲阿母威徳院殿班溪妙虎大姉所創建也と。埼玉縣入間郡梅園村龍穩寺十六世鶴峰聚孫和

尚を請じ開祖とす。本堂は間口八間、奥行六間三尺、其他庫裡、玄關、衆寮、鐘樓、表門、土藏ノ七棟、建造年月日は不明なり。境内官有地一千二百五十四坪、田畑山林合計二町八反五畝十六歩にて、なほ寺寶には涅槃畫像絹地一幅、十六羅漢畫九鳥筆紙地三幅、六枚屏風半雙狩野法眼永徳筆等あり。東京及び、近縣の歴史研究家の參拜多し。檀家は全村一圓にして現在百四十戸餘あり。住職伊藤良雄氏は學識高邁の人格者にして高徳の士、村民の敬仰深し。檀徒總代は岩澤彌市氏藤藤正作氏、小林市太郎氏なり。

八和田村上横田

一橋山輪禪寺



師外無治志

當寺の宗派は禪宗、開山の趣味は讀書にして家族は、母堂の外、三

傳劬忠的和尚で慶長十三年戊申歲、安養寺なる眞言宗の古跡を改めて一橋山輪禪寺と號し、武田信俊の開創になりたるものである。御本尊は釋迦文殊普賢の三尊である。本寺の末寺は北甘樂郡天引村向陽寺である。寶物としては般若經六百卷全部四箱、羅漢畫像、檀家は上横田一圓にて百十餘戸、現住職は志治無外師（第十九世）檀徒總代は、權澤繁太郎氏、中島方彌氏、柿本千代三氏である。住職志治無外師は明治三十九年九月十二日の生れにして未だ齡少壯なれどもその識見高邁にして、重厚なる人格者である。師は大分縣宇佐郡安心院にて生れ、別府朝見長松寺にて修行し、山口縣多々羅中學校卒業後、若狭國今貫村發心寺僧堂二年間修行、昭和六年三月現寺に入山十二年三月前任住職志治雄明師の法燈を繼ぎ住職となる。師は現に社會教育委員、五ヶ村聯合會佛教會に關係し教化事業に活躍しその洋々たる前途を期待されてゐる。師の